

經 濟 学 部

履 修 要 項

平 成 5 年 度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

- 4月8日(木) 入学式
- 9日(金) 新入生オリエンテーション
- 12日(月) 在校生身分証明登録
- 9日(金) 在校生成績発表
- 16日(金) 体育実技II受講届(種目選択届)
- 9日(金) 受付(学部2年次生)
- 10日(土) 時事外国語受講届受付(経済学部3年次生)
- 13日(火) 在校生成績質疑応答
- 19日(月) 前期授業開始
- 13日(火) 履修届受付(学部・短大)(学部により受付日が異なる)
- 20日(火) 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 23日(金) 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 19日(月) 中間試験及び前期終了定期試験(授業平常どおり)
- 23日(金) 前期授業最終日
- 5月10日(木) 夏季休業第1日(9月15日まで)
- 7月14日(水) 体育実技II集中授業コース(学部2年次生)
- 20日(火) 前期終了科目定期試験欠試験届(追試験申込)受付締切
- 25日(日) 補講期間
- 23日(金) 9月6日(月) 補講期間
- 10日(金)

後 期

- 9月16日(木) 後期授業開始
- 16日(木) 前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答)および再試験申込受付
- 17日(金)
- 24日(金) 外国語指定届受付(仏教・文<除英米文>・法学部・短大国文・英文の1年次生および昭和63年度以前入学の経済学部の2年次生)
- 30日(木)

- 24日(金) 専攻コース指定届受付
- 25日(土) (歴史・社会学科の1年次生)
- 25日(土) 前期終了科目追・再試験(授業平常どおり)
- 10月1日(金) 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 4日(月)
- 7日(木) 第111回開校記念日(全学休業)
- 15日(金)
- 27日(水) 転部・転科試験願書受付
- 29日(金)
- 25日(月) 編入学願書受付
- 29日(金) 転部・転科試験
- 11月20日(土) 卒業論文受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 12月1日(水) 編入学試験
- 10日(金) 冬季休業第1日(1月7日まで)
- 5日(日)
- 20日(月) 体育実技II集中授業コース(学部2年次生)
- 20日(月)
- 24日(金)

平成5年

- 1月8日(土) 後期授業再開
- 14日(金) 後期授業最終日
- 17日(月) 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(水) 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 27日(木)
- 2月3日(木) 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
- 4日(金) 定期試験欠試験届受付締切(学部4年次生・短大生)
- 4日(金) 定期試験欠試験届(追試験申込)受付締切(学部1~3年次生)
- 15日(火) 体育実技IIシーズン・コース(スキー)(学部2年次生)
- 19日(土)
- 17日(木) 成績発表(質疑応答)および追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 18日(金)
- 23日(水) 追・再試験(学部4年次生・短大生)および追試験(学部1~3年次生)
- 3月1日(火)
- 19日(土) 卒業生名簿発表
- 25日(金) 卒業式

授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

経済学部学生諸君へ

この「履修要項」は、諸君が本学経済学部の学生として4年間の学園生活を過ごすために必要であると思われる学習上の基本的事項をまとめたものである。

経済学部における教育の主たる目標はすぐれた職業人であると同時にすぐれた社会人を育成し、社会の進展に貢献することにある。そのために諸君は、専門的な知識のほかに教養ある社会人として必要な人文・社会・自然について深い理解をもつことが要求される。

また、わが国経済の著しい国際化の傾向にともない、今後国際交流が一段と推進されると思われるが、国際社会で活躍するにはなによりも外国語を十分マスターしておくことが必要である。

諸君がこうした目標を達成できるように、本学部の教育課程は「一般教育科目」「外国語科目」「保健体育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」「他学部科目」および「随意科目」から構成されており、4年間にわたり幅広く、体系的に学習できるよう十分配慮されている。

さらに経済学部の教育制度上の特徴は、「専門科目」に大幅な選択制を導入するとともに、少人数によるゼミナールを数多く開講している点である。こうした選択制とゼミナールによる教育を重視しているのは、学生諸君の自主的な学習を尊重することにより諸君の能力を効果的に発揮させ、個性豊かな人間を形成することを教育の最終目標としているためである。

諸君はこうした経済学部の教育課程の特質を十分に理解し、将来どのような局面に遭遇しても問題点の所在を的確に把握し、その解決方法を自らの努力と判断で見いだして行く能力を身につけてもらいたいと念じている。

最後に、この「履修要項」を熟読し、4年間の貴重な大学生活を計画的に、しかも悔いのない充実したものとして送られることを切に期待するものである。

駒澤大学経済学部

「現代経済事情Ⅰ～Ⅳ」（各半期，2単位）について

本学経済学部は、現代のめまぐるしく変動する経済社会の実情をいち早く学生諸君に伝えるために、「現代経済事情」を設置しています。その主旨は、今現在もっとも世の中の関心を集めている問題を年度ごとにとり上げ、これに深く関係している方々に話しをしてもらうことによって、本学経済学部が学生諸君に現代社会に関する情報発信源としての役割を果そうとすることにあります。

今年度は、環境問題と企業、バブル経済とその崩壊、日本経済と政党政治、国民生活と協同組合について以下の方々に講師を依頼しました。学生諸君が奮って履修されることを願います。

本年度講師

現代経済事情Ⅰ（環境問題と企業） 岸 宣仁氏

平成3年まで読売新聞経済部記者，現在フリー

現代経済事情Ⅱ（バブル経済とその崩壊） 高島 浩氏

平成2年まで農林中央金庫理事，現在大洋漁業(株)常任監査役

現代経済事情Ⅲ（日本経済と政党政治） 川内 一誠氏

平成4年までテレビ朝日政治部報道記者，現在テレビ朝日映像勤務

現代経済事情Ⅳ（国民生活と協同組合） 兼子 厚之氏

日本生活協同組合連合会勤務を経て，現在生協総合研究所研究員

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位数 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業及び学位記の授与 (5)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (6)
2. 外国語科目の履修方法 (8)
3. 保健体育科目の履修方法 (10)
4. 基礎教育科目の履修方法 (10)
5. 専門教育科目の履修方法 (11)
6. 他学部科目の履修方法 (15)
7. 随意科目の履修方法 (17)
8. 再履修科目の履修方法 (17)
 - ※ 「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (17)
 - ※ 授業科目のコード番号について (18)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (19)
2. 履修届記入上の注意 (20)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (21)
4. 授業時間 (21)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (22)
2. 中間試験 (22)
3. 追・再試験 (22)
4. 受験心得 (23)
5. 成績評価・単位認定 (23)
6. 試験時間 (24)
7. 成績発表 (24)

VI	進級について	(25)
VII	教職課程・資格講座	(26)
VIII	事務取扱いについて	
	1. 事務室の事務受付時間	(27)
	2. 休 講	(27)
	3. 掲示・連絡	(27)
	4. 問い合わせ	(27)
IX	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(28)
	2. 休 学	(28)
	3. 復 学	(28)
	4. 退 学	(29)
	5. 除 籍	(29)
	6. 懲 戒	(29)
	7. 編 入 学	(29)
	8. 再 入 学	(29)
	9. 転部・転科	(29)
	10. 留 学	(30)
	11. 学生氏名・保証人	(30)
	12. 学生番号	(30)
X	既修得単位の認定について	(31)
XI	届書・願書について	(32)
XII	各種証明書取扱い窓口	(33)
	試験実施規程（抜粋）	(34)
	講義内容	(37)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数

経済学科

A. 平成元年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	32	} 136以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	16	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	5	20	80	
	選択	15	60		

B. 昭和63年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	32	} 138以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	80	
	選択	16	64		

経済学科

C. 昭和62年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	} 146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	4	16	84	
	選 択	17	68		

商 学 科

A. 平成元年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	32	} 136以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	16	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	4	16	80	
	選 択	16	64		

B. 昭和63年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	32	} 138以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	3	12	80	
	選 択	17	68		

商 学 科

C. 昭和62年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	84	
	選 択	18	72		

2. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学士の学位が与えられる。

経済学部 { 経済学科 …… 学 士 (経済学)
 { 商 学 科 …… 学 士 (商 学)

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
 - ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
 - ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

A. 昭和63年度以降入学生適用

人文分野	4科目	計16単位	}	合計 8科目	32単位
社会分野	2科目	計 8単位			
自然分野	2科目	計 8単位			

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を 4科目	16	}	
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4				
	哲学	4				
	倫理	4				
	文法	4				
	歴史	4				
	歴史	4				
社会分野	法学 (日本国憲法)	4	2科目選択必修	8	}	32
	政治学	4				
	社会学	4				
	文化	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
自然分野	自然科学概論	4	2科目選択必修	8	}	
	心理学	4				
	天文学	4				
	コンピュータ概論	4				
	物理学	4				
	生物学	4				
	生物学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。
 ※「コンピュータ概論」を受講（人数：1クラス 100名）希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）

B. 昭和62年度以前入学生適用

人文分野 4科目 計16単位 }
 社会分野 3科目 計12単位 } 合計 9科目 36単位
 自然分野 2科目 計 8単位 }

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」の 「2科目選択」 ・の 「2科目選択」 I II 含め 4 科目を 選必修	16	36	
	宗教学 II (2年次必修)	4				
	哲学論	4				
	倫理	4				
	歴史学 (日本史)	4				
	歴史学 (世界史)	4				
	歴史学 (世界史)	4				
	歴史学 (世界史)	4				
社会分野	法日 (憲法)	4	3科目選択必修	12	36	取る憲 をす学 と法修 状と法 許う「必 免よは しのは 教員を 得も法 る。
	政治学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
自然分野	自然科学概論	4	2科目選択必修	8	36	
	心理学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				
	社会学	4				

- ※「宗教学 I」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。
- ※「歴史学（日本史）」旧「歴史学」。歴史学の単位を修得した学生は履修できない。
- ※「コンピュータ概論」を受講（人数：1クラス 100名）希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6か国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した英語以外の外国語の2か国語を履修することになる。その2か国語を、1年次および2年次（昭和63年度以前入学生は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

なお、平成元年度以降入学生の学生からは、第1外国語は英語、第2外国語は他の外国語となる。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2 (2)	4 (4)	2 (2)	4 (4)	4 (4)	8 (8)
2年次	2 (2)	4 (4)	2 (2)	4 (4)	4 (4)	8 (8)
3年次	— (1)	— (2)	—	—	— (1)	— (2)
計	4 (5)	8 (10)	4 (4)	8 (8)	8 (9)	16 (18)

※ () 内の数字は昭和63年度以前入学生適用

1年次の履修

6か国語のうち英語 I A・I Bの2科目と入学手続の際に指定した英語以外の外国語 I A・I Bの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	備 考
英語 I A	2		I A・I Bの2科目を必修とする。ただし I Aは「英会話 I (定員40名)」または「英語 LL I (定員30名)」に振り替えることができる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語 I B	2		
英会話 I	2		
英語 LL I	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語 I A	2	文 法	5か国語のうちから入学手続の際指定した1か国語 I A・I Bの2科目を必修とする。
ドイツ語 I B	2	講 読	
フランス語 I A	2	文 法	
フランス語 I B	2	講 読	
中国語 I A	2		
中国語 I B	2		
スペイン語 I A	2		
スペイン語 I B	2		
ロシア語 I A	2		
ロシア語 I B	2		

※「英語 I B」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2か国語（英語と他の1か国語）を、それぞれⅡA・ⅡBの2科目ずつ計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 Ⅱ A	2	} 2科目必修	ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	} 1年次で履修した1か国語 2科目必修
英 語 Ⅱ B	2		ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	
			フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	
			フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	
			中 国 語 Ⅱ A	2	
			中 国 語 Ⅱ B	2	
			ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
			ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
			ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
			ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

3年次の履修（昭和63年度以前入学生のみ適用）

1・2年次で履修の2か国語のうち、いずれか1か国語を第1外国語とし、外国語「Ⅲ」を1科目2単位必修とする。

第1外国語

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 Ⅲ	2		中 国 語 Ⅲ	2	
ド イ ツ 語 Ⅲ	2		ス ペ イ ン 語 Ⅲ	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅲ	2		ロ シ ア 語 Ⅲ	2	

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスで履修すること。
- ロ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ハ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.17参照）。
- ニ. 2年次（昭和63年度以前入学生は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

昭和63年度以前入学生は

2年次の9月24日（金）～30日（木）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1か国語）の中から3年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。なお、登録後の変更はできないので十分考慮の上行うこと。

また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、必ず登録を行うこと。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は火曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰ（再履修クラス含む）の種目等の説明は、最初の授業に『体育実技受講要領』を配布して行うので、必ず出席すること。なお、当日の服装は、普段着でよい。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において1科目4単位を必修とする。

履修年次	授 業 科 目	単 位	備 考
1年次	経済学概説	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

1・2年次開講科目は、ほとんど基礎的科目である。

経済学科

必修科目

A. 平成元年度以降入学生適用（5科目20単位）

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4		時事外国語	4	
経済原論Ⅱ	4				
経済史	4				
経済政策	4				

時事外国語について

時事外国語は、1年次と2年次で履修した外国語（英語と他の1か国語）の中から選択履修することが望ましい。なお、外国人留学生の「母語」での履修は認めない。

履修方法

① 受講希望科目（担当者）の決定

成績発表時に配布される授業時間表・履修要項（講義内容）を参考に、受講を希望する科目（担当者）を事前に決めておく。

② 受講申込み

本人が所定の期日・場所で受講希望科目（担当者）を申込み

○期 日 4月12日（月）

○場 所 1-301教場

○時 間 13:00~15:00

○方 法 時事外国語履修許可書（当日配布）に受講許可印を押印してもらう。
（先着順にて定員締切あり）

○持参する物 学生証、授業時間表

③ 教務部へ時事外国語履修許可書提出

所定期日に履修届と共に時事外国語履修許可書を提出する。ただし、受講許可印のない者は履修できないので注意すること。

B. 昭和63年度以前入学生適用（4科目16単位）

2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考
経 済 原 論 I	4	
経 済 原 論 II	4	
経 済 史	4	
経 済 政 策	4	

選択科目の卒業所要単位数

- A. 平成元年度以降入学生適用（60単位以上）
- B. 昭和63年度入学生適用（64単位以上）
- C. 昭和62年度以前入学生適用（68単位以上）

商 学 科

必 修 科 目

A. 平成元年度以降入学生適用（4科目16単位）

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		時 事 外 国 語	4	
2 年 次 必 修					
商 学 総 論	4				
経 営 学 総 論	4				

時事外国語について

時事外国語は、1年次と2年次で履修した外国語（英語と他の1か国語）の中から選択履修することが望ましい。なお、外国人留学生の「母語」での履修は認めない。

履修方法

① 受講希望科目（担当者）の決定

成績発表時に配布される授業時間表・履修要項（講義内容）を参考に、受講を希望する科目（担当者）を事前に決めておく。

② 受講申込み

本人が所定の期日・場所で受講希望科目（担当者）を申込み

- 期 日 4月12日（月）
- 場 所 1-301教場
- 時 間 13:00～15:00
- 方 法 時事外国語履修許可書（当日配布）に受講許可印を押印してもらう。
（先着順にて定員締切あり）
- 持参する物 学生証、授業時間表

③ 教務部へ時事外国語履修許可書提出

所定期日に履修届と共に時事外国語履修許可書を提出する。ただし、受講許可印のない者は履修できないので注意すること。

B. 昭和63年度以前入学生適用（3科目12単位）

1 年 次 必 修			2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		商 学 総 論	4	
			経 営 学 総 論	4	

選択科目の卒業所要単位数

- A. 平成元年度以降入学生適用（64単位以上）
- B. 昭和63年度入学生適用（68単位以上）
- C. 昭和62年度以前入学生適用（72単位以上）

選択科目一覧(経済・商学科共通)

1年次選択			3・4年次選択			3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
会計学総論	4	※イ	国民所得論	4		貿易論	4	
2年次選択			景気変動論	4		貿易実務	4	
経済原論Ⅰ	4	※ロ	日本経済史	4		証券市場論	4	
経済原論Ⅱ	4	※ロ	経済地理	4		保険論	4	
統計原論	4		国際経済論	4		交通論	4	休講
経済史	4	※ロ	農業政策	4		商品学	4	
経済政策	4	※ロ	工業政策	4		経営管理論	4	
商学総論	4	※イ	財政学	4		労務管理論	4	※へ
商業史	4	休講	財政政策	4	※ニ	財務管理	4	
経営学総論	4	※イ	金融論	4		原価計算論	4	
簿記論	4		国際金融論	4		会計監査論	4	
財務会計論	4		銀行論	4		管理会計論	4	
憲法	4		社会政策	4		税務会計論	4	
民法一部	4	総則物権	労働経済論	4	休講	民法二部	4	債権
演習Ⅰ	4		中小企業論	4		商法一部	4	総則会社法
3年次選択			人口論	4		商法二部	4	商行為・手形・小切手法
原書講読Ⅰ	4		教育経済論	4		労働法	4	
演習Ⅱ	4		日本経済論	4		経済法	4	
4年次選択			アジア経済論	4		現代経済事情Ⅰ	2	半期
原書講読Ⅱ	4		中国経済論	4		現代経済事情Ⅱ	2	半期
演習Ⅲ	4		アメリカ経済論	4		現代経済事情Ⅲ	2	半期
3・4年次選択			ヨーロッパ経済論	4		現代経済事情Ⅳ	2	半期
経済学史	4	※ハ	ロシア・東欧経済論	4	※ホ			
価格理論	4		商業政策	4				
			マーケティング	4				

※イ、「会計学総論」「商学総論」「経営学総論」経済学科の学生に限り適用。

※ロ、「経済原論Ⅰ」「経済原論Ⅱ」「経済史」「経済政策」商学科の学生に限り適用。

※ハ、「経済学史」旧「経済学史Ⅰ」経済学史Ⅰの単位を修得した学生は履修できない。

※ニ、「財政政策」旧「財政政策論」財政政策論の単位を修得した学生は履修できない。

※ホ、「ロシア・東欧経済論」旧「ソビエト経済論」ソビエト経済論の単位を修得した学生は履修できない。

※へ、「労務管理論」旧「労務管理」労務管理の単位を修得した学生は履修できない。

〔廃講科目〕

「経済学史Ⅱ」

現代経済事情の履修方法

- 履修科目の登録をする場合、「制限科目数」の計算においては、2科目で1科目分とみなす。
(1科目…1科目分, 2科目…1科目分, 3科目…2科目分, 4科目…2科目分)
- 『単位履修届』用紙の合計科目数欄には、受講する全ての科目数の実数を記入すること。

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科，他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は，次の要領で履修することができる。

なお，履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち，他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.16参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし，授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は，卒業までに3科目12単位以内とする。

なお，その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に，『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し，『他学部履修願』用紙に必要事項を記入の上，必ず最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受ける。

なお，『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は，教務部@番窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に記入し，『履修許可書』を添えて，所定の期日（単位履修届提出時）に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は，他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は，『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は，1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は，改めて前項の手続きを経なければならない。

なお，再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.17）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は，所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し，卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考
禅学 科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		歴史 学 科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	休講
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4	
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4	
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			西洋文化史Ⅰ	4	3・4	休講
	禅学思想史	4	3・4			考古学特講Ⅲ	4	3・4	隔年開講・休講
	哲学史	4	3・4			歴史哲学	4	3・4	
仏教 学 科	インド仏教史	4	3・4		哲学史	4	3・4		
	中国仏教史	4	3・4		日本民俗学	4	3・4		
	日本仏教史	4	3・4		社会 学 科	マスコミュニケーション	4	3・4	
	日用経典	4	3・4			産業社会学	4	3・4	
	仏教美術	4	3・4			都市社会学	4	3・4	
現代哲学概説	4	3・4		社会福祉発達史		4	3・4		
国文学 科	上代文学	4	3・4			行政法Ⅱ	4	3・4	
	中世文学	4	3・4		民法Ⅳ(1)	4	3・4		
	近世文学	4	3・4		民法Ⅳ(2)	4	4		
	近代文学	4	3・4		比較憲法	4	3・4		
	中国文学	4	3・4		地方自治法	4	3・4	休講	
英米 文 学 科	英文学特講Ⅰ	4	3・4		政治 学 科	国際関係論	4	3・4	
	英文学特講Ⅱ	4	3・4			西洋政治史	4	3・4	
	英文学特講Ⅲ	4	3・4			宣伝広告論	4	3・4	
	英文学特講Ⅳ	4	3・4			比較社会構造論	4	3・4	休講
	英文学特講Ⅴ	4	3・4			政党論	4	3・4	
	英文学特講Ⅵ	4	3・4		経営 学 科	商業史	4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4			国際経営論	4	3・4	
	米文学特講Ⅰ	4	3・4			経営統計	4	3・4	
	米文学特講Ⅲ	4	3・4			経営分析論	4	3・4	
	時事英語	4	3・4			短大 国 文 学 科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4
地理 学 科	地質学	4	3・4		国文講読Ⅱ(中古)		2	3・4	
	地形学Ⅰ	4	3・4		国文講読Ⅲ(中世)		2	3・4	
	人口地理学	4	3・4		国文講読Ⅳ(近世)		2	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4		国文講読Ⅴ(近・現代)		2	3・4	
	文化地理学	4	3・4		国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4		
					短英 文 大 科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	
						時事英語	4	3・4	
					短放 射 線 大 科	計算機言語概論	2	3・4	半期科目 ※
						臨床放射線特講Ⅰ	2	3・4	半期科目
						応用計測学	2	3・4	半期科目

※「計算機言語概論」については、機器数の関係上選抜により受講者を決定する。

7. 随意科目の履修方法

各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
比較思想特講	4		ロシア語 F	2		中国語FLL(初級)	2	
英 会 話 II	2	※	英 語 L L II	2	※	中国語FLL(中級)	2	
ド イ ツ 語 F	2		ドイツ語FLL(初級)	2		スペイン語FLL(初級)	2	
フ ラ ン ス 語 F	2		ドイツ語FLL(中級)	2		スペイン語FLL(中級)	2	
中 国 語 F	2		フランス語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
ス ペ イ ン 語 F	2		フランス語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	

※ 「英会話Ⅱ」・「英語LLⅡ」の履修を希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することをいう。
- ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。
- ニ. 外国語科目・体育実技Ⅰ・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。なお、外国語科目の再履修は『外国語再履修科目授業時間表』（教務部⑩番窓口で配布）から履修し、最初の授業で『外国語再履修票』を提出して担当教員の許可を受けること。ただし、原級者が同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。この場合の外国語科目は、『外国語再履修票』を必要としない。
- ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法

- 『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。
- 日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。
- 日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
- 各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。
- (注) 詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.30参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修) ・ 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	3
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1 ・ 2 ・ 3
選 択 科 目		5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目のうち履修を希望する科目を授業時間表から選び，所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次における最低および最高履修科目数（制限科目数）は原則として次のとおりとする。

A. 平成元年度以降入学生適用

年次	履修科目数	再履修を含む科目数
1年次	14科目	—
2年次	5科目以上12科目以内	制限内
3年次	5科目以上11科目以内	制限内
4年次	5科目以上14科目以内	制限内

B. 昭和63年度以前入学生適用

年次	履修科目数	再履修を含む科目数
1年次	15科目	—
2年次	5科目以上12科目以内	制限内
3年次	5科目以上12科目以内	制限内
4年次	5科目以上14科目以内	制限内

イ. 体育実技Ⅱ，課程・講座科目，随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 制限範囲内で順次履修すれば，課程・講座科目の履修や未・再履修科目の補充も制限科目数の範囲内で十分可能となる。

ハ. 半期科目も1科目とする。ただし，「現代経済事情」は，2科目で1科目分とみなす。（現代経済事情の履修方法P.14参照）

II) 登録上の注意

イ. 履修届は必ず本人が記入捺印し，指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部⑨番窓口で相談すること。）

ロ. 履修届は，4月22日（木）9時30分から16時まで教務部臨時窓口で受付ける。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.16参照）は，履修登録できる。

また，教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は『課程・各種講座授業時間表』（教職係窓口で配布）から履修し，教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. いったん提出（登録）した履修科目の変更は認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

Ⅲ) 履修確認表の配布

下記の日・時に教務部臨時窓口において履修確認表を配布する。

(記) 5月13日(水)・14日(木) …… 9:30~16:00 昼休み除く

履修届（本人控）と照合の上、誤りのある場合は、5月15日(金)~18日(月)までに教務部⑨番窓口で訂正すること。

※ 受付時間（9:30~16:00 昼休み除く、土曜日は9:30~正午まで）

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

曜日	時限	科目名	科目コード	担当者名	担当者コード
月	1	ドイツ語ⅠA	312201	百済 勇	879
月	2	保健体育理論(前期)	314201	長濱 友雄	A10
		保健体育理論(後期)			622
月	3	宗 教 学 Ⅰ	310101	岡部 和雄	157
月	4	論 理 学	310203	国崎 一則	306
月	5	自然科学概論	310401	宇和川 正人	104

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担当	担当コード
	1		ドイツ語ⅠA	312201	百 済	879
月	2		保健体育理論(前期)	314201	長 濱	A10
	3		宗 教 学 Ⅰ	310101	岡 部	157
(1)	4	○	論 理 学	310203	国 崎	306
	5		自然科学概論	310401	宇和川	104

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。ただし、「担当」欄には、担当教員の姓のみを記入すること。

ニ. 半期終了の科目は「再履」から「担当コード」欄までの中央に点線（上記、正しい記入例参照のこと）を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担当名（姓のみ）・担当コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 判読できない数字で記入した場合（例として間違い易い数字 0と6, 1と7）

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名（姓のみ）・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次の順序で履修する科目を決定すると容易である。

経済学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5または6科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	6
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			14

商学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	専門教育科目	会計学総論（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5
1年次履修制限科目数			14

4. 授業時間

授業時間は、次のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日(水)～7月20日(火)に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月17日(月)～2月3日(木)に実施する。
 - ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
 - ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。
なお、指定された日・時以外は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。〔締切日は前期7月23日(金)、後期2月4日(金)〕
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目1,000円とする。
(注意) 前期終了科目の追・再試験は9月25日(土)～10月1日(金)に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日(水)～3月1日(火)に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期）		定期試験実施時間（後期）	
1時限 9:20~10:20	4時限 14:40~15:40	1時限 9:30~10:30	4時限 14:30~15:30
2時限 10:50~11:50	5時限 16:10~17:10	2時限 11:00~12:00	5時限 15:50~16:50
3時限 13:10~14:10		3時限 13:00~14:00	

追・再試験実施時間（前期）	
1時限 16:10~17:00	
2時限 17:10~18:00	

追・再試験実施時間（後期）	
1時限 9:30~10:20	
2時限 10:50~11:40	
3時限 13:00~13:50	
4時限 14:10~15:00	
5時限 15:20~16:10	

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.34）ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を提示すること。

前期成績発表 9月16日（木），17日（金）

後期成績発表（卒業年次生） 2月17日（木），18日（金）

” （在校生） 4月9日頃

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

A. 平成元年度以降入学生適用

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	86単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注意進級	29～20単位	59～50単位	86単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原級留置	19単位以下	49単位以下	85単位以下。または86単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。14科目を履修しても卒業所要単位を取得できない場合。

※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。

※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

B. 昭和63年度以前入学生適用

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注意進級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～16単位不足している場合。
原級留置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、17単位以上不足している場合。

※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。

※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

Ⅶ 教職課程・資格講座

経済学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次のとおりである。

課 程 ・ 講 座 名	開 講 年 次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	〃	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	〃	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	〃	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

VIII 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時から16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表等各申込の受付は、9時30分から16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

IX 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。（本大学の修業年限は4年）
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学費
4月1日～9月20日	I期（前期）分納入済のこと。（II期分免除）
9月21日～11月30日	I期（前期）分・II期（後期）分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復学

- イ. 休学した者が復学する場合は、I期（前期）学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

- (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
- (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で、同一学部他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可することがある。

ただし、編入学者の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

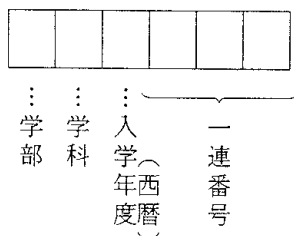
11. 学生氏名・保証人

- イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づきJ I S第1水準・第2水準文字で運用する。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

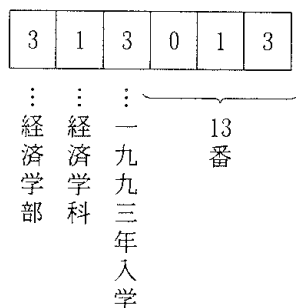
12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分



(例) 1993年度入学・経済学部
経済学科13番の場合



学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

X 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願出しなければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位に算入される。

XI 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

	種 類	要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口
届 書	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること（締切日は掲示参照） 	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県名）変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・在学誓書（保証書）添付 	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・変更後1週間以内 	要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・死亡を証明できる書類（写し可）添付 	/	要	
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地 ・その他の場合は、保証人連署の理由書 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付 ・4月10日までに提出すること 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・学生証添付 	要	要	

XII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金	
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）	
成 績 証 明 書			
卒 業 証 明 書			
教員免許状取得見込証明書			
教職・講座単位修得（見込）証明書			
一般教養科目修了（見込）証明書			
そ の 他 の 諸 証 明 書	就 職 部		
人 物 考 査 書			
健 康 診 断 証 明 書			
在 学 証 明 書	学生部③番		
学 割	学生部②番		無 料
通 学 証 明 書			無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口で申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

※ 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講 義 内 容 目 次

一 般 教 育 科 目	(42)
外 国 語 科 目	(61)
保 健 体 育 科 目	(69)
随 意 科 目	(71)
基 礎 教 育 科 目	(75)
専 門 教 育 科 目	(78)
他 学 部 履 修 科 目	(133)

[卷 末]

教職および資格講座

一般教育科目

人文分野	
宗教学Ⅰ	(佐藤 達玄)42
宗教学Ⅰ	(田上 太秀)42
宗教学Ⅰ	(吉津 宜英)43
宗教学Ⅰ	(末光 愛正)44
宗教学Ⅰ	(袴谷 憲昭)44
宗教学Ⅰ	(片山 一良)45
宗教学Ⅰ	(再クラス) (岡部 和雄)45
宗教学Ⅰ	(再クラス) (奈良 康明)45
宗教学Ⅱ	(中野 東禅)45
宗教学Ⅱ	(永井 政之)46
宗教学Ⅱ	(伊藤 秀憲)46
宗教学Ⅱ	(大谷 哲夫)46
宗教学Ⅱ	(石井 清純)47
哲学	(村上 勝三)47
論理学	(田島 節夫・中村 友太郎)47
倫理学	(国嶋 一則)48
文学	(平野 由紀子)48
文学	(増尾 聡哉)48
歴史学	(日本史) (木槻 哲夫)49
歴史学	(日本史) (立川 章次)49
歴史学	(世界史) (茂沢 方尚)49
科学史	(小宮山 隆)50
社会分野	
法学憲法	(前田 英昭)50
法学憲法	(馬越 道夫)50
政治学	(浦田 早苗)51
政治学	(上條 末夫)51
社会学	(橋爪 敏)51
社会学	(岩上 真珠)52
統計学	(飯塚 仁之助)52
地理学	(川口 太郎)53
地理学	(矢野 陽子)53
文化人類学	(内山 明子)54
社会科学概論	(大石 雄爾)54
自然分野	
自然科学概論	(宇和川 正人)55
自然科学概論	(漆原 和子)55
数学	(福田 賢一)55
心理学	(牧野 晋)56
心理学	(高橋 良博)56
心理学	(中丸 茂)57
天文学	(篠原 正雄)57
コピ-タ概論	(篠原 正雄)58
コピ-タ概論	(竹田 洋一)58
人類学	(江藤 盛治)59
物理学	(篠原 正雄)59
生物学	(中村 敏枝)60

外国語科目

英語61
ドイツ語62
フランス語63
中国語64
スペイン語65
ロシア語67

保健体育科目

保健体育理論 (光永 吉輝)69
保健体育理論 (館岡 儀秋)69
保健体育理論 (三幣 晴三)69
保健体育理論 (再クラス) (田中 佳孝)70
保健体育理論 (再クラス) (宮沢 栄作)70

随意科目

比較思想特講 (佐々木 宏幹)71
比較思想特講 (洗 建)71
英会話Ⅱ (P. A. Bendinelli ・ T. A. Grange W. Hubbard ・ D. J. Nolan J. K. Wells ・ P. Ziegler)71
英語L LⅡ (T. J. Cogan ・ 岩山 義春 大庭 直樹)72
ドイツ語F (柴野 博子)72
ドイツ語F L L (初級) (小林 ゲアリンデ)72
ドイツ語F L L (中級) (松岡 晋)72
フランス語F (桑田 禮彰)73
フランス語F L L (初級) (小玉 齊夫)73
フランス語F L L (初級) (M. マルタン)73
フランス語F L L (中級) (M. マルタン)73
中国語F (岩崎 皇)73
中国語F L L (初級) (小川 隆)73
中国語F L L (中級) (松本 丁俊)74
スペイン語F (ソニア・エレロ・ガルシア)74
スペイン語F L L (初級) (ホワン・ナバロ)74
スペイン語F L L (中級) (ホワン・ナバロ)74
ロシア語F (杉山 秀子)74
ロシア語F L L (初級) (廣田 英靖)74
ロシア語F L L (中級) (滝川 ガリーナ)74

基礎教育科目

経済学概説 (阿部 弘)	75
経済学概説 (有井 行夫)	76
経済学概説 (岩下 弘)	77
経済学概説 (瀬戸岡 紘)	77
経済学概説 (福原 好喜)	77

専門教育科目

1 年次必修科目 (商学科)

会計学総論 (飯岡 透)	78
会計学総論 (中原 章吉)	78

1 年次選択科目 (経済学科)

会計学総論 (加古 宜士)	79
---------------	----

2 年次必修・選択科目

経済原論 I (大石 雄爾)	79
経済原論 I (阿部 弘)	80
経済原論 II (浅野 克巳)	81
経済原論 II (浅田 統一郎)	81
経済原論 II (荒木 勝啓)	82
経済政策 (石井 啓雄)	83
経済政策 (広田 秀樹)	84
経済史 (安元 稔)	85
経済史 (殿村 晋一)	86
商学総論 (大吹 勝男)	86
経営学総論 (寺中 良二)	86
統計原論 (吉野 紀)	87
簿記論 (島崎 規子)	88
財務会計論 (遠藤 孝)	88
憲法 (清水 睦)	89
民法一部 (青野 博之)	90

3 年次必修科目

時事外国語 (英) (石原 孝哉)	91
時事外国語 (英) (岡崎 寿一郎)	91
時事外国語 (英) (小笠原 隆元)	91
時事外国語 (英) (落合 和昭)	92
時事外国語 (英) (河内 賢隆)	92
時事外国語 (英) (清水 祐次)	92
時事外国語 (英) (田中 保)	92
時事外国語 (英) (丹治 弘昌)	93
時事外国語 (英) (林 明人)	93
時事外国語 (英) (前田 脩)	93
時事外国語 (英) (牧野 輝良)	93
時事外国語 (英) (町田 尚子)	93
時事外国語 (英) (丸小 哲雄)	94
時事外国語 (独) (松本 洋子)	95
時事外国語 (仏) (加藤 節子)	95
時事外国語 (中) (小川 隆)	95
時事外国語 (ス) (細川 幸夫)	96

時事外国語 (口) (杉山 秀子)	96
-------------------	----

3・4 年次選択科目

経済学史 (福原 好喜)	96
価格理論 (荒木 勝啓)	97
国民所得論 (吉野 紀)	97
景気変動論 (西村 允克)	98
日本経済史 (古庄 正)	99
経済地理 (上坂 修夫)	100
国際経済論 (徳永 俊明)	100
農業政策 (永田 恵十郎)	101
工業政策 (渡辺 幸男)	102
財政学 (西村 紀三郎)	103
財政政策 (里中 恆志)	104
金融論 (渋谷 隆一)	104
国際金融論 (齊藤 寿彦)	105
銀行論 (齊藤 正)	105
社会政策 (光岡 博美)	106
中小企業論 (三井 逸友)	107
人口論 (森岡 仁)	108
教育経済論 (谷敷 正光)	108
日本経済論 (足田 康行)	109
アジア経済論 (小林 英夫)	110
中国経済論 (小杉 修二)	110
アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	111
ヨーロッパ経済論 (清水 卓)	112
ロシア・東欧経済論 (山縣 弘志)	113
商業政策 (岩下 弘)	114
マーケティング (曾我 信孝)	114
貿易論 (古沢 紘造)	115
貿易実務 (太田 正孝)	115
証券市場論 (澤田 精次)	116
保険論 (石名坂 邦昭)	116
商品学 (石崎 悦史)	117
経営管理論 (百田 義治)	117
労務管理論 (前期: 石井 脩二)	
(後期: 庄村 長)	118
財務管理 (高橋 昭三)	119
原価計算論 (加藤 利安)	120
会計監査論 (飯岡 透)	120
管理会計論 (中原 章吉)	121
税務会計論 (市川 深)	121
民法二部 (青野 博之)	122
商法一部 (荒木 正孝)	122
商法二部 (宮島 司)	123
労働法 (藤本 茂)	123
経済法 (川井 克俊)	124
原書講読 I・II (有井 行夫)	124
原書講読 I・II (大吹 勝男)	125
原書講読 I・II (齊藤 正)	125
原書講読 I・II (古沢 紘造)	125
原書講読 I・II (百田 義治)	125
原書講読 I・II (三井 逸友)	126
原書講読 I・II (福原 好喜)	126
原書講読 I・II (清水 卓)	127

原書講読 I・II (小杉 修二)	127
原書講読 I・II (色川 卓男)	127
原書講読 I・II (中田 秋男)	128
現代經濟事情 I (岸 宣仁)	128
現代經濟事情 II (高島 浩)	129
現代經濟事情 III (川内 一誠)	129
現代經濟事情 IV (兼子 厚之)	130

一般教育科目

人文分野

宗教学 I

佐藤達玄

- 1) 人間生活と宗教
ここでは宗教の入門として、まず「宗教とは何か」という問いを掲げて、宗教の考究する領域をのべる。次に「宗教をなぜ学ぶのか」ということで、真の専門の知識は豊かな教養の裾野の上にこそ生かされることを説明する。以下、必要な事項を列記する。
 - § 知ることと、信ずること
 - § 青年期と宗教
- 2) 宗教の側面
 - § 神を立てる宗教
 - § 神を立てない宗教
 - § 個人現象としての宗教
 - § 社会制度としての宗教
- 3) 宗教のはたらき
 - § 個人におけるはたらき
 - § 社会におけるはたらき
- 4) 宗教の歴史
 - § 宗教のおこり
 - § 古代の宗教
 - § 世界宗教の諸相
- 5) 日本の民族宗教
- 6) インドの仏教
 - § 仏教とは
 - § 仏法僧の三宝
 - § 仏教の聖典
 - § 仏陀の教説 — 仏伝、誕生、成道、説法、入滅、四法印、四諦、八正道、三学、中道、縁起
- 7) 部派仏教の教説
 - § 教団の根本分派
 - § 部派仏教の成立展開
 - § アビダルマ教義の特質
- 8) 大乘仏教の成立
 - § 初期の大乘経典
 - § 大乘仏教の特質
- 9) 中国仏教の歴史

§ 仏教伝来の経路と時期

§ 仏典の翻訳

§ 三国時代の仏教

§ 西晋の仏教

§ 江南東晋の仏教

§ 南北仏教の特色

§ 隋の仏教と諸宗

§ 唐の仏教と諸宗

§ 宋元以後の仏教

10) 日本仏教の歴史

§ 仏教の伝来

§ 奈良仏教の特質

§ 平安仏教の諸相

§ 鎌倉仏教の諸相

§ 近世仏教の動向

〔教科書〕『宗教学 I』（更生社）¥2,575

宗教学 I

田上太秀

『宗教学』の講義は一宗一派の信仰、あるいは一宗教の信仰を以て講義したり、その信仰を強要するために講義するものではない。この講義は宗教という文化現象がいかなるものか、その類型と構成要素についての教養としての知識を修得する目的で行われる。

前期は日本文化に古来多大な影響を及ぼしたインド思想について講義し、後期は宗教の定義・類型・構成要素、そして現代日本に見られる諸宗教態などについて講義する。

前期において二回、テキスト（前期用）のページを指定し、その範囲に叙述された内容についての要旨、並びに意見を陳述したレポートを提出させる。そのレポートにみられる意見や質問をもとに講義を進めているのは例年どおりである。

夏期休暇中宿題として、（例年どおり）各人宗教に関する論題を掲げ、それを論ずるための資料として五冊以上の書籍名を先きに提出させ、その書籍にもとづいて原稿（400字詰）20～30枚の論文を作成させることにしている。これは強制ではないが、提出したものには期末テストの素点の低いものにレポートの点を少し加点されるという利点がある。

〔教科書〕中村 元著『原始仏典を読む』（岩波

書店) ¥2,100
〔参考書〕 脇本平也著『宗教を語る』(日新出版)
¥2,400

宗 教 学 I

吉 津 宜 英

a. 受講生へのメッセージ

みなさんはこれまで宗教に対してどのようなイメージを抱いておられるでしょうか。ある人は宗教に向って否定的な印象を持っておられましょう。また、ある人はすでに特定の宗教を信奉しておられるかもしれません。そして、多くの方々が自分は宗教に無関心であるとも答えられましょう。私はこれら三様の方々のいずれに向っても、先ず宗教の正体、正しい知識を獲得していただきたいと思っています。特に宗教に否定的であるみなさんは、批判すべき対象への正しい認識を持って発言してゆかなくては説得力はありません。次にすでに特定の信仰に生きている人は自分の宗教以外のものの内容を学ぶことによって、自分の立場を一旦は相対化させ、各種の宗教の中に自分の信仰を位置づけてみて、さらに一段と深い信念に至ることもありえましょう。

次にこれまでは無関心であったというみなさんに対しては現代社会の中に一見して宗教とは思われないものごとの中に、きわめて宗教的な要素が満ちあふれていることを申したいと思います。政治にも、経済にも、教育にも、スポーツにも、趣味の世界にも、いろいろの形で宗教的な様相を指摘することができます。今はバブル経済が崩壊して、「複合不況」などという状況下にあるわけですが、あのバブル経済にも宗教的情熱が貫いていたのではないのでしょうか。それは「拝金主義」とも呼べるような信仰にも比類しうるものであります。今回再び巨人軍の監督に帰復した長嶋氏が現役を引退する時に後楽園球場で挨拶した、そのしめくくりの言葉は「我が巨人軍は永遠に不滅です。」であったことを知っておられるでしょうか。これは何と宗教的響きの強い言葉でしょう。このように私は一見非宗教的分野に見られる宗教性を「見えない宗教」という形で指摘したいと思います。

私は宗教に対してですら、水平に、対等に、対峙する立場を取っておりますので、「宗教は価値のある、よいものだ」と決めつけようとは思っておりません。政治や経済にも多くの問題があるように、宗教にも独自の問題があります。むしろ、この問題点こそみなさんと共に考えてゆきたいと思います。その問題の一端はテレビ

などで、いわゆる「新宗教」とか「新新宗教」についての事件としても報じられているところです。ただ、私たちはそれらの報道に対してですら、何が正しいのかを判断する眼力を養ってゆきたいと思っています。

b. 授業内容の大綱

一年間を前期と後期とに分け、前期は「現代の新新宗教の輩出に至るまでの日本の宗教の歴史」、後期は「世界の諸宗教・諸思想の中における仏教の特色」をメインテーマとします。次に具体的授業内容のいくつかを列挙してみましよう。

- (1) 自己紹介、私の宗教学の意図、アンケートへの依頼
- (2) 見える宗教と見えない宗教
- (3) 新新宗教輩出の背景
- (4) 日本の宗教の特色…シンクレティズム…
- (5) 日本の宗教の原点としての神道
- (6) 仏教の伝来と国家仏教の形成
- (7) 顕密体制の確立
- (8) 鎌倉新仏教の出現
- (9) 本朱寺檀体制の役割
- (10) 国家神道とその挫折(以上、前期)
- (11) 宗教の5W1Hを問おう
- (12) 宗教の三類型
- (13) 一神教について
- (14) 多神教について
- (15) 宗教の起源説
- (16) 水平型の宗教としての仏教
- (17) 釈尊の伝記
- (18) 大乘仏教
- (19) 中国仏教
- (20) まとめ…現代社会の動向と宗教…(以上、後期)

c. 受講上の諸注意

- (1) 下記の教科書を購入手、毎時間携帯すること。
- (2) 出席を採る。
- (3) 夏休みに指定図書の中から一冊選んで感想文を書いてもらう(400字詰5枚以上)。
- (4) 前後期それぞれ最後の時間を使って、教場でまとめのレポートを書いてもらう。
- (5) 以上、出席、感想文、レポート、そして定期試験の結果などを総合して成績評価を行う。
- (6) なお、講義の途中でも、終了時でも質問大歓迎であることを申し添えます。

〔教科書〕『宗教学I』(更生社) ¥2,575

〔参考書〕教場で指示する。

宗 教 学 I

末 光 愛 正

〈講義目的〉

宗教学に対する一般的な教養知識を概説した後、インド人の宗教観、釈迦の教義について講義し、これらのことが、宗教に対する関心への契機になればと思います。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、宗教学の発生、宗教学の定義、宗教とは何か、インド人の宗教観の背景等、後期は、インド人の輪廻と業、釈迦の四法印等の教説を中心に説明するつもりです。

〈評価方法〉

学年末の筆記試験と出席を考慮して評価する。

〔教科書〕『宗教学I』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I

袴 谷 憲 昭

〈講義目的〉

平成3年度に大学設置基準が改正になり、その第2条で「大学は、その教育研究水準の向上を図り、当該大学の目的及び社会的使命を達成するため、当該大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うことに努めなければならない。」と規程されるや、大学の現場は急にオタオタした。ある意味では、まことに嘆かわしいことと思われる。従来は、学問についての自己点検も自己評価も、なんら確立されてはいなかったのかということになってしまうからである。しかるに経済学部は、この機会を前向きに捉えて大学設置基準の問題と取組み、この授業計画書の作成も、そうした努力の一環であるという。私には、授業計画書を作ることがなぜ学問の自己点検や自己評価につながるのかということがよくわからないのであるが、根本的な意味において学問（sciences）の点検や評価を明確に行った最初の人がデカルトである。しかも、その点検した（examinées）結果得たところを、もろもろの学問において真理（vérité, truth）を求めるための方法（méthode）として提供したものが、彼の主著である『方法序説』にほかならない。国や文部省からとやかく言われてから大学とはなにかを考える場合でない限り、従来は、「大学とは真理探求の場である」と言われてきたものだが、その場合の「真理」とはデカルトの言わんとした意味での「正しさ」だったのである。しかし、現在におい

ては、そういう「正しさ」を口にすること自体がきわめて抹香臭い時代錯誤的なことになってしまうのであるが、本講義では、なぜそういうことになるのか、もしくは、なぜデカルト的な真理探究が排斥されるようになってきたのかを指摘しながら、「宗教学」としてデカルトの『方法序説』を取り上げることの意味を明らかにしていきたい。デカルト的に言えば、理性と言葉をもつのは人間だけであり、宗教とは、かかる意味においての人間にしかないものであるが、現代においては、動物まがいの宗教が横行していることも、上述の現象と平行する事態なのである。そういう世情を鑑み、デカルトの『方法序説』の講読を通して、宗教とはなにかを考え、古代より我が国を席捲している苦行主義を批判し、それとの対比で、デカルトのヨーロッパから学んだ知性主義というものがなんであるかを明らかにできれば、本講義の目的は果されると信ずる。

〈授業計画〉

要するに、以上の目的に従って、デカルトの『方法序説』を一年間にわたって参加者と一緒に講読していく。『方法序説』は6部からなるので、機械的に割りふれば前期で3部、後期で3部ということになるが、それはあくまでも一応の目安であり、それに読む順序もデカルトの書いた順序ということにはならないであろう。ここ数年の経験から割出していくと、恐らくは、全6部を、第5部、第3部、第1部、第2部、第4部、第6部という順で読み進めることになるであろうが、前期、後期での進み具合はその年度によって異なるから、ここに明記することは避けたい。なお、『方法序説』全6部の構成はまことに緊密なものであって勝手に変更すべきものではないが、人間同士の平等とは、動物との本質的な差異を前提としたものであることを、「宗教学」としては最初に学んだ方がよいと考えて、如上の講読順を採用する次第である。また、宗教的、思想的にいうならば、全6部中の第4部が最も重要な箇所であるが、その意味でもここはフランス語原文で読んだ方がよいと思いつつ、その力もないので、妥協的に第4部に限っては英訳の講読とする。この部だけは、コピーを用意するが、全体を英訳で読みたい人は、下記のペンギン・クラシックスの版を用意すればよいであろう。

〈評価方法〉

学年末のペーパー・テストによって評価する。

〔教科書〕デカルト著・落合太郎訳『方法序説』（岩波文庫）¥410

〔参考書〕Descartes : Discourse on Method and the Meditations, Translated with an Introduction by F.E. Sutcliffe, Penguin Books.

宗 教 学 I

片 山 一 良

<講義目的(要旨)>

歴史、比較に基づく立場からの「宗教」理解につとめ、「人間」とは何かを考える。

<授業内容・授業計画>

I. 「宗教」の定義

「宗教学」とは何か

II. 宗教の起源

宗教と呪術

神話と儀礼

III. 古代宗教

民族宗教と普遍宗教

ユダヤ教 — キリスト教

ユダヤ教 — イスラム教

ヒンドゥ教 — 仏教

IV. 日本の宗教(神道、仏教、儒教、道教など)

<読むべき文献> (経済学部学生に対して)

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

(M. ヴェーバー著, 大塚久雄訳, 岩波文庫)

— これは毎年夏期レポート作成のために使用。

<評価方法>

成績評価は、夏期レポートおよび年度末テスト結果による。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』など。

なお必要に応じて、関連資料をコピーにて配布。

宗 教 学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

『仏教の歩んだ道1』(東京書籍)

宗 教 学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 II

中 野 東 禪

人間教育、生き方学という視点から禅について学んでいただきたい。とくに、就職後の人間関係や、結婚、家族、転職、病気、死別など、生きていく上での「自己のあり方」を禅的に学ぶという姿勢で授業を構成したい。

禅は“問題解決学”という側面をもっている。とくに自己の心のありようを自覚することが、あらゆる場面の中心をなす。したがって「自己を学ぶ」ことは何よりも問題解決学になる。

そうした目標を設定して以下のようなスケジュールで学ぶ。

1. 日本の宗教状況。とくに新宗教の概観と、靈感商法や、たたり霊のしくみについて知ってもらう。これは靈感商法等の被害者を学生から出さないためにも重要である。また、生活・人生の諸側面における不安と宗教の関係で迷わないためにもはっきりとした情報を提供するつもりである。

2. 仏教の歴史と大乘仏教の全体像と日本仏教の宗派の成立及び宗派の一覧を簡潔に学ぶ。これは「宗教学I」ですでに学んだはずであるが、社会生活の上で必要な知識として、宗派名や、本山等を知っておくことは何らかの知的資産になると思う。

3. 禅の歴史とその人間観、さとの具体例を禅問答を通して学ぶ。これは、心、生き方、生きざま、出会い、生命観、死生観、自然観など、豊富な生き方の手本である。学生の人生の杖としてもっとも役に立つ心の杖になると思う。

4. 日本の禅について、道元禅師の生き方とことばを通して学ぶ。とくに生き方については「正法眼蔵随聞記」を通して息づかいにふれてゆきたい。

5. 禅の社会化として、生命観と仏教と題して紹介してゆく。家族をもつ人にとってターミナルケアや、尊厳死、病名告知、死の受容、グリーフ・ワークなどがこれからの人生の大きな課題になる。したがってそうしたことに仏教はどんな考え方を示してくれるかを明らかにしてゆきたい。

授業は講義を中心とし、途中で1~2回の坐禅実習を行い、その前後に教場で、調身・調息・調心の基礎を指導する。教科書は「宗教学II」更生社と、プリントを多く用いる。評価は、筆記試験と、坐禅実習と、出席状況との三点で行なう。

宗 教 学 II

永 井 政 之

〈講義目的〉

宗教学Ⅰのあとを承けて、仏教、特に「禪」の世界について学ぶ。インドで成立した仏教は中国においてさまざまに「変容」したが、その場合、中国の禅僧は常に「あるべき姿」と現実とをいかに結ぶかに苦心した。結果として中国の禅は、現実と妥協してしまいがちな危険性を内包する。そのような中国禅を批判的に継承したのが道元禅師である。道元禅師は「坐禅」の一行を仏祖の行持として位置づけ、日常生活において一瞬の気のゆるみも許さぬことで「仏の世界」を顕現せしめようとした。中国・日本の代表的な禅者の世界を語りながら、禅が現代における可能性を考えたい。

〈授業内容・授業計画〉

前期：宗教学Ⅰで学んだ「仏教」を再確認しつつ、禅宗の成立、さらに中国人のものの考え方をみる。

後期：中国禅宗の初祖のダルマ、さらに六祖慧能、百丈懷海らの立場を通じて中国禅の特質をみ、道元・瑩山の立場を考える。

〈評価方法〉

課題図書を最初の授業で指示する。レポートの提出と出席及び筆記試験。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕授業中に随時指摘。

宗 教 学 II

伊 藤 秀 憲

〈講義目的（要旨）〉

一年次の「宗教学Ⅰ」では「仏教」について学んだと思いますので、本年度はその基礎的知識の上に立って、「禪」について学びます。と言っても講義では、禅とは何かを大上段に構えて論じるのではなく、禅宗の歴史を通観しますから、一年間の講義を通して学ぶ中で、それぞれがつかんでもらいたいと思います。仏教や禅について学ぶことに拒否反応を示す人も少なくありません。この授業はあくまでも「宗教学」であって、特定の「宗教」を信じることを強要するものではありません。縁あって駒沢大学で学んでいるのです。禅とはどんな思想なのか積極的に学んでみませんか。禅についての正しい知識を得れば、学ぶ前に考えていたものとは違ったものであったことに気付くでしょう。

〈授業内容・授業計画〉

教科書に沿って講義を進めますので、教科書は必ず用意して下さい（試験間際になって用意する人がいますが、それでは間に合いません）。詳しい内容は教科書を見れば分かりますので、ここでは前後期の講義の大まかな範囲のみを示すことにします。

前期：インドの禅 — インドにおける禅定、禪の語の意味。中国の禅宗の歴史 — 達磨から百丈清規まで。

後期：五家七宗の成立から宋代の禅宗まで。日本の禅宗 — 臨済宗・曹洞宗（道元・瑩山の伝記と思想）

インドにおける禅定から、中国・日本の禅宗の歴史を学び、そこに現れた禅匠たちの生き方から、禪の人生観・人間観等を捉えることを出来たらと思います。教科書には、細かなことまで書かれています。禅についての専門家になるわけではありませんので、禅宗の歴史と思想の流れを大きく把握できれば十分です。

なお、この授業では、一回は坐禅を実際に行うことになっています。不安に思っている人もあるかも知れませんが、実施するに当たっては前もって説明を行いますし、最初ですので長時間坐るわけではありませんので（20～30分ほど）、心配はいりません。実施の上、もし希望があれば更に行ってもよいと考えています。この坐禅の授業に出席しないと単位が修得出来ないという噂があるようですが、そのようなことは決してありません。でも、ほとんどの皆さんにとって、生涯で一度きりとなるであろう貴重な体験です。進んで出席して下さい。ただし、自分が信じる宗教の教義上の理由から、他の宗教の儀礼等には参加出来ないという人は申し出て下さい。強制はいたしませんし、欠席とはしません。

〈評価方法〉

筆記試験の成績に、出席率、時には提出を求めたレポートを加味して決定します。成績や出席不良は、言うまでもなく各自の責任です。これらの理由の下での評価変更には一切応じません。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

宗 教 学 II

大 谷 哲 夫

本講座は、1年度の「宗教学Ⅰ」を基盤として、

- ① 仏教における禪の地位
- ② 禪の歴史
- ③ 公案の禪と只管打坐の禪
- ④ 禪と現代思想

などについて概説し、講義の中心を、特に現代人

の新しい精神生活のよすがとしての禅仏教の思想を、適宜、禅匠の生き方、またその言葉なりを通して学んでゆくことにその主眼をおく。

仏教の基礎的な事項については適宜にプリントを配布し、その理解を深めることとする。

また、“只管打坐”の坐禅の精神を知るために、前後期、それぞれ1回ずつの坐禅を体験してもらう。

本講座にのぞみ、予め読むべき文献などは特に指定はしないが、講義にともない適宜に参考図書等を授業のなかで指定する。

出席は毎回とる。試験は期末試験のみ行なう。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕適宜に指示する。

宗 教 学 II

石 井 清 純

〈講義目的〉

本学の創立基盤となった「禅」の精神について、その基礎概念を理解するため、中国・日本両国における形成発展の歴史を概観してゆく。また同時に、それと日本の文化との関わりについても随時概説し、禅が日本人の精神生活に与えた影響についても学習してゆく。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、種々の祖師の逸話（公案）をたよりに、達磨による「禅」の成立から宋代の爛熟期まで、中国における禅思想の成立発展の歴史を見てゆく。順序は以下のとおり。

1. 禅定と禅と禅宗
2. 達磨による禅の伝来
3. 禅思想の確立
4. 禅宗教団の形成
5. 五家七宗の成立
6. 看話禅と黙照禅

なお、これらの講義の合間に、各祖師にまつわる絵画や墨跡などの解説や、坐禅堂（禅研究館4階）における坐禅の実習等をも行う。坐禅実習については、前期・後期それぞれ1時間ずつを予定している。

後期は次のような形で、日本への禅宗の伝播・発展の歴史を、臨済・曹洞の両派について学んでゆく。

1. 禅の伝来（奈良・平安）
2. 禅の伝来（鎌倉時代）
3. 臨済宗の発展
4. 曹洞宗の発展1（道元）
5. 曹洞宗の発展2（瑩山）
6. 現代に生きる禅

ただし、本学の性格上、日本曹洞宗の両祖、道

元・瑩山両禅師については十分に時間を割き、詳細に解説し、その依って立つところを明確に位置づけてゆくことにしたい。

〈評価方法〉

出席および筆記試験による。また、前期の終りにレポートを予定している。

なお、坐禅実習を特別扱いすることはしない。あくまで出席一日とし、他講義への振り替えも認めないので念のため書き添える。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

〔参考書〕『禅へのいざない』（4冊、大東出版社）

哲 学

村 上 勝 三

〈講義目的（要旨）〉

哲学的思索の意味や特性、哲学的な問いの立て方を、過去の哲学的営みを通して学び、現代における様々な問題に正しく対処する世界観の教養を身につけることをめざす。

〈授業内容・授業計画〉

前期では、哲学の意味と問いの特性、分析や批判等について要点を説明する。

後期では、ギリシア哲学から現代哲学にいたる西洋の哲学史を学び、過去の哲学的営みの現代的意味を考える。

授業は教科書を基にしながら進めるが、ノートをしっかり取ってほしい。

〈評価方法〉

前期試験、学年末試験および夏休みのレポートによって評価する。時々小テストを行い、平常点として加味する。試験は、原則として教科書、自筆ノート持込み可とする。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

論 理 学

田 島 節 夫・中 村 友 太 郎

〈講義目的（要旨）〉

論理学はアリストテレス以来個別科学の方法論として重視されてきたが、科学のみならず日常的な行為においても正しい論理的思考が必要とされる。それは、概念を適切に規定し、真正な命題を作り、それを基に未知の命題を正しく推測することによって初めて学問が成り立ち、行為の筋道も見えてくるからである。この点は経済学や経済的営みにおいても事情は同じであるはずである。

〈授業内容・授業計画〉

前期では、アリストテレス以来の伝統的論理学を学ぶが、それは、概念論、命題論、推理論（演繹推理と帰納推理）、虚偽論等である。

後期では、現代の記号論理学の基礎的内容 — 命題論理学と述語論理学 — を学ぶ。

論理学は、抽象的形式的な学問であり、数学と似かよった面がある。それは、一步一步積み重ねて学んでいくもので、手順を踏んでいけばそれほど難しいことはないが、途中から聞いても分からないことが多いので、できるだけ授業には欠席しないようにしてほしい。教科書をもとに授業を進めるが、きちんとノートを取るようにしてほしい。分からないままに先に進むことをできるだけ避けるために、節目ごとに小テストをして、学習の度合いをチェックしていく。

〈評価方法〉

主として前期試験、学年末試験によって評価するが、小テストの結果も平常点として加味する。

〈教材〉

教科書、参考書は開講時に指示する。

倫 理 学

国 嶋 一 則

〈講義目的（要旨）〉

倫理学は、われわれがいかにかに生き、何を為すべきかを探求する学問である。つまり、われわれ人間の生き方に関する哲学である。人間として正しいとか、真実であるとか、理性的であるといわれるためには、善なる人生の原理（人生観）ないし世界の原理（世界観）に基づいて行為し生きるのだければならない。たとえば、仏教における善なる行為とは、慈悲に基づく行為であり、キリスト教における善なる行為とは、愛（アガペー）に基づく行為である。

ところが、日常の人生観や世界観は、「ことわざ」に示されるように、決して確実なものではない。すなわち、「負けるが勝ち」に対しては「強いもの勝ち」といわれるのである。われわれが倫理学を学ぶのは、動揺や反対のない確実な人生観、世界観を求めるためである。古代から現代にいたる主要な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努めたい。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、哲学や倫理学の基礎的概念と考え方の学習に重点をおく。

後期は、倫理学説の歴史的な流れを見ることに重点をおく。

書物の読解力をつけるために、全学期を通じて、教材の大切な箇所を読んで解説する。

〈成績評価の方法〉

出席数、筆記試験、夏期レポートによって成績評価するが、後期試験を重視する。

〔教科書〕学期のはじめに発表する。

〔参考書〕その都度知らせる。

文 学

平 野 由 紀 子

〈講義目的（要旨）〉

日本経済の成長により、国際社会に果たす日本の役割はますます大きくなってきている。このような現代において、真の国際人であるためには、自国の文化や歴史を知る必要がある。そこで、日本語の歴史を知るとともに、日本文学の原点とも言える万葉集をよみ、文学と社会との関わりについて考える。

〈授業内容〉

前期は、文学の発生の問題や日本語の表記の歴史をとりあげ、さらに万葉集の時代的背景について講義する。具体的には万葉第一期までの歌をよむ。

後期は、万葉第二期から第四期までの歌をよみ、万葉集がその後の文学に与えた影響についても考えていく。

〈評価方法〉

出席および筆記試験。

出席は毎回短いコメントの提出によってとり、出席点としてプラスする。

筆記試験の際、自筆ノートの持ち込みは可とする。ただし、コピー等は不可。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』（笠間書院）

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『万葉集資料上代文学史』（笠間書院）

文 学

増 尾 聡 哉

〈講義目的〉

平安時代の物語研究は、現在、新たな視点からの解釈により、その研究領域の拡がりにめざましいものが見える。これら近年の成果を織り込み、平安時代における物語文学の主要作品を読みつつ、文学史上の問題点を考える。

〈講義内容〉

前期は、つくり物語として『竹取物語』、歌物語として『伊勢物語』『大和物語』を読み、物語文学の発生と説話的要素との関わりを講義する。

後期には、物語文学の一つの頂点を示すとも言える『源氏物語』から、平安後期物語への展開を考える。また、あわせて『今昔物語集』『栄花物語』『大鏡』等の作品にも触れ、説話・歴史物語の文学史上の位置についても言及する予定である。

<評価方法>

出席と学年末試験による。

〔教科書〕適宜、資料を用意するので、特に指定しない。

〔参考書〕特になし。

歴史学（日本史）

木 槻 哲 夫

その他、東京都下、各区市町村史誌・教育史（例えば『世田谷区教育史〈資料編既刊5冊続刊中〉』など）、各学校史（例えば『駒澤大学百年史』など）等々。

〔教科書〕特定せず。

〔参考書〕なし

歴史学（日本史）

立 川 章 次

明治維新史の講義、徳川幕藩体制の崩壊への過程について論述し、明治政府の成立と、その中央集権的統一国家形成への推移について講義する。

<目的（要旨）>

日本歴史上のいくつかの事実をとりあげて紹介し、史料講読をまじえながら、日本社会の発展について考察したい。今期は、日本の近代的発展を基礎から支えた初等普通教育＝小学校教育の創設・拡充の過程を、明治前半期の東京の事例を中心に論じたい。江戸から東京へと推移する時期に当り、また、いわゆる臣民教育成立の前史に当る。

<授業の内容・計画>

講義を主とし、必要な史資料等はプリントとして随時配布したい。教科書は特定しない。

（前期）江戸後期の教育思潮。江戸後期・幕末期の教育形態。維新期の教育。明治初年の教育機関。明治初年の教育。民衆の教育要求。江戸から東京へ。郷学。東京の学校。東京府の小学校。東京の郷学校。「学制」と東京府の行政。

（後期）東京府の小学校設立。生徒の就学。小学校教育の実況。公立小学校と私立小学校。区部と郡部。農村の変貌と学校Ⅰ。同Ⅱ。市街地の学校Ⅰ。同Ⅱ。貧困者と学校。小学校教育の実態。小学校教育の推移。校舎・教具・教材。子どもの生活。

<評価>

期末に、講義内容に即した試験を行なうことを考えている。

<代表的参考文献>

文部省：

『学制百年史』1972帝国地方行政学会（全2巻）

国立教育研究所：

『日本近代教育百年史』1974教育研究振興会（全10巻）

教育史編纂会：

『明治以降教育制度発達史』1938龍吟社（全12巻）

東京都：

『東京百年史』1980ぎょうせい（全7巻）

歴史学（世界史）

茂 沢 方 尚

世界史全般について、古代史、中世史、近代史に分けて、高校の延長授業をするのではなく、東洋史、わけても中国について、特に先秦時代、殷周春秋戦国から漢代までを通史的に展望しつつ、西アジアとの関係があるかとも考えられる、中国西北方の民族の動向を中心に、中国と異民族との関係史を史的に追求する。

これを文献的に追求するために、東アジアでは、『春秋左氏伝』『史記』等を検討し、西方に関しては、ヘロドトスの『歴史』等を検討する。

そして、この問題を考える際の基本的な研究として必読と考えられる、中国の王国維の「鬼方昆夷獫狁考」という名論文を、その原文を紹介し、検討しつつ、文献資料の史料批判一般についての基本的諸問題を解説する。

又この論文は、金文をも利用しているので、その金文についても基本的な解説を行う。その過程で、当然甲骨文にまで遡及して、中国の文字そのものについての基礎的解説をする。いわば、中国で古くからいわれる「小学」についての解説を行う。

前期は、中国の古代の文献資料を読む際に気をつけなければならない点を、原文を引いて、検討してもらう。

要するに中国の漢文資料について、これを利用する際に大切な点を確認してもらうことを主目標とする。

後期も同じ論文を解説検討しつつ、戎狄と中国人が称する民族との関係を考えてゆき、胡、匈奴までを含んで考える。そして、この問題を考えて

社 会 分 野

ゆくときの必読文献たる、『史記』と、その著者司馬遷についての解説をして、中国史学の記念碑的著作について、又その影響についての基本的著作等を紹介し、且つは、経済と心の問題についての司馬遷の見た中国人の考え方を紹介して、我々現代についての反省としたい、と考えている。

前期はレポートを課して、資料を読む際の注意を喚起することを目的とする。

後期は、授業で行ったことを消化しているかどうかを点検するテストを行う。出欠にはこだわらない。

〔参考書〕茂沢方尚著『韓非子』の思想史的研究 (近代文藝社) ¥5,000

法 学 憲 法

前 田 英 昭

本講座では、日本国憲法の基本原理を解説するとともに、我々が直面する法的諸問題を取り上げ、法的な考え方ができるように心がけたい。

参考文献は随時紹介する。

教科書は使わない。

科 学 史

小宮山 隆

<講義目的 (要旨)>

自然科学の歴史、すなわち人間が自らを取りまく自然をどのようにとらえ、どのように知を組立ててきたか、その紆余曲折にみちた歩みを概観する。

また、それを通じて、今日の諸科学の多岐にわたる展開を見通す視点を手にしたいと思う。

<授業内容・授業計画>

世界観の歴史、物質観の歴史、生命観の歴史という三つの側面にわけ、物理学、化学、生物学のそれぞれが近代科学として成立する過程と、その後の展開を追う。

前期 世界観の歴史：ニュートン力学の成立まで
物質観の歴史：近代化学の成立

(ラヴォワジェ・ドルトン)

エネルギー概念の成立

後期 新しい世界観／物質観

相対性理論、量子力学の展開

生命観の歴史：血液循環の発見

進化論

ノートをしっかり取るようにしてほしい。

<評価方法>

前期試験、学年末試験および夏休みのレポートによって評価する。月1回程度、小テストを行い、平常点として加味する。なお試験は、原則として教科書、ノート等の参照を可とする。

〔教科書〕八杉龍一著『図解・科学の歴史』

(東京教学社) ¥1,957

法 学 憲 法

馬 越 道 夫

<講義目的 (要旨)>

秩序ある平穏な社会を形成することは、市民社会の目的である。この目的を達成する手段が法律である。この様に法律は社会の秩序を維持する手段であり、道具にすぎない。「悪法もまた法なり」という古い法格言がある。然し悪法を遵守することにより社会の秩序がかえって崩れるならば、この悪法は「法としての機能」を果たして居るとは言えない。社会の秩序を維持する事が法の役目であるならば、悪法は決して法ではない。講義の目的は法律の持つかかる社会的機能を踏まえ、最高裁判所の判例などの具体事案を通じて、法の機能・内容を出来る限り明らかにする事にある。

<授業内容・授業計画>

(前期) 法学の基礎理論

4月 法の意義・規範としての法・法の生成と発展・法と道徳、宗教

5月 近代法の成立・法と政治、経済・財産法の体形・法と裁判・裁判の基準

6月 法の解釈・法の効力

7月 市民社会と法 (犯罪と刑罰、罪刑法定主義、労働法、家族法)・法の分類

(後期) 憲法

9月 憲法の意義、機能・明治憲法の特徴と新憲法の誕生 — その歴史的背景

10月 基本的人権と三権分立

11月 司法権 — 裁判の構造・違憲立法審査権

12月 財政の意義とその構造 — 財政立憲主義・憲法と国民の義務

1月 憲法改正とその限界

<成績評価の方法>

筆記試験

*六法全書は教科書の一部と考え、必ず持参すること。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編著、馬越道夫著『法学・憲法』（八千代出版）

¥3,500

政治学

浦田 早苗

政治と経済の不可分の関係を、国際化・情報化された現代社会の枠組みの中で考察する。政治のメカニズムがいかに経済に影響するか、また逆に政策決定にいかなる経済的視点が必要であるのか明らかにすることが講義の目的である。

冷戦後の新世界秩序が模索されている現在、世界は大きな転換期にある。今、世界で起こっている様々な事件に注目することは各自の政治への関心を高めることになるであろう。

講義の冒頭ではその週の時事問題を取り上げ解説し、現代社会の抱える問題について考える。前期の講義では、日本の政治事情の比較対象として1980年代から現在に至るアメリカ、イギリス、ドイツ、フランスそれぞれの国の政治を概観する。スタグフレーションとレーガノミックスからクリントンの政治、サッチャー政権以後のイギリス議会政治、ドイツ統一と冷戦の終結過程、ECの統合とフランスの政治、ミッテランの経済政策等が中心テーマである。後期は、例えばマキシミン戦略、多数決のパラドックス、公共性の理論といったとりわけ経済に関連の深い政治理論をまず概説し、続いて現代日本社会の問題点を考察する。取り上げるテーマは、日本農業の国際化、外国人労働者問題、環境政策等である。年5～6回行う小テスト—簡単な政治論評—は出席点代わりとし、学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する（ノートの持ち込みは不可）。特に教科書は指定しないが、さらに詳細に研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。参考書は必読でないが、常に新聞を「読む」ことが全員に義務づけられている。

政治学

上 條 末 夫

〈講義目的（要旨）〉

伝統的政治学と近代的政治学の双方の手法によって、政治に関する基礎的な理論と政治の実態を明らかにする。そのことを通じて主権者のあり方を考える。

〈授業内容・授業計画〉

前期：基礎的理論の解説。四月、政治の概念、政治学の研究手法。五月、国家の概念、権力の概念と主権の意味。六月、政治制度、政治機構、各国の政治制度の比較、現代の政治的イデオロギー。七月、民主政治の理論、大衆デモクラシー論、という内容で、政治の概念と政治の枠組ないしメカニズムを解説する。

後期：政治の実態の解明。九月、選挙制度、選挙権、投票行動。十月、政党の概念、政党システム、政策決定と議会。十一月、政府（内閣）の機能、議院内閣制と大統領制の比較、行政の機能と実態、を明らかにする。さらに十二月以降は、国際社会の特徴、国際組織、平和維持活動、国際法と国際世論の機能、など国際政治について解説する。

〈評価方法〉

出席および筆記試験。

〔教科書〕上條、須藤、寺崎、稲葉『政治学概論』（北樹出版）¥2,500

〔参考書〕阿部、内田『現代政治学小辞典』（有斐閣）¥1,200

社会学

橋 爪 敏

〈講義目的〉

社会学以外の学問を専攻する学生にとって、社会学を学ぶことは、いかなる意味があるのだろうか。それに多少なりとも答えるのがこの講義の目的である。

社会学は、経済学と同様に社会科学の一特殊部門であるが、その対象の広さは経済学以上である。社会学は、その名前が示すように、ある意味においては、あらゆる社会現象をその対象とする。それは、社会学が他の社会科学とはいささか異なった問題設定（視点・視座）を持つからに他ならない。この問題設定（視点・視座）を多少なりとも理解し、会得してもらうのがこの講義の目的である。

〈授業内容・授業計画〉

一年間の授業回数は25回くらいで長いようで大変短い。こうした短い時間の中で、あまり多くを扱うことは出来ない。また、近年の学生諸君の社会科学についての基礎知識の不足も考慮して、以下のような内容を講義することとしたい。

I. 社会学とは何か ここにおいては社会学の対象と方法について説明したい。社会学はすでに述べたように、他の社会科学とはいささか異なった問題設定（視点・視座）を持つ。社

会学的視点とは何か、その特性をまず理解することから始める。

- Ⅱ. 社会学の歴史 I. で理解したことを踏まえて、社会学の歴史を概観する。歴史とは言っても、言うまでもなくあくまで、会学的思考法を理解することが目的であり、現代社会学に大きな影響を与えた様々な社会学者の見解を取り上げ検討する。
- Ⅲ. 社会的人間 最後に、現代社会学的問題として、行為論、社会体系論、社会的自我・性格などについてとりあげたい。

一年間、基本的な問題を語るの、それによって、会学的な見方、考え方を理解し、また、会学的思考法のおもしろさも分かってもらえると思う。

〈評価方法〉

後期に行うペーパー・テストで成績を評価する。試験はあくまでも、講義内容に即して出題するので、まめに出席することが望まれる。

〔教科書〕安藤喜久雄・児玉幹夫編著『社会学概論』（学文社）

〔参考書〕安藤喜久雄・児玉幹夫編著『わかりやすい社会学』（学文社）
その他適宜指示する。

社会学

岩上真珠

〈講義目的（要旨）〉

社会学は、人間行動を社会との関連で理解する学問である。「人間行動をとおして社会を見通す」と言い替えてもよい。

さて、個人は、社会に生み込まれ、社会の一員としてさまざまな社会現象に遭遇する。講義では、誕生から児童期、青年期、成人期、老年期を経て死に至る個人のライフコースをたて軸にして、現代社会のなかで個人が会おう主たる現象である家族、地域、学校、職場などのかかわりを通して、同時代のわれわれをとりまく生活世界の理解を目指す。われわれはどのような社会を、どのように生きているのであろうか。結婚、家族の形成、職場への所属などはどのようになされ、どのような意味を持っているのだろうか。さらに、個人のライフコースを歴史とかかわらせる視点から、社会変動についての洞察にも視野を広げてゆきたいと考えている。

講義を通じて、われわれ自身を見つめ、われわれの生き方が現代社会の社会構造といかなるかわりを有しているかを理解する、社会学の「眼」を養ってもらいたい。

〈講義計画〉

講義は、以下のスケジュールにしたがって進めるつもりである。

（前期）

1. 誕生の意味
2. 定位家族 — 父・母の意味
3. 地域社会 — ムラとまち
4. 学校 — 仲間、競争、管理、高学歴化
5. 青年 — 社会における青年の位置、青年文化
6. 産業社会と職業

（後期）

7. 結婚と家族の形成
8. 中年期 — 人生の再編成
9. 高齢化社会の構造と老年期の出現
10. 高齢化への社会的対応
11. 高齢者の生活世界 — 老いと死への対応
12. 現代社会と個人のライフコース

〈評価〉

評価は、前期および後期試験と平素の学習態度で行う。例年、前期はノートに限り持ち込みを認めているが、後期は一切持ち込みは認めない。

〔教科書〕高島・岩上・石川共著『生活世界を旅する—ライフステージの社会学—』（福村出版）

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

統計学

飯塚仁之助

統計学の基礎的知識即ち統計学の発達過程、統計理論、調査法及び分析法、とりわけ得られたデータを用いてどのように分析し、その結果をどのように解釈するかを教授する。分析法としては、統計集団の特性を知るための平均、散布度、歪度の算出法及び指数、相関関係等を教授すると共に、適宜例題を課す。

欠席すると次週以降の授業内容を理解することの困難が予想されるので、履修者は毎週必ず出席すること。

成績はテストによって評価するが、出席者の少ない時は出欠をとるので、その際は出席回数を斟酌する。

試験場においてのノート、参考書等の使用は認めない。

講義はノートを用いて行うが参考文献は教場において指示する。

地 理 学

川 口 太 郎

<講義目的>

地理学とは、「地」表面上に生起する諸現象の「理（ことわり）」を追究する学問であり、すくなくとも大学で講じられる地理学は、諸君がこれまでイメージしてきたような「知名・物産の地理」や「なるほどザ・ワールド」的な「探検地理」とはまったく違ったものである。といったところで、現代社会の諸問題はさまざまな学問分野がアプローチしているわけであり、では何が地理学に特有なのかという、空間的な観点からの事象把握を重視するといったことになろうか。講義では、こうした学問論や空間論を展開するつもりは毛頭ないが、現代日本の社会・経済や東京の歴史的発展を具体的に述べるなかで、地理学的なアプローチを体験してもらいたいと考える。もっとも、一般的な教養レベルの知識を軸に講義をすすめるので、日本の現代事情や東京の形成に関する興味を満たすといった観点でこの講義をとらえてもらっても結構である。

<授業内容・授業計画>

前期は今日の日本の自然や産業を題材にとり、地理学の諸分野について概説する（§ 1 日本国論の変遷、§ 2 日本の自然環境、§ 3 日本の農業、§ 4 日本の工業、§ 5 日本の商業）。後期は東京を題材にとり、歴史的展開のなかで都市がどのように成長してきたかについて論を展開する（§ 6 江戸の空間人類学、§ 7 明治の東京計画、§ 8 東京の近代化、§ 9 東京プロブレム）。

<評価方法>

基本的には中間試験及び期末試験を評価の対象とし、これに若干の平常点を加味する。

<教材>

上記のように話題が多岐にのぼるため、特定の教科書を指定することは不可能である。毎時間ごとにプリントを配布し、随時参考書を紹介する。

地 理 学

矢 野 陽 子

<講義目的（要旨）>

「地理学とは何か」という弟子の問いに対してある著名な地理学者は、椅子から立ちあがると部屋の窓をあけ、「あなたの目の前にあります。」と喋ってほほえみました。ある女流地理学者は「人類は地球の子である」といい残しております。いずれも感慨深い内容をもった表現だと思います。

地理学をむずかしいものと思う前に、体中の余分な力を抜いてやさしいことから考えていきたいと思います。一枚の地図を手にしたとき、無限の楽しみが湧き、まだ見ぬ旅先の風景が目に浮ぶようになればしめたものです。文字のない未開の時代にも地図はありました。人類は必要からいろいろな道具を産みだしてきましたが、地図もその一つです。地理といえば暗記ものと考え、地名を覚えることに苦痛を感ずるといった人が意外に多いのも事実です。毎日の生活の中で、例えば、新聞・TVのニュースやドラマ・小説の中等あげればきりのないほど地名はできます。もしもその地名が自分にとって未知なものであった時、一冊の地図帳（中学や高校で使ったもので結構です）を手許におき、必ず地名のある位置を確かめることを怠らなければ、くり返しの中で自然に覚えてしまいます。やがて何かのおりにその地名の土地を訪れたときの感慨はひとしおと思います。

地理的現象はこの地球表面上には無数にあります。それを地理学としてどのようにとらえるかが問題です。正しい知識の上に立って、地理学的な目でものごとを判断する思考力・分析力を養うことを目指したいと思います。21世紀の輝やかな世界に活躍する皆さんの思考と行動の中に役立てていただきたいと思います。

<授業内容・授業計画>

前期は主として地理学の基礎である地図について講義をすすめたいと思います。地理学にとって何故地図は必要か、また地図はどのような目的で使われてきたか、地図から何を読みとるか等、地理学的考察を深めたいと思います。

後期は「所変われば品変わる」という諺から転じて、所変われば地方色があり、そこには地理学が生まれることに注目したいと思います。地理的現象の分布を通して地域分化の概念を学び、具体例をあげて分析したいと思います。地域分化とは同じ性質を持った地域が時間的経過とともに性格の異ったいくつかの地域に分かれることをいいます。

授業内容については下記の形式で行いたいと思います。例としてその一部分をあげておきます。

() 内は授業内容を示し、イメージしやすいように表題をつけてみました。具体的なテーマと順序は変更することがあります。

例 1. 地理学への招待（序説）

2. 日本列島はなぜ弓の形の形なのか（形態論）
3. ウェゲナーのパズル（大陸漂移説）
4. 所変われば品変わる（分布論）
5. 百聞は一見にしかず（野外観察）

<評価方法>

前期と後期の筆記試験と、平常点（いろいろな方法で調べる）。

〔教科書〕中村和郎・高橋伸夫編『地理学への招待』（古今書院）¥2,400

文化人類学

内山明子

〈講義目的〉

文化人類学は、ある社会の人間が自分たちと異質な人間を発見したときに芽生えたものといえます。その点からみれば、起源をきわめて古い時代に求めることができますが、今日みられるような学として成立してからは百年余りしか経っておらず、ごく若い学問ということが出来ます。とりわけ日本で文化人類学が広く人々の関心と呼ぶようになったのは1960年代に入ってからであり、国際化時代と称される社会風潮と歩を合わせて足場を広げていったのでした。異質な文化との出会いがものすごいスピードで進む中、それまでの自民族中心的な考え方や欧米偏重の世界認識の上にあぐらをかいているわけにはいなくなり、異文化理解をめぐる諸問題を専門的に扱う学問として文化人類学が脚光を浴びるにいたったのです。

さて「国際化」とか「異文化理解」といった言葉には一般に華やかなイメージが付きまっていますが、実際異文化に出会うということは、しばしばものすごい緊張を強いるものであり、何が何でも拒否してしまいたいというような、それまで考えてもみなかったような感情を引き起こしさえするものです。そのような異文化の存在を認め、それを理解し、さらに自分の言葉で語っていくということはどうということなのか、という重く困難な問題が文化親類学という学問の根底にあることを強調しておきたいと思います。

本講義では、文化人類学の基礎的な概念の説明を通して、そのおおよその姿を提示することを基本的な目的とします。そのさい、世界中の様々な民族の諸文化の中から具体的な事例をあげていきますが、それを単なる「奇妙な」風習として片づけるのではなく、各自がそれまで当たり前としてきた常識に疑問を抱ききっかけとして受け取ってもらいたいと考えています。このような小さな異文化との出会いを体験してもらうことによって、各自が、上に述べた文化人類学の根本的な問題に目を向け自分なりに考えていく可能性を開いてほしいと考えています。

〈授業内容・授業計画〉

最初に文化人類学の成立と展開について簡単に触れ、未開と文明、自民族中心主義、文化相対主義などの問題を取り上げる予定です。その後、前半では人間の連帯の在り方として、親族および政治・経済の分野をみていきます。親族においては、

性、婚姻、家族といったテーマを通して私たち自身が抱えている諸問題にも結び付けていきたいと考えています。政治、経済では、近代的な国家の枠では捉えられない様々な政治形態や生態環境と生業、互酬性といった問題を取り上げていきます。後半では、人間の精神面に焦点を合わせ、分類と象徴、神話、儀礼などから、いわゆる宗教的な現象に関する文化人類学の主要な研究を紹介する予定です。

なお授業は、ビデオやスライドを用いながら講義形式で行ないます。

〈評価方法〉

前期、後期の筆記試験で評価する予定ですが、レポート等の課題提出物で試験に代える可能性もあります。

〈教材〉

特に教科書は指定しません。授業の中で参考文献の指示を行います。

社会科学概論

大石雄爾

〈講義内容〉

現代社会は複雑に入り組んだ多くの問題をかかえている。環境問題や発展途上国の貧困、日本における「豊かさ」の中の長時間労働や過労死、福祉政策の貧困など、早急な解決を迫られている問題は山積している。いったい、こうした諸問題は どうして生じたのだろうか。社会科学には、その原因を探り出し、問題解決への展望をさし示すという重要な課題が課せられている。

では、社会科学はいかにしてこれらの問題に取り組むことができるのだろうか。現代社会は、既存の社会主義の崩壊によって、資本主義社会とてますます一元化してきている。この講義において、われわれは、先人たちが社会の仕組みをどのように解明してきたかを把握し、現代社会の仕組みの解明をめざす社会科学のあり方について考えてゆく。

〈講義（授業）方法〉

年間を通して、ほぼ次のような順序で話を進めてゆく。

1. 社会科学とは何か
2. 社会の仕組みと歴史的発展
3. 資本主義社会の成立と社会科学の生誕
4. 資本主義社会の発展と社会科学の確立
アダム・スミス、ヘーゲル、マルクスの社会観
5. 資本主義の経済と法および国家
6. 現代資本主義の経済構造
7. 現代社会の仕組みと社会科学

なお、社会科学の現代的意義を明らかにするという趣旨から、現代資本主義のかかえる諸問題について取り上げ講義する予定である。テーマは、例えば、スタグフレーションとは何か、地球環境問題、外国人労働力移動問題、などである。

この講義に参加する諸君には、自ら、現実の社会に目を開き、問題意識をもって講義を聞くよう期待したい。そのような諸君の関心を喚起する目的で、参加者には年に数回、授業時間内に簡単なレポートを書いてもらうことにする。これは、成績評価の際にも考慮するので、欠席のためレポート提出ができなかった、ということがないように注意していただきたい。

〈成績評価〉

基本的には期末試験で成績評価するが、上記の講義時間内のレポートも一定程度考慮する。

〔参考書〕平野喜一郎著『社会科学の生誕』

(大月書店)

高嶋善哉著『社会科学入門』(岩波新書) ¥550

述べる。天文、数学、医学、物理、生物、化学、農学などの科学の成立と発展を社会的背景もあわせて解説する。

(後期)

日本の自然科学の歴史について概略を述べる。特に安土桃山時代以後、江戸時代、明治期を中心に、天文暦法、医学、生物学、数学、農学を中心に解説する。

まとめとして、自然科学・技術の発展とともにかかえている今日の問題点について考える。環境汚染などのできるだけ今日的テーマをとりあげ、現象の解説と問題点を明確に示す。

〈評価方法〉

後期のペーパーテストによって評価する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕時代、テーマに応じて、その都度教室であげる。

〔プリント〕教室で必要に応じて、その都度配布する。

〈その他〉

西洋史、日本史を勉強しておくことが望ましい。

自然分野

数 学
福 田 賢 一

自然科学概論

宇和川 正 人

〈授業内容〉

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

(前期) 自然と人類との対応、現代の地球観、地球生態系、環境・資源と開発

(後期) 水圏の汚染、大気圏の汚染、岩石圏の汚染、生物圏の汚染、地球白書

〈成績評価の方法〉

筆記試験(年度末)に出席を勘案して評価する。

〔参考書〕その都度紹介する。

自然科学概論

漆 原 和 子

〈授業内容〉

(前期)

メソポタミアから1800年代に至る時代の西欧を中心とする科学器機と自然科学の発展について

〈講義目的(要旨)〉

数学手法は自然現象、工学的現象を分析、解釈する際に不可欠なものであるが、社会科学諸分野においても、経済学は勿論の事、その応用がますます活発と成っている。

このような現状を踏まえ、各専門領域を学ぶ際の強靱な精神と態度を養成する一助となる事を目指し、現代数学の基本的概念、方法を学ぶ。

予備知識は特に必要としないが、自分自身で考え分析するという態度は当然必要である。

〈講義内容〉

入門	4月 全体の講義の進め方、記号法等、予備知識の確認。
論理	4月～6月 言語の持つ論理、記号論理の基礎表現と論理、情報と論理、応用
線形代数	6月～9月 ベクトル、行列・行列式、幾何、線形計画法、応用
解析	10月～11月 微分積分、多変数関数の取扱い、簡単な微分方程式、応用
現象と数学	今までの知識を総合して、社会現象等の分析、解釈を試みる。時間が許せば、ゲームの理論、確率統計につ

いても論じたい。

〈評価方法〉

主として、前期末、学年末試験の成績により評価を下す。またレポート等を課し、評価の対象とする事もある。

〔教科書〕大学自然科学教育研究会『新しい数学』（東京数学社）¥1,600

〔参考書〕その都度、講義中に指示する。
基本的には教科書とノートで足りるようにする。そのため、プリント等を配布する。

心 理 学

牧 野 晋

〈講義目的（要旨）〉

「心理学」という分野は、皆さんが大学に入られて初めて目にする科目だと思います。心理学という名前から、この科目を履修することで、人の心が読めるようになったり、超能力や超自然現象の話が聞けるのではないかと考える人もいるのではないのでしょうか。残念ながら、心理学はこれらの領域とは違います。

心理学は、ヒトの見る、聞く、感じる、考える、覚える、などといった日常生活におけるさまざまな行動について分析したり、あるいは認識のメカニズムを探るといったアプローチを通じて人間を理解しようとする学問だといえます。

講義では、心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説するとともに、心理学のとり「科学的アプローチ」とはどのようなものであるかを理解してもらいたいと考えています。

〈授業内容・授業計画〉

心理学の領域は多岐にわたっています。ですから、特に前期・後期を区別しません。基本的には通年で、心理学の代表的な各領域について、一領域あたり、1回～3回の講義時間でお話したいと思っています。

具体的には、初めて心理学に接する皆さんのために、まず心理学とは何かといった項目から出発し、史的概観などを含めて講義します。次に、外界を知るはたらき（感覚・知覚）、行動の変容（学習）、記憶の世界（記憶）、ひとを動かすコントロールするもの（動機づけ、感情と情動）、ひととしてのまとまり（パーソナリティ、知能）、発達、社会的行動、認識のメカニズムを探る（認知）といった各領域について解説します。従来の研究成果をもとに、できるだけ私たちの日常生活に関係づけながら解説していきたいと考えています。また、講義の間には随時、実際に皆さんに実験に参加してもらい、心理学における実験的研究

も体験してもらおうと思っています。

〈評価方法〉

原則として、学年末筆記試験の成績によって評価します。なお、出席や実験への参加、提出物などを平常点として参考にする場合があります。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）（授業中に図表等を参照してもらうことが多いので、用意して下さい）

〔参考書〕斎藤 勇編『心理学ビギナーズトピックス100』（誠信書房）（非常に読みやすい入門書だと思います）

田島信元編『心理学キーワード』（有斐閣双書）（ある一つのテーマについて見開き完結型で分かりやすく解説した入門書）

〔その他〕授業にて配布するプリント類

心 理 学

高 橋 良 博

〈講義目的（要旨）〉

心理学を初めて学ぶ人を対象として、なるべく日常的な問題に即しながら、心理学の主な領域と、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定です。

また、講義の中で時々供覧実験などを行い、心理学研究の雰囲気も伝えたいと思います。

〈授業内容・授業計画〉

（前期）心理学の立場で、人間の心の働きをどの様に考え、捉えようとしているかを中心に進める予定。4月、心理学の課題（心理学の定義・領域・研究法）、5月、感覚（視覚・聴覚・その他の感覚・その他の現象、盲点および陰性残像などの実験を含む。）、6月、知覚（知覚の特性・知覚のまとまり・空間知覚・仮現運動・知覚成立と内的要因）、7月、学習（学習の定義・古典的条件づけ・道具的条件づけ・運動学習・記銘学習、オペラント条件づけの供覧実験を含む。)

（後期）前期の基礎的知識をふまえて、心理学の各領域に焦点を当てる。9月、記憶（記憶の過程・感覚記憶・短期記憶・長期記憶、メモリースパンの実験を含む。）、10月、思考と言語（試行錯誤・洞察・象徴行動・概念学習・言語）、11月、動機づけと情動、パーソナリティ（類型論・特性論・精神分析の人格理論、パーソナリティテストなどの体験を含む。）、12月、精神障害と治療心理学など臨床関係

の説明にもふれたい。

〈評価方法〉

筆記試験、レポートなどの提出物、平常点（講義中に適宜行われる、実験および調査への参加度）などを総合して評価を行う。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）¥1,500

〔参考書〕その都度紹介する。

心 理 学

中 丸 茂

〈講義目的〉

最近、マスメディア（TV）や雑誌などの「それゆけココロロジー」や「心理ゲーム」の流行で、「心理学」という学問のネームバリューは、一気に高くなった。しかし、「心理学」という名前のみ身近かなものとなり、その内容はかなり勘違いされている。心理学は、読心術や心理ゲームではなく「科学」である。したがって、ゲーム感覚で本講義を履修するととまどい、失望することになる。心理学は、「行動の科学」であり、かつ、「応用科学」である。

本講義では、心理学の基本的な考え方、研究方法、知識を、主観-客観、意識-行動という次元を中心に論じ心理学で得た知識を、いかに、日常生活へ応用出来るのかということをも修得することを目的とする。

〈講義内容〉

講義は、基本的には、前期に基礎心理学、後期に応用心理学という流れで行ない、具体的な講義の内容は、下記の項目より、講義回数及び受講生の希望を踏まえた上で、決定する。

- (1) オリエンテーション：心理学とは何か、心理学者とは、何者なのか？
- (2) 科学としての心理学：科学的なものの考え方（独立変数 - 従属変数）
- (3) 学習心理学(1)：学習心理学の基礎（S-R）
- (4) " (2)：行動分析学（行動制御法）
- (5) " (3)：行動療法（学習心理学の臨床的応用）
- (6) 認知心理学(1)：認知心理学の基礎（S-O-R）
- (7) " (2)：能率的な勉強方法
- (8) " (3)：認知療法（認知心理学の臨床的応用）
- (9) 人格心理学(1)：個人差の話
- (10) " (2)：内向性 - 外向性の話
- (11) 社会心理学(1)：社会心理学の基礎（他者の存在）
- (12) " (2)：単純接触の原理

- (13) 社会心理学(3)：愛の社会心理学
- (14) 生理心理学(1)：生理心理学の基礎（生理→行動）
- (15) " (2)：行動と覚醒水準
- (16) 知覚心理学：錯覚の話
- (17) 発達心理学：情動の話（学習と成熟）
- (18) 産業心理学(1)：作業と能率（BGMの話）
- (19) " (2)：ヒューマン・エラー
- (20) 臨床心理学(1)：心理学と精神医学、カウンセリング
- (21) " (2)：心理学と精神分析学
- (22) 音楽心理学：音楽療法
- (23) 宗教心理学(1)：禅の心理学（現象学的アプローチ）
- (24) " (2)：禅の心理学（社会心理学的アプローチ）
- (25) スポーツ心理学(1)：コーチング
- (26) " (2)：イメージトレーニング
- (27) 神経言語プログラミング(1)
- (28) " (2)
- (29) ブレーン・ストーミング(1)
- (30) " (2)

〈評価方法〉

前期末試験と学年末試験及びレポート（前後期各1回）の合計得点に応じて成績を評価。筆記試験は、何を持ち込んでも可である。試験内容は、「具体例を3つ以上記述せよ」や「知らない人に説明せよ」など、内容を理解し、自分のものとして、自分の言葉で説明出来なければ解答不可能な問題が多いので、しっかり、勉強すること。

〈教材〉

特に、教科書、参考書は指定しない。年間、50枚程度のプリントを配布するので、講義をよく聴いて、補足しておくこと。また、さらに、その単元の学習を進めたい受講生は、プリントの最後の引用・参考文献・図書を図書館等で手に入れ、読むこと。

〈追記〉

各回とも簡単な実習を行なっていく。
〔教科書〕毎回プリントを配布。（年間50枚程度）
〔参考書〕配布プリントに記載。

天 文 学

篠 原 正 雄

〈講義目的（要旨）〉

観測装置やコンピューターの発展に伴ない、最近の宇宙の研究は急速に進展している。本講では、比較惑星論など地球物理学との境界領域も含めた広義の現代天文学の描く宇宙像を、研究の手法と併せて紹介する。講義の目的は、宇宙がかつて考

えられたような永遠不変・不生不滅の静かな広がりではなく、むしろ荒々しいまでにダイナミックな進化していく世界であることと、我々人類もまたそうした宇宙の歴史の所産であることとを知っていただく所にある。

講義を中心とするが、天体のスライドなどを多用する予定である。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、太陽系の諸天体および太陽について講義する。

初めに、最近の一連の太陽系探査が明らかにした諸惑星やさまざまな小天体の姿を概観する。惑星上の自然環境を支配する要因である太陽放射のエネルギーと惑星内部からのエネルギーとの働きを解説する。さらに、小天体との度重なる衝突をも考慮に入れて諸惑星の形成史を比較することにより、地球上の自然環境の特質と由来とを明らかにする。

次に、太陽は無数にある恒星の一つであるという視点から太陽について論じる。最新の太陽像を、さまざまな恒星の姿と比べながら眺めてみる。太陽の構造、エネルギー源、進化を論じ、さらに現代における太陽活動の変動とその地球環境への影響に関する研究を紹介する。

後期は、銀河系および宇宙の起源と進化について講義する。時間と空間、エネルギーと物質がどのように生まれ、進化してきたか、現代の考え方を紹介する。銀河系の中で、星間物質から星々が生まれては、再び星間物質へと戻って行くことを繰り返す中で、物質が進化してきた。この過程の重要な現場である星生成領域の研究を紹介しつつ、前期に触れた太陽系の起源の問題を星生成領域の研究の視点から捉えなおす。宇宙における物質の化学進化と地球における生命の起源との間の密接な関連が示唆されるであろう。

最後に、宇宙の歴史と我々人類の存在との深い関わりについて述べ、宇宙生物学や地球外文明探査の可能性について考える。

〈評価方法〉

学期末の筆記試験による。中間試験を実施することもある得る。平常点を加味する。

〔教科書〕加藤万里子著『新・100億年を翔ける宇宙』（恒星社）

コンピュータ概論

篠原正雄

〈講義目的（要旨）〉

コンピュータとは何かという問いから始めて、アルゴリズムの設計、アルゴリズムの理論、コンピュータ（ハードウェア）の構造、システムソフ

トウェア等の基本的部分を学びながら、実際にプログラムを組んで、コンピュータというものを概観したい。プログラム言語としては、BASICとPASCALを用いる予定である。

この講義の目的はコンピュータシステムについての理解を深めることであってプログラミング実習はそのための手段である。本当にプログラミングの力を身に付けたいならば、情報教育センターに登録する（有料）などして少しでも多く自習することを勧める。

〈授業内容・授業計画〉

前期は講義を主としてコンピュータシステムの概要、アルゴリズムとプログラミング言語等について学ぶ。時折、パソコンで実習を行う。

後期は前期の講義を基にして、いくつかのテーマについてプログラムを設計する実習を中心にする。

〈評価方法〉

学期末の筆記試験による。平常点を加味する。中間試験を実施することもあり得る。

〔教科書〕『入門BASIC』（ASCII出版）

コンピュータ概論

竹田洋一

〈講義目的（要旨）〉

近年OA機器の目覚ましい発展と普及によりコンピュータに関する一応の知識と経験はどの職業においても必要欠くべからざるものとなりつつある。そこで本授業の目的は、実際にコンピュータを操作する経験を通して、社会の第一線で仕事をする際に困らないように、この分野の基本的なノウハウを頭と身体で把握することにある。

〈授業内容・授業計画〉

授業形態としては月4回の授業のうち1回は講義室での講義、あとの3回はコンピュータ教場での実習、という割合で進める予定である。

具体的な授業内容としては、現在パソコンのオペレーティングシステムの主流になっているMS-DOSの上で、初心者に適しているプログラミング言語のBASICをアプリケーションソフトとして走らせるというやり方を中心にした実習とそれに関する講義を行なう。（すなわち以下の⑤に最も重点を置いて時間を割くつもりである。）取扱う項目としては以下のものを予定している。

- ① コンピュータの基本的構成と仕組
- ② キーボードのキーの説明と取扱いの習熟
- ③ MS-DOSの基本的な知識と重要なコマンド
- ④ ハードディスク、フロッピーディスクの取扱い

⑤ BASICのプログラミングの知識の習得
(基礎的な文法、プログラムと計算、グラフィックなど)

⑥ 「一太郎」などの他のアプリケーションソフトについての紹介

<評価方法>

成績評価は前期後期の筆記試験の成績を重視して行なうが、授業への出席率や時折与える課題の提出状況なども加味する。

<その他>

全くの初心者を対象にして授業を行なうので特に予備知識は必要としないが、一年間である程度までにパソコンに習熟し使いこなすようになるためには週1回の授業のみでは十分とはいえないので、情報教育センターに登録して余暇に自分で大学のパソコンを用いて自習をするなどの努力をすることが望まれる。

なお、実習のためのコンピュータ教場の収容力の関係から受講者数は100名が限度であり、もし履修希望者数がこの数を越えた場合は抽選をして人数に制限を加えるので了承されたい。(この場合最初の授業時に行なうので必ず出席すること。)

〔教科書〕戸内順一著『MS-DOS版はじめてのBASIC』(啓学出版) ¥2,000

人 類 学

江 藤 盛 治

<講義目的(要旨)>

生物としての人類について、自然人類学の視点から考察を加え、文化をもつ唯一の動物といわれている人類を総合的に理解することを目的とする。人類は生物に違いないのか、動物だと言い切って間違いはないのか。常識とされているはずのことについて検証を加えてみることから始まり、過去から現在に至る道程のなかから、動物としての人類の本質を探り、また人類の将来をみつめてみたい。

<授業内容・授業計画>

前期は、まず人類学(自然人類学)とはどんな学問か、というオリエンテーションから始める。3本の柱をおく。「進化」「変異」「適応」である。「進化」は長いタイムスパンのなかでの形態的「変異」としてとらえられるが、同時代における形態的「変異」としては、たとえば人種差があり、また同一人種内にみられる個体変異もあり、同一個人成長・老化も生涯にみられる形態変異にはほかならない。「適応」とは、人類が生きていくために、自然環境や自らの作り出した人為環境に対して、生物としてどのような仕組みで対処して来たのか、あるいは、しているのかと言うこと

であり、「進化」も「変異」も「適応」の所産にはほかならない。要するに「進化」も「変異」も生物学的な「種」あるいは「個体」の環境に対する遺伝的「適応」と密接に関わっている。

自然界におけるヒト(Homo sapiens, 1758年、リンネの命名による)の位置、とくに動物界での分類上の位置づけを明らかにする。ヒトは、リンネによって脊椎動物(分類上の門、以下おなじ)、哺乳類(綱)、霊長類(目)、人類(ヒト科)のなかにヒト(属)(ホモ)、ヒト(種)(サピエンス)として分類されている。それぞれの形態的特徴並びに生活環境を示し、とくに霊長類どうしについて比較解剖学的考察を加えたい。

つぎに古生物学的知見に基づき人類の祖形の出現から始まる人類進化のあとをたどる。前期は恐らく「進化」までで終わるだろう。

後期は、「人類遺伝学入門」で遺伝の復習をし、「集団遺伝学」に触れ、簡単な人類の遺伝の型式を紹介する。ついで人類の「変異」の一つである「人種」についての概念と、その形成の理論、および現在の人類分布のあらましに触れ、そのうえで、自然ないし人為環境に対する人類の「適応」の行われ方のさまざまな営みについて述べることになる。

最後に、日本人ないし日本民族の形成に関する最近の説を紹介したい。

生物として生きていく営みを補うために、人類が編み出した生活技術としての「文化」についても、随時触れるつもりである。

人類は、まことに特殊な動物である。汝(なんじ)自身を知らなければなるまい。

最後に、日本人(或いは日本民族)の形成に関する最近の説を紹介する予定である。

<予備知識>

特に必要としない。なるべく平易に講義する。できれば中学校程度の生物学の知識を思い出してくれれば有難い。

<成績評価>

後期末にレポートを提出してもらおう。
〔教科書〕使用しない。
〔参考書〕必要に応じて紹介する。

物 理 学

篠 原 正 雄

<講義目的(要旨)>

「○○の物理」と書いて、○○の部分に自然科学や技術に関連した言葉を入れてみる。「雲の物理」「岩石の物理」「スキーの物理」「血管の物理」「コアラの物理」、多少苦しいものもあるが、だいたい意味をなす。前世紀にあった、すべての

自然科学は物理学に還元されるという主張は、自然の階層構造を無視した暴論である。しかし、あらゆる自然現象の根底には物理が存在しているのであり、この意味で物理学は自然科学の根底をなす科学であると言って良いだろう。従ってその守備範囲は非常に広く、一年間の講義で主な分野を漏れなく見てまわるのは不可能に近い。

本講では、「光とは何か」という問を立て、この問をめぐるさまざまな事柄を取りあげる。これは内容を「光学」に限定することを意味しない。光の本性については、17世紀には力学的に議論され、19世紀には光の電磁気学的性格が明らかにされた。さらに熱現象や、今世紀の物理学の二本柱である相対論、量子論等とも深く結びついている。「光とは何か」という問いに導かれて、結局は物理学のさまざまな主要な分野を通過することになる。

講義の目的は、光について学ぶことを通して、物理学的な目で世界を見るとはどういうことか体験していただくことにある。数式は物理に不可欠な言葉であるが、大切なのは数式により表現された意味である。数式の使用は極力避け、止むを得ず用いる場合はその意味をできる限り平易に説明するので、数学的な特別な予備知識は必要としない。

講義を中心とするが、理解を深めるために問題を考えてもらうこともある。

<授業内容>

次のような項目について講義する。(順不同)
視線と光線、反射と屈折(幾何光学)、ニュートンの光学、粒子と波、さまざまな波(音、地震波、水の波)、波としての光、色彩とは何か、電気と磁気、電磁波としての光、熱とは何か、エネルギーとエントロピー、熱放射、量子論(光子の発見)、原子と光(スペクトル)、物質と波、光の速度(相対論)、ブラックホールとビッグバン、太陽光の源、太陽光・地球経由宇宙行き(エネルギーの流れと人類)

<評価方法>

学期末の筆記試験および授業への参加点。中間試験を実施することもあり得る。

〔教科書〕用いない。

〔参考書〕講義の中で必要に応じ適宜紹介する。

生 物 学

中 村 敏 枝

<講義内容>

92年10月、気象庁は「南極昭和基地の上空13-18km層のオゾン濃度がゼロになった」と発表した。ドイツのハンブルグでは「オゾン警報」が出され、

北欧、オーストラリアでは皮膚ガンが増加している。紫外線から地球上の生物を守っているオゾン層は、生物が十数億年かかって作り上げた。それに人間はたった数十年で穴をあけてしまった。人類は破滅への第一歩をすでに踏み出してしまったのだ。確かに、地球は将来人類滅亡の瞬間を迎える。私達にできることは、いかにその瞬間を先に送るかなのだ。人類が救わなければならないのは「地球」ではなく人類自身である。私達が守らなくてはならないのは、人類の生存が可能な現在の地球環境である。地球史における人類の時間を少しでも長くするために、これ以上の地球環境の悪化を防がなくてはならない。

この一年間、生物と環境について考えていきたい。まず生物の営みをいろいろな段階(個体・個体群・生態系)で紹介する。次に環境破壊の幾つかについて、その背後にある社会・経済問題も視野に入れて考察したい。人類が絶滅した恐竜たちと同じ運命をたどらないために、私達はもうしたらよいのかを一緒に考えましょう。

<講義項目>

1. 生物の生活：生命の維持・植物の物質生産・動物の個体群・社会・行動
 2. 生態系：物質の循環・エネルギーの流れ
 3. 人間による環境破壊：オゾン層の破壊・地球温暖化・酸性雨・熱帯雨林の破壊・化学物質汚染・ゴミ問題など(これらのうちの幾つか)
- 1, 2は前期, 3は後期の予定。

<評価方法>

出席および2回の定期試験。出席率5割では単位は難しいかもしれない。

〔教科書〕未定

〔参考書〕講義中に随時紹介します。

外国語科目

英語

〈英語の教育目標〉

大学での英語教育は、高校英語教育の単なる延長ではなく、専門分野の研究に備えることはもちろんであるが、英語の言語運用能力（コミュニケーション能力）と語感を修得し、英語を通して海外の情報収集、その分析、そして分析結果の統合といった有機的・総合的な判断力や分析力によってさまざまな研究分野と融合することにあります。

地球の反対側で起こっている事件を衛星中継によるテレビやラジオで同時に視聴できるマスメディアが発達し、交通機関も整備された世界にあって、世界中の情報が日本に集まってくる。情報化された社会状況にあっては人類共通の問題を無視して日本だけでは動けない。好むと好まざるとにかかわらず、現在日本はますます世界の舞台で重要な役割を引き受けざるをえなくなっています。情報化のお陰で英語圏の国々も身近になったが、英語や文化が充分に理解されているとはいえない。先進国と発展途上国との立場のズレ、それにとともなう各国の利害の違いや経済的格差、人口の不均衡な増加、外国人の労働、資源利用、環境保全といった諸問題などに関する情報を得て、文化的相互依存関係の実状をしっかりと学ばなければならない。いわば今日、地球的相互依存する中でわれわれがいかに主体的になりえるかということが問われている時代であるといえます。

このような状況から、マスコミ英語（新聞・雑誌・ラジオ・テレビなど）やテキスト講読によって外国の情報やニュースを「受信」し、テキストの精読・速読・多読から文化・社会・歴史・風土を学びながら、外国人のものの見方や考え方などを捉えてゆきます。同時に、日本の文化や技術を紹介し、かつ理解してもらうことを積極的に海外に「発信」していくことも課せられています。大学では情報や知識の「受信」と「発信」のバランスをとっていく語学運用力を身につけることが大切です。

大学レベルでは、テキストの精読・速読・多読を通して受験英語で得た語彙を拡大し、文法知識を補強しながら、語彙と構文、語のヴァリエーション、パラグラフの捉え方に留意し、美しい英

語の文章表現ができるように習熟するよう努めてもらいたい。同時に、獲得した情報や知識を分析し、その統合的判断によって自分の考えや感情、新しいアイデアなどを明確に説得力のある英語で表現できるようにならなければならない。そのためにはテキスト講読はもちろんのこと、スピーチやグループ討論などによって英語表現・コミュニケーションの論理的展開方法や英語的発想法を修得してゆく必要があります。英語ができるということは「聴き」、「話し」、「書き」、「読む」という言語の総合的能力を身につけるということです。英語を使いこなせるまでのハードルは高い。この高いハードルを越えるための努力過程において学生諸君にとって一番大切な想像力と創造力が培われるはずです。

他方、過剰ともいえる多くの情報や知識を交通整理する必要があります。英語の最終目標は、現実の内外の諸問題（現象）を通して文化的、社会的、歴史的なものの背後にある意味構造を捉え、それを再び現実的な問題として捉え直すことで、自らを異化し更新して、世界解釈・世界認識として役立ててゆくのです。これには語学をマスターするのが一番の効用です。使える英語でなくては高校までの6年間の英語学習は水泡に帰します。大学での英語学習の持続は必ず君たちの力となり、将来必ず役立ちます。

英語の実力を一層効果的にするためには、自宅学習として毎日個人的に少しでもよいから規則的に英字新聞や雑誌を読み、また英語放送をテレビ講座（NHK教育TV3）やラジオ講座（NHK第2）で視聴する習慣をつけて、世界の事象に関心（好奇心）を抱いていただきたい。学生諸君にとってテキストの速読は不可欠であり、個人的に英字新聞や雑誌の購読は必要条件です。なお、本学図書館ではニューヨーク・タイムズ（The New York Times）、ロンドン・タイムズ（The London Times）、ヘラルド・トリビューン（The Herald Tribune）、ジャパン・タイムズ（The Japan Times）、ストレーツ・タイムズ（The Straits Times）などが読めるので、ぜひ利用していただきたい。

〈英語講座〉

◆1年英語

◇英語 I A

英語の言語運用能力、とりわけコミュニケーション能力を発展させる。英作文、英会話などの基礎表現を培い、「書く」、「聞く」、

「話す」という三つの能力を養う。英語ⅠAは次の英会話Ⅰと英語LLⅠに振り替えて履修することができます。

★英会話Ⅰ

経済学部では、4クラスが開講され、原則として1クラス40名。英語を母国語とする外国人教師が担当。

★英語LLⅠ

3クラスが開講され、原則として1クラス30名。ランゲージ・ラボ(LL)教場を使用し、生きた英語の聴解力と発話力の訓練をおこないます。

ただし、英会話Ⅰと英語LLⅠとは希望者全員が受講できるとは限らない。人数制限をする方法は担当者によって異なるので、4月の開講時に必ず出席し、指示を受けること。

◇英語ⅠB

テキストの精読・速読・多読を通して英文の読解力を養う。とりわけパラグラフの展開に留意し、文意全体の要約の習熟を目指す。

◆2年英語

◇英語ⅡA

ⅠAで修得した言語運用能力を拡大し、応用力を身につける。英作文、英会話などの表現の高度な運用力を養い、少なくとも中級程度の英語運用力を目指します。

◇英語ⅡB

テキストの購読を通し高度な読解力と幅広い教養を修得します。到達度としては200頁位の原書を1～2週間で読み・要約・解釈できる読解力を目指します。できれば批判能力を身につけたい。

◆英語随意科目

英語運用能力をさらに伸ばすために、2年次生以上が受講できる科目。英会話Ⅱ(6クラス)と英語LLⅡ(3クラス)を開講しています。英会話全クラスと英語LLⅡの1クラスは英語を母国語とする外国人教師が担当。各担当者の授業計画をよく読み、開講時に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。

ドイツ語

1. ドイツ語という言葉

ドイツ語はヨーロッパではフランス語と並ぶ大きな言語で、現在ドイツ、オーストリア、スイスを中心に約1億人の人々がこれを母語として話しています。ドイツ語の重要性はドイツ経済の力と共に大きくなり、最近では東西ドイツ

の統一により東欧世界にもその重要性が高まっています。もちろん歴史的にも神聖ローマ帝国のような勢力範囲の大きな国家の存在により、ドイツ語の通じる地域が広がりましたが、ドイツ語はとくにその学問に対する貢献により、英語以前には学術語・科学語として非常に重要でした。従って、皆さんが大学で勉強する科目についてその源を知ろうとしますと、多くの場合、ドイツ語の文献に行き当たります。

ところで、ドイツ語は難しいとよく言われますが、文法事項を嫌がらずに一つずついいいに覚えていけば、英語よりやさしいはずです。日本語でも「書かない」ではなく、「書かぬ」となるように、一定の決まりを覚えなければなりません。言葉には将棋と同じように駒の動かし方のルールがあります。ルールなしには将棋は出来ません。ただ英語は世界史の中で他言語と接触している間に、ルールがすっかり単純化してしまい、その分ドイツ語のルールは難しく思えるでしょう。しかし、ドイツ語と英語は兄弟の言葉なのでとてもよく似ています。ドイツ語がよく分かるようになると、英語もずっと分かるようになります。

2. ドイツ語の授業について

語学の授業は一般に50人程度のクラスで行われ、毎回必ず出席をとります。授業は一般に教員が問題や訳を学生に当てて答えさせる形式で進みます。

ドイツ語の授業は一年次にⅠA・ⅠB、二年次にⅡA・ⅡBがあります。それぞれ週に一回で担当教員が異なります。ⅠAは文法を中心とする授業で、基本的なドイツ語文法20～28項目を学び、辞書が自由に引けるようになります。教科書は文法事項の説明と、それを使った練習問題で構成されています。この練習問題を予習しておくことが文法理解の秘訣です。

ⅠBはやさしいリーダー(読本)の授業です。ⅠAで学んだ文法を復習しつつ、意味のまとまりのあるテキストを読んで行きます(クラスによっては会話を含んだテキストを使うこともあります)。車の教習で言えば、ちょっと自分で運転してみるようなものです。何度かどこかにぶつけるかも知れません。でも大事なことは自分で運転することです。法規や運転技法(=文法)をただ聞いているだけでは走れません。

ⅡA・ⅡBは小話や文学作品あるいは論文調のものを读みます(ⅡA・ⅡBの内容については明確な区分がありません)。一年次の復習をしながら、さらに高度な文法を習い、同時にドイツ語の世界に触れます。

三年次のドイツ語として選択必修「時事外国語(ドイツ語)」が履修出来ます。「時事外国語(ドイツ語)」では主として新聞・雑誌から

選んだ生の記事を教材として用います。

これ以外に卒業単位には含まれない任意科目として「ドイツ語FLL(会話)」の初級、中級と「ドイツ語F」があります。「会話」はLL(視聴覚)教室でビデオ教材などを使い、初級(二年次以上)はドイツ人講師が担当します。「ドイツ語F」は二年次以上でもドイツ語を続けたい学生のためのクラスで、誰でも受講出来ます。他学部の学生と一緒にのクラスで、教材はだいたい受講生と教員との話し合いで決まります。

3. 到達目標

語学は何語でもまず勉強の量の問題です。学ぶ量が多ければ、それだけ力が付きます。一年次のIA・IB、二年次のIIA・IIBを履修すれば、理想状態では日常的な文章がそれほど困難なく理解出来ます。より具体的な到達目標としては、さらにLLの「ドイツ語FLL(会話)」初級、中級を履修すれば、ドイツ語検定試験3、4級を目指すことが出来ます。

4. 成績評価の方法

成績評価の大きな基準はまず日常の予習状況です。よく予習し、よく答えていれば、高い評価が得られます。もちろん7月末と1月末の試験、さらに不定期に行われる小テストの成績も重要ですが、語学授業ではいわゆる普段点が貴重であることを忘れないようにして下さい。

5. ドイツ語学習の助けとなるもの

生きたドイツ語を学ぶにはラジオとテレビのドイツ語講座があります。ぜひ活用して下さい。

ラジオ講座

初級 月曜～木曜 午前7時～7時20分
(再放送 午後1時～1時20分)

中級 金曜・土曜の同時刻

テレビ講座

今年度分講座

木曜 午前7時40分～8時
(再放送 金曜午後10時40分～11時)

昨年度分再放送

月曜 午前7時40分～8時
(再放送 火曜午後10時40分～11時)

6. ドイツ語の辞書

英語以外のヨーロッパ言語は一般に、文法が分からないと単語を辞書で見付けることが簡単ではありません(日本語でも「かかない」という時に「かか」で辞書を引かず、「かく」と終止形で引くでしょう)。ドイツ語も同じで、文法を知って初めて、辞書が引けるようになります。それ故、辞書を早めに購入し、予習の際に自分で辞書を引く癖を付けて置くことが大切です。

現在ドイツ語の辞書には初学者用と普通用とがあります。初学者用は引きにくい変化形も載

せているので英語並みに引けて便利ですが、その分だけ語数が少なく二、三年次で困ることがあります。なるべく普通用を購入することを勧めます。

a) 初学者用

「クラウン独和辞典」三省堂

「アルファ独和辞典」三修社

「新修ドイツ語辞典」同学社

b) 普通用

「マイスター独和辞典」大修館

「独和大辞典」コンパクト版 小学館

「新現代独和辞典」三修社

「独和辞典」郁文堂

フランス語

フランス語学習の案内

(1) フランス語は古代ローマ帝国の言葉であったラテン語が、北フランス地方で固有の変化を遂げて形成された言語です。中世期を経て、北フランスが政治的に優位に立つと、その地方語が共通語として全土に広がり、ブルボン王家の政治的・経済的・文化的統一政策のもとで国語として完成されてきました。この17世紀の絶対専制君主制の権力を背景に、フランス語の純化と規範化の努力が活発におこなわれて、国語辞典による語彙の整理、語法の強制、綴り字と発音の規定など、主として宮廷の言葉遣いを念頭に標準化されたのです。今日のフランス語の基本構造はこの17世紀以来変わっていないと言ってよいでしょう。

教養の言語として、第一外交用語としてヨーロッパに君臨していた18世紀、19世紀のフランス語の威光は、もはや望むべくもありませんが、フランス語を母語ないしは公用語としている地域は、国外ではベルギー(約500万人)、スイス(約150万人)、アフリカの旧植民地約20ヶ国などがあります。また400年の移民の歴史をもつカナダのケベック州を中心とした地域(約650万人)やフランスの海外県(グアドループ、マルチニックなどの西インド諸島の70万人、レユニオン諸島の50万人)なども忘れることができません。フランス語は今なお全世界で推定約8千万人の有力言語なのです。

(2) 日本でのフランス語学習の歴史は幕末の長崎に始まります。明治政府の積極的な欧化政策の下で、主として法学・兵学の分野でフランス語教育がおこなわれていましたが、やがて明治憲法の制定にともなってドイツ系の学

問が盛んになるにつれ、その勢いは相対的に減少して、在野の文学の領域などで重んじられる程度でした。

しかし、第二次大戦後の学制改革によって新制大学の第二外国語としてとり入れられて、フランス語の学習者は飛躍的に増大しました。その結果、辞書類も教授法もずいぶん充実してきました。今皆さんが学ぼうとするフランス語はこの延長線上にあるのです。しかし一方で、戦後50年近くになった大学は、魅力ある大学造りのための改革の努力を着実に積み重ねております。そして今日では学ぶ主体である学生の皆さんの積極的参加が必要不可欠と認識されております。学習意欲に裏打ちされた皆さんの姿勢を授業の中に反映して下さい。

- (3) 駒沢大学でのフランス語教育は次のようにおこなわれます。

〔初級フランス語〕—「フランス語ⅠA」

「フランス語ⅠB」（一年次）

〔中級フランス語〕—「フランス語ⅡA」

「フランス語ⅡB」（二年次）

「フランス語ⅠA」は、最初に綴り字と発音の関係を簡単に学んだのち、主として冠詞・名詞・形容詞の語法、動詞の人称・時制による活用など文法事項を中心に勉強し、フランス語の基本的骨格の把握をめざします。

「フランス語ⅠB」は、音としてのフランス語の学習を中心に据えます。そのためには英語を学んできた皆さんは、まず英語の音を一時的に脇におく必要があります。そして、外国語の学習とは、それを日常の言葉として生活している人びととの接触であるとの認識の下に、聞き取りの力と簡単な表現力（会話・作文）を身に付ける努力をします。辞書を使いこなして易しいフランス語の文章の読解もおこないます。

「フランス語ⅡA」は、初めに「ⅠA」で学び残した文法事項を勉強します。その後は文学作品などの読解を通じて、「ⅠA」で学んだ文法事項の再確認、更にはフランス語の文章に馴れ親しむ練習をします。一年間のまじめな学習ののちには、おそらく皆さんは自分の学力の進歩ぶりに、大いに驚き満足することでしょう。

「フランス語ⅡB」は、担当の教員の方針などによってさまざまなヴァリエーションが考えられます。「ⅠB」の延長で聞き取り・会話力の前進をめざしたり、作文を中心に表現力の充実をはかったり、新聞・雑誌の講読で時事感覚を学んだり、歴史・社会事象の基礎的勉強も可能でしょう。要するにこの科目は枠組みのゆるい自由な科目として、くつろ

いだ形で勉強して下さい。

フランス語科目にはこれ以外に随意科目として、「フランス語F」、「フランス語FL L（初級）」、「フランス語FL L（中級）」があります。「FL L」はフランス人教員などによるLL教材を使った授業です。二年次以降はこれらを自由に履修できますので、フランス語との触れ合いを少しでも多くと望む人は進んで受講して下さい。

新しい言語を学ぶのですから、毎週毎週が新しい事柄の勉強となります。そして一年間の学習はこれの積み重ねですから、毎回の出席が必要不可欠です。出欠のためではなくて、自らの主体的な了解事項として熱意ある学習態度を期待したいと思います。

（付記）辞書、参考書などについては、一年次の最初の授業で担当教員がていねいに説明・紹介いたしますので、その指示にしたがって下さい。

中国語

- (1) これから皆さんが学ぶ中国語とは、中華人民共和国政府が制定した“普通話(Pǔtōnghuà)”とよばれる民族共通語です。中国は国土が日本の約27倍と広大で上海語、広東語など方言も多様です。“普通話”は北京語を基礎とした標準語、中国全土で通じる民族共通語です。台湾や東南アジアの華僑社会等で使われている“國語”“華語”との共通性もきわめて高いものです。

中国語はシナ・チベット語族に属し、ウラル・アルタイ語族の日本語とは大きく性格を異にしています。表記文字としては漢字を用いていますが、その発音・字体・意味など日本語と違っており、あくまで「外国語」として取り組むべきものです。発音は難しいとよく言われますが、子音+母音という音節の構造は日本語と基本的には同じで、法則性も高く、最初に日本人の発声習慣にない幾つかの音さえしっかり学べば、意外に易しいものです。また、中国語は、一文字（一つの音節）に固有のトーン（声調という。基本は4種類）があり、独特の音楽的響きをもっています。マスターするとその爽やかなリズムを君自身の唇で楽しめる美しい言語なのです。

「横文字が嫌い、では中国語」と思っている君、最初の半年は、この美しい発音を身につけるために中国語のローマ字綴りであるPinyinという横文字につきあっていただきま

す。外国人が中国語をマスターする近道なんですから。カタカナで中国語の発音を、というの是不正確で結局は遠回りです。英語と違い、クラスの仲間はみんな同じスタート地点から出発します。新しい気持ちでこの中国語の世界的独特の約束としてのローマ字にとり組んでください。

I A・I B

- (2) I A, I Bの一年間の学習を通してどこまで中国語の力を身につけることができるか。半分は私たち教師の責任、半分は君自身の努力にかかっていることは言うまでもないことです。私たちは、この一年の学習到達目標を次の5点に置きます。
- ① Pinyinの助けを借りて正確な発音の基礎をマスターし、聞き取り能力を習得する。
 - ② 声調の基本、その変化の法則をマスターする。
 - ③ 基本文型を習得し、初級段階の単文、簡単な複文を正確に読みとる能力を身につける。
 - ④ 簡単な日常会話を中心とする初級会話能力の習得に努力する。
 - ⑤ 中国語の学習を通して、隣国中国の言語、文化、民族、民衆への知的関心を高めていく。

II A・II B

- (3) 上記の基礎をもとに、2年生でII A, II Bを履修することになります。原則としては、一つが会話中心、もう一方が講読中心となり、ごく日常的な会話・作文ができ、辞書を頼りに易しい読物が読めることを目標にします。中国語により強い関心を抱いた諸君には随意科目「中国語F・L」(初級はI修了者、中級はII修了者)があります。また、3年次には専門科目としての「時事外国語」が選択できます。

- (4) 授業は、原則として「一冊のテキスト、二人の教師」で展開されます(例外的に「一冊、一教師週2コマ」がある)。二人の教師の分担の仕方はクラスにより異なります。一人の教師が進めた後をもう一人が続ける形、奇数課と偶数課で分担しあう場合などです。

諸君は教師の授業の仕方について質問し、異議を申し立てる権利と義務を有しています。積極的に授業運営に参加してください。

必要な参考図書(辞書など)については、開講後に教師がそれぞれの辞書の特徴などを説明しますから、それを聞いてから選定、購入してください。

開講時に年間授業計画を示すよう私たちも努力します。

小テスト、中間試験、期末試験(前期、後

期)については各担当教師により若干異なります。開講後に説明をよく聞いてください。

語学の学習は、一回一回の積み重ねがきわめてたいせつです。初級の一年間は、一回もおろそかにできません。当然、毎回の出席が必要です。その点から出欠をとりますが、この意義を積極的に考えてください。

- (5) 予習、復習は当然必要ですが、授業以外での学習の機会も最近はいへん恵まれています。中国語の講座は、NHKのテレビ、ラジオで行われていますが、4月第一週の開講ですから、授業開始以前にテキストを求め準備してください。また、本学1号館3階の「LL準備室」には各種AV教材が用意され、いつでも利用できます。各年度使用テキストのテープも完備しています、おおいに活用してください。長期間にわたって中国語の学習が中断する夏休みなど、各種、各地の講習会、集中講義などに参加されるのもいいでしょう。すこし冒険をしてみようという諸君には、夏、春の休暇を利用しての中国各地の大学が開催する外国人のための短期留学をおすすめします。詳しいことは教師に相談してください。中国語の独習誌としては、『中国語』(月刊、内山書店)が定期的に発行されています。

学習が進み、興味が湧いてきた諸君には中国語検定試験(準4級、4級、3級、準2級、2級、1級)が待っています。また、中国国家教育委員会(日本の文部省にあたる)が指導、企画した「漢語水平考試(HSK)」も最近実施され、日本でも受験できるようになりました。これは将来英語におけるTOEFLの役割を担うものと予想されます。

最後に、皆さんの健闘を祈り、教室でのいきいきとした出会いをここから「歓迎」します。楽しく、学び甲斐のある授業をいっしょにつくりあげましょう。

スペイン語

スペイン語を学ぶ諸君へ

1492年イスラム教徒のスペインにおける最後の王国グラナダの陥落により800年にわたるスペインの国土再征服(Reconquista)が完成しました。同じ年にコロンブスが新大陸を発見し、スペイン人たちは今度は征服者(Conquistadores)として海を渡って行きました。それから500年後の今日スペイン語を母国語として話す人々は19世紀の初頭に次々と独立した中南米の諸国を加えて20ヵ国、米国内のスペイン語を話

すラテン・アメリカ系住民（ヒスパニック）を加えると実に3億人を超す一大スペイン語文化圏を構成しています。またラテン・アメリカではコロンビアのガルシア・マルケスを始め、アルゼンチンのボルヘス、ペルーのバルガス・リョーサ、メキシコのオクタビオ・パスなどの文豪が輩出し、その作品は今世界中で読まれています。

スペインという国は古代からヨーロッパ、アジア、アフリカの三大陸からの民族の流入と混血によって多種多様な文化と芸術と特筆すべき国民気質を持っています。ホセ・マリア・バルベルテは「イベロ族から勇気を、フェニキア人から冒険心を、ギリシア人から雅を、ゴード族からは騎士道を、サラセン人からは東方の詩を、ローマ人からは叡智と武勇を受け継いだ。」と述べています。

ラテン語を母体に中世以降生れた言葉は、ロマンス語と総称されるが、スペイン語もそのひとつで、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語などは姉妹語にあたります。

スペイン語を学ぶに当たって。

日常日本語だけで生活しながらただ単位のために外国語を学ぶのは大変なことだし、語学というものはその文法を学ぶより先にまず、その言語の背景となるその国の文化・歴史など知らないでその言葉を学ぶのは意味のないことです。地理的に見てもスペインはコントラストの国であり、この国を訪れる者に強烈な印象を与えるのは先に述べたこの国の過去の歴史的・文化的遺産が妖しい光彩を放つのでしょうか。エル・グレコ、ムリーリョ、ベラスケス、ゴヤの絵画にして然り、文学にしても、良き恋の書、セレスティーナ、ピカレスク小説、ドン・キホーテと言った不朽の名作はこの国の持つ光と陰の世界の具現に他なりません。

スペイン語の発音

からっと明るく南国の太陽が照りつける地中海に面したスペインは明確に発音される語尾の母音と子音の組み合わせでメロディの美しい強弱のはっきりしたリズムカルでメリハリのある歯切のよい言葉です。母音は日本語と同じくア・エ・イ・オ・ウのたった5つだけで、それぞれ1つの音しかありません。ですから、uを「ユー」と発音したり、iを「アイ」というような英語とはまったく異なり、あくまでローマ字読みに徹することです。でも当て字のような英語を長年に互って親しんで来た英語のアクセントをローマ字読みに徹して下さいと願ってもかなりの努力を必要とするかも知れませんね。

スペイン語の授業

1年次にIAとIB、2年次にIIAとIIBとありますが、いずれもその内容については明確な区分けはなく、文法・会話・読み物の三位一体の授業で、週に1回の計2回。教科書も担当教員によって異なることもありますが、内容が重複しても基礎は何度くり返しても無駄ではありません。駒沢大学にはスペイン人の先生が男・女2名ずつ、4名おられるので、AとBのどちらかがスペイン人の先生に当たるかも知れません。この機会にどうか積極的にスペイン語で話そう心掛けて下さい。

到達目標

1年次週2回で動詞は直説法現在時制に限定し、2年次週2回で学年末までには一応文法は直説法・接続法の全時制を終えることになっております。

三年次のスペイン語

選択必修「時事外国語（スペイン語）」が履修出来ます。これ以外に卒業単位に含まれない随意科目として「スペイン語FLL（会話）」の初級、中級と「スペイン語F」があります。会話はLL（視聴覚）教室でビデオを教材にして、初級・中級ともスペイン人教師が担当します。「スペイン語F」は2年次以上でもスペイン語を続けたい学生のためのクラスで他学部の学生と一緒にのクラスで、教材はだいたい受講生とスペイン人教師との話し合いで決まります。

成績評価の方法

おおよその基準は日常の小テストや出席状況です。よく予習し、よく答えていれば当然高い評価が与えられると思います。7月末と1月末には試験がありますが、語学には追・再試という制度はありませんので普段の授業成績が大事です。

スペイン語学習の助けとなるもの

生きたスペイン語を学ぶにはラジオとテレビのスペイン語講座があります。ぜひ新聞などでその時間帯を確かめ活用して下さい。

スペイン語の辞書

英語以外のヨーロッパの言語は文法がわからないと動詞はおろか、名詞も形容詞も（男性・女性の区別がある）その単語を見つけることは簡単ではありません。文法が分かって初めて辞書が引けるようになります。現在次のようなスペイン語の辞書があります。

西和辞典	白水社
西和小辞典	白水社

現代スペイン語辞典 白水社
西和中辞典 小学館
スペイン語ミニ辞典 白水社
スペイン語新辞典 研究社

最後にスペイン語は貿易用語としてだけでなく、国連における重要な公用語として用いられている他に、スペイン文化・歴史・芸術のみならず、マヤ、アステカ、インカの文明、大航海時代の新大陸の歴史、現代ラテン・アメリカ文学などの研究に必要不可欠の言語です。言語は人間の知性と感性の象徴であり、幾世紀にもわたる先人の知識の宝庫です。スペイン語の学習を通してスペイン語文化圏の社会・文化の理解を深めることは日本の社会・文化をも相対的に再認識することになり、自己の内に複数の文化を共有する楽しみがあります。

ロシア語

はじめてロシア語を学ぶ諸君へ！

ロシア語はインド・ヨーロッパ語中のスラブ語派（この中には西スラブ語、東スラブ語、南スラブ語等があります）の中のモスクワを中心とした東スラブ語のことを指しています。諸君がこれから学ぶロシア語とはモスクワを中心とした現代標準語を意味します。ロシア語というといふ最近までは恐ろしい鉄のカーテンの国の言葉として日本では敬遠されがちでしたが、ソヴェート崩壊後は私達にはぐっと親近感ももてる言語になってきました。ロシア語人口の多様さは意外に知られていませんが、ロシア語を使用している人口はざっとEC-欧州共同体の人口3億4,000万人に匹敵する数にのぼっています。ロシア語は現在著しく変貌しつつあるロシア（人口1億5,000万、面積日本の54倍、ロシア連邦内20の共和国）と旧ソ連の多民族の各共和国を含む文字通りユーラシアの共通語として重要な役割を果たしています。

そもそもロシア語の文字は9世紀後半ギリシャ正教を布教するためにモラヴィヤにおもむいた僧侶のキリール兄弟が伝えたものと言われており、ロシア語の文字にはГとかИとか、ギリシャ文字の影響をうけたものがいくつか存在しています。文字は全部で33文字しかなくおぼえるには簡単です。また、日本語の助詞「て、に、を、は」にあたる部分をロシア語は語尾変化によってあらわし、全体の文法体系は極めて整然としています。ですから規則さえおぼえればとても学びやすい言語と言えます。ロシア語の響きはリズムカルで美しく、強弱のはっきりした

メリハリのある、独特の力強さがあります。英語のように難しい冠詞や定冠詞は一切なく、時制や、仮定法も英語よりはるかに単純で、わかりやすい言語といえます。英語とはまったく異なった稀少価値のある言語をやってみたい人は、是非ロシア語を学んでみて下さい。

☆ロシア語ⅠA, ⅠB

○一年次の授業目標

1週間に2回限られた時間枠の中ではじめての言語を学ぶこととなりますので一年間の目標を次のようにしばって集中的にやることにします。

- 1) 母音、子音の基本的発音、アクセント記号（力点）の法則とイントネーションの5つの基本型をみっちりやります。
- 2) 簡単な挨拶の表現や、日常使われるロシア語の独特な表現（ボディランゲージを含む）を身につけます。
- 3) アルファベットを活字体、筆記体できちんと書けるように練習します。
- 4) ごく平易な文章の内容を聴きとりによって理解できるようにします。
- 5) 基礎的な初等文法を学びます。

☆授業計画

最初の4, 5, 6月で発音やイントネーションを徹底的にやると同時にアルファベットの筆記体を主に練習し、自分の名前も書けるようにし、6月、7月頃から特に簡単なロシア語文にも馴れるようにします。簡単な質問にも答えられる練習をします。9月には、6月、7月に学んだ初歩的なロシア語の文法のをまとめます。更に10月以降は1年次文法の中心である語尾変化を学習してもらいます。ときどきテープをかけて聴きとりの練習もします。毎回授業の初めには楽しいクイズをして、できるだけロシア語に馴れてもらうようにします。

☆評価方法

何よりも授業の出席を重視します。そしてそれプラス平常の授業内の受け答えや反応も記録し、授業内のミニテストをプラスした点で評価点を算出します。年間の授業の最終日に評価点を一人一人に提示し、二年次にむけてのアドバイスもマンツーマンでします。

☆ロシア語ⅡA, ⅡB

一年間ロシア語を学んだ諸君、ロシア語に対して思ったよりやさしいとか、できなかったとか、色々な感想をもつてしまう方が、特に授業についていけなかった人達はここで決して諦めてはいけません。一年やそこで決着がつく筈はないのですから。とにかくロシア人のようにНИЧЕГО！（ニチェヴォー、だいじょう

V)で粘り強くやることにしましょう。

○二年次の授業目標

- 1) アクセント記号が付いた文章をスラスラと声をだして読めるようにします。
- 2) 日常使われる会話の中の基本的スタイル、依頼、拒絶、要求、命令…等のより複雑なヴァリエーションを学びます。
- 3) 中等文法のエッセンスを学びます。
- 4) やさしい文章を速読で大意がつかめるように練習します。
- 5) 自己紹介や簡単な手紙文を正しいロシア語の表記を使って書けるように実地指導します。

☆授業計画

4月には一年次の復習を優先させます。それ以降は通年で会話と読みを重点的にやります。文章の基本型は必ず暗記してもらい、授業の時にはすぐ応用できるように家でも準備してることが大切です。秋以降はロシア語の文章を少しずつ書けるようにドリルします。

☆評価方法

出席点の重視。プラス平常点（平常テストを含む）。なお、場合によっては基準点に満たない人は研究室で補講をしますが、これは決して不名誉なことではなく、むしろ教員が期待しているから声をかけるのですから喜んで研究室に来て欲しいのです。

☆その他

なお上記の授業科目以外に三年次には選択必修「時事外国語（ロシア語）」があります。「時事外国語（ロシア語）」では刻々と変わるロシアの生の記事を教材として使います。又卒業単位には含まれない随意科目として「ロシア語F」と日本人とロシア人による「ロシア語FLL（会話）」の初級と中級があります。「ロシア語F」は二年次以上でロシア語を続けてやりたい人なら誰でもうけることが可能です。「ロシア語FLL（会話）」は視聴覚教室でビデオやOHPをつかってやります。

以上ごく大ざっぱなロシア語授業のあらましを述べましたが、授業以外にも最近独習用の様々な参考書やビデオその他の教材が出ています。それについて若干ふれますと、LL教室では、NHKのテレビ、ラジオのロシア語講座（逐次刊行物）や字幕入りのアニメーション、モスクワニュース、ロシア映画（タルコフスキイ、エイゼンシュテイン監督のもの）など沢山用意されています。それらはLL教室の隣の自習室でも自由に貸出してもらって見ることができますので大いに活用してみてください。なお辞書類の説明ははじめての授業の時にいくつかのサンプルを示し、それぞれの短所と長所を具体的に説

明しますので、各人の状況にあわせて購入してみてください。また少しロシア語に馴れたら、ロシア語の検定試験も毎年東京で実施されますので、具体的目標をもつことも語学上達の一つの方法です。また日本・ユーラシア協会主催で横浜港に寄港するロシア船（ルーシ号、プレミアム号etc.）の船上会話教室（ロシア人講師と日本人講師による授業料無料・通信費のみ実費要）もありますので興味のある人は、1号館1600号室のロシア語研究室まで問い合わせに来てください。

（文責 ロシア語教室）

保 健 体 育 科 目

保健体育理論

光 永 吉 輝

〈講義目的（要旨）〉

保健体育理論を講義しますが、保健分野・体育分野・そして、人体解剖図・ビデオ等を参考にしながら、文明先進国における、文明病や、運動不足に起因するさまざまな、健康阻害等の話を通して、人間の健康ということの理解を深めてもらいます。日常生活においては、自分が現在、健康であることを意識して行動している人は、少ないのではないだろうか。病気やけがをして、はじめて健康の重要性や有難さを知るのではなく、日頃から常に健康を意識し、健康に関心の目を向けることが必要であり、自己や他人の生命・そして健康は何物にもまして大切なものであることを、しっかりと認識するよう説明するつもりです。

〈授業内容・授業計画〉

健康と長寿を願う心は、太古の昔より、人類不遍の願望である。多くの人々が、その時代の価値観と、それぞれの専門的な立場から、健康とは何かについて幾多の説を唱えている。この説を引用しながら、健康を考え、日常生活面からの健康論を講義しようと思っています。その他、体力論・健康と体力・運動不足の害と効果・発育発達・トレーニングの問題・それに加え少し栄養・健康管理等にも触れたいと思っています。そして後半からは、スポーツ傷害と、人体解剖図等を参考にしながら、スポーツ医学の面から人体を頭部（頭蓋）、胴（体幹）、手（上肢）、足（下肢）と別けて、各部分の身体的特長や、欠点を交えながら、文明先進国に多発している疾病や、運動不足病から起る、健康阻害の話をする予定です。

〈評価方法〉

出席および筆記試験によって行なう。また、レポート等、課題提出物によって、試験に変える可能性もある。

〈教材〉

保健体育概論、駒沢大学保健体育部編を前半は引用しながら進みます。後半からの人体の話し等の参考書は医学関係の書物となりますが、医学関係の書物は高額なものが多いため購入は難かしい。しかし、授業に出席をして、よく聞いていれば、充分に理解できる内容であると思います。

保健体育理論

館 岡 儀 秋

〈講義目的（要旨）〉

現代社会における健康の増進、体力の向上及び生涯を通じて継続的な運動、スポーツの必要性について講義する。

〈授業内容・授業計画〉

1. 健康・体力と運動・スポーツの関連
2. 運動不足と成人病の関連
3. 健康を目的とした体力づくり
4. 健康管理法
5. 起こりやすい疾病と障害
6. 救急処置
7. エイズ予防

〈評価方法〉

出席および筆記試験。また、レポート等課題提出物によって試験に変える可能性もあります。

〈教材〉

特に教科書は指定しません。自分でしっかりノートをとって復習すれば、講義自体の理解は難しくないと考えます。参考図書等は授業時に紹介します。

保健体育理論

三 幣 晴 三

〈講義目的（要旨）〉

体育・スポーツに関する全般的知識、特に生涯体育、スポーツの文化的視点からの考察、人間の運動に関する実際的考察を中心とし、さらに現在および将来に向けての健康的内容をとり扱う。

体育・スポーツについては、人間の持つ歴史的財産としての文化という視点から考察し、人間にとっての意義を過去の歴史から掘り起こし、現在のさまざまな問題点を明らかにして、将来の方向性を生涯体育の視点から探り出したい。

人間の運動はさまざまな学問領域から研究されている。しかし、その本質を探り出すのはきわめて困難である。体育独自のプロパーな領域としての人間の運動学を、スポーツの運動と同時に日常生活での運動も取り扱い、運動実践に役立たせた

い。

健康については現代生活での種々の問題点をストレス学説から探り出し、学生生活における健康の有り方を実際の視点から考察したい。

〈授業の進め方〉

教科書を中心にして進めていくが、随時VTR、レポート、種々の印刷物等を利用する。

〈評価方法〉

出席および筆記試験、さらにレポート提出によって評価する。

〔教科書〕 駒澤大学保健体育部編『保健体育概論』
(カヅサ出版部) ¥1,700

〔参考書〕 『ホモ・ルーデンス』(中央公論社)
『スポーツ運動学』(大修館書店)

保健体育理論 (再クラス)

田 中 佳 孝

健康生活を維持する為に必要な栄養学的知識について、食物とビタミンを中心に講義を展開する。

内容はビタミンの生理作用と薬理作用・ストレス・喫煙と飲酒・身体に良い食物・間違ったダイエット等について話し、AIDSについて識る。

保健体育理論 (再クラス)

宮 沢 栄 作

大学保健体育の目的をふまえ、我が国体育の変遷にふれ、併わせてその時代時代の体育の特長を明確にとらえさせることを導入とし、身体運動の意義とスポーツの持つ価値の再認識を生理、解剖学的根拠をもって図る。具体的には、栄養学を含めた体力トレーニング論と、価値あるべきスポーツが、方法を誤ると重大な障害を引き起こすスポーツ障害の原因、予防更に日常生活に於ける救急処置法等についてふれていきたい。また現在大きな問題となっているエイズについて、ビデオ等を教材として過ちのないよう指導をしたいと考えている。

随 意 科 目

比較思想特講

佐々木 宏 幹

欧米とアジアの思想を巨視的に取り扱った諸文献を取りあげ、内容を紹介するとともに、アジアの諸民族と文化、とくに宗教文化に焦点をおき、日本人の思考や行動の様式に見られる諸特徴を比較文化論的に考察したい。

比較思想特講

洗 建

法律と宗教のかかわりについて考察する。法律が規範の体系である以上、社会で主要な伝統となってきた宗教の世界観や人間観と無縁ではあり得ない。東西の宗教文化と日本の近代法をめぐる問題について考える。

〔参考書〕 随時指示する。

英 会 話 II

P. A. Bendinelli · T. A. Grange
W. Hubbard · D. J. Nolan
J. K. Wells · P. Ziegler

全学で6クラスを設け、学部および短大の2年次生以上を対象とします。1年次で英会話Iを履修した学生を対象とするクラスとそれ以外の初修者も参加できるクラスがあります。各担当者の講義内容 (syllabus) を参考にし、場合によっては受講希望クラスの担当教師に相談してください。

担当者、曜日、時限、クラスは時間割表で確認してください。

P. A. Bendinelli

A course for highly motivated students. (UPPER LEVEL II CLASS). Class will be student orientated, not teacher orientated. Details in first meeting.

T. A. Grange

Some mottoes : It is better to be forced to learn than not to know (AElfric) ; ...

gladly would he learn and gladly teach (Chaucer) ; a little learning is a dangerous thing (Pope) ; it takes all kinds of in and outdoor schooling to get accustomed to my kind of fooling (Frost) ; please don't be quiet — in English (tag).

You must learn to listen. Carefully. And you must talk, talk, talk, talk, talk, and talk some more. To your classmates. To yourself. To me.

W. Hubbard

This course presents the basic as well as more advanced language skills that one needs for everyday communication in English. The emphasis is on class interaction, comprehension, and application. A variety of dialogs, situations, topics and EIKEN oriented material will be used.

〔教科書〕 The text material will be decided depending on the ability of the students assessed at class time.

D. J. Nolan

At the core of this course is

- 1) a series of dialogues that are topical and should prove interesting to Japanese students, and
- 2) language activities that are meaningful and intellectually rewarding.

The material is advanced in the sense that it takes for granted the considerable familiarity Japanese students already have with English but recognizes a need to provide further opportunities to internalize what students have learned at lower levels.

The course specifically intends to help students prepare for the STEP tests (Eiken), either second level or higher, the targeted level depending upon the qualifications of those who apply.

Grades are determined on the basis of attendance, participation, and occasional short tests.

Text to be announced in class.

J. K. Wells

Hello students! Welcome to my English Conversation II course. My class will be an extension of English Conversation I as Hiroshi Shimizu leaves his American host family and travels in the U.S.

Printouts will be handed out in each class, so join in the fun of learning English conversation through role-playing. We may have some future actors/actresses in the class!

- Requirements : any 2nd year student
Attendance : only 3 absences will be allowed
Tests/Quizzes : 2 major tests (role-playing) ; announced quizzes
Class size : 40 students

See you in class

[教科書] Printouts (Books will not be necessary)

P. Ziegler

The course will consist of exercises designed to expand student vocabulary and improve oral communication skills. A wide variety of materials will be used.

[教科書] 英語の新聞記事のコピー・その他

英語 L L II

T. J. Cogan ・ 岩 山 義 春
大 庭 直 樹

英語 L L I のアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語 L L I を履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。最後までやり通す意欲ある学生を歓迎します。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

T. J. Cogan

In this intermediate-advanced course we will study American English through video. The materials for this year will probably include a recent, popular movie and a news program. Since the class will be small, there should be ample opportunity for students to discuss in English what they see on the screen. The purpose of the course is to improve each student's ability to comprehend and speak English at a fairly high level. The course will be conducted

entirely in English. I will announce the text on the first day of class.

岩 山 義 春

聞き取りと表現力の向上をめざします。毎回話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありません。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

大 庭 直 樹

聞き取りと表現力のアップを目的とした中級から上級コースのクラスである。テキストは、内容理解を中心としたヒヤリング用のものと日常英語を中心とした会話用のもの、2冊を使う。クラスは毎回、両方のテキストを使って行なう。

ドイツ語 F

柴 野 博 子

我々がドイツ文化をどうとらえているか、また、ドイツ人が日本文化をどうとらえているか、といういわゆる異文化理解の問題は、国際化がさげばれている今日、非常に重要なテーマだと思えます。そこで本年は、ドイツ人の講演や新聞・雑誌の記事等を手がかりにして、この異文化理解の問題を考えて行きます。

なお、テキストは、随時コピーしてお渡しします。

ドイツ語 F L L (初級)

小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 F L L (中級)

松 岡 晋

本講義は F L L (初級) 終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、受講してかまわない。また初級・中級の両方を同時に履修してもさしつかえない。

学習上の目標は、毎年秋におこなわれる「ドイ

ツ語検定試験」(独検)の四級ないし三級に合格できるための会話力・耳からの理解力・文章理解力の養成にある。

目標をもってドイツ語を学ぶ意欲のある学生の受講を期待している。テキストはコピーを用意するが、受講者の希望もとり入れる。

〔教科書〕コピーを配布する。

フランス語 F

桑 田 禮 彰

フランスの文化と社会を、いくつかのテーマに沿って具体的に概観しながら、日本との違いを考えていきます。テーマとしては、家族/教育/趣味/宗教/思想などを予定しています。いずれの場合も、フランスの最新の社会科学・人文科学の成果を紹介しながら、授業をすすめます。出席者には資料を配布します。資料にはフランス語のもの日本語のものがありますが、フランス語の初心者でも歓迎します。フランス文化とフランス語は不可分です。この授業は特にフランス文化に重点を置き、フランス語については、出席者各人の能力を考慮した指導をしていきます。フランスという鏡に映る日本を見極めようとする意欲的な人の出席を望みます。

〔教科書〕使いません。

〔参考書〕授業の中で指示します。

フランス語 F L L (初級)

小 玉 齊 夫

ビデオ教材を利用して、初歩の聞きとり・会話の練習を行う授業です。音および画像からフランス語に入るつもりですので、文法的知識の有無を問いません。したがって、今までフランス語に触れたことのないひとでも「歓迎」しますが、しかしそのぶんだけ、新たに記憶したり書きつづけたりする「労力」は要求されるかもしれません。

願わくば、一年後には、音としてのフランス語に、習熟とまではいかなくとも、まあ、恐怖心を抱かずに直面できるていどにはなれるように、と思っています。

〔教科書〕『Avec Plaisir 1』(4月にLL事務室で購入のこと)

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。
〔教科書〕『Entrée Libre』

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕『BIENVENUE EN FRANCE 1』

中国語 F

岩 崎 皇

「一分間小説」を読みながら、講読の基礎を固めたいと思います。受講者の興味を考慮して作品を決めたいと思うので、自分の興味や学習程度を伝えられるようにしておいて下さい。

中国語 F L L (初級)

小 川 隆

『学習中文』というビデオ教材を使って、会話と聞き取りの練習をします。中国語 I 既習ていどの基礎力が必要です。ビデオの内容は、ごく日常的な場面での会話ばかりで、楽しく学んでいけるとと思います。

プリントを用意しますので、履修希望者は必ず第一回の授業に出席して下さい。発音の復習から始めますので、イチからやり直したい人、中国語 I A・Bの成績が芳しくなかった人でも大丈夫。要はヤル気です。

中国語 F L L (中級)

松本 丁俊

中国語 F L L 初級を終えたものまたは中国語を1年以上履修したものを対象とする。中国語学習に熱意ある諸君の参加を歓迎する。

〔教科書〕プリント配布。

〔参考書〕随時指示する。

スペイン語 F

ソニア・エレロ・ガルシア

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリートーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。

〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の表現力を身につけるための平易な読みものを取りあげ、ロシア語らしい言いまわしや、語いを広げて様々なスタイルのロ

シア語文に馴れてもらうことを主眼とし、第二には最新版のアガニョークやリテラトゥールナヤ・ガゼータの記事を取りあげ、現代ロシア社会のひずみや歪んだ部分に光をあててみたい。

〔教科書〕教場にてプリントを配布。

〔参考書〕露語辞書、NHKロシア語初級教科書の文法表（この教科書をもっていない人は文法表をさしあげます。）

ロシア語 F L L (初級)

廣田 英靖

日常会話に役立つ簡単な表現をやさしい文章を用いて練習します。発音、イントネーションに重点をおいた反復練習により初等ロシア語の知識を耳と口から身につけることを目的とします。特に、最初の段階では受講者一人一人の発音上の欠点を分かりやすく指摘し、正しいロシア語の発音に慣れるようにします。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (中級)

滝川 ガリーナ

ロシア語の正規授業を履修した人または同程度の学習体験を有する人を対象とします。ロシア語独得の言いまわし、イントネーションを小話等の短文を用いながら受講者の能力に応じて修得することを目的とします。またロシア語を通じユーラシア大陸におけるロシア連邦、各共和国、諸民族の生活や文化にもふれます。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

基礎教育科目

経済学概説

阿部 弘

〈講義の目的〉

「経済学」はアダム・スミスの「法学」体系を元にして1800年イギリスのエディンバラ大学の講座として道徳哲学者D・ステュアートによって設置されその産声をあげた。さてスミスが生涯の仕事として後の世に自ら残したものは『道徳感情論』と『諸国民の富』であり、この二つの労作とともにスミスが大学で講義をしてきた「法学」の体系を構成していた。スミスの時代は18世紀の後半であり「哲学」と「法学」が主たる学問であった。その特徴はD・ステュアートが始めた、この最初の「経済学」の講義にも色濃く現れていた。この経済学は道徳哲学の体系の一部として位置づけられたからである。しかしわたしたちは「経済学者は元来哲学者であった」という見解にぶつかるとき、この見解が現在のものであるにもかかわらず、これは現状の経済学にはどうも相応しくないと考えると同時に、経済学には「人間が不在だ」という、これまた「哲学的な」意見をもっともだとも考えてしまう。次には人間の生活の根本的な経済活動を取り扱うはずの「経済学」とは一体何なのだろうかと考えたくなる。

スミスは人間・人間社会は「コモン・センス」を基盤として成り立っていると考えていた。彼が生まれ育ったイギリスの歴史的環境、スコットランドの風土でもあった。この感覚は同時代のフランスのマテリアリズムと軌を一にしていた。

さてフランスでは「ブルジョア」社会階級が政治的支配権を握りまさに「資本主義」社会が到来するかに見えたが「資本主義社会」はスミスの国であるイギリスで典型的に発達をした。経済学はこの一見矛盾したことを胸の内に秘めて成立する。またスミスとは異なった、階級的コモン・センスの立場から法学者マルクスが経済学の体系の本質的なものを提起する。講義では経済学の形成過程を歴史的・思想史的状况の中で検討する。

〈講義内容〉

講義の順序としては、「経済学」に特徴的な「価値」・「交換価値」という考え方の歴史的・思想史的把握から入り、この考え方が人間を「個人」（インディヴィドゥーム）として措定し、こ

の個人相互の関係を「法」とするというものの考え方に結実していることを明らかにする。

そのためには第1部として「人間」がその形成過程から「労働」を中心にして「社会」を形成してきていて、この労働を通じた人間としての個人の存在が「価値」という人間相互の関係として社会化する過程を、労働手段の発達と人間形成、このことと言語形成との関連として明らかにする。

第2部：以上の過程は歴史的に古代インドの社会ですでにみられるものであり、ギリシア、ローマ、等々を通じてヨーロッパに広がっていくのであり、その様を歴史的・思想史的に展開する。思想史的にはアリストテレスやジャン・ボダン、そしてマンデヴィル／スミス、フランス革命期の哲学者たち／カント／ヘーゲルという一連の繋がりの分析の中で、これらの思想家たちが人間と労働との関係をどのように特徴づけていくのかを明らかにする。

第3部：しかし人間の社会が支配者と被支配者に分かれるに及んで「労働」は支配者のためのものとして位置づけられていくさまを「子女」・

「奴隷」の「イエ」としての生産力化、そして賃金労働者の創出の過程の分析を通して明らかにし、そのなかでマルクスの「経済学」体系の位置づけを試みる。そして「イエ」の生産力という考え方が現代の社会でも顕著に存在していることを、特に「過労死」・「慢性疲労症候群」／女性の「総合職」・「家事労働」などが問題になっている現代日本社会論として提起する。

〈年間計画〉

年間を通じて、7月上旬、10月中旬、12月上旬、1月定期試験時、の4回にわたってレポート作成を行う。その方法は第1回目は講師が問題提起をし、2回目以降は諸君のレポートのなかから講師が問題を作成してそれに応えてもらうという形をとる。講師と受講生の間の「講義」という一方的交通の中で、以上のような形で対話を試みようとするのである。なお評価はこの4回のレポート作成を基準とする。

〈テキスト〉

阿部 弘著『労働と所有—経済学の出発』

(八千代出版)

参考書等は講義のなかで指定する。

〈連絡方法〉

受講生と講師との対話を積極的に勧める意味から講師の連絡先を掲げておく。

経済学概説

有井行夫

〈授業の目的〉

これから大学で4年間、経済学を学んでいくための課題と意義を明らかにすることが本講義の目的です。

皆さんは、高校までに、政治経済のほか、日本史、世界史、地理など、現実の社会経済にかかわるいくつかの科目を学んできたはずですが、そこでは教科書を理解し記憶する努力を重ねてきたことでしょう。その努力の到達度は、学期ごと試験や入学試験で、アチーブメント・テストによって判定されてきたでしょう。

こうした努力によって獲得した知識は、それ自体、有意義なものです。また、そのすべてが大学で経済学を学んでいくための基礎になるものです。けれども、教科書学習の過程で、ややもすると、教科書こそが勉学の対象なのだ、というような気分になってしまうものです。ところがよく考えてみると、現実の社会、現実の経済を学んでいくさいの本当の唯一の教科書は、私たちが生きているこの社会そのもの、この生きた経済そのものです。現実の生きた経済は、過去の歴史を背負いながら運動し、日々刻々と変動しており、実のところは、将来がどうなるのか、誰も確実なことはわからないのです。

教科書に記載されている知識の体系は、実は、貧困や生活の格差、景気変動、インフレ、国際的衝突など、現実の生きた経済現象が私たちに投げかけている問題について、先人たちが解きあかしてきた理解の到達点なのです。だから、経済学をいきいきと学ぶための大前提は、現実の社会・経済が私たちに投げかけている問題そのものを共有することです。「問い」を確認したとき、はじめて解答＝学問の意義が浮かび上がるのです。そして、その「問い」を投げかけるのは、テストではなくて、現実社会そのものなのです。

本講義は、現実の社会が投げかけている問題を皆さんに提示し、問題解決としての経済学を学ぶ意義を明らかにします。わけのわからない巨大な力＝社会に翻弄されて受動的に生きるのではなく、主体的にこの社会、経済を理解し、自分の意見をもち、主人公として生きよう。これが、本講義をつらぬくメッセージです。

〈講義の内容と進め方〉

以上の目的に合致した最高の教材は、実は、「今日の新聞」です。果たして、「今日」という

日になにが起きるのかわかりませんが、基本的に、「今日の新聞」の主要記事について、ひろく社会的・政治的視野のもとにとりあげて、それがかわっている背後の問題を明らかにします。出来事は、偶然的ですし、具体的には予測を超えたことばかりです。それにもかかわらず、1年を通じて、25本程度のトピックスをとりあげるなかで、ある普遍的な経済的社会的な問題が浮かび上がってくるはずですが、使用する教科書は一定の普遍的問題構図を提示しており、とりあげた問題の位置の確認のために参照します。

〈昨年度の講義内容〉

ちなみに昨年度、結果的に、論じることになった内容(92/11/23現在)を提示しておけばつぎのようです。

- ① アフガニスタン情勢と冷戦後の世界秩序形成
- ② 小錦発言と日米構造摩擦
- ③ 社会党の「政治資金団体」づくりと企業社会
- ④ ロス暴動とアメリカ社会の構造問題
- ⑤ 農水省の農業新政策と農業構造改革問題
- ⑥ タイの民主化と東南アジアの近代化
- ⑦ PKO問題と「脱亜入欧」の思想
- ⑧ 地球サミットと「開発の権利」(1), (2)
- ⑨ 米ロ協調と冷戦後世界秩序形成
- ⑩ 「生活大国5ヵ年計画」を評す
- ⑪ 日米運命共同体? — ブッシュ・宮沢会談
- ⑫ ミュンヘン・サミットと各国経済政策の矛盾
- ⑬ ドイツの公定歩合、0.75%上げ
- ⑭ 欧州通貨危機とEC統合
- ⑮ 20世紀社会主義を考える
- ⑯ 地価問題を考える
- ⑰ 佐川献金事件と企業の政治献金
- ⑱ 「会社」を考える
- ⑲ コメの自由化問題
- ⑳ ブッシュからクリントンへ — 米大統領選結果
- ㉑ 貿易黒字を考える
- ㉒ 地価の下落を考える

〈成績の評価〉

経済学への導入としての講義の性格上、平常点、つまり、授業への出席と何回かのレポートで評価します。

〔教科書〕 経済学教育学会編『経済学ガイドブック』(青木書店) ¥2,800

〔参考書〕 森岡ほか編『日本経済へのアプローチ』(ミネルヴァ書房) ¥2,700

なお、なんらかの新聞を毎日読むこと当然のこととします。

経済学概説

岩 下 弘

〈授業の内容〉

現実の経済社会を取り巻く諸問題・諸矛盾から経済学にアプローチする。

〈成績評価の方法〉

試験，レポート，出席によって評価する。

〈文 献〉

必要に応じて指示する。但し毎日の新聞経済欄を読むことが望ましい。

経済学概説

瀬戸岡 紘

あたらしく経済学部に入学された諸君のこれからの学習と研究のために、イントロダクションとなる話をします。この講義で私がなにより大切にしたいと考えていることは、まだ入学してまもない諸君が大いに抱えているはずの勉学への期待をうらぎらないで、むしろふくらませるようになっていくことです。そのために、この講義では、受講者となる諸君の期待や要望に応じて、きわめて柔軟にプログラムを組んでいくつもりです。以下にかかげた、この講義のテーマも、大まかな目標としてのプログラムにすぎません。

前期〔導入の話題〕

◇最近の経済をめぐる話題から（内容未定）

〔世界各地の経済を題材として〕

◇ヨーロッパの経済・古今 ◇アメリカ経済の特質 ◇旧ソ連・東欧の実験 ◇日本の経済 ◇アジア経済の発展

後期〔思想家や経済学派を題材として〕

◇古典派の人びと ◇歴史学派とその後継者たち ◇マルクス学派 ◇近代経済学の諸潮流 ◇ケインズと現代

〔むすびの話題〕

◇あたらしい経済学派の諸見解と21世紀の世界

講義では、一回ごとにひとつずつテーマをとりあげます（上記の◇について、おのおのふたつぐらいのテーマ）。毎回の講義では、なるべく身じかな話題や経済的現象、あるいは日々のニュースからはじめて、基礎的な理論やキーワードの解説もくわえながら話をすすめますが、どんなテーマをとりあげる場合にも、なにより経済学のおもしろさを諸君にわかってもらえるように展開していくつもりです。そのために講義では、諸君との対話を大切にしながら、ともに考えていくようにす

るつもりです。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。一回一回の講義をとおして、諸君の経済学にたいする関心や問題意識をひきだしていくことがこの講義の課題だと考えるからです。たくさん出版されている書物や雑誌、テレビ番組などのなかに勉学に役だつものが見つかれば、その都度紹介していくつもりです。

一年後に経済学がいつそう好きになったと感じられるような受講者をもっともよい成績をとることのできるような評価をするつもりです（具体的には目下考え中）。同時に、受講者の諸君からも、私の講義にたいする評価をくだしてもらうつつもりであります。

経済学概説

福 原 好 喜

この講義は学生に経済学についての基礎的知識を得てもらうことを目指す。毎回統計や図表を用いて、その時々々の日本経済、世界経済の諸問題について、概括的説明と問題提起とを行なう。学生諸君が、身の回りや、新聞、テレビで見聞きする経済事象について主体的関心と具体的知識を得る一助になればと思っている。昨年講義で取り上げたテーマを幾つか例示すると、

1. B I S 自己資本比率規制と現在の金融状態
2. 油糧種子補助金を巡る米、E Cの貿易紛争
3. E C通貨統合 — マーストリヒト条約
4. 世界通貨ドルの問題点
5. アメリカ財政赤字の現状
6. 貿易黒字拡大と日米貿易摩擦
7. 日本人の労働時間と休暇
8. バブル崩壊から本格的不況へ
9. 後手に回る金融政策
10. 農業の衰退と食糧自給
11. 林業壊滅 — 円高の結末
12. 農林業の衰退と自然破壊
13. 農業の衰退と安全保障
14. 農産物輸入とポストハーベスト
15. 農薬汚染
16. E CからE E Aへ
17. N A F T Aの成立とアメリカの利害
18. E A E Cと日本の利害
19. 経済成長率から予測する10年後の世界経済
20. 株価下落とB I S規制
21. 劣後債 永久劣後債に走る都銀
22. 農村の衰退 — 嫁不足から廃屋、廃校、農村の時代へ —
23. 米の輸入自由化と米作の将来
24. 米の流通機構

専 門 教 育 科 目

1 年次必修科目（商学科）

〔教科書〕 飯岡 透・島崎規子『企業会計概論』
（中央経済社）

会計学総論

飯 岡 透

本講座では、大学において初めて会計学を学習しようとする学生諸君のため、会計学の内容を通俗に従って、できるだけ平易に教授する。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計の意義と目的
2. 企業会計の領域と制度会計
3. 企業会計の歴史
 - (1) 欧米における企業会計の発展
 - (2) わが国における企業会計の発展
4. 複式簿記の基礎
 - (1) 複式簿記の基礎構造
 - (2) 取引と記帳
 - (3) 決算手続
5. 財務諸表と作成原則
 - (1) 財務諸表の基礎構造
 - (2) 損益計算書の作成原則と内容
 - (3) 貸借対照表の作成原則と内容
6. 財務情報と開示制度
 - (1) 商法における計算と公開の制度
 - (2) 証券取引法における開示制度
7. 財務諸表と監査制度
 - (1) 企業の社会的責任と監査制度
 - (2) 商法監査の概要
 - (3) 証券取引法監査の概要
8. 企業会計と財務分析
 - (1) 財務分析の概念
 - (2) 収益性の分析と検討
 - (3) 流動性および安全性の分析と検討
 - (4) 生産性の分析と検討
9. 企業会計の新しい領域
 - (1) 国際会計
 - (2) コンピュータ会計
 - (3) セグメント情報
 - (4) オフバランス項目

このうち、複式簿記については記帳練習がなによりも重要なので、記帳練習帳により学習する。成績は、この記帳練習帳とテストにより評価する。

会計学総論

中 原 章 吉

〈授業の主たる内容〉

会計は企業の「ことば」です。その知識体系である会計学の基礎とそのすべての領域を概説的に講義します。会計学の入門コースとしてできるかぎりスタンダードな内容にします。

〈基礎となる学問的傾向ないし問題意識〉

会計学はすべて貨幣評価できるものだけが対象となります。また、企業の活動がその主な対象となりますが、その説明は記述的（デスクリプティブ）でなく操作的（オペレーショナル）ですから、資産の説明をするのに「将来それが役立てられるときに発現する効用の観念」というよりは「現金や商品、建物、土地などがそれで…」というようになるのです。

〈授業形態〉

講義の形態で行いますが、会計学は会計実務から生まれたものですから無意味な一般化を避け、話題を絞ってゆっくり丁寧に説明するつもりです。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期 会計学の基礎理論の入門コース。

4月、会計学の意義、会計学の研究方法。会計の歴史および会計学説史。5月、会計公準と会計原則。6月、会計原則と会計主体論。7月、簿記原理。

後期 会計学の各論の入門コース。

9月、損益計算論と資産会計論、10月、負債会計論、資本金論、財務諸表論、11月、税務会計論、会計監査論、という内容で、講義を行います。12月以降、原価計算論と管理会計論、そして会計学総論のまとめとして、企業会計の今後考えなければならぬ諸問題について展開して話めしたいと思ひます。

〈予め読むべき文献など〉

「簿記」についてはあらかじめ以下の本を購入して読み、学習しておく、この講義をきいてもよくわかるし、後で簿記検定試験合格資格を取得するにも役立つと考えます。

『検定簿記 3級』および『検定簿記ワークブック 3級』（税務経理協会）

同種のものなら他の出版社のものでもかまいません。

〈成績評価の方法〉

毎講義時間の終わる前にその講義時間の講義内容について簡単な短時間のテストを行います。何をみてもかまいません。成績評価はそれと学年末試験（ペーパーテスト）によります。

〔教科書〕中原章吉『会計学の基礎知識』（創成社）

新井清光編『簿記検定 3級商業簿記』

（税務経理協会）¥630

2年次必修・選択科目

経済原論 I

大石雄爾

〈講義内容〉

20世紀末を迎えて、国内・国外を問わず現代社会は大きく揺れ動き、ますます複雑な様相を呈している。そのような時代であるからこそ、私たちはただ目まぐるしく移り変わる日々の出来事のみならず、そこに貫いている傾向や法則をしっかりと捉えることが必要となってくる。

この講義は、このように複雑な現代資本主義社会の運動法則を理解する上で必要な基礎的・一般的知識を身につけることを目的としている。そのため、以下のようにテーマを立て、講義を進めていく。

1. 経済理論を学ぶにあたって
2. 社会科学としての経済学
3. 経済学の対象と方法
4. 商品とは何か
5. 商品生産社会と貨幣
6. 貨幣の諸機能
7. 貨幣の資本への転化
8. 資本の生産過程
9. 絶対的剰余価値の生産
10. 相対的剰余価値の生産
11. 資本主義と賃金
12. 資本の蓄積
13. 資本の流通過程 — 資本の循環と回転
14. 社会的総資本の再生産 — 単純再生産
15. 社会的総資本の再生産 — 拡大再生産
16. 剰余価値と利潤
17. 生産価格と平均利潤率
18. 商業資本と商業利潤
19. 利子生み資本と利子
20. 近代的土地所有と地代
21. 国家と財政
22. 国際経済関係
23. 資本主義と産業循環
24. 現代資本主義経済理解のために

〈講義（授業）方法と留意点〉

講義においては、上記のテーマについてほぼ1

1年次選択科目（経済学科）

会计学総論

加古宜士

〈授業の主たる内容〉

会計学の基礎的な理論と技術について総合的・体系的に講義する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

(1) 前においては、次のスケジュールで授業を行う。

- ① 会計の意義と役割について概説する。
- ② 会計学の研究領域について概説する。
- ③ 企業会計の計算構造の基礎をなす複式簿記のメカニズムについて、その原理と手続を理解習得させる。
- ④ 簡単な損益計算書と貸借対照表を作成する能力を養成する。

(2) 後期においては、現行の企業会計制度における次の領域別に、重要課題を順次とりあげ、できるだけ分かりやすく解説する。

- ① 資産会計
- ② 負債会計
- ③ 資本会計
- ④ 損益会計
- ⑤ 財務諸表
- ⑥ その他の会計情報

〈履修条件〉

毎回の授業内容について復習すること。

授業の進行に応じて随時宿題を課する。

〈成績評価の方法〉

前期末と後期（学年）末に筆記試験を行う。なお、前期40点、後期60点（総合100点）とする。

〔教科書〕新井清光著『現代会计学』（中央経済社）¥2,400

回につき1テーマのペースでお話する予定である。できる限り理解を深めてもらうために、相当量の板書することになる。参加する諸君は、ただこれを書き写すだけでは不十分である点を自覚し、自分で読み返したとき意味が理解できるノートの取り方を工夫してほしい。

毎回の講義の冒頭では、その時々政治・経済にかかわるトピックスをとり上げて解説を加える予定である。また、諸君の問題関心を引き出すために、年間数回にわたって「30分レポート」を実施する。これは、年間の成績を評価する際に、考慮の対象となる。

経済原論は理論という性格上、全体的な関連の強い科目であり、年間を通して受講して初めて十分な理解が可能になるという特徴をもつ。その点からして、毎回必ず出席することを強く要求したい。欠席する場合には、その事由を書いた、客観的な証明書の役を果たす文書を提出する必要がある。

〈成績評価〉

試験は年度末に1回行なう。平素から講義に出席し、反復勉強していないと失敗することが多い。また、「30分レポート」も加味して評価する。

〔教科書〕平野喜一郎他『経済原論』（青木書店）
¥2,781

〔参考書〕金子ハルオ他『資本主義の原理と歴史』（青木書店）¥1,854

経済原論 I

阿 部 弘

〈講義の目的〉

生活に必要なものがすべて「商品」として生産されそれを「おカネ」をだして買ってきて消費をするという社会で私たちは毎日の生活を送っている。私たちの生活にとって重要で有益なものは「富」と考えられている。この商品社会の「富」というのは一体何であろうか？「価値」を生むものが「富」なのだ。価値は、社会に役に立つ・有益である、ということだが、このことは今私たちの商品社会にあっては「商品」生産の体系の中で言われることである。「売れるもの」でなければ富とは関係がない。この世に存在するものすべてが売買されるものであるわけではないから、このような規定は人間の生活とは離反しているように見える。

私たちは「商品社会」で生活しているというだけではない。商品社会をその基本にもった「資本主義社会」で生活している。資本主義生産様式では生産の目的は利潤（もうけ）の生産にある。私たちが日常買ってくるものも利潤の生産の手段に

すぎない。社会にそして私たちに利益になるからそのようなものが商品として生産されているわけだが「役に立つ」と私たちには思えても企業・

「資本」は売れてしかも利益にならなければ、いくら「役に立つ」ものでも「商品」として生産はしない。生産されてもそれを手に入れるためには「おカネ」（貨幣）がなくてはならない。「おカネ」は不思議なものでこれさえあればすべてのものが手に入るように思えてくる。「利潤」も株式という形で存在する「資本」を株券を手に入れることで自分のものにできる。「おカネ」がすべてのように思えおカネを手に入れるために種々様々なことをする。社会で「偉い」のはおカネをたくさん所有している人々であるかのようだ。「おカネ」をたくさんもっているかどうかで、何が社会に役立つものなのかどうかという基準も異なってくる。大金持ちの資本家は、ある国家を買収して自分の利潤を生産させる手段にすることもできる。地球の自然環境や自分以外の人間がどのようなふうともそれは二の次としか考えない。「利潤」がもっとも大事なものだからだ。だから私たちが「富」であると思うものと現実の「社会」や社会を支配している人々（階級）が考えている「富」はそれぞれに異なっているのかもしれない。そこでその関係を明らかにすることが「富」とは何かを考えていくうえで重要な課題になる。「経済学」は成立のときから「富」とは何かを問題にしてきたのでその歴史は「富とは何か」の歴史である。私たちが生活している社会は「資本主義」の社会であるからこの社会を特徴づけている基本的カテゴリーの分析をつうじて「富とは何か」を明らかにしていくことが「経済学」には課される。その基本的カテゴリーとは「商品」・「貨幣」・「資本」であるから「経済原論」の講義では3つのカテゴリーとその関係を明らかにしそのことが人間相互の関係としてどのような形で表わされるのかを分析して私たちの生活・行動の方向を示す。

〈講義の方法〉

講義は受講生の人数によって異なる。

- ① 人数が50名を超過するばあいには講義の体系をとる。このばあいには年4回のレポートの作成を行い、最初に講師が課題を提起してこれに受講生が応え、2回目以降は受講生が作成してきたレポートを講義を踏まえて、講師が添削して、各自に独自の課題を設定していく。テキストは用いない。4回のレポートの作成は以下の日程で行う。
No.1 : 7月上旬 No.2 : 10月中旬 No.3 : 12月中旬 No.4 : 定期テストの時
- ② 人数が50名以下のばあいにはグループ分けをして、グループ毎にディスカッションをして2回の個人レポート作成を行う。このばあいには講義はグループ毎への問題の提起という

形をとる。ただし受講生名簿がでてくるのが前期いっぱいかかってしまうのでその間は講義の形態をとる。したがって7月上旬に第1回目のレポート作成を行う。

<評価の方法>

講義形態①のばあい：評価は4回のレポートを通じて行う。しかし第4回目に関しては「定期テスト」のときを利用するので、教務部で出欠の確認を行うという問題がでてくる。このばあい、欠席者は3回までレポートを作成していても自動的に「失格」となる。

講義形態②のばあい：ゼミナール形式をとるので試験は行わない。ただし2回のレポートを提出しないばあいには失格になる。

受講生の質疑応答等に便利のように講師の連絡先を以下に示す。

研究室：No.2538 Tel:9360

住所：〒179 練馬区光が丘6-1-4-204

Tel:03-3976-7984

経済原論Ⅱ

浅野 克巳

<授業の目的と内容>

経済学の目的は、われわれの日常生活の中でよく身近に生起する様々な経済問題の原因は何か？なぜそのような問題が起きるのか？それらを解決するための処方箋はどのようなものであるべきなのか？といったことを考えることであり、われわれの生活と深い関わりがある。

このような観点から、「経済原論Ⅱ」では経済学の基礎理論を近代経済学の方法にしたがってできるかぎり平易に解説する。具体的な授業内容と年間のスケジュールは、以下のとおりである。

<授業項目およびスケジュール>

前期

I. マクロ経済学

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 財政・金融政策
4. 経済の変動と成長

II. ミクロ経済学

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論

後期

3. 市場均衡と価格決定
4. 一般均衡分析

III. 公共政策

1. 公共政策のマクロ分析
2. 公共政策のミクロ分析

IV. 国際経済学

1. 国際経済学のマクロ分析

2. 国際経済学のミクロ分析

<授業を受けるために必要な勉強>

現代経済学を勉強する上で不可欠なことは、現実の経済問題に常に関心をもつことである。日常の経済問題に関する生きた情報は、さまざまなマス・メディアをとおしてあふれるほど豊富に提供されている。とりわけ『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおしてもらいたい。必要な記事はスクラップ・ブックに整理しておく、授業だけでなく将来の就職試験などにもおおいに役立つであろう。

現代経済学を理解するためには、数学の知識が必要であるといわれるが、標準的な基礎理論で用いられる数学は必ずしも高度なものではない。高校の基礎解析あるいは代数程度の知識で十分である。経済分析に必要な数学は授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」紙と鉛筆で自ら反復練習することが肝要である。

なお、近年初心者でも使いやすいコンピュータのソフトがいくつか開発され、「駒沢大学電算室」に常備されている。それらを利用しシミュレーションを行ってみることも、経済学理解の一助となるであろう。「経済原論Ⅱ」の内容と関連のあるソフト、あるいは利用の仕方については最初の授業で詳しく説明する。

<成績評価について>

成績は年間2回（前期・後期）行うテスト（筆記試験）の合計点のみによって評価する。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1992年

〔参考書〕上記テキストの巻末には、各章ごとに必要な参考書が一括して掲げられているので参照されるとよい。

〔問題集〕青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1992年 ¥906

経済原論Ⅱ

浅田 統一郎

本講義は、近代経済学の基礎理論をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』及び『国民所得理論』の一層進んだ内容を理解するために必要な知識を修得するための橋渡しをすることを目的にしています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

近代経済学の理論体系は、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。ミクロ経済学は、19世紀のジェボンズ、マーシャ

ル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。(駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)他方、マクロ経済学は、20世紀前半にイギリスの経済学者ケインズによってその基礎が築かれた経済学の重要な一分野で、国民所得、物価水準、失業率、政府財政余剰、国際収支等の「集計概念」(様々な細かい個別的な変数を合計して、あるいは平均して得られる概念)を用いて、経済全体の動きを大づかみに把握することを目的としています。(駒沢大学経済学部では、『国民所得理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)マクロ経済学の理論は、現在、政府による経済政策が経済全体に対して及ぼす影響と効果を分析したり論じたりする際に必要不可欠な思考の枠組を提供してくれますが、同時に、この分野は、正統派ケインジアン、ポスト・ケインジアン、マネタリスト、サプライサイドの経済学、合理的期待学派等、様々な学派が並存して各学派の間で活発な論争が行なわれている分野でもあります。また、ハロッド、ドーマー、ロビンソン、ソロー等によって発展させられた経済成長理論、ヒックス、カルドア、グッドウィン等によって発展させられた景気循環理論も、マクロ経済学から派生した分野とみなすことができます。

本講義では、これら二つの理論体系の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。

I. ミクロ経済学

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 市場均衡の理論
4. 不完全競争の理論
5. ミクロ経済学の応用(公共政策のミクロ分析及び国際経済学のミクロ分析)

II. マクロ経済学

1. 国民所得の概念
2. 国民所得決定の理論
3. 貨幣と利子率(IS・LM分析)
4. マクロ経済学の応用(公共政策のマクロ分析及び国際経済学のマクロ分析)

なお、教科書は、浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』(成蹊堂)を使用しますが、本講義の範囲を越えてもっと詳しくミクロ経済学とマクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の修了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

<成績評価について>

成績は年間2回(前期・後期)行う筆記試験によって評価します。

(教科書) 浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎著『エコノミックス』(成蹊堂)

(指定図書・文献等) 武隈慎一著『ミクロ経済学』(新世社)

廣松 毅・R.ドーンブッシュ・

S.フィッシャー著『マクロ経済学』

上・下(マグローヒル)

経済原論 II

荒木勝啓

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分(IS-LM分析まで)に限定して行うことにする。

ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

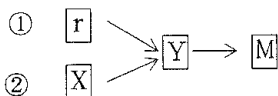
「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって(その結果)黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大(黒字増大)と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほどこわいものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A)景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B)景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便宜上經常収支すなわち輸出-輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大(黒字化)し、Mがふえれば減少(赤字化)する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に応じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がると景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。

「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のようなcausalityが成立つてであろう。さて上述の答案の混乱は、本来この図式の①から出発する事象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ経常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示すように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち経常収支は増大するのである。こうして、上述の答案は前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給＝総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト＝イン＝スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM 分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス
- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、年2回実地研修を行う。予定では(1)証券取引所 (2)大蔵省印刷局である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。

ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』(成蹊堂)

経済政策

石井啓雄

〈授業の主たる内容〉

「経済政策」の講義のありかたとしては、土台としての経済構造と政策主体としての国家の関係の問題を軸に、経済政策とはどういうものかを専ら理論的に詳細に論ずる方法とか、現代の資本主義国家の政策手法についてだけ細かく述べる方法とか、特定の領域、たとえば産業政策など教師の専門的研究領域にそくして講義する方法もある。しかし私は、この講義が2年次の経済学科の必修科目として位置づけられていることを重視した講義を行うようにしたい。すなわち、経済学科の学生は、経済学関係の科目としては、現在1年次において「経済学概説」だけを必修科目として履修することができ、2年次において「経済原論Ⅰ」「経済原論Ⅱ」「経済史」とならんでこの「経済政策」を必修で履修する。そしてこれらは、3・4年次においていろいろな専門科目を選択科目として履修する前提として位置づけられている。このようなカリキュラム編成のなかで、この講義では、土台としての資本主義の発展段階、すなわち、生産力の発展を基礎とする重商主義、自由主義、独占資本主義、国家独占資本主義という発展段階ごとに、この資本主義の構造的発展を背景に変化していく経済政策の内容の基本的な点について講義する。

〈授業項目とスケジュール〉

試験その他を除いて、講義の回数は意外に少なく、おおむね25回である。そこでこの講義回数をおおむね次のように充当する。

- (1) 土台としての経済構造と政策主体としての国家の関係および政策とはどういうことかなどについて、2回。
- (2) 重商主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね3回。前期重商主義、市民革命、後期重商主義、この段階での保護貿易政策その他主要な経済政策について。
- (3) 自由主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね5回。イギリスにおける産業革命の意味、穀物条令の廃止に象徴される自由貿易の意義と産業資本の自立化による自由主義的経済政策の主な内容。イギリスに対しては後進的なフランス・ドイツ・アメリカなどの経済政策について。

- (4) 独占資本主義段階の経済構造とその経済政策について、おおむね3～4回。自由競争が必然的にもたらす独占資本の成立とそれによる国家の政策の変化、資本の輸出と他民族支配の発展。第一次世界大戦の意味などについて。
- (5) 国家独占資本主義の成立とこの段階での経済政策について、おおむね5～6回。1929年恐慌以後の経済政策の変化と第二次世界大戦の意味をふまえた上で、第二次大戦後のアメリカ主導のI.M.F=G.A.T.T体制、各国の国家独占資本主義の経済政策、経済成長政策と1970年代以降のその動揺、植民地の独立と新植民地主義の経済政策などについて。

以上のほか、①いわゆる社会主義の成立とその崩壊をめぐる経済政策問題、②明治維新と戦後改革を経た日本の経済構造と経済政策の特殊性など、についても可能なかぎり講義し、全体として25回の講義とする。

〈履修条件と成績評価その他〉

高校時代に学習した歴史（日本史および世界史）を含む社会科学の知識、および1年次における経済学概説の履修、そして経済原論Ⅰ・Ⅱの並行履修もきちんと行うことを当然の前提とする。講義回数が少ないので学会との重複、やむをえない病欠など以外、休暇の前後でも休講はしないので、学生諸君もそのつもりで受講されたい。

成績評価は、自覚的な勉強を期待して、期末試験の成績を基本とするが、時に出欠をとり、特に期末試験の成績が振るわない学生の成績評価については、この出欠を考慮することとする。試験については基本的に書物、コピーなどの持ち込みは認めず、自筆ノートについてのみ考慮することがあることとする（その決定は12月の講義の際にする）。

〔教科書〕 特に指定しない。

〔参考書〕 講義の過程で適宜、ひんばんに紹介する。

経 済 政 策

広 田 秀 樹

〈講義目的〉

経済的豊かさが人間の幸福の必要十分条件ではないが、経済的繁栄の土台があって青年への十分な教育、国民の基本的人権が保障されることも事実である。私の講義の目的は、持続的な経済発展・経済安定に対して、いかに経済政策がインパクトを与えるのか、実施した政策によって国民が幸福にもなれば、不幸にもなるという、経済政策の重要性を学生諸君に理解してもらおうところにある。

〈授業形態〉

広範な経済政策関連の知識を分かりやすく講義する。解説する経済政策のフィールドが広範になることで、各フィールドの知識の詳細さが欠落する場合も考えられるので、毎回講義以上に詳細な知識を書いたプリントを配布する。又、講義の30～40%は英語を使用し、これからの本格的な国際化社会で活躍する学生諸君の英語力伸長にも貢献したい。（大学生なら誰でも理解できる平易な英語を使用するので、心配無用！）。さらに、授業が単調にならないように質問形式・討論形式も導入し、主体的な政策形成能力を育成する為に、シミュレーショントレーニングも実施する。

〈授業スケジュール〉

常に理論的な精密さとケーススタディを展開することを念頭に置き、政策史・現代資本主義経済の政策メカニズムの2つを軸に講義をする。実際の経済政策は各国の内部経済制度や国際関係に影響されるので、常に国際比較にも十分配慮して解説する。

講義の概要は以下の通りである。

1. 経済政策論の基本事項（4月）
経済政策を学ぶ上で共通した前提要素である、理論と政策の関係・政策主体・政策効果の測定等について。
2. 経済発展と経済政策（5月）
経済政策は資本主義経済の発展過程ないし発展段階によって、常に変化をしてきた。重商主義の政策・自由主義の政策・独占資本主義の政策・ケインズ革命・社会主義の経済政策・マネタリストの政策・サプライサイダーの政策等を、経済発展のフローを軸に説明する。
3. 財政政策・金融政策（6月）
先進資本主義国に共通の財政・金融政策のメカニズムを解説。財政政策に関してはケインズ派とマネタリストの間の論争点、国債依存と政策効果の関係も含めて、又金融政策に関しては、金融制度の発展過程・国際経済との関係も含めて、両政策のメカニズムを、短期的及び長期的政策効果の視点で分析する。
4. 社会保障政策・住宅土地政策（7月）
社会保障政策・住宅土地政策の国際比較を長期的な経済発展の流れの中で説明する。
5. 発展途上国型産業政策・先進国型産業政策（9・10月）
経済のサプライサイドへのインパクトとしての産業政策を、産業構造の変化・官民の力関係の変化を十分考慮して説明する。産業構造と産業政策は長期的に最も経済発展と国民生活に影響を与えるものなので時間を多く使用して詳細に説明したい。
6. 対外的経済政策（11月）
各国経済の密接な連関を、商品及び資本の流

れと、それに対する政策から説明する。

7. 経済政策の国際比較 (12月)
経済政策の政策内容が各国の伝統的政策思想や政策主体と民間セクターの相違で、質的に異なる事を説明する。

〈成績評価〉

定期試験・レポートで総合評価する。

〔教科書〕『入門経済政策』(中央経済社)
¥4,000

〔参考書〕サムエルソン『経済学』(上・下)
(岩波書店)

小宮隆太郎・奥野正寛・鈴木興太郎編
『日本の産業政策』(東京大学出版会)
宇野弘蔵『経済政策論』(弘文堂)
フリードマン『資本主義と自由』
(マグローヒル好学社)
斉藤精一郎『サプライ・サイド・エコ
ノミックス』(日本経済新聞社)
北田芳治・相田利雄編『現代日本の経
済政策』(上・下)(大月書店)

経 済 史

安 元 稔

〈講義内容〉

講義の前半において、「経済史」とは何か、何を対象とし、どのような方法で分析するかについて考え、「経済史」という学問が現在までどのような発展をして来たかを説明する。講義の後半では、先ず、最近100年間におけるヨーロッパの経済発展を比較ヨーロッパ社会経済史という視点から簡単に説明し、北欧・西欧・南欧・東欧のそれぞれにおける社会経済的発展の類型を考え、次いでそれぞれの地域の特徴を生んだ前工業化期の経済発展をイギリスのそれと比較しながら考えて行きたい。その場合、人口・社会構造・経済構造の変化を各地域毎に考察する予定である。受講者は、教科書、年間講義予定表・講義資料(講義中に配布)を常時持参しなければならない。

〈年間講義予定〉

第1編『経済史』とは何か?

- I. 経済史の対象
 1. 「経済的営為」の特色
 2. 経済史の課題
- II. 経済史の性格
 1. 社会科学・経験科学としての経済史
 2. 経済学と経済史、歴史学と経済史
- III. 市場経済と非市場経済
 1. 市場経済の特質(長所と欠陥)
 2. ヒックスの『経済史の理論』
 3. 中央集権型計画システムの問題点

第2編 経済史学の発展

- I. ドイツ歴史学派の経済発展段階説
- II. マルクスの歴史認識
- III. マックス・ウェーバーの「経済と社会」・「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」
- IV. ヨーゼフ・シュンペーターの経済発展理論・「イノベーション」概念
- V. 第二次世界大戦後における経済史研究の潮流

第3編 ヨーロッパ経済の歴史的発展

- I. 経済社会の土台としての人口
 1. 中世ヨーロッパの人口と社会
 2. 16~18世紀ヨーロッパの人口変動
 3. 20世紀ヨーロッパにおける社会経済的発展の人口史的基礎
- II. 中世ヨーロッパの経済システム(1000~1500年)
 1. 土地領主制・村落共同体・農業生産
 2. 「商業の復活」
 3. 中世都市の成立と都市の商工業組織
 4. 中世経済システムの崩壊
- III. 近代ヨーロッパの経済発展(1500~1750年)
 1. 商業革命
 2. 価格革命
 3. 第一次農業革命と農業発展
 4. 農村工業の展開と問屋制家内工業
 5. 産業革命前夜のイギリス経済
- IV. 産業革命と工業化社会の到来(1750~1870年)
 1. 農業生産性の上昇と産業革命
 2. イギリス産業革命の特質
 3. 市場経済の展開
 4. 産業・労働組織の変化
 5. 資本供給と資本形成
 6. 技術革命
 7. 工業化と都市化
 8. イギリス産業革命とヨーロッパ諸国の工業化
- V. 20世紀ヨーロッパにおける社会経済的な発展の諸類型

〔教科書〕アンブロジウス/ハバード著
肥前栄一他訳『20世紀ヨーロッパ社会
経済史』(名古屋大学出版会)

経済史

殿村晋一

〈講義目的〉

人類の経済生活の発展の歴史を、古代から現代まで、世界的視野から概説することにつとめたい。対象が広く、適当な概説書もないので、講義の都度「新書本」を中心に参考文献を指示し、精力的に「自学自習」する習慣を養いたいと思っている。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、古代・中世世界の経済と商業の発展について概説する。そのさい、東西の古代社会の特質、東西古代社会をつなぐ国際商業の役割とその展開過程、東西の中世社会の特質、中世国際商業の展開にはたしたイスラム世界の役割、地中海商業の「復活」と中世都市、ハンザ同盟の発展とロシア世界、などが主なテーマとなる。後期は、資本主義世界体制の成立とその発展過程について概説する。重商主義世界体制の成立＝「南北問題」の起源、産業革命と世界市場の成立、「株式会社」の発生とその発展、自由貿易体制と世界市場の拡張、資本主義国家群における「発展」の特質、周辺従属地域の形成、大企業体制の成立と「独占」、中心資本主義・周辺資本主義の諸問題、資本主義世界体制と帝国主義、多国籍企業の展開と第三世界における「工業化」などがその中心テーマとなる。

〈評価方法〉

「自学自習」の効果があがっているかどうかを確かめる意味で、前期二回、後期二回ほど、文献を指定して熟読させ、レポート提出ないし筆記試験を行う。最後に学年末試験を行い、全体の平均点によって単位を与える。

〈教材〉

多数の参考文献を読みこなすほか、可能な限りスライド、ビデオを活用して、ヴィジュアルな効果を期待したい。

商学総論

大吹勝男

〈講義目的〉

商学総論といえば、商学という名から連想して、本講座ではビジネスに役立つテクニックを講義するものとする学生もいるようですが、本学の商学科はビジネス・スクールの大学版では決してありません。本学の商学科は経済学部設置された商学科であり、諸君は経済学部所属する学生で

あるということから、本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講ずるものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいものです。したがって、講義においては、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義します。そしてまた、本講義は、諸君が3年あるいは4年において履修するかもしれないマーケティングや商業政策のための基礎理論を提供するはずのものであります。

〈授業内容・計画〉

(1)商品論（価値論）、(2)生産過程論（労働過程論）、(3)流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）、(4)資本の回転と流通資本、(5)商業資本の諸問題（商業資本の本質論・商業資本の自立化論）、(6)商業利潤の諸問題・純粹流通費用の回収問題・商業労働の諸問題・ホワイトカラー（サラリーマン）論、(7)商業資本の回転と価格、(8)大規模商業資本・独占的商業資本論。これらの項目について講義しながら、今日の諸問題を取りあげていくつもりである。

〈評価方法〉

主として学年末試験によるが、授業の予習をかねてレポートを課すこともあり、また時々、小テストを実施し、諸君の理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とする。

〔教科書〕大吹著『流通費用とサービスの理論』（梓出版社）
『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）

経営学総論

寺中良二

〈講義概説〉

経営学には大別して企業論と管理論という二つの学問領域がある。企業論の展開として個人企業、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社（初期・近代・現代）、公企業、ソ連型中央集権的社会主義企業、ユーゴ型自主管理的社会主義企業について体系的に講義を展開する。特に資本主義企業の最も支配的企業形態としての株式会社制度については、証券市場制度成立による出資資本の回収機構、擬制資本範疇としての株価形成の論理と算式、株式会社の支配機構およびそれに基づく財務

技術の狙いと事例，現代株式会社における経営者支配をめぐる論争，その他について説明する。また，自主管理制度については，マルクスが十分に解明できなかった新しい社会主義社会における労働関係の展望と21世紀に多数を占める知的労働者による自主管理的経営の潮流と内容を明らかにしたい。さらに，管理論においては，ティラー，フォレット，バーナード，ドラッカーの代表作品の内容を要約的に紹介しながら，先進資本主義の独占形成期に成立した管理技術の本質と変遷，管理社会における人間の状況認識，全体主義批判の思想を根底にもつドラッカーの組織原理や労務管理などに言及する。以上二つの領域ともに，経営学という学問が，人間の幸福に少しでも役立つらうと思う。尚，経営の国際化に対応して，専門用語（経済英語・経営英語）の履修者習得にも力を入れたと考えています。

<企業論講義目次>

I. 企業形態論の方法

II. 人的会社

- (1) 個人企業の特質と限界
- (2) 合名会社の形成と特質
- (3) 合名会社内部の変化
- (4) 合資会社の形成と特質
- (5) 有限会社の成立要件
- (6) 有限会社の意図と地位

III. 株式会社

- (1) 初期株式会社の成立事情
- (2) 人的会社と近代株式会社
- (3) 資本の動化
- (4) 擬制資本および株価の形成
- (5) 自己資本の他人資本化
- (6) 創業者利得のヒルファディングによる解明
- (7) 株式会社の機能資本家
- (8) 創業者利得の取得形態
- (9) 現代株式会社の主内容
- (10) 配当利子化の二段階
- (11) 自己金融
- (12) 経営者支配の諸問題
- (13) 株式各論

IV. 公企業

- (1) 主要国における公企業の設立事情
- (2) 現代資本主義のもとにある公企業の性格と役割

V. 企業の民主化・国有化・社会化

VI. 自主管理企業

- (1) 自主管理連合労働体制
- (2) 体制転換（株式会社化）

VII. 米国自動車企業各論

<管理論講義目次>

- I. 現場肉体労働者に対する管理としての管理論の成立 — ティラーシステムにおける管理機能と執行労働の分離
- II. 全般的管理への拡大としての管理論 — 中間管理者に対する管理（分権管理）とトップ・マネジメントの経営戦略
- III. ドラッカー理論の主内容および現代的意義と限界
- IV. 人間主義的管理論の意義 — 管理のための管理論から人間の幸福に奉仕する管理論へ

<成績評価>

年度途中における平常試験を1～2回実施して，多数の必修履修者間の学力格差を解消しつつ，期末試験の成績との総合評価（単なる算術平均はしない）を行う。平常試験は原則として口頭出題の筆記試験であるが，口頭試問（数名単位で最前列に呼び出し，論理的誘導質問による1問1答の討論形式）も実施したい。レポートによる単位認定は一切行わない。尚，期末総合評価においては，全員の成績が万一悪い場合には相対評価法を導入して救済する。

<注 意>

- (1) 大教場における前列席が空席にもかかわらず最後尾に着席せし者並びに講義中に私語をする者に対しては授業時間中に講義内容について指名質問を行うことにしている。
- (2) 4～5月中及び9月最初の授業時間には，原則として授業内容の復習として5～15分間最初に再度要点を喋る。これで学生の理解が高まるものと思う。
- (3) 授業に出て真剣に講義を聴くこと。そうでないと答案が書けません。論理を真に理解すれば暗記は一切不要である。意味が判らずに暗記しても全く無駄である。
- (4) 教科書については，最初の授業で指示する。参考書については，授業の進行に応じ言及したい。

統計原論

吉野 紀

現代の統計学の基本は推測統計学にあるという認識に立って講義を進めてゆく。できるだけ多くの時間を回帰分析の説明に充て，現実の経済現象から採られた経済データを用い，経済分析との接合に意を尽くしたい。いわば数量的経済分析の基礎ともいべき内容を解くことになる。『白書』や各種の公表されたペーパーに多用されている様々な回帰式の理解と評価ができるようになれば，

本講の目的の一部は達成されたといえるであろう。
〈授業計画〉(順序と項目)

1. 記述統計 — 標本データの整理 —
度数分布表
統計値(平均値, 中央値, 最頻値)
散らばりを表す統計値(分散, 標準偏差)
2. 確率変数と確率分布
2項分布
正規分布
3. 標本抽出と標本分布
ランダム・サンプリング
中心極限定理
t分布
4. 統計的推定
推定とは何か
平均値の区間推定
5. 検定
検定とは何か
平均値の検定
6. 回帰分析 I
単純回帰モデル
最小2乗法
回帰と相関
7. 回帰分析 II
回帰における統計的推論
多変量回帰(重回帰)
8. 経済成長の見方
弾力性の話
eの話

2講では, 2項分布や正規分布の分布の様子を見るために, パソコンでプリント・アウトさせた資料を配布して, 具体的なイメージを持ってもらえるよう努めたい。

6, 7講では, 予め用意したデータをパソコンにインプットして, 実際に走らせると同時に, グラフ上にプロットされたデータの姿と回帰線との相互関係が目視できれば望ましいであろう。

数学上の知識は特に前提とはしない。

〔教科書〕『現代統計解析』(芦書房)

簿記論

島崎規子

〈講義目的(要旨)〉

最も授業で目的とする点は, 簿記とは, どのようなものであるかを知ってもらい, 簿記の面白さを理解し, 好きになってもらいたいことである。

周知のとおり簿記の範囲は, きわめて広範囲でかつ複雑である。

そこで, 本講義では, 前期は複式簿記の基礎知識に重点をおき, 後期は, これらを活用した具体

的な問題を中心に取扱い, これから簿記検定を受験する者や, 経理で活躍しようとする者にすぐ役立つよう体系的に講述する。

〈授業内容・授業計画〉

講義の大筋は, 次のとおりである。

〈前期〉— 簿記の基礎編 —

- ① 簿記の主要概念
- ② 取引, 仕訳, 勘定記入
- ③ 決算手続, 試算表, 精算表(その1)
- ④ 決算整理と精算表(その2)
- ⑤ 貸借対照表と損益計算書

〈後期〉— 主要取引の処理編 —

- ⑥ 現金, 預金, 有価証券取引
- ⑦ 商品売買, 掛と掛以外の債権・債務取引
- ⑧ 固定資産, 手形, 資本取引

〈評価方法〉

出席および筆記試験。平常点をあげる場合もあります。また, 小テストなども評価に加えます。

〔教科書〕下野・島崎・石田共著『複式簿記の理論と演習』(中央経済社) ¥2,900

財務会計論

遠藤孝

〈授業の主たる内容〉

会計学, とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計(FINANCIAL ACCOUNTING)について, その伝達, 開示の手段である貸借対照表(BALANCE SHEET), 損益計算書(INCOME STATEMENT)を中心に, その性質, 内容, 役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので, 企業会計とは何か, 企業が作成する貸借対照表などの決算書は, どのようにして作成されるか, それはどのような性質, 内容をもつものであるか, それはどのような役割を果たすものであるか, また決算書はどのように読んだら良いのか, など実例をもって説明する。

〈授業形態, 講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

- ① 4月第1週
企業会計, 財務会計とは何か。
会計学, 財務会計論とは何か。その企業会計, 財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引き続き, 企業会計, 財務会計とは何か。企業会計, 財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週

財務会計の制度性について。
企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、
各国企業会計制度のタイプ。

- ④ 5月第2週
先週に引続き、日本の企業会計制度の問題点、
「企業会計原則」について。
- ⑤ 5月第3週
貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に
企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照
表の役割、貸借対照表学説。
- ⑥ 6月第1週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の
評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題
点。
- ⑦ 6月第2週
資産評価について。固定資産の評価、土地評
価、減価償却について。
- ⑧ 6月第3週
繰延資産について。繰延資産の特殊性、繰延
資産項目とその償却。
- ⑨ 6月第4週
引当金について、引当金とは何か。引当金の
設定基準 — 商法、「企業会計原則」の引当
金、引当金会計の問題点。
- ⑩ 7月第1週
同上
- ⑪ 7月第2週
資本会計について。
- 後期
- ⑫ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑬ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑭ 9月第3週
同上
- ⑮ 10月第1週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表(書)
- ⑯ 10月第2週
同上
- ⑰ 10月第3週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- ⑱ 10月第4週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
- ⑲ 11月第1週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第2週
同上
- ㉑ 11月第3週
日本、世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同上
- ㉓ 12月第2週

会計学を学ぶについて考えるべきこと。 —
総括

㉔ 最終週
予備

以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など
大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。
〔教科書〕講義の際指示。

憲 法

清 水 睦

1. 日本国憲法を中心にして、内外の政治の動き
や裁判所の判決など、新聞、テレビ、ラジオ
などで報道される事柄も、その折々に話の中
にとりいれて講義するつもりです。
2. 憲法は国の法の中で最も根本的な法であり、
人体に例えれば骨格にあたります。この骨格
がガタガタしては、人の生命は危うくなりま
す。まして生き生きと生活することはできま
せん。ただ憲法と人体の骨格と違うところは、
骨格は一応、与えられたものですが、日本国
憲法は、国民が選んで今日まで支持している
ということです。国民が望まなければ、憲法
をそっくり変える(「改正」といいます)こ
とだってできるのです。しかし、骨格はそれ
はできませんね。大切なことは、民主主義的
な憲法といわれる日本国憲法の中味をよく知
って、それが各人からなる国民の幸せな生活
に役立つかどうかをめいめいが判断できるよ
うになることです。
このことは、皆さんが就職したところで、
なんらかの形でかかわり合いになる法律等の
基礎にあるのが憲法だからというにとどまら
ない、憲法を学ぶ別の意義を語っているの
です。
3. 私の講義は以上のことをふまえ、さらに、憲
法の重要な柱である「人権の保障」について
とくに力を入れ国際社会を視野にいれて行い
ます。したがって、これもまた憲法の原理と
なっている「平和主義」についてのべること
が、国際社会の人権保障の問題と結びつくこ
ともおわかりでしょう。
4. 授業は履修者数の関係から講義方式で行いま
す。しかし、学習効果を期待し、時には時事
問題(政治、社会問題をおもに)について対
話の機会も持ちたいものと考えています。
5. 授業についてのスケジュールは、おおむね次
のとおりです。
(1) 憲法とは(憲法と国家とのかかわり)、

(2) 近代憲法の基本原理(国民主権, 人権の保障, 権力分立の各原則), (3) 近代憲法の原理の史的展開, (4) 現代世界の憲法状況, (5) 明治憲法から日本国憲法へ, (6) 日本国憲法の基本原理(国民主権, 基本的人権の保障, 永久平和主義), (7) 憲法第9条の解釈と現状, (8) 日本国憲法の前文について, (9) 人権の憲法構造(人権總論), (10) 幸福追求の権利, (11) 法の下の平等という原則, (12) 内心の自由, (13) 表現の自由(言論・出版の自由, 行動の自由, 知る権利), (14) 信教(宗教)の自由, (15) 学問の自由と教育の自由, (16) 人身の自由, (17) 職業選択・営業の自由, (18) 財産権の保障, (19) 政治的権利(国民の政治にかかわる権利), (20) 国家に対して賠償, 補償を求める権利, (21) 生活保障に関する権利(憲法25, 27, 28各条), (22) 教育を受ける権利, (23) 国会に関する憲法上の重要原則, (24) 国会の権限と議院の権限, (25) 内閣, (26) 財政に関する憲法原則, (27) 裁判所の仕組と権限, (28) 裁判官について, (29) 違憲立法審査権について, (30) 地方自治の憲法構造, (31) 天皇の制度, (32) 憲法の変動(改正を含む)と憲法の保障

6. 時々出席をとります。昨年度は欠席はマイナスの評価の基準にはしませんでした。今年度はまだ決めていません。マイナス評価するには毎回出席をとる必要があります。履修者数によってどうするかを決めたいと思います。

7. 教科書, 指定図書は必ず手元に置き, 授業の時は持参すること。ノートを授業中にとること。ぼやーと聴き流しているように見受けられる学生が多いので念のため。

〔教科書〕清水 睦『憲法』(南雲堂) ¥3,700

〔参考書〕六法全書(ポケット六法)(有斐閣)

¥1,200 または,

コンパクト六法(岩波書店)

芦部信喜編『判例ハンドブック〔憲法〕』

〔第2版〕(日本評論社) ¥1100

民法 -- 部

青野 博之

<講義目的(要旨)>

生活に関連するものとして, 民法を学ぶ。民法の最初ということで, 民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが, 物権法も, もちろん講義対象である。せうかく民法を学ぶつもりになったのであれば, 民法全体のイメージをつかむためにも, 民法の体系性からしても, できれば, 民

法二部も続けて受講してほしい。

民法総則・物権法の中で, 自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみるができるようになれば, 講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか(権利), 自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか(義務)を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者はそれほど多くないことが予想されるので, 私から受講者に質問しつつ, 受講者に自分で民法の条文を読み上げていただきながら, 私の講義を聞いていただくことになると思われる。

<授業内容・授業計画>

前期

民法総則のうち法律行為の前半まで(民法一条から一一八条まで)。

4月, 序説(たとえば, 自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か, 他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか)。

5月, 自然人(たとえば, 未成年者が契約をするときにどんな問題があるか)。

6月, 法人(たとえば, 法人という制度を認めることによってどんな利点があり, どんな弊害が発生するか), 物

7月, 法律行為(たとえば, 契約は自由であるとはどういう意味か)。

後期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで, および物権法(民法一一九条から三九八条の二二まで)。

9月, 法律行為(たとえば, 契約を取り消すことができるのはどんな場合か, 契約を取り消すとどうなるか), 期間, 時効(たとえば, 時効という制度はなんのために認められているか)。

10月, 物権総論(たとえば, 物権は債権とどこが違うか), 物権変動(たとえば, マンションを買った場合には何をしなければいけないか)。

11月, 占有権, 所有権, 用益物権(たとえば, 土地を借りるとどんな権利が発生するか)。

12月, 担保物権(たとえば, 土地を買うためにお金を借りやすいのはなぜか)。

1月, 質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の始めと終わりに答えるが, それとは別に質問時間を設ける)。

<評価方法>

出席して質問をした回数, およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので, これに答えてくだされば, これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく, 自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので, 安心して質問に答えてほしい。出

席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。なお、評価は、年度末の試験で最終的には決まる。

〈教材〉

教科書：我妻 栄・有泉 亨著（川井 健補訂）『民法1（総則・物権法）』（一粒社），教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』（有斐閣），『コンパクト六法』（岩波書店），『デイリー六法』（三省堂）などの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。『口語～』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましいが、多少古くても少なくとも受講する上では支障はない。もっとも、法令索引で「借地借家法」が掲載されているかを調べて、この法律が掲載されているものの方が望ましい。しかし、借地借家法が掲載されていない六法を買ってしまったとしても単位の取得に致命傷を与えるというほどのものではない。

3 年次必修科目

時事外国語（英語）

石原 孝 哉

〈要 旨〉

新聞英語の基礎を学ぶとともに、新聞を通じて広い教養を身につけることを目指します。

〈授業内容〉

新聞記事をスタイルの面から、ごく大まかに分類すると、出来るだけ早く、正しく、事実を伝えることを目的とするニュース記事と、世論をリードし、啓蒙するオピニオン・リーダーとしての役目があります。

この二つは形やスタイル、構成なども違っているために、別々に学習することが理想的です。

この講座では、日々に変化するニュース記事については、最初に一般的な特徴やルールなどの説明をし、あとは典型的な新聞記事をプリントにし

て配布いたします。

一方、論説やコラムなどについては、教科書を読みながら勉強してゆきます。

〈評価方法〉

出席を重視します。なお折にふれて新聞英語のレポートを出してもらいますが、この内容も重視します。

なお、前期末にも中間試験をおこない、期末試験と同等に評価します。

〔教科書〕石原孝哉，市川 仁

Human Documents in Newspapers

『新々・現代の映像』（南雲堂）

¥1,300

時事外国語（英語）

岡 崎 寿一郎

〈講義目的（要旨）〉

各種英字新聞の記事を教材とする時事英語の総合教材を使用し、英字新聞記事についての精密な読解と解説によって現代社会と国際情報にたいする理解を深める。

〈授業内容・授業計画〉

The New York Times, the Asahi Evening News など各種の英字新聞記事についての精密な読解と内容の問題分析、また付設された練習課題の解答を通して、政治・経済・外交・軍事・環境保護からスポーツにいたるまで多方面の英語ニュースを理解するとともに時事英語についての語学的知識を豊富にする。

〈評価方法〉

前期の評価は、後期授業の予習を目的としたレポートを課す。後期の評価は、年間授業の学習の成果をみるために、辞書の使用を許可し、出題範囲を定めない筆記試験を定期試験期間中に行う。なお、平常の出席は重視して評価に加える。

〔教科書〕『時事英語の総合演習』（1993年度版）（朝日出版社）¥1,250

〔参考書等〕教場にて指示する。

時事外国語（英語）

小笠原 隆 元

日々世界的に展開されている通商貿易に関連して各地でおこっている摩擦問題は複雑化の様相を呈している。例えば日米貿易摩擦についてはよく知られるところであるが、日本側からの対応は必ずしも日米対等の立場で充分なる主張がなされていないように思う。経済学部三年次生の諸君に

時事英語の理解力、特に日本人としての立場、主体性を持って経済摩擦についても一家言を持てる力を養う為に学生諸君と共に努力したいと願い、このクラスを開講したい。

テキスト（英文で200ページのもの）を全頁にわたり受講生諸君（40人と想定して）全員に割り当ててゼミ形式の形で進めたい。学生一人当たり4～5頁分を担当して訳文、論評を必ず作成することを条件にしますので、受講生諸君はよく心得て参加してほしい。

〔教科書〕『Fact and Friction（事実と摩擦）』（JAPAN TIMES 社刊）¥2,200
（受講生は必ず購入のこと）

Made in Japan
（DUTTON社刊）¥3,240
Made in Japan
（Passport Books社刊）¥4,130
→この二書より関連する部分をコピーして配布する。

トが出来あがっていないため、具体的に示すことはできない。

時事外国語（英語）

河内賢隆

東ドイツやソ連邦の解体に見受けられるように、世界の政治や経済は時々刻々と変化しています。又一方で、宇宙ロケット等に象徴される様に科学技術の進歩や発展にも実に目ざましいものがあります。その様な世界状況の中で、英語は世界語といっても良いかと思えます。その英語を通して、今や我々の身近な問題となった世界情勢に接し、英語力のブラッシュ・アップを期したいと思えます。特にスクール・グラマーで学ばなかった倒置・省略、修辭的表現等に留意したいと思えます。この表現こそ生きた英語です。

時事外国語（英語）

落合和昭

〈講義目的（要旨）〉

英字新聞、および、英文雑誌の種々の記事の読解を目的とする。

〈授業内容・授業計画〉

前期は英字新聞入門コース。国内で発行されている英字新聞を中心に、比較的読みやすい記事ができるだけ広範囲（社会、文化、政治、経済、科学、家庭生活、社説、コラム等）にわたって、できるだけ数多く読む。

後期は英字新聞応用、および、英文雑誌コース。前期よりもさらに難解な国内・国外の英字新聞や外国の英文雑誌（タイム、ニュース・ウィーク等）の記事を読む。また、同じ出来事、事件であっても、国内と国外ではその取り扱い方、分析の仕方が異なる場合がある。そのような場合、国内と国外ではどのように視点が異なるかも探ってみよう。

〈評価方法〉

筆記試験、および、発表。筆記試験は定期試験のかたちでは行わず、そのかわりに授業内に筆記試験を前期3回、後期3回行う。また、授業形態は徹底的な演習形式をとるため、学生には毎回記事を割り当て、訳してもらい。評価は筆記試験60点、授業中の発表が40点、計100点とする。出席は筆記試験を除く全授業回数のうち2/3以上なければ、成績は不可とする。

〈教材〉

教材は、この授業計画書を書いている現時点では、多くの出版社の来年度版の時事英語のテキ

時事外国語（英語）

清水祐次

〈授業の目的及び内容〉

時事英語の代表的な分野である新聞・雑誌の英文記事を取扱うことにより、その独特のスタイル、語法等に親しみ、習熟すると共に、同時代に進行中のなまの記事内容にふれることによって、世界の政治、経済、文化等の動きや流れについて考え、理解を深めたい。

〈評価の方法〉

前期・後期のテスト及び平常点によって総合評価する。

〔教科書〕浅野・木塚編注『World Events '93』（金星堂）¥1,500

時事外国語（英語）

田中保

〈講義目的（要旨）〉

時事外国語（英語）を学ぶ目的は、英語で新聞や雑誌などのニュースを読み、理解することである。そのためには、まず英語の力をつけることと、日頃から国内、国外の問題に関心をもち世界的視野で社会の動きを見ることが大切である。

〈授業内容・授業計画〉

前期は指定したテキストを発表形式で読み、後期は新聞・雑誌のコピーによってニュース記事を、その場で辞書を使用して日本語に訳出し、時事英

語に関する特有の英語表現や略語などの勉強をし、その紹介文の内容を説明した後、毎回訳出文を提出してもらいます。出席を重視し、時折授業内でテストを行います。意欲のある学生諸君の参加を希望します。

〈評価方法〉

出席・発表・授業内試験・レポート提出等によって成績を評価する。

〔テキスト・参考書〕開講時に発表します。

時事外国語（英語）

丹 治 弘 昌

前期は時事英語の基礎的な語彙についてのドリルを行い、単語力の向上をはかりたい。講義というよりも、練習問題を数多くこなす訓練の時間ぐらいに考えてもらいたい。

後期は英文週刊誌のなかから、やさしい記事を選んで読んでいき、次第に難しいものへと発展させていきたい。

なお、随時、アジア版と本国版を比較したり、日本語のニュースを英訳する作業を加味するつもりである。

〔テキスト・参考書〕開講時に指定します。

時事外国語（英語）

林 明 人

〈演習目的（要旨）〉

時事に関する英字新聞を読み、その独自のスタイルに慣れ、基本的な時事用語をおぼえる。最終的にはジャパン・タイムズの第一面を辞書を用いなくてもほぼ把握できるようになることを目指す。さらにはそれを基盤として、個人的に社会に対する興味を持つことが望まれる。

〈授業内容・授業計画〉

内容に関しては、なるべく政治経済、国際情勢などに関する最新のニュースをとりあげる。またテープを利用することもある。（例えば、昨年はクリントンとブッシュの大統領候補指名受諾演説を聞いた。）

授業の形態は演習方式で、毎時間学生による発表で授業を進めていく。各自必ず辞書を持参すること。なお、遅刻は交通機関の都合によるもの以外は一切認めない。

〈評価方法〉

ペーパーテスト、小テスト、発表、レポート、出席による総合評価

〔教科書〕授業内に指示。

プリント配布。

〔参考書〕*The Oxford Dictionary of New Words*
(Oxford, 1991) ¥4,799

時事外国語（英語）

前 田 脩

基本的には、経済学説史の原書講読を行います。それによって英語による経済学の考え方を学び、同時に、初歩的な英語の経済用語を覚えてゆきます。

〈評価方法〉

前期、後期の本試験の他、前後一回ずつ英語の経済用語についての小テストを行います。前述のように、基本は原書講読ですので出席も重視します。

〔教科書〕*The World of Economics* (Macmillan)
¥5,100

時事外国語（英語）

牧 野 輝 良

〈講義目的〉

英字新聞を読めるように訓練する。

〈授業内容・授業計画〉

最初に時事英語のテキストにより、英文の記事の構成、特徴等を学習し、経済、法律、科学、スポーツ等さまざまな関係記事にふれて、時事英語に一応慣れた後に、英字新聞に移る。多読、速読により、英字新聞が身近かなものとなるように努める。

授業は全員参加を旨とし、各人指名、発表という形式をとり、毎授業の終わりには英文の間に英文による解答を書き提出する。

〈評価方法〉

授業中のリーディング、和訳、レポート、期末テスト等による総合点にて評価する。

〔教科書〕安田・松田編『CURRENT ENGLISH』
(成美堂) ¥1,400

時事外国語（英語）

町 田 尚 子

このコースは海外で発行されている英字新聞が読みこなせるようになることを第一の目的としています。ジャーナリズム、特に報道の英語は読み手に情報あるいは記者・論説者の意見を正確に伝

えることを旨としているので、一定の約束事と特有の表現法と文体に習熟すれば、ニューヨークタイムズでもそれほど苦勞せずに読めるようになります。

第二の目的は日本の経済・政治・社会に関する出来事や問題が海外の英字新聞でその国あるいは土地の読者にどのように紹介され、論じられているかを読み、外からの視点に接することです。日本で報道されている問題を「世界から見た日本」という観点からもう一度考えてみようと思うのです。

〈授業内容・授業計画〉

前期（5月中旬まで）

1. 英字新聞概説（下記タイトルを中心に説明します。）
 - “Why read overseas English newspapers?”
 - “What are the elements of the English newspaper?”
 - “The form of news story”
 - “Never ever jump the headline!-its functions and grammar”
 - “The inverted pyramid”
2. 新聞英語の文体について

同格構文、埋込み文（関係節、補文）が多用される英語の読み方のコツとパラグラフ展開に焦点を当てて説明します。

（5月中旬以降）

ガットのウルグアイ・ラウンド／コメの市場開放問題、対ロシア経済支援／北方領土問題、日本の国際協力・援助／平和維持活動参加、アジアの近隣諸国との関係等に関連した記事を教材として準備して、渡します。各担当者が概要と問題点を発表する演習形式で授業を進めます。ニューヨークタイムズ、ロンドンタイムズ、サンデイタイムズ、ストレイツタイムズ（シンガポール）等から取る予定です。

後 期

前期のニュース記事から、特に10月中旬以降は、論説・社説、特集記事の読みに集中します。“Four Pathways Japan Might Take”（*The New York Times* ; Economic Scene）, “Japan’s Better Example”（*The New York Times* ; editorial）その他を扱います。

〈評価方法〉

担当発表の平常点と前期・後期の筆記試験で評価します。

〔教科書〕上記、記事等のプリント

〈演習目的〉

海外情報収集とその分析と総合によってテキスト読みと想像力の育成に眼目。英字新聞・雑誌や原書テキストを使用して、語彙、英語のヴァリエーション、パラグラフの捉え方に留意し、速読を目指す。語学的・技術的なものを修得しながら、最終目標は時事問題（現象）の背後にある不可視的な構造とイデオロギーを捉え、それを自分の現実的な問題として捉え直す習練、いわば観念連合の涵養である。具体的には、時事問題を取り上げ、スピーチやグループ討論などによって英語表現・コミュニケーションの論理的展開方法や英語的発想法を修得してゆく。そのためには英字新聞・雑誌の講読はこの演習の前提条件となる。

〈授業内容・授業計画〉

前 期

英字新聞・雑誌の語彙と構文を習熟することを目指す。“The Japan Times”とテープも利用する。同時に本年度は「アジアにおける日本の役割」を考えるための以下のテキストを読む。

1. The Wealth of Japan : a Reappraisal
2. Dangerous Illusions
3. Opening communications as well as Markets
4. Japan’s Role in Asia

日本の国土的・経済的・産業的現状を理解するための資料、日米の歴史的発展過程、人口問題、労働問題、資源問題、環境問題などの情報を得て、グローバル視点からアジア的日本を考えるよう試みる。マクロからミクロへの観念連合の習熟。

後 期

速読からアイデアをつかみ、時事的な問題を考える討論形式を導入する。さまざまなトピックスについての肯定と否定を判断するのに参考となるテキストを読み、しかる後にその考えを基にして各授業の後半には自分の考え方を表現できるように努める。各授業のトピックス（各1回）は以下の通りである。

1. The Supreme Penalty
2. Socialism
3. student Activism
4. divorce
5. Natural Resources
6. Life After Death
7. Rice Policy
8. Cancer
9. Censorship
10. Japanese

11. Japan's Purity
12. The Nature of Reality
13. The Study of English

〈評価方法〉

出席、平常点、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）、前期・後期の語学試験などの総合評価。

〔教科書〕前期：Beyond National Borders
（桐原書店）

後期：That's Your Opinion
（朝日出版）

〔参考書〕随時指示する。適宜コピーも配布する。

受講者は必ず予習してくること。

〈評価方法〉

平常点および前・後期のテスト

〔教科書〕中條 忍『新聞を読もう！（第2集）』
（駿河台出版）

〔ビデオ〕L'Histoire immédiate（目の前の歴史）
（早美出版）テキスト・プリント

時事外国語（ドイツ語）

松本洋子

ドイツの新聞や雑誌が日本の政治、経済をどのようにとらえ、報じているかを知ることがきわめて興味深いことである。これらの記事を読みながら、2年間習得した語学力をさらに向上させ、新聞、雑誌等の文章になれ、親しんでもらうようにする。（教材はDie ZeitやDer Spiegelの日本関連の記事、また教科書「ドイツの新聞にみる日本」「ドイツ人の見た日本」の中の幾つかの記事をその都度プリントして配布する。なお参加者全員には、配布された教材を、授業で行う予定箇所まで予習してくることを義務づける。成績評価は授業での平常点を重視する。）

時事外国語（フランス語）

加藤節子

〈授業内容・授業計画〉

前期は、新聞を読むための基本的文体や時事用語に慣れることを目的として、le Monde紙（インテリ向け中道派日刊紙）、le Parisien紙（大衆的日刊地方紙）、le Matin紙（左派の日刊紙）、libération紙（進歩的日刊紙）、France-Soir紙（大衆的日刊紙）、les Echos紙（経済関係日刊紙）等からの記事をつめた教科書を用いる。また時に応じてルモンド紙からアクチュアルな記事をプリントして読む。

後期は、フランステレビ局の製作したビデオを使って、フランス社会の最近の10年間の変化に関する分析（エマニュエル・トッドによる）に基づいて、さまざまな都市を訪れ、伝統的価値観の変化をみてゆく。例えばカトリック教会の衰退、労働者階級のゆるやかな減少、伝統的家庭の崩壊、移民の問題等、受講者の希望によって選択する。

時事外国語（中国語）

小川 隆

〈講義目的（要項）〉

中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎をもとに、実際的な調査・研究の用に堪える読解力の養成をめざします。具体的には、辞書をたよりに新聞・雑誌・論文などが読めるようになることを、最低の目標とします。

〈授業内容・授業計画〉

まず第一回めに発音の総復習と辞書・参考書の紹介等を行います。ついで前期中は、基本文法を復習しつつ、教材用に再編集された新聞記事（発音記号と注釈のついたもの）を読み、後期には、新聞・雑誌から直接採ったナマの文章へと進んでゆきます。

また、新聞・雑誌の内容を理解する為には、その背景にある政治の流れや社会の状況、いわば文の脈絡を外から支えている事実の脈絡を、巨視的に把握している必要があるでしょう。そこで授業の中でも、テキストと並行して、適宜ビデオやプリントを使い、中国の状況をご紹介してゆくつもりです。皆さんご自身も、日ごろから中国関係の報道に持続的に注意するよう努めて下さい。

〈評価方法〉

成績は、定期試験によらず、もっぱら平常点によって評価します。格別やむをえぬ場合以外は欠席しないこと、毎回必ず予習をしておくこと、この二点を条件とします。とくに教材準備等の都合上、第一回の授業には必ず出席して下さい。まじめにとりくむ意欲のない人は、はじめから履修をおこわりします。逆に努力する意志さえあれば、中国語の基礎学力に不安がある人でも、責任をもって初歩から懇切に指導します。

〈教材〉

テキストと関連資料は、随時プリントで配布します。その他に、『中日辞典』（小学館・¥7,000）、『現代中国語辞典』（光生館・¥6,500）、『中日大辞典』（大修館・¥8,858）のうち、一種は手許に用意して下さい。これより小さいものは殆ど実用に堪えませんので、どうしても購入不可能な場合は、図書館参考室を利用して下さい。また文法事項の自習用に、山下輝彦『中国語の入門』

(白水社・¥1,800), 中国関係の便覧として三菱総合研究所『中国情報ハンドブック』(蒼蒼社・¥2,000)をおすすめしておきます。辞書・参考書については教場であらためてご説明します。

時事外国語 (スペイン語)

細川幸夫

時事スペイン語の授業であるから、教材はスペインの新聞から社会全般にわたる今日的な内容のものを選び、社会・スポーツ・文化・経済・政治などの分野の文章にも慣れると同時に、いままでに修得したスペイン語文法の基礎を活用・応用して語学の向上に努める。

〔教科書〕プリントにして配布します。

時事外国語 (ロシア語)

杉山秀子

〈講義目的〉

本講座は時事ロシア語文を中心とし、広くロシア語で書かれた社会科学文献の要旨をきちんと把握し得るための基礎力を養成することを第一の目的とします。

〈授業計画・授業内容〉

前期：4月から7月後半まで

格の応用、関係代名詞をつかった複文、副動詞、形動詞の用法を扱った中級文法を復習しながら、やさしいアネクドットや笑話、平易に書かれた新聞の切りぬき等を取りあげ、ロシア語らしい文章の表現法に馴れる練習をします。更に帝国主義論の序文および一節を取りあげ、形動詞をつかった文章が実際にどのように構築されているかを詳細にとりあげ、格調の高い名文を味わって欲しいと思います。

後期：9月から10月前半まで

本格的生の新聞・雑誌を読む前にクロコディール(風刺漫画新聞)の広告文や短文の中で生きた現代ロシア語文に触れていきます。これらの文章は大人向けのもので、もちろん力点(アクセント記号)はついていませんので、授業に出る前にはどこに力点があるのか各人が辞書できちんとしらべる必要があります。

10月後半から1月まで

揺れ動く現代ロシア社会の実相を伝えるブラウザリテラトゥールナヤ・ガゼータを取りあげ、特にペレストロイカ以降にぞくぞくと出てきた新造語に注目しつつ文章の大意を把握する訓練をします。

〈評価方法〉

出席および平常点を重視します。

ゼミナール形式で一人一人発表し、その内容いかなも平常点に加算されます。

与えられた文章を単に眼で追うだけでなく、発音や正しい力点のおき方、イントネーションの構造のうちの第何式をとるかなども問題にします。ロシア語の文章を常に声を出してきちんと読めるかどうか、そのつど一人一人、点検します。

〈教材〉

プリント配布(無料)しますが、配布されたプリントはそのつど必ず持参して下さい。紛失の場合は再交付しませんから、自分で責任をもってコピーをして下さい。

〔教科書〕教場にてプリント配布

〔参考書〕NHKロシア語初級教科書文法表
露和辞典

3・4年次選択科目

経済学史

福原好喜

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では世界資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体系化の歩みを、近代資本主義の成立並びに確立過程の中に位置づけるというのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学及び経済学史に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。授業は前半で近代ヨーロッパの生成史を、英、仏、独について概括し、後半で各国経済学の成立史を講義する。

価格理論

荒木 勝 啓

価格理論で何を学ぶか。

ある1つの基本コンセプトないしキーワードを手がかりとしてその背後に存在する大きな広がりや次々と明らかになっていくという例は多いが、経済学における「価格」はその代表であろう。

有名な例をあげてみよう。例えば身近にある1本100円の鉛筆。支払った100円はどのようなのであろうか。そのうち10円は文房具屋の店主の利潤となり20円は店員の賃金に払われる。(1:2の割合とする)。残り70円はどのようなか?三菱鉛筆KKに仕入値として支払われるであろう。そのうち5円は三菱の会社と株主に10円は三菱の労働者に支払われるであろう(この場合も1:2としよう)。残り55円はどのようなか。同様に例えば木材業者に支払われ、以下同様のことがくり返され、こうして100円は部分部分が1:2の割合でフラクタルのように細分化され、人々に分配されつくすのである。即ち100円は「鉛筆」に対して支払われたのではなくことごとく「人」に対して支払われたのである(このことはスミスのドグマとも完全分配ともいわれる)。

こうして何気ない1本100円の鉛筆の中には、世の中の投入・産出(または仕入販売)を通じた生産構造ないし産業連関構造が組み込まれており、と同時に一種の社会関係である分配構造が金太郎アメのごとく埋め込まれていることがわかる。すると次のようなことが言えないだろうか。生産構造が変われば(例えば技術変化)、すべての価格体系(鉛筆も含めて)変化するであろう。また分配関係が変わればやはりすべての価格体系は変化するであろう。これらの性質は、この講義の始めの方で登場する多部門モデルの用語を使っていると、第1の方は、価格体系が生産の物量体系に対する双対(デュアル)モデルであることから導かれ、第2の方は価格体系が均等利潤率のもとで分配関係から独立ではないという命題から導かれるのである。かくして日常的用語「価格」は、大きな経済構造の中に置かれたあるいはそれを背景とした相互依存的成分へと変身するのである。

(1) 2部門モデルによる価格決定の依存性(産業連関分析)

(2) 2部門モデルによる分配と価格の依存性(リカード=スラフファモデル)

このことはさらに詳細に検討されよう。

ところで今100円という価格で限られた予算の中から(他の財の購入を抑えて)鉛筆を「買った」ということは、その背後に当該個人の選択ないし最適化行動があったと考えてよいであろう。すな

わち価格を経済の構造の中に置かれた被決定因とみるのではなく、個別主体にとっては最適化のパラメーター(または「所与」とみなすことも可能である。すると、理論の展開は、主体的均衡の理論へも発展していくことが可能である。後期は主としてこの方向で講義を行う。

(3) ラグランジュ乗数法(制約付最適化手法)

(4) 消費者選択理論

(5) 企業行動の理論

i) 競争的企業

ii) 独占的企業

iii) 需要の価格弾力性の応用(マーシャルニラーナー条件)

(6) 市場均衡

原論のマイクロ部分と異なる点は(3)に重点が置かれ、従って、理論構築上の基本的技法が完全にマスターできる点にある。この習得のためには時間をたっぷり取る。例えば $u = f(x_1, x_2)$ がなぜ「曲面」なのかといった案外あたり前にみえてそうでもない基本的事項に十分時間を費やすであろう。(3)が理解できてしまえば後は水が低きに流れるがごとく順調に進むであろう。以下、

(7) パレート最適と競争的均衡・コア

(8) 余剰分析

(9) 市場の失敗・外部性・公共財

(10) 寡占の理論(クールノー解・シュタッケルベルク解)

(11) 不完全競争諸理論

(12) ゲーム理論の基礎

と続く。

成績評価の方法は、次のような期末試験を行う。

I. 計算問題(2題のうち1題選択) 配点60点

II. 記述式問題(または、計算問題) 配点40点

ノート・本・電卓持込可

[教科書] 浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』(成蹊堂)

[参考書] ヘンダーソン・クォント『現代経済学』増補版(創文社)

武隈慎一『マイクロ経済学』(新世社)

¥2,884

国民所得論

吉野 紀

220万の法人企業、6,200万人の就業者、そして4,200万の世帯、これらの間でさまざまな生産活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入っ

て、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りくんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産（GNP）440兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ（巨視的）分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

- 「国民経済計算」…………… 5回
GNP, GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。
- 「平成2年日本経済の循環図」（配布資料）
- 『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡（日経文庫）
- 「総需要・均衡産出量、均衡所得」…………… 4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。
- 『入門マクロ経済学』中谷（日本評論社）第3章
- 「貨幣・利率および同時均衡」…………… 8回
この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。
- 「金融政策、財政政策」…………… 4回
前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。
- 『マクロ経済学（上）』ドーンブッシュ・フィッシャー（マグローヒル）第4章
- 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」…………… 4回
これまで扱われてきたのは、財やサービスの取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わせられる。
- 「最終講義」…………… 1回

平成5年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

〈成績評価〉

- 期末試験…………… 85%
 - 2回の練習問題の提出（2回とも提出することが条件）…………… 15%
- なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君（年間15名前後）には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもある。

〔教科書〕開講時に指示する。

景気変動論

西村 允 克

〈講義目的〉

長期的にみれば、市場経済は生活水準の飛躍的上昇を実現してきた。しかし、この上昇過程はスムーズな上昇過程ではなく、好況と不況という2つの現象を交替的かつ周期的に繰り返しながらの上昇過程であった。この現象が景気変動（景気循環）である。この景気変動の過程を理論的、歴史的、統計的に説明することが、景気変動論の目的である。

講義は教科書を用いて行うが、教科書は講義の素材であり、講義そのものではないことを充分銘記して受講されたい。講義内容はむずかしいものではなく、経済理論を学ぶための基礎的な考え方に充分配慮して進めるから、受講者は基礎的な考え方を講義のそれぞれの局面において繰り返し適用することによって、自らの学習効果を最大にするように工夫されている。

〈授業内容・授業計画〉

景気変動は全体としての経済の問題であるから、前期では景気変動を理解するための基礎理論として、マクロ経済理論を学習する。そのスケジュールと重点は次のようである。

1. 国民所得（GNP）決定理論
 - 1.1 全体としての経済活動水準を示す数値として、なぜ国民所得（GNP）が採用されるのか。
 - 1.2 国民所得（GNP）決定理論を学ぶことによって、経済を安定させる要因（安定因）と経済を変動させる要因（変動因）を明確に把握する。
 - 1.3 変動因が変化すると、決定変数はどのように変化するか。
2. 経済成長理論
 - 2.1 景気変動と経済成長を理論的に区別して把握する。

2.2 景気変動過程を経済成長理論ではどのように説明するか。

前期で学習した景気変動の基礎理論によって現実の景気変動を説明することが、後期の講義の主要内容であり、具体的には次のように進められる。

3. 景気変動の種類

3.1 キッチン波動, ジュグラー波動, クズネットツ波動, コンドラチェフ波動について

3.2 これら波動の相互関係によるシュンペーターの景気変動の説明

3.3 ミッチェルによるディフィジョン・インデックスによる景気変動の測定

4. 戦後日本の景気変動

4.1 戦後復興期(昭和20年から30年)における景気変動

4.2 高度成長期(昭和30年から45年)における景気変動

4.3 安定成長期(昭和45年以後)における景気変動

4.4 バブル崩壊について

<評価方法>

ペーパーテストによる。

<その他>

毎日、新聞の経済面の見出しに必ず目を通し、何が現在の主要な経済問題であり、そこではいかなる経済数量が問題とされているかを理解すること。

〔教科書〕金森久雄編『景気の見方』(有斐閣)

〔参考書〕日興リサーチセンター編『景気循環で読む日本経済』(日本経済新聞社)

日本経済史

古 庄 正

幕末期の日本は、極東の一封建国家に過ぎなかった。にもかかわらず、開港後わずか数十年の間に日本は工業化を達成し、アジアにおける唯一の帝国主義国にのしあがった。幕末開港後のこうした日本経済の歩みを、出来るだけ系統的に、また分かり易くお話してみたいと思っている。お話する中身としては、今のところ次のテーマを予定している。

- (1) 幕藩体制の動揺
- (2) 開港と植民地化の危機
- (3) 明治維新
- (4) 明治政府の工業化政策
- (5) 政商と華族の資本蓄積
- (6) 農民の半プロ化と土族の没落
- (7) 自由民権運動と天皇制国家
- (8) 産業革命と工業化
- (9) 紡績業と製糸業の発展

- (10) 海運と鉄道の発展
- (11) 鉱山業と重工業
- (12) 寄生地主制と資本主義
- (13) 外国貿易の発展
- (14) 産業革命と公害
- (15) 産業革命と民衆
- (16) 日清・日露戦争と植民地支配

ところで、経済史をも含めて、いま、なぜ歴史を学ぶ必要があるのか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点である。経済史研究の究極的課題は、人類史の中で今われわれがどのような地点に立っているのか、また、どこに行こうとしているのかを、「経済の深み」から具体的・歴史的に明らかにすることにある。日本経済史の場合もちろんその例外ではない。かつて、圧政と貧困から人類を救い出す社会体制として期待された社会主義がソ連・東欧諸国を初めとして瓦解し、残存する社会主義大国中国も、ある種の資本主義国に転換しつつある今日、来し方は分かっても、行く末は不透明なものとなった。「昔は歴史というものがあったが、今はもうない」ということになるのかどうか、この点についての回答は近い将来には期待できそうもない。それだけに、歴史を学ぶ必要は一層強まった、といってよい。新聞を読んでいて「中国や韓国などアジアの人たちと話していて感じるのは、日本についての権威と信頼のギャップである。日本の権威は高まっているものの、信頼の方は逆に低下しているのだ」(『毎日新聞』1992・11・27)という記事が目にとまった。「信頼は金では買えない」という表題のこの囲み記事で筆者が言いたかったことは、アジアの民は、日本が大国として行動することを受入れながらも、日本に対して不安と警戒心を強めている、ということであろう。第二次大戦中、日本はアジアの諸民族に計り知れない被害をあたえた。にもかかわらず、戦後半世紀たった今日でも戦後責任には目をつむり、その反面では、PKOへの参加を突破口として海外派兵の実績を積み重ねていることがその背景にある。特に植民地朝鮮からは、百万人を越える人々を軍人・軍属・従軍慰安婦・一般労務者として強制連行し、多くの人々を死傷させたにもかかわらず、日本政府と関係企業は何の補償もしなかったばかりか、謝罪さえ拒否してきた。軍の関与を示す決定的な証拠を突きつけられ、従軍慰安婦問題については一応「謝罪」し「真相究明と適切な措置」を約束したが、結局「真相究明」はせず、若干の補償金を支払うことで解決を図ろうとして、被害者と韓国政府の強い反発を招いている。日本政府と関係企業の韓国・朝鮮をはじめとするアジアの被害者に対するこうした傲慢な対応は、決して許されるべきではない。が、それと同時に、過去百年の日韓・日朝間の歴史についてのわれわれの無知・無関心が、

これを放任していることも忘れてはならないだろう。日本が再びアジアの、そして世界の孤児にならないためには、日本政府と関係企業のごうした歴史認識を根本的に改めさせねばならない。しかし、そのためには、われわれ自身が歴史について無知・無関心であってはならない。歴史を学ぶことの必要性は、もちろんアジア諸民族との関係だけではない。国内問題についても同様のことがいえる。例えば、今日最大の社会問題となっている「環境問題」について、日本政府も企業もしばしば言及している。しかし「環境破壊」の主因をなす公害については、政府も企業も足尾鉾毒事件からは何一つ学ぼうとはしていない。水俣病患者の訴訟に対する冷酷な措置は、それを例証している。

経済地理

上坂修夫

〈講義の目標〉

各時期のテーマと内容は講義予定で示すとおりであるが、一年間を通じての本講義の目標は、次の3点である。

- (1) 各地域の経済活動が、その地域の自然的特性、歴史的・社会的特性と、どのように関わっているかを明らかにする。
- (2) 各地域間の経済活動の相互関係について、これまでの諸研究成果を紹介しながら考える。
- (3) 以上の「地域特性」と「地域間の相互関連」との上に展開されている経済活動が、どのような要因によって変化していくかを明らかにする。

〈年間の講義予定〉

年間二十数回の講義について、ここでは4期に区分して、それぞれの時期のテーマと内容を示す。なお、()内は平成4年度の講義回数であり、5年度も大差ないと考えられる。

(1) 4月～5月 (6回)

テーマ「自然条件・社会経済的条件と経済活動、人口支持力との関係」

まず、地球上の気候区・土壌区と食料生産との関係、そして人口との関係を考える。最も単純に考えれば、各地区の食料生産可能量をもとに、地球上の可容人口が算出される筈で、1920～30年代にはそのような計算が盛んに試みられた。しかし、現在ではそれは研究テーマになり得ない。人口を支持する上で、自然条件と社会経済的条件の関係のし方、その複雑さをどのように整理すべきかを考える。

(2) 6月～7月 (7回)

テーマ「第一次産業の地域的類型とその変化」
まず、農業生産を主とする第一次産業が、都市

的産業との対比にみられる生産性の不利の中で、どのような経営形態の変化を示してきたかを概観する。各地区の状況と、その背景とによって、第一次産業のあり方を類型区分し、輸送手段の変化による立地の変動や、農村地域への都市的産業の接触・進出について述べる。

(3) 9月～10月 (6回)

テーマ「第二次産業の集積にみられる地域的類型とその変化」

都市的産業のうち、製造業を主とする第二次産業に見られる集積状態の類型区分を行い、その要因について考える。内陸立地・港湾(臨海)立地・消費地立地等、各工業のもつ特色と、それらの集積類型がどのような時代背景の中で展開してきたかを、日本・欧米・発展途上国の対比によって考える。

(4) 11月～1月 (7回)

テーマ「都市・村落間の人口移動と、それがもたらす諸問題への対応」

近・現代の、村落部から都市域への人口移動は、各国の各時期における地域経済政策により、或いは加速され、或いは抑制されながら、確実に進行してきた。このような人口移動がもたらす生活環境の変化と、社会的諸問題について明らかにし、どのような対応が可能であるか考える。

〈毎回の授業及びレポート等について〉

- (1) 各講義時間の最初に、前回講義の項目と要点を整理する。その際、質問を歓迎する。
- (2) 各地域の具体的事実の把握が前提となるため、黒板に図表・略地図等を書いて説明する機会が多い。その点でノートをよくとる必要がある。
- (3) 年に数回、簡単な解答を求めるアンケート的な調査(氏名記入)を行う。毎時限ごとの出欠調査は行わない。
- (4) 特定の教科書を一年を通して使う方法とはならない。下記参考文献のほか、その都度文献を指示する予定である。
- (5) 夏季休暇前にレポートを課し、休暇後に提出。

〈成績評価について〉

基本的に学年末試験による。ただし、これに夏季のレポートの点を加味する。

〔参考書〕江波戸 昭『地域構造の史的分析』(大明堂) ¥3,800

国際経済論

徳永俊明

〈講義の趣旨〉

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの

密林で生活しているわけではありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいますのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えにはなりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして“社会主義”経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を基軸としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう一つの基軸としていることが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。

そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の歴史・現状そして展望を検討したいと思います。

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日＝第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱を一つずつ検討します。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

〈講義テーマ（予定）〉

前期 — 世界経済の歴史的推移

(1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明

(2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制

(3) 産業革命と自由貿易植民地体制

(4) 帝国主義と帝国主義植民地体制

(5) 第1次世界大戦と世界経済

(6) 戦間期の世界経済

後期 — 今日の世界経済

(1) 第2次世界大戦と世界経済

(2) 「アメリカ中心体制」

(3) 新植民地主義と世界経済

• 貿易 • 国際通貨制度 • 資本輸出
（「援助」と多国籍企業） • 〈南北問題〉
と新国際経済秩序

(4) 世界経済の現段階

(5) 日本経済と世界経済

(6) われわれの選択

*ほかに、3～4回のゲストによる〈特別講義〉を予定しています。

〈講義の方法〉

教科書は下記のとおりですが、教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

〈成績評価の基準〉

講義では、世界経済の〈基本構造〉を理解するために不可欠の事項が指摘されます。成績はそれらの事項 — 世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をもって評価します。（前期）小テスト（後期）学年末定期試験

〈備考〉

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄ってください。

〔教科書〕徳永俊明『世界経済と第三世界』

（大月書店）¥1,800

農 業 政 策

永 田 恵 十 郎

〈講義目的（要旨）〉

高度経済成長期以降、まったくのしろうと談議の農業批判が後を絶たない。なぜだろうか。考えてみなければならない問題である。横行する農業批判の影響をうけて、農業問題の正しい理解が国民のなかに定着しているとはいえないからである。

現在、農業問題あるいは食糧問題は、環境問題とならんで世界各国の大きな国民的関心事となっており、21世紀に向けてその重要性はますます大きくなろうとしている。農業は食料供給産業といういままでの通念をこえて、国民生活と密接不可分に結びついた公共財供給産業としても認識され始めてきた点に現代の特徴がある、といえよう。

私は、激動する世界経済、日本経済のなかで、国民あるいは消費者として「農業・農業問題とは何か」、「農業問題を解決する政策のあり方」等について正しく理解する理論的視点を学生諸君とともに考えていくことにしたい。また、そのことを通じて自然と人間との共生のあり方についても考えてみたい。その場合、とくに重視するのは具体的事実と歴史的視点であり、それらに依拠しながら間違った農業批判や既成の経済理論の問題点

の批判的検討もやっていく予定である。

〈講義内容と授業計画〉

前期は農業問題の入門コース。農業問題とは何か、日本の経済発展と農業問題の移りかわり、日本の農家と地域社会、農地問題と農地政策、農産物価格と価格政策、食糧問題と食糧管理政策、土地改良政策等。

後期はこれからの農業政策。農業がもつ多面的役割、地域資源管理と農業問題、欧米の農業政策と日本、農産物貿易の理論と現実、地球の環境問題と農業、日本農業変革の課題と展望等。

〈評価方法〉

主として前期末試験と学年末試験の合計点での評価を原則とする。試験には下記の教材をふくめ何を持ちこんでも可。

〈教材〉

特に教科書は指定しない。毎回講義に出席し、しっかりノートをとって復習すること。同時に下記の教材に目を通せば理解は可能。

〔指定図書〕永田恵十郎『地域資源の国民的利用』
(農山漁村文化協会)

永田恵十郎『農業を地域のなかで考える』(農林統計協会)

〔参考書〕置塩信雄『現代資本主義と経済学』
(岩波書店)

工業政策

渡辺幸男

〈本講義の目的〉

本講義の目的は、経済現象の1つとしての工業現象を具体的にどのように把握し評価したらよいかを考察していくことであり、応用経済学として工業現象を経済学的視点から把握した場合どのようにみることができるか明らかにすることである。すなわち、より具体的な世界での経済学の応用であり、より具体的な世界としての工業現象を経済学的視点からどのように把握し、評価しうるかを示すことを目的としている。

〈対象〉

本講座で分析素材として、対象としてとりあげるのは、現代日本(戦後)の工業である。さらに、日本の工業の状況を明確化し位置づけるために、日本の工業との対比として米英独といった他の先進工業国の状況もみていくことにする。

〈方法〉

日本の工業を主たる対象としながら、工業現象を経済学的に見ていくのであるが、その際、以下のような順で考察を進めていくことにする。まず、工業とは何かについての基本的な点を把握するために、基礎的な概念の整理検討等をおこなう。つ

いで、工業現象を経済学的視点からみるときに不可欠な諸論点を、日本の戦後の工業を中心にみていく。その際、高度成長期以降の推移と、米英独といった他先進工業国との対比を、基本的な整理視角としていく。また、諸論点を具体的に見ていく過程で、同時に工業現象を検討するための視点の意義をも明らかにしていく。

日本の工業を中心に、各論点から分析したのちに、それらの分析結果をふまえ、日本の工業の、戦後の高度成長、1970年代の変化、今後の展望といった諸点をどのように把握し理解することができるかについて検討を加える。日本の戦後工業を例とし、工業を全体的に見た場合の動態的把握といえよう。

〈資料配布について〉

なお、これらの分析の際には私が作成ないしは切り貼りした資料集を利用する。資料集はかなりの量になるが、それは、なによりも諸君に具体的に数字を通して、現実の状況をよりよく理解してもらいたいからである。しかし、それだけではなく、どのような基礎的資料がどのような統計書を通して得られるかをも知ってもらいたいからである。

また同時に、基礎的資料を諸君と共有し、それを前提としたうえで、諸君に私の見解を諸君なりに批判的に理解してもらいたい。私はこの講義を通して、諸君に工業経済論の『正しい答え』を『教える』気はさらさらしない。工業現象を経済学的に見る目を養ってもらいたいだけである。より俗な表現をするならば、日本経済新聞の工業や日本経済に関する記事位、批判的に読むことができるようになってもらいたいのである。

〈授業内容〉

- I. 工業とは何か
- II. 日本を中心とした工業の概観
 1. 時期区分と講義の対象
 2. 産業全体に対して工業のしめる位置
 3. 工業の規模別構造
 4. 工業生産の推移、量的把握
 5. 業種構成の変化
 6. 工業生産と雇傭、生産性の推移
 7. 財の用途別・最終需要別にみた工業構造の推移
 8. 輸出入構成と工業
 9. 海外資本による工業直接投資と海外直接投資、技術輸出入
 10. 社会的分業構造、機械工業下請を中心に
- III. 戦後日本工業発展の論理
 1. 戦後日本資本主義の置かれた位置
 2. 戦前日本資本主義からの遺産
 3. 戦後世界経済の米国主導下での安定的かつ好調な推移
 4. 高度成長の動態

5. 1970年代後半以降の構造変化
 6. 1980年代後半の拡大
 7. 日本工業の到達点と今後の展望
- 〈リーディング・リスト・講義の前提となる基礎的文献と担当者の研究課題を示す文献〉
- 井村喜代子「戦後日本資本主義の生産構造」
『新マルクス経済学講座 5 戦後日本資本主義の構造』(有斐閣) 1976年
- 佐藤芳雄編著『ワークブック中小企業論』
(有斐閣) 1982年
- 渡辺幸男「日本機械工業の下請生産システム」
『商工金融』35巻2号昭和60年2月
- 渡辺幸男「日本機械工業の社会的分業構造」上・下
『三田学会雑誌』82巻3号, 4号

財政学

西村 紀三郎

現代のもろもろの財政問題打開の処方箋を書くための論理を具体的な状況理解の下で考える。よって講義の基本的要件は次のようになる。

- (1) 財政学の発展過程を概観し、その間の財政問題を理解して、財政学が当面している諸問題を把握する。
- (2) 財政学で通常とりあげる原理、原則、法則等を検討し、その現代的意義を吟味する。
- (3) 財政活動の理論的把握のため、財政の現実体の理解に努める。財政の制度、歴史、現状等を解明する。
- (4) 財政の理論、制度、歴史、実体の理解にもとづいて財政政策の課題を求める。

〈授業項目と授業スケジュール〉

I. 財政学の発展過程概要

1. 17, 18世紀の財政学 — 財政学の成立
 - (1) 英国古典派の財政論まで
 - (2) ドイツのカメラリズムの財政学
2. 19世紀の財政学の統合 — ドイツ正統派財政学
 - (1) 19世紀の経済社会 — 金本位制への流れ
 - (2) 国家経済(公経済)の独自性
3. 20世紀の財政学の新展開
 - (1) 第1次世界大戦後の社会経済の変容
 - (2) 政府活動領域の拡大 — ミクロとマクロ
 - (3) 財政学の諸原理に対する条件付加

II. 財政秩序

1. 財政制度と財政組織
 - (1) 財政主体の自律 — 旧憲法と日本国憲法
 - (2) 予算制度の要件 — 議会主義
 - (3) 予算機能と予算原則 — 現代への展開

- (4) 旧憲法, 日本国憲法, 財政法の財政処理
 2. 財政の意志形成 — 財政運営の現代的課題, 行政府の優越
 3. 財政の構造 — 財政硬直化, 財政収支の型の形成
- ### III. 経費論 — 財政需要
1. 無用論, 消極的肯定論, 積極的肯定論
 2. 消極的肯定論の課題 — 経費の規模と膨張
 3. 積極的肯定論の課題 — 新しい需要の性格
 4. 経費の機能と分類 — 新しい機能に即して
- ### IV. 財政収入論
1. 財政収入論の性格転換 (1)公的負担の増大
 2. 財政収入論の性格転換 (2)公債金収入増大
 3. 租税論一般 (1)伝統的租税論の性格
 4. 租税論一般 (2)現代財政の租税の性格
 5. 租税根拠, 租税原理, 租税原則, 租税体系
 6. 税制史と租税構造 — 現代税制の性格
- ### V. 地方財政論
1. 地方財政論の性格 — 各国別事情
 2. 日本の地方財政の特性
 3. 地域格差と格差調整 — 一般調整と個別調整
 4. 西高東低型の地方財政
- ### VI. 財政政策論
1. 公的債権, 公的債務の理論と実体 — 公債論展開の前提条件, 1930年代以前の課題
 2. 財政政策論の起点 — フィスカルポリシー
 3. フィスカルポリシーの発展像 — 制度制約
 4. 政策論と制度論 — ビルト・イン・スタビライザー
 5. OECD勧告 — 各国の財政政策の課題
 6. 戦後の財政政策の推移と問題点
 7. 当面の財政運営の課題 — 新年度予算案検討

〈試験・成績評価について〉

財政とは政治団体の経済活動である。とくに中央政府の政策活動がひとびとの関心の的となる。その活動の影響が現代では非常に大きいからである。そのことを理解してもらうことが講義の意図であるから、その理解と理解をもとにした履修者の見解を問うことで成績評価をする。試験は当然論文形式となる。その期待に即した試験方法を考えている。

〔参考書〕肥後和夫編『財政学要論』〔第3版〕
(有斐閣)

西村紀三郎著『財政学新論』第3増補版(税務経理協会)

西村紀三郎編著『統計からみる財政学』改訂版(学文社) ¥1,600

山口公正編『図説日本の財政』平成4年度版(東洋経済新報社) ¥2,000

財政政策

里中恆志

〈授業の主たる内容、基礎となる学問的傾向〉

経済生活の中で公共部門の関与する比重は確実に増大しつつある。近代経済学の発展とともに財政学にもそれをとり入れたかたちでの財政理論が展開されてきた。そしてこれに基づく財政政策は重要な経済政策の一つになっている。財政政策が国民経済に機能するメカニズムについてその理論的枠組みを検討し、理解することは納税者としての国民にとって重要なことである。この講義は公共支出政策及び公共収入政策についてそれらの基本理論及び政策基準を紹介して検討し、現実の政策に対する判断力を養うことを目的とする。

第Ⅰ部は「財政による総需要管理政策」のテーマで、マクロ経済学の分析手法による短期の財政政策の理論を14回に分けて講ずる。第Ⅱ部は「目的別公共需要と財政政策」と題し、厚生経済学の資源配分の分析手法による政策理論と所得再分配目的による政策理論を合わせて10回にわたり講ずる。第Ⅲ部は「財政収入政策」とし、税負担の公平、課税技術について講ずる。

〈授業項目と授業スケジュール計画〉

各週の講義内容及び授業計画は次のとおりである。

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明。

(第2週) 財政支出規模と国民所得の決定、総供給額曲線と最適供給。(第3週) 総需要額曲線。

(第4週) 乗数の波及過程。(第5週) 政府支出の乗数効果。(第6週) 課税の乗数効果、均衡予算定理と予算乗数。(第7週) 大量国債の累積とその限界、名目成長率と国債負担の減少。(第8週) 国債(債券)価格と市場金利、物価の上昇と国債負担の減少。(第9週) IS曲線の描き方、LM曲線の描き方。(第10週) 財政政策と金融政策の組合せ、物価上昇とIS-LM分析。(第11週) 固定為替相場制と財政金融政策。(第12週) 変動為替相場制と財政金融政策。(第13週) 経済成長と財政政策、供給能力の成長、総需要の成長、必要成長率、財政操作の作用。(第14週) ビルトインスタビライザー。(第15週) 純粋公共財の供給、純粋公共財の性格、純粋公共財の最適供給。(第16週) 公共財産の形成、費用-便益分析の理論構造。(第17週) 生活関連社会資本の最適形成。

(第18週) 産業経済的社會資本の最適形成、社会資本の供給と混雑現象。(第19週) 産業経済費と補助金、農業補助と生産調整、公企業補助と費用遞減産業。(第20週) 社会的費用とピグー的補助金、公害補償とコースの定理。(第21週) 教育費と補助金、スピルオーバーと補助金。(第22週)

社会保障関係費と移転的経費、賦課方式年金と高齢化社会、福祉政策と生産性の停滞。(第23週) 地方財政調整と交付金。(第24週) 公債費と逆再分配、公債負担の世代間転嫁学説。(第25週) 所得課税政策と国民負担、租税原則学説と負担の公平。(第26週) 給与所得税と累進課税。(第27週) 申告所得税と租税抵抗。(第28週) 法人所得と課税技術。(第29週) 消費課税政策、一般消費税、個別消費課税。(第30週) 試験と評価についての説明。(第31週) 試験。

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

〈履修条件・成績評価方法〉

経済学部には別に「財政学」の講義が設置されている。「財政政策」の講義は政策の理論を中心にした財政学の一分野の講義であるから、同時平行して別に「財政学」を履修すべきである。とくに統計を使った日本財政事情、租税論、日本財政史の学習のためには「財政学」の履修を要する。

「財政政策」の履修の条件としては「経済原論Ⅱ」の履修を終えていることが望ましい。また「国民所得論」、「価格理論」は関連科目として重要である。

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。

〔教科書〕教科書は使用しない。毎時間、講義案を配布する。

〔参考書〕野口悠紀雄著『公共政策』（モダン・エコノミックス12・岩波書店）

¥2,000

中谷 巖著『入門マクロ経済学』

(日本評論社) ¥3,300

金融論

渋谷隆一

〈授業項目と内容〉

第1部 金融の基礎知識(前期授業)

第1章 普通銀行

第1節 預金

2 借用金

3 資本金・積立金

4 貸出金

5 有価証券

第2章 中央銀行

第1節 発券機能

2 銀行の銀行としての機能

3 政府の銀行としての機能

第2部 日本の金融制度(後期授業)

第1章 日本金融体系史論

第1節 戦前の金融体系論

2 戦後の金融体系論

第2章 金融制度改革論

第1節 松方正義の銀行分業論

2 戦前・金融制度調査会の銀行分業論

3 戦争経済と銀行兼営論の台頭

4 G H Q主導の銀行分業論

5 金融自由化と銀行兼営論への傾斜

講義は第1部金融の基礎知識と第2部日本の金融制度とに分けて進める。

第1部では、金融制度の中核である普通銀行（第1章）と中央銀行（第2章）を対象とする。前者は銀行の勘定科目にそって業務内容を解説し、それに関連する諸事項（たとえば手形交換、為替業務、小切手と兌換銀行券との比較、預金の源泉と形態、信託会社、旧相互銀行、信用金庫、資金運用部資金、預金銀行と債券発行銀行、オーバー・ローン、割引手形、貸付金、利子、B I S規制、その他金融自由化に伴う業務内容の変化など）にもふれる。後者は中央銀行の3つの機能（発券〔保証準備発行法、屈伸制限発行法、比例準備発行法、最高額制限発行法〕、銀行の銀行〔金利政策、マーケット・オペレーション、支払準備率操作、窓口指導〕、政府の銀行）を中心に概説する。

第2部は、以上の金融の基礎知識をふまえて日本金融制度に関する2つの問題を取り上げる。第1章では、日本金融体系史に関する戦前・戦後の代表的な学説（飯淵敬太郎『日本信用体系前史』1947年、石浜知行『特殊金融機関史論』1937年、松成義衛・三輪悌三、長幸男『日本における銀行の発達』1959年、加藤俊彦『本邦銀行史論』1957年）の紹介と批判を行う。

第2章では、日本資本主義の後進性とその発展段階を念頭におきながら、金融制度改革の推移とその性格変化をみてゆく。まず松方正義によるイギリス銀行分業論の導入、その意義と限界、次いで第1次・第2次大戦時の銀行兼営論の台頭と金融制度調査会及び第2次大戦後・G H Q主導の銀行分業論による克服、金融制度の再建、最後に金融自由化の進展に伴う銀行兼営論への傾斜（業態別子会社方式→ユニバーサル・バンク方式）、一方におけるリテール・バンクとホールセール・バンクといった新たな分業形態の出現について考察を進めてゆきたい。

〔教科書〕三宅義夫『金融論（新版）』1981年（有斐閣）

後藤新一『金融制度改革と展望』1992年（時潮社）

〔参考書〕加藤俊彦『本邦銀行史論』1957年（東大出版会）

渋谷隆一編『明治期日本特殊金融立法史』1976年（早大出版部）

渋谷隆一編『大正期日本金融制度政策史』1987年（早大出版部）

伊牟田敏充編『戦時体制下の金融構造』1990年（日本評論社）

齊藤精一郎『ゼミナール現代金融入門』1988年（日本経済新聞社）

全国地方銀行協会『金融自由化の進展と地方銀行の対応』1991年（同協会）

国際金融論

齊藤 寿彦

〈講義目的（要旨）〉

外国為替、国際通貨、国際銀行業の理論と歴史と現状を中心として国際金融を講義する。金融面に重点を置きつつ、できるだけわかりやすく講義し、時事問題にも言及する。

〈授業内容・授業計画〉

前期

前期は外国為替および国際金融市場について説明する。4月、外国為替の仕組。5月、外国為替相場論。6月、外国為替銀行論。7月、国際金融市場論。

後期

後期は国際通貨と日本の金融の国際化を明らかにする。9月、国際通貨の理論。10月、IMF体制の成立、IMFの制度と機能と現実、旧IMF体制の崩壊、11月、変動為替相場制、SDR、ユーロダラー。12月、円の国際化、銀行の国際化、証券の国際化、東京の国際金融センター化。1月、日本企業の国際的資金調達、東アジアにおける日本の金融の国際化の進展。

〈評価方法〉

学年末の筆記試験を中心とする。前期末の授業時間中に行う小論文の作成と出席点を若干考慮して成績をつける。

〔教科書〕授業時間中に指定する。

〔参考書〕東京銀行調査部『外国為替の知識』（日経文庫）¥750

銀行論

齊藤 正

〈講義の目標〉

資本主義社会においては、銀行は、産業資本（製造業）、商業資本（流通業）と並んで資本として不可欠の存在であるが、その制度や役割は各国別にも、歴史的にも必ずしも同じものとはいえない。しかし、現代社会における多くの

領域で銀行の占める比重はますます高くなっており、近年の「バブル経済」の下で顕著に現れたように、銀行の活動のあり方が経済全般の行方に多大な影響を及ぼすに至っている。したがって、銀行のあるべき姿とは何であるかを問うことは重要な課題であり、本講義の目標はその点を考える手掛かりを、制度的、理論的、実証的な視点から提供するところに置いている。

〈銀行論の主たる対象〉

銀行論の対象領域は、広義には「貨幣と銀行に関するあらゆる経済現象」(Money and Banking)であるが、本学部では、金融問題を取り扱う隣接科目として「金融論」、「国際金融論」、「証券市場論」、「経営財務論」が併せて開講されているので、本講義では銀行制度と銀行経営を中心としながら、我が国の銀行制度の特色と銀行の社会的役割について考えていきたい。

〈授業項目とスケジュール〉

前期では銀行業務を中心にみながら銀行の社会的役割を確認し、後期では戦後日本の銀行がどのような役割を果たしてきたのかを検討する予定であるが、具体的授業項目は以下の通りである。

1. 近代的銀行資本の成立
 - ① イングランド銀行の成立過程と近代的銀行
 - ② 明治期日本の銀行制度の成立過程の特殊性
2. 銀行の役割と主たる業務
 - ① 金融制度の中心的位置を占める銀行
 - ② 銀行と実体経済：商業信用と銀行信用
 - ③ 負債勘定：預金、他
 - ④ 資産勘定：貸出金、有価証券、預け金、他
3. 中央銀行
 - ① 「銀行の銀行」、「発券銀行」、「政府の銀行」
 - ② 金融政策
4. 高度成長期における我が国の銀行制度の特色
 - ① 「金融の二重構造」
 - ② 都市銀行経営
 - ③ 中小企業金融専門機関経営
5. 低成長への移行と銀行経営
 - ① 都市銀行経営
 - ② 中小企業金融専門機関
 - ③ 「バブル経済」下の銀行経営
6. 金融自由化と銀行経営
 - ① 欧米の金融自由化
 - ② 我が国の金融自由化
 - 1) 金融自由化の背景と進展
 - 2) 金融自由化の問題点
7. 金融再編成の展開
 - ① 「バブル破綻」後の銀行経営
 - ② 合併、再編の動きとその特徴
 - ③ 金融制度改革法と今後の展開
8. 銀行の公共性と社会的責任

〈成績評価の方法〉

基本的には前期(試験または夏季レポート)と後期試験の総合評価とするが、試験に際しては一切の持ち込みを不可とする。出席に関しては、授業に関する「的を得た」質問や意見を加点する方式をとるので、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。

〔教科書〕谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』1992年(大月書店)

熊野・龍編『現代日本の金融』1992年(大月書店)

毎時間レジュメを配布し、それに沿って講義する。

〔参考書〕『わが国の金融制度』(日本銀行)
(わが国の金融制度が詳細に説明されている)

社会政策

光岡博美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論

- (3) 日本における社会政策の歴史（戦前期）
- (4) 日本における社会政策の歴史（戦後期）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本の労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)～(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作（映画）を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成上の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、今日こそさまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられる。しかもこうした「期待」と

「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐるこれまでの理論・研究を批判的に検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的關係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

〈構成予定〉

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』

（青木書店）¥2,800（税抜）

〔参考書〕巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』（有斐閣）

中小企業庁編『中小企業白書』

〔各年次〕

『エコノミスト増刊、図説日本経済1993』（毎日新聞社）

人口論

森岡 仁

〈授業内容〉

人口に係わる学問分野は数多く存在するが、とくに経済学との関係から接近しようとするところにこの授業の特徴がある。現実の経済と人口の関係を歴史的に振り返ってみると、その起源は人類がこの地球上に出現した時期にまで遡りうるわけで、そういう意味では両者の関係は何にも増して古いといわなければならない。経済学的にきわめて早い時期から人口が論じられてきたのも、このような理由によるものと思われる。

経済と人口との関係は、どちらかが一方的に他に働きかけるといえるものではなく、時に応じて強弱の違いはあるにせよ、互いに作用しあう相互依存の関係にある。1970年代に市民権を獲得し、その後大きな発展を遂げつつある経済人口学は、正にこの点に注目する人口学の新たな分野であるが、この授業も経済人口学の立場に立って、経済と人口の相互依存の関係を理論的、実証的に追い求めようとするものである。そこにおいては、日本を含む世界全体の人口について、過去から現在、そして可能なかぎり将来に及ぶ人口現象にまで論究してみたい。ことに、先進工業諸国に現在共通してみられる低出生力と年齢構造の高齢化の問題は、わが国においても経済との関係から早急に解決を迫られている重大事であり、将来さらに重要度を高めていくことは周知の事実である。一方発展途上諸国に生じている急激な人口増加の問題は、内容をまったく異にするにせよ、貧困からの脱却のためには緊急に解決しなければならない困難な課題になっていることも周知のとおりである。

このようにみえてくると、今や人口問題は地球規模で考え、そして解決していかなければならないことが理解されよう。しかしながら、人口を取り巻く関連分野が広範囲に及ぶことから、はたしてどこまでが人口の問題であり、どこまでが他の分野の問題であるのかを的確に見極めることが重要になってくる。石油が不足すれば人口は多すぎるとい、労働力が不足すると出生率が低すぎるとい、何が真の人口問題であるのかが不明確だとすれば、当然それに対応する政策も不適切なものにならざるをえないであろう。的確な事実判断の下に適切な政策を施すためには、しっかりとした理論的知識を備えていなければならない。この授業においては、経済人口学の成立と発展の過程を辿ることによって、人口理論の基礎的知識を養ってみたい。アダム・スミスが、マルサスが、そしてマルクスも登場してくる。かれらを決して過去の人間と考えるてはならない。新たな分野である経

済人口学も、そのルーツを辿るとマルサスに遡るのである。勿論、現在活躍中の人口学者や経済学者も登場する。例えば、G.S.ベッカーの92年度ノーベル経済学賞受賞は耳新しいところであるが、かれを中心とする“出生力の経済学”は、経済人口学の重要な一部を形成しているのである。

何はともあれ、この授業では人口という眼鏡を通じて経済をじっくりと眺めてみたい。そして一人でも多くの学生諸君が人口に関心を抱くようになってほしいと考えている。なぜなら人口問題とは、国民一人一人の問題だからである。

〈授業スケジュール〉

- I. 経済人口学の生成と発展
- II. 日本の人口と経済発展
- III. 世界の人口問題
- IV. 人口政策

〈履修条件〉

履修に当たっての条件というものはとくに無いが、近年大きな関心事になっている人口の“高齢化”や“小子化”に関する知識を、どのような手段をつうじてでも良いから得ておくことが望ましい。

〈成績評価〉

学年末の定期試験、出席状況
〔教科書〕大淵 寛・森岡 仁著『経済人口学』
(新評論) ¥2,800

教育経済論

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を究明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向と、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高

い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

〈授業形態〉

講義の他、年間5～6回程、その都度現実的理解のために視聴覚教室でビデオを使用する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

- (1) 欧米先進国の経済の現状と教育
①アメリカ、②イギリス、③フランス、④ドイツ、⑤日本
 - (2) 戦前の経済発展と実業教育の振興
①学制時代、②学校令時代、③実業学校令時代
 - (3) 戦後の経済発展と産業教育の振興
①復興期、②高度成長期、③1970年代、④1980年代、⑤1990年代
- (1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

〈履修条件〉

欠席しないこと。

〈評価方法〉

定期試験の成績

〔教科書〕 特に使用しない。年間25～30枚のプリントを講義資料として配布する。

〔参考書〕 豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』（東大出版）
文部省『産業教育百年史』（ぎょうせい）
本庄良邦著『産業教育体制研究』（三和書房）

日本経済論

足田 康行

本授業では、1930年代初頭の世界恐慌から1945年の敗戦による崩壊と再建を経て「経済大国」化した1980年代にかけての、日本資本主義の「構造的特質」とその「段階的変化」とを説明する。

ある国民経済を理解しようとする、まず、その産業・貿易（商品別・地域別）構成や、資本・労働構成、地域構成などを、検討することになる。つまり、ある国の市民や企業などが、どのような経済活動（経済的役割を分担し成果を分配・消費する）をしているのか、また、国境の内外にわたってどのような地域でこの活動を行っているのか、ほかの国民経済との関わりはどのようなものかなどを、調べることになる。こうしたさまざまな経済活動の組み立てを経済構造というが、当然、その具体的内容は国によって異なり、各国の個性＝特質を明らかにすることが、重要である。

しかし、これだけでは、スタティックな理解にとどまるだろう。現実の国民経済は、もちろん、日々変化しており、それをも把握しなければならない。そこで、国民経済の構造が、ほぼ一様な量的な変化を示す時期を一つの時代としてまとめ、各時代の量的変化をもたらしている内外の要因を解明し、あわせて、発展構造そのものを転換させる原因の累積を探り出して、次の時代への移行をも明らかにすることにする。これによって、その国民経済のダイナミズムを、理解することができるだろう。ここでも、各国の個性の解明は重要である。

おおむね、このような方法にもとづいて、日本経済の現代資本主義化とその後の変化とを説明していくが、その変化に大きな影響を与えた国際関係に十分配慮する。とくに、各時代の国際関係の在り方から、どのような構造的特質が形成されたのか、あるいはどのような発展パターンの特徴が打ち出されたのかを、考えて行きたい。具体的には、1930年代のブロック経済化の中での軍事的な「大東亜共栄圏」の形成とその運営、第2次大戦後の冷戦体制の中での急速な産業構造転換をとまなう「高度成長」、新世界経済秩序を求める「南」の諸国の反発から生じたオイル・ショックへの対応の中から生み出されて行ったハイテク・会社主義国家を内容とする「経済大国」化、などである。なお、戦前・戦後を通じる支配的資本としての、財閥・企業集団の資本蓄積様式とその変化の解明についても、サブテーマとして追求したい。

授業の進め方は、基本的には講義形式であるが、適宜ビデオも使用し、また受講者の基礎知識を質したり意見を述べてもらう。さらに中間試験も計画している。成績評価は、学年末試験を主とし、平常点も加味する。

年間の授業計画は以下のとおりであるが、若干の変更もありうる。

- I. はじめに
 - ・課題と方法
- II. 恐慌と戦争
 - ・昭和恐慌と対アジア侵略の拡大
 - ・国家独占資本主義への移行
 - ・戦時重化学工業化
 - ・日本独占資本の対占領地進出
- III. 改革と復興
 - ・USAの世界戦略と日本の「戦後改革」
 - ・経済再建
- IV. 高度成長
 - ・日米安保体制
 - ・新鋭重化学工業の移植と定着
 - ・企業集団の成立
 - ・農業と鉱業の解体
- V. 「経済大国」化
 - ・パクス・アメリカーナの動揺

- ・「減量経営」と会社主義の確立
- ・ME化
- ・日本企業の多国籍企業化

VI. まとめと展望

- 〔教科書〕 森 武彦ほか『現代日本経済史』
(有斐閣)
- 〔参考書〕 南 亮進『日本の経済発展』第2版
(東洋経済新報社)
- 〔資料集〕 安藤良雄『近代日本経済史要覧』第2版
(東京大学出版会)

アジア経済論

小林 英 夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期もめずらしい。アジア一般というより、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式でおこなう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。昨年は残念ながら実現できなかったが、一昨年は野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係(戦後日本とアジアの関係を、I. 賠償過程、II. 借款過程、III. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。

7月の夏休み前に、外部講師をよび、直接企業進出に的を絞った、実態報告をおこなう。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動(1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する)

1月

まとめ(1年間の講義について、まとめをおこなう)

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

- 〔参考書〕 小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』(御茶の水書房)
¥3,200
小林英夫『東南アジアの日系企業』
(日本評論社) ¥3,200

中国経済論

小 杉 修 二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分かけて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかを確かむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立(1949年)から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル(1949～57年)、(2)毛沢東モデル(1958～78年)、(3)鄧小平モデル(1978～)として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らか

の延長であるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ(1-201または1-301教室)上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

[教科書] 小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』

(龍溪書舎) ¥3,300

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をします。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。とりあげるテーマには、おおむね次のようなものを予定しています。

前期

[導入の話題]

◇新大統領の経済政策とアメリカ経済の近況

[総論]

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

[アメリカ経済各論]

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

[世界とアメリカ]

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATT)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

[アメリカと世界の諸地域]

◇アメリカとEC

◇アメリカと日本

◇アメリカと発展途上諸国

◇アメリカとカナダ・メキシコ

[むすびの話題]

◇アメリカの現状と経済学(新しい学派の見解)

講義では、一回ごとにひとつずつ(上記の◇)テーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥ふかく興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものです。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。今、どうしてもといわれれば、日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書です。

なお、この講義は、3年生、4年生いずれもが受講できることはいまでもありませんが、さきにのべたこの講義の性格からいえば、3年生のうちに受講することをすすめます。また、この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりです。

ヨーロッパ経済論

清水 卓

経済学部カリキュラムの特色の一つは各国経済論科目が充実している事です。それは、情報通信や交通手段の発達によって、地球がますます狭くなり、我々の生活・活動が国際化することに対応して、諸外国の実情に通じ、地球規模で物を考え、判断し、行動できる人材を養成したいとの期待によるものです。

今日の複雑に発達した社会の動向が、経済活動によってのみ決定されているわけではないことは自明な事ですが、経済の動向が決定的な役割を果たしていることも否定できません。ヨーロッパ経済論は、第二次世界大戦後の西ヨーロッパ諸国の経済発展とECを中心とする欧州統合過程を解明する事を課題とします。講義は4つの課題に沿って展開します。

第1の課題は、ヨーロッパ統合の歴史的背景を解明することです。

第2の課題は、第二次世界大戦後のヨーロッパ経済の発展過程を、世界経済と関連させて解明することです。

第3の課題は、第二次世界大戦後のECを中心とするヨーロッパ統合の展開過程を解明することです。

第4の課題は、今日のヨーロッパ経済の分析です。

西ヨーロッパについては、歴史、文化、政治、社会、経済などあらゆる分野で、洪水のような大量の情報を翻訳書や日本人による研究書その他の文献、雑誌や新聞によって容易に手にする事ができますし、衛星放送によって、リアルタイムでニュースに接する事もできます。それ以前に、我国の中等教育では、ヨーロッパについての基本的知識が与えられています。しかし、知ることができる環境にいると言う事と、現実に関心を向け、知ろうと努力する事とは別物です。この講義を手掛かりに、現代ヨーロッパについての関心を深め、学生諸君自身が、客観的、体系的なヨーロッパ像を構築し、それを今後様々に活かして行けるよう期待します。

<授業項目とスケジュール>

第1週～第4週

西ヨーロッパの歴史的蓄積（キリスト教、近代西ヨーロッパの世界支配、第一次世界大戦と「ヨーロッパの没落」、二つの大戦争の経験）とヨーロッパ統合。統合と地理学的多様性との対抗（自然条件と産業活動の多様性と経済発展の格差、民族問題など）。

第5週～第11週

戦後危機とヨーロッパ冷戦体制。経済成長下の西ヨーロッパ諸国の経済政策と経済構造の近代化。経済成長＝高蓄積の限界（社会的矛盾、スタグフレーション、南北問題、環境問題など）。経済危機とその打開策（ミッテランの失敗、サッチャーの挑戦と挫折、オールドナティブの模索）。

前期最終週

前期試験

第13週～第16週

1950年代の統合（欧州経済協力機構、欧州審議会、西欧同盟、欧州石炭鉄鋼共同体）。欧州経済共同体と欧州自由貿易連合。1960年代のEC統合

(関税同盟と共通農業政策)。1970年代経済危機下のEC(通貨危機、市場統合の停滞、拡大と制度的前進)。1980年代経済危機の深刻化と市場統合の再活性化(ユーロペシズム、1992年市場統合計画とその効果)。

第17週～第25週

EC統合の現状と課題。1993年のヨーロッパは、欧州連合条約の批准、不況対策、各国経済の収斂策、ユーゴ危機などを巡って展開すると予想されるが、春のフランス総選挙などの政治動向、移民労働者の排斥運動などの社会問題の展開にも注目する必要がある。また、GATT貿易交渉や日欧関係などの国際関係も重要である。講義では、これらの問題を適宜取り上げて、解明することにした。

最終週

期末試験

〈履修条件・成績評価〉

年間、数回程度レポートしてもらいます。定期試験では授業内容から出題します。持ち込みは不可。穴埋め問題と論述問題を組み合わせ出題します。試験とレポートおよび出席回数を総合して成績評価します。

〔教科書・参考書〕第1週に、知らせます。

ロシア・東欧経済論

山 縣 弘 志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かはともかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性

を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論の歴史
 - (2) マルクスの社会主義論
 - (3) ロシア革命のめざしたもの — レーニン時代 —
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への根本的転換
 - (2) 工業化と農業集団化
 - (3) ソ連型「社会主義」の特質
 - (4) ソ連・東欧経済圏の形成
3. 「計画経済」と経済管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立
 - (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
 - (3) ソ連型経済管理システム
4. ソ連経済の到達水準
 - (1) 経済構造の特質
 - (2) 軍事生産と工業生産力
 - (3) 工業技術の諸問題
 - (4) 農業政策と農業制度
 - (5) 農業生産力
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) ブレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧社会の特質
 - (2) 市場経済化の諸問題 — 何から何への移行か —

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート(9月提出、40点配点)と定期試験(自筆ノート持込み可、60点配点)によって行う。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るの当然である。参考書は適宜指示する。

商業政策

岩下 弘

〈授業項目〉

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 「大型店問題」と訴訟－中小商業者運動論
 - 1 大型店の出店をめぐる諸問題
 - 1) 社会問題としての大型店の出店
 - 2) 消費者と大型店
 - 2 江釣子訴訟
 - 1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
 - 2) 訴状と判決の問題点
 - 3 生業権訴訟
 - 1) 名古屋市の大型店問題
 - 2) 名古屋市の商業と小売市場

3) 生業権論

七 流通問題と消費者保護政策

- 1 消費者問題論
- 2 消費者保護基本法
- 3 消費者行政
- 4 生協

八 流通問題と独禁政策

- 1 独占禁止法
- 2 不正取引
- 3 取引慣行

〈成績評価〉

試験、レポート、出席により評価する。

〔教科書等〕

教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

マーケティング

曾我信孝

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。
 - (1) 製品政策
 - ① 概念と差別化政策
 - ② 多様化・細分化政策
 - ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策
 - (2) 価格政策
 - ① 概念と価格設定の方法(1)
 - ② 価格設定の方法(2)と消費者支配
 - ③ 差別価格と収奪
 - (3) チャネル政策
 - ① 概念と流通機構
 - ② 商業の排除と系列化政策
 - ③ 流通支配の形態
 - (4) 販売促進政策
 - ① 概念と人的販売政策
 - ② 広告政策と広告業界
 - (5) マーケティング・ミックス
- ※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。
2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。
 - (1) 激変する市場環境
 - ① 国内市場の変化

- ② ブロック経済化
- ③ 経済規制の緩和
- (2) 総合商社の新事業
 - ① 川下戦略
 - ② 消費財生産部門への参入
 - ③ 新事業への対応政策
- (3) 総合商社の国際マーケティング戦略
 - ① 消費財マーケティングの展開
 - ② 総合商社の需要創造活動
 - ③ ネットワークと支配
- (4) 総合商社と子会社
 - ① 子会社戦略
 - ② マーケティング管理と子会社
- (5) 情報化戦略
 - ① 国際化と情報の対応
 - ② 通信事業と支配
 - ③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

〈評価の方法〉

- ① 年一回の定期試験……70%
 - 夏休中の課題 ……20%
 - 出席状況 ……10%
- ② 評価基準
 - 講義内容の理解 ……60%
 - 問題意識 ……30%
 - 分析力・応用力 ……10%

〔教科書〕 曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）¥4,000

〔参考書〕 三浦 信・来往元郎・市川 貢『マーケティング』（ミネルヴァ書房）¥2,200

石原武政『マーケティング競争の構造』（千倉書房）¥2,800

貿易論

古 沢 紘 造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大

気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまでできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

〈授業内容〉

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易
- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I～VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

〈評価方法〉

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思います。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

〈教 材〉

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪れたらよい機関を紹介いたします。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究館4階34号室）を訪ねる人もいます。

貿易実務

太 田 正 孝

〈講義目的（要旨）〉

日本は国際ビジネスへの依存度が死活的に高い経済システムをもつ国である。国際ビジネス（International Business）は、様々な商取引を含むが、その大きな支柱の一つは国際貿易活動で

ある。本講義は、こうした国際貿易活動を主に実務的側面から解説していくが、同時に国際貿易活動の基盤となる、国際ビジネスの概念的枠組みや戦略的側面についても時間の許す限り触れる予定。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、貿易契約の成立と契約履行に至るまでのプロセス、さらにそれに伴う様々な手続き（保険・運送・外国為替・コミュニケーション）について、輸出・輸入の両面から包括的に解説する。しかし現在のグローバル化においては、二つの国家の独立した商人間でのアームズ・レングスな取引によって生ずる貿易取引ばかりではなく、多国籍企業のロジスティックス戦略の一環として発生する場合も多い。そこで後期は、出来るだけ早い時点で、直接投資による現地生産、現地経営を含む多国籍企業のグローバル戦略について考察したい。

〈評価方法〉

成績評価の割合は、前期レポート30%、後期筆記試験50%、出席20%。

〔教科書〕新堀 聰著『貿易売買』（同文館、1990）

〔参考書〕朝岡良平著『貿易売買と商業慣習』（第三版）（東京布井出版、1985）
浜谷源蔵著『最新貿易実務』（同文館、1991）
国際商業会議所日本国内委員会『Incoterms, 1990』
江夏健一編著『多国籍企業論』（八千代出版、1993）

証券市場論

澤田 精次

〈講義目的と問題意識〉

証券市場を広く金融市場の一環として捉え、その国民経済的役割、仕組み、歴史、現状、問題点などを、国際的視点を交えて考究する。

学生にとっては、いきなり入り難い面もあり、また時間も限られているので、あくまでも基礎知識を与えることを念頭におくが、基礎理論に偏することなく、随時アップ・デートな現象・問題を織込んで、社会的関心を高めるようにしたい。

〈授業スケジュール〉

- ① まず、証券とはどういうものかを考え、その中での資本証券（有価証券）の要件をつかむ。つぎに、その有価証券が発行・売買される証券市場の特質をさぐる。
- ② つぎに、その証券市場の存在意義、すなわち国民経済的役割を、資金調達、運用ならびに経済運営との関わりを通じて解明する。

- ③ これまで有価証券として、一括して論じてきた段階から、株式・債券など個々の証券について、その種類、役割、特徴などを考究する。
- ④ 証券の発行市場の観点から、株式・債券がどのような方法で発行され、それが企業など発行体の資金調達計画とどう関係しているかを明らかにする。
- ⑤ つぎに流通市場に移り、取引所市場・店頭市場の実態、仕組みを考究、現在行われている売買仕法を解説する。
- ⑥ 以上によって、証券市場の制度的仕組み、現状の考察をほぼ終えるので、つぎには、株価の決定要因を考究、そこから株式相場の諸タイプについて触れる。
- ⑦ 最後に、平均株価、株価指数など、日常の新聞、テレビなどで見聞される株価指標の内容、特性などを考察、証券市場への理解に資するよう配慮する。

〈教材〉

参考図書は下記のとおりだが、特に教科書は指定しない。ノートをしっかりとなれば、別に参考書を読まなくても、十分理解できると思うし、またそのようなつもりで講義をする。講義だけで理解できなかった部分があれば、質問してもらえば答えるし、ここにあげた参考書によってある程度補えるものと思う。

〔参考書〕大蔵省証券局編『図説 日本の証券市場』（財経詳報社）
東京証券取引所編『東証要覧』（東京証券取引所）
証券団体協議会編『証券用語辞典』（東洋経済新報社）

〈評価方法〉

学年末試験によって成績を評価する。試験問題は、最終講義で出題数の約倍を提示、その中から出題する。内容は、講義をよく理解していれば、容易に答えられる程度のものである。ただし、ノートをはじめ一切の持込みを認めないので、事前に十分理解して、頭に入れておく必要がある。

保険論

石名坂 邦昭

〈授業内容・授業形態〉

保険学研究の方法としては、保険法学的アプローチ、保険経済学的方法のアプローチ、保険経営学的方法のアプローチ等がある。さらに保険種目に応じて海上保険、火災保険、生命保険、社会保険などに分類される。前者は保険現象一般を取り扱うものであり、後者は当該保険種目の範囲に限定し、それぞれにつき研究を行うものである。

保険総論は古くから保険経済と保険経営の両面を含んできた。保険経済学は部門経済学の一つで、保険現象を経済現象として把握し、巨視的立場から分析を進めることを目的としている。全体としての経済的立場からする保険現象の分析に保険理論、保険史、保険政策に分岐する。

保険経営学は部門経営学の一つで保険制度や保険事業の内外に生起する経営現象の解明を目的としている。

近年、保険経済学、保険経営学と言った理論構成を保険者側におく立場に加え、保険利用者側に置くリスク・マネジメント論もさかんに研究されるようになった。

本講義においては保険理論、保険制度の研究に加えてリスク・マネジメント論についてもふれることとする。授業はOHPを使用して、講義の要約を示しながら進めて行く。

<授業スケジュール>

- 4月～5月 保険本質論及び保険の歴史
- 5月～6月 保険の企業形態
- 6月～7月 保険取引
- 9月～10月 保険の技術
- 10月～11月 保険各論（損害保険論・生命保険論）
- 11月～12月 リスク・マネジメントと保険

<履修条件>

受講前に必ず当日の予習をしておくこと。
成績は定期試験の結果と合わせて判断する。

〔教科書〕 姉崎 他著『講案保険総論』

（法律文化社）

〔参考書〕 『リスク・マネジメントの基礎』

（白桃書房）

<その他>

講義途中での入室・退室は他の学生に迷惑になるのでやめてもらいたい。

商 品 学

石 崎 悦 史

商品の競争という視点から商品学の新しい体系化を試みる。特に商品のデザインやパッケージやブランドがもつ情報発信力に注目し、価格競争以外にも商品の競争要因はあり、それらが複雑にからみあって、我々の目前に具体化している現象を本質的に分析していきたい。したがって講義は我々が日々生活しているなかで目になっている諸現象を理論的に解明していくことを目的としているので、学生諸君の意見も発表してもらおう機会を多くし、意見交換をすることによって、「当たり前」と考えられていることを再考するつもりである。企業の商品戦略についても関心をもち、使用対象の提供と利益追求の二重性の意味を考えたい。

〔教科書〕 河野五郎著『使用価値と商品学』

（大月書店）¥2,000

片岡 寛編著『市場力学を変える商品
多様化戦略』（中央経済社）¥1,500

経営管理論

百 田 義 治

<講義の要旨>

経営管理論は、20世紀初頭（世紀転換期）のアメリカにおいて、現代企業の経営管理諸活動を近代化・合理化する技法・制度・理念の提供を課題として誕生したものである。従って、経営管理論が一面において実践的性格をもつことは否定できない。今日においても、経営管理論は、目覚ましい技術革新の進展や著しい国際化の展開、あるいは急速に進行する高齢化社会の到来や深刻化する環境問題など企業経営を取り巻く諸条件の変化の中で、企業経営の担い手である経営者・管理者に対して企業内外の諸条件の変化に起因する諸問題に対する実践的指針を提供するという方策論的性格を有している。本講義では、方策論的経営管理論が提起するような様々な経営管理の技法・制度・組織あるいは理念・思想の特質の歴史的展開を批判的に考察する。しかし同時に、経営管理論を広義の経済学、あるいは社会科学の一領域として位置づけ、現代企業の経営管理問題を考察することも必要である。すなわち、現代企業の諸活動が経営者・管理者ばかりではなく、多数の従業員の「総労働」として遂行されている以上、そのような総体としての企業構成員すべての労働と生活の豊かな未来を展望し、さらに私企業とはいえ「社会的公器」として存在する以上、国民全体の豊かな未来をも展望するという立場から、現代企業の経営管理問題の多様な諸相を歴史的、客観的、科学的に認識することが経営管理論の現代的課題であると言わなければならない。すなわち、現代企業の諸活動は経営者や管理者だけではなく、多くの従業員の労働に支えられたものであり、またその諸活動は株主や消費者あるいは取引業者や地域住民などの、さらに国際化（グローバル化）の下では進出国との関係をも含めて、数多くの利害関係者との密接な結び付きの中で展開されているのであり、現代企業の経営管理の諸問題も、実践的・方策論的な立場からだけではなく、被管理者である従業員、下請企業、地域住民などの労働と生活との関係をも視野に入れて検討されなければならないであろう。

<授業の方法>

1. 経営管理の理論・思想の歴史的展開を扱う前期の授業は、主として、教科書を素材に行う。

ただし、現代企業の経営管理問題への関心を鼓舞する意味で、新聞や雑誌の記事などを素材にした講義を必要に応じて随時行う。

2. 国際化、技術革新、日本的経営など経営管理の現代的課題を扱う後期の授業では、ビデオも利用し、できるだけ具体的に現代の経営管理問題の実際を把握することに努める。

〈授業スケジュール〉

第1週

現代企業・経営管理・経営者の基本的性格

第2週

経営管理の生成(1): 技術・労働・管理の相互関係

第3週

経営管理の生成(2): 賃金の本質と形態

第4週

経営管理の展開(1): 科学的管理の基本的特徴

第5週

経営管理の展開(2): 大量生産と管理問題

第6週

経営管理の展開(3): 労働疎外と人間関係管理

第7週

経営管理の理論(1): 管理職能論と管理過程論

第8週

経営管理の理論(2): 管理組織の形態と編成原理

第9週

経営管理の理論(3): 現代組織論の基本的特徴

第10週

経営管理の理論(4): 行動科学と人的資源管理

第11週

経営管理の理論(5): 企業環境と経営戦略論

第12週

経営管理の理論(6): 経営倫理と社会的責任論

第13週

前期試験

第14週

日本的経営論(1): 日本的労使関係の特質

第15週

日本的経営論(2): 日本的生産管理システム

第16週

日本的経営論(3): 企業集団と経営管理

第17週

日米企業の経営比較(1): 経営組織構造の比較

第18週

日米企業の経営比較(2): 経営理念と労働生活観

第19週

技術革新と経営管理(1): F A化と管理問題

第20週

技術革新と経営管理(2): O A化と管理問題

第21週

国際化と経営管理(1): アメリカ企業の国際化

第22週

国際化と経営管理(2): 日本企業の国際化

第23週

現代経営管理の課題と労働の未来

第24週

後期試験

(時間割編成の関係で若干変更することがあります)

〈成績評価の方法〉

前期試験および後期試験に、レポート(数回)提出と出席状況を加えて総合的に評価します。

〔教科書〕丸山他編著『現代企業経営論』

(中央経済社, 1992年)

〔参考書〕新書・文庫などを中心に随時指定します。

労務管理論

前期: 石井 脩 二
後期: 庄 村 長

〈講義目的〉

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめている。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、日本企業が今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なのは、現実には生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実には焦点を合わせ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

〈講義内容〉

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用の卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。ところが現在、日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめている。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものにその妥当性を問われているということにほかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開

されようとしているかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にもどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日は、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめている。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序章

労務管理ないし人的資源管理とは（4月）

第1章

日本企業が直面している諸問題（4月～5月）

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き（6月）

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開（6～7月）

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

<授業方式>

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

<成績評価>

前期（50点）、後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

[教科書・参考書]

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。

- ① 日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）¥2,800
- ② 日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）¥1,300
- ③ 日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働

事情』（日本経済新聞社）¥1,300

- ④ 佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）¥1,700

財務管理

高橋昭三

<講義目的（要旨）>

財務管理の研究が対象としている領域は、企業が経営活動に必要な資金を株式、社債、CPおよび銀行借入等によって調達し、それを設備やM&Aなどの長期・固定的な投資や短期的な運転資本および「財テク」等に運用する、いわゆる財務活動である。この領域は、ここ10年足らずの間に世界的な規模で展開された「金融・資本市場の国際化・証券化・自由化」のもとで多様な発展をとげ、2年ほど前までは企業本来の営業活動の利益に比肩するほどの利益をもたらして「財務の時代」といわれるほどの脚光を浴びた分野である。しかし、現在いわゆるバブル経済の崩壊とともにその在り方に再検討が進められている分野でもある。このような矛盾を含んで展開されている企業の財務活動を対象とする財務管理の講義では、近視眼的な「ノウハウ」の観点からではなく、現代の企業の代表的な形態である株式会社の発展と共に展開されてきた資本の調達と運用の諸々の技法を歴史的・理論的に考察することを主眼としたい。

<授業の内容と授業計画>

- (1) まず財務管理を理解するに不可欠の基礎的な諸概念、例えば資本の循環と回転・固定資産と流動資産、収益性と財務流動性の均衡、資本コスト等を解明する。
- (2) つぎに現代株式会社の基本的な特徴——「譲渡自由な株式制度」のメカニズムの理解にもとづいて、株式会社の多種多様な資本調達方法（株式・社債・CP発行等による会社金融）を説明する。

以上の(1)と(2)は前期（夏休み前）で済ませ、後期では資本の運用の面に重点を置き、以下の順序で講義する。

- (3) 長期・固定的な資本支出の管理（資本予算論あるいは投資管理論）
- (4) 在庫投資等の短期的な運転資金の管理
- (5) 配当政策（内部留保にもとづく成長政策）
- (6) 資本市場の国際化・自由化のもとでの企業の財務戦略（為替リスク・ヘッジや金融先物取引ならびにM&A等について）

なお、講義を進めるうえで、OHPなどを使って具体例を示したり、随時、新聞記事などの解説を織り込んで理解を深めてもらうようにしたい。

〈履修条件および成績評価の方法〉

企業の財務動向についてはよく新聞紙上に報じられるので日本経済新聞や朝日・読売等の全国紙を読む習慣を身につけること。また、講義をどの程度理解したかを知ること、成績評価に資するために、授業時間中に簡単なテスト（20～30分程度の小テスト）を前・後期とも数回ずつ実施する。なお成績評価は学年末に筆記試験またはレポートによって評価するが、上記の小テストの成績を加味する。

〔教科書〕高橋昭三『現代経営財務』（三訂版）
（税務経理協会）¥3,100

〔参考書〕高橋昭三編著『資本市場の変容と経営財務』（中央経済社）¥3,000
後藤幸男編『現代の企業財務戦略』（中央経済社）
水越 潔編著『新金融証券市場と会社財務』（税務経理協会）

原価計算論

加 藤 利 安

〈基本的な視点（問題意識）〉

経済的、社会的環境の構造的変化（たとえば、為替相場の変動、国際貿易摩擦、国際化、ハイテク化、高度情報化、経済のソフト化やサービス化、高齢化、就業意識の変化、消費者の価値観の多様性、女性の社会進出、環境問題の対応）によって抜本的な経営改革の必要性の強調＝リストラクチャリング（生産、販売システム等すべての事業組織の再構築）とグローバル経営が標榜されている今日、これら経済的、社会的環境の構造的変化は企業会計の研究にとっても無関係ではないだろう。もし、そうであるならば、それは原価計算の領域にとってもあてはまるだろう。なぜならば、原価計算は計数的技法として企業会計の一領域を形成し、諸種の計算目的の達成を通じて企業経営組織に貢献するものと考えられてきたし、また今後もそうであると考えられるからである。

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまで、さまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に答えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、そこでは財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計の側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価

計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに、最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が議論されている。このように、一定の時代的環境状況の認識の下である特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた「原価計算基準」も、変容した今日的な経済的、社会的環境下においてその現実的課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表しているが、一定の経済的、社会的環境の下で企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、計数的技法としての原価計算が当該目的達成のための手段であるとするれば、目的手段体系の因果的把握が可能となるのではないだろうか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の「原価計算基準」を所論展開の出発点としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを会計現象の一つとして捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に解明することを心掛けることにした。

〈授業計画〉

前期では、原価計算の基礎的考察として原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら解明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算について検討を加える。

〈評価方法〉

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。

〔教科書〕最初の授業時に指示する。

〔参考文献〕授業時に適宜挙げる。

会計監査論

飯 岡 透

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の意義と役割

- (1) 会計監査の意義と機能
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性とその構造
2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 戦前におけるわが国の監査制度の展開
 - (2) 戦後におけるわが国の監査制度の展開
3. 監査役と会計監査人
 - (1) 監査人の種類とその要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限
 - (4) 監査役および会計監査人の義務と責任
4. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 合理的証拠とその決定要因
5. 監査手続の種類と内容
 - (1) 監査手続の意義と分類
 - (2) 監査手続の内容
6. 内部統制と試査
 - (1) 内部統制の意義と構成内容
 - (2) 内部統制の調査範囲と調査手続
7. 予備調査と監査計画
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的と種類
8. 監査調書の目的と種類
 - (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
9. 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 監査報告書の記載内容
 - (4) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、簿記、財務会計論の講義を履修し、財務諸表について、十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材については、最初の授業時に指示する。

管理会計論

中原章吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段上がってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目に当たる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理

会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は、管理会計の本質、体系その中の意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思ひます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年度で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思ひます。例えば、『企業会計の基礎構造』（創成社）

〔教科書〕 中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

税務会計論

市川 深

税務会計論という文字からは、ほのぼのとしたメルヘンもロマンも思い浮かず、誰しも毛嫌いしがちであります。しかし、将来企業経営に携わる人はもちろん、そうでない人でも、税とのかかわりなしに生きられませんし、そのかかわり方によっては、税に無知のために一生に一度や二度呻吟させられることも少なくありません。

本講義では、税法についての大綱を日常生活に関連させ、わかり易く、興味深く展開するようにします。最初は個人に課せられる税、ついで企業に課せられる税について学びます。

税務会計論の講義をとおして、学問と芸術を愛する心が皆さんに醸成されることを念じています。〔教科書〕市川 深著

『所得税重要判例コメンタール』（税務経理協会）¥3,500

〔参考書〕講義の都度指示します。

民法二部

青野博之

〈講義目的(要旨)〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。債権法を講義内容の中心にする。民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法一部を既に受講していることが望ましい。あるいは、民法二部と並行して民法一部を受講していただいた方が受講生のためになると思う。しかし、民法一部を受講していない学生にもわかっていただけるように努力するので、受講生はそれほど心配しなくてもよい。

債権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目で見ることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか(権利)、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか(義務)を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者はそれほど多くないことが予想されるので、私から受講者に質問しつつ、受講者に自分で民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

債権総論(民法三九九条から五二〇条まで)。

4月、債権法の序説(たとえば、債権は物権とどこが違うか)、債権の目的(たとえば、利息はいくら高くても支払うと約束した以上支払わなければならないか)。

5月、債権の効力(たとえば、売主が約束通りに物を渡してくれないときに買主はどうすればよいか)。

6月、多数当事者の債権関係(たとえば、他人の保証人になるとどのような不利益を受けるか)、債権譲渡、債務引受、契約上の地位の譲渡。

7月、債権の消滅(たとえば、銀行に定期預金をしている人には銀行が比較的容易にお金を貸すのはなぜか)。

後期

債権各論(民法五二一条から七二四条まで)。

9月、契約総論(たとえば、売主が物を渡さないのに買主は代金を支払わなければならないか)。

10月、契約各論(たとえば、土地を買ったところ、約束通りの面積より不足しているときはどうすればよいか)。

11月、契約各論(たとえば、自分の借りたアパートを自分の好きなように使うことができるのか)、事務管理、不当利得。

12月、不法行為(たとえば、自動車事故にあっ

た場合において相手にどう理由で賠償金の支払を請求することができるか)。

1月、質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の始めと終わりに答えるが、それとは別に質問時間を設ける)。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。なお、評価は、年度末の試験で最終的には決まる。

〈教材〉

教科書：我妻 栄・有泉 亨著(水本 浩補訂)『民法2(債権法)』(一粒社)、教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』(有斐閣)、『コンパクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)などの大きさ(厚さ・値段)のもので十分である。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましいが、多少古くても少なくとも受講する上では支障はない。もっとも、法令索引で『借地借家法』が掲載されているかを調べて、この法律が掲載されているものの方が望ましい。しかし、借地借家法が掲載されていない六法を買ってしまったとしても単位の取得に致命傷を与えるというほどのものではない。

商法一部

荒木正孝

この講義では、商法総則(法例、商人、商業登記、商号、商業帳簿、商業使用人、代理商)および会社法(総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社)について基本的な説明を行う。商法は、民法を一般法とする特別法であるから、民法総則や債権総論の知識があれば一層理解しやすいでしょう。

講義のやり方としては、限られた授業時間のできるだけ有効に使いたいのので、議論の多い会社法に重点を置いて解説し、会社法を理解するために必要な限度で商法総則にも触れることにしたい。また、会社法のなかでも現代社会において国民の経済生活に極めて大きな影響を及ぼしている株式会社について、その生成、機能、構造などの私法的側面を規整する株式会社法に焦点を絞り、その重要問題に関する法規、学説、判例および実務の取り扱いなどを採り上げ、会社法の基本原理についての理解を深めて行きたい。

〔教科書〕 荒木正孝著『現代企業法（商法総則・会社法）』（成文堂）¥2,800

〔参考書〕 奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）』（成文堂）¥2,300

鴻・竹内・江頭編『会社判例百選（第5版）』（有斐閣）¥1,800

商 法 二 部

宮 島 司

〈講義目的（要旨）〉

手形・小切手の一般的講義を行う。近時においては、権利が証券上に化体された有価証券が経済上も法律上も重要性を帯びてきており、有価証券基本法である手形・小切手法を知ることが特に要請される。

手形・小切手とは一体何であるのか、それが振出され、譲渡され、決済されて行く過程を、手形・小切手法との関わりから考察してみることにする。従って、商法としての手形・小切手法の講義ということになるが、その前提には、民法の法律行為論の理解が必要となる。講義中も必要な限りで法律行為に触れることになるが、予備知識があればより望ましい。

前期は、手形行為を中心とした総論的問題について考える。

後期は、約束手形を中心に、振出、裏書・支払等について考える。

〈評価方法〉

筆記試験により評価する。

〈教 材〉

特に教科書は指定しません。担当者は交付契約説という立場に立つが、それ以外のいずれの立場による参考書であっても、自らの理解の助けとなるものであれば、一冊買っておいても良い。二、三参考までに挙げておく。

〔参考書〕 田辺光政『最新手形法小切手法』（中央経済社）

前田 庸『手形法・小切手法入門』（有斐閣）

木内宜彦『手形法小切手法』（勁草書房）

上柳・北沢・鴻・竹内『手形法・小切手法』（有斐閣）

労 働 法

藤 本 茂

労働法とは、雇用労働関係において生起する問題を取扱う法領域で、大まかには、労働保護法と労使関係法の領域からなる。

労働保護法は、個別的労働関係法とも呼ばれ、労働者個人と使用者との間の労働契約を通じて形成された関係を規整する法領域のことをいう。労働保護法は、資本主義の形成発展と共に、労働者にかされた苛酷な雇用労働の実態を背景に労働者の労働条件や労働環境を改善すべく徐々に形成された法領域である。わが国では、特に第二次大戦後、憲法27条の勤労権によって「労働基準法」が制定された。現在では、「労働基準法」を中心に「最低賃金法」「男女雇用機会均等法」などがある。

労使関係法は、集团的労使関係法とか労働団体法とも呼ばれ、労働者集団＝労働組合と使用者（団体）との間の関係を規整する法領域のことをいう。また、労働者集団も組織である限りにおいてその中には一定のルールがあり、そのルールの規整もこの法領域の検討対象である。労使関係法がわが国で日の目を見たのは第二次大戦後の占領期で、民主化政策の一環としての労働組合の保護助長政策としてであった。そのような経緯からわが国の労使関係法はアメリカの影響を受けている。制定法では、憲法の労働基本権による「労働組合法」「労働関係調整法」などがある。

以上のように、労働法は第二次大戦後に本格的に出発発展し、現在に至っている。労働法は、社会構造の変化や労働者の意識の変化によって、絶えず、法理の妥当性に検討が加えられるとともに、制定法の改正、制定もなされている。特に近年は、労働保護法の領域で盛んに法改正がなされているし、またなされようとしている。

授業としては、近い将来、身近に接することになるであろう現行法制での労働関係における基本的な事項を採り上げ、検討するつもりである。したがって、講義は、法律条文の単なる説明は極力避けるとともに、判例の動向、行政の考え方に言及し、なるべく具体的出来事との接点を意識しつつ行いたい。

授業のスケジュールは、以下のとおりである。

はじめに、基礎的用語

1. 労使関係法

- ① 団結権保障と労働組合
- ② 労働組合の組織と運営
- ③ 組織強制と統制
- ④ 組合活動、不当労働行為制度
- ⑤ 団体交渉、労働協約
- ⑥ 争議権

2. 労働保護法

- ① 労働基準法の特徴
- ② 労働の自主性確保のための法的措置
- ③ 労働条件の決定
- ④ 平等取扱い
- ⑤ 契約成立、採用内定、配置転換
- ⑥ 解雇
- ⑦ 就業規則
- ⑧ 賃金、賃金の法的保護
- ⑨ 労働時間

出欠については、出席を「義務」とはしない。しかし、出席しないで単位を取ることは難しいことを、承知しておくこと。

成績評価は学年末試験を最重要視する。学年末試験を受験しない者は、評価の対象外とする。レポートなども評価の参考として課すこともある。

〈参考書等〉

六法は用意して頂きたい。コンパクトなもので結構であるが、最新のを用意すること。

参考書は、特に指定はしない。図書館にあるものなどを見て、自分にあうと思われるもので結構。例えば、基本法コンメンタール『労働基準法（3版）』（日本評論社）、基本法コンメンタール『労働組合法』（日本評論社）とか、青木宗也・金子征史著『労働関係法』（日本評論社）、菅野和夫著『労働法』（弘文堂）のような教科書などがある。最近の教科書では、小西・渡辺・中島著『労働関係法』（有斐閣）がある。

経済法

川井克倭

〈授業の主たる内容〉

自由主義経済を採る国の経済政策の基本となる独占禁止法を中心として講義する。

経済法とは何か。自由主義経済と競争との関係、競争政策の意義などについて概観した上で、経済法における独占禁止法や消費者保護関連法などの位置づけを行い、その上で、独占禁止法を中心として解説する。

授業形態としては、受講生の意向にもよるが、受講生の負担を考慮すれば、講義制となることも止むを得ないであろう。

〈授業項目と授業スケジュール〉

第一部と第二部に分ける。

第一部では、経済法を概説する。第二部では独占禁止法を中心として解説する。前期では、第一部と第二部のうちの一部、後期では第二部の残りを解説する。

〈履修条件等〉

特別の履修条件はない。しかし、授業内容が社会主義経済がなぜ失敗し、自由主義経済がなぜ残りえたのか、自由主義経済の根底にある理念と競争政策の関係、国際社会における経済政策の調和など、現代社会の歴史的流れを独占禁止法をとおして社会科学的にみていくのであるから、そういうことに興味を持ってない学生には無理である。

受講態度が悪い学生に退席を求めることもある。

成績評価は、年度末の試験を中心とするが、前期末に簡単なレポートを提出させる。また、出席点はプラス方向にのみ加味することとする。

〔教科書〕川井克倭著『競争政策法概説』

〔参考書〕授業のなかで適宜紹介することとする。

原書講読 I・II

有井行夫

John McDermott著『CORPORATE SOCIETY-Class, Property, and Contemporary Capitalism』を講読します。

本書は、現代資本主義社会の社会システム諸形態の発生点として、企業システム内の階層分化を強調します。現代企業の合理的経営システムの確立とともに、企業の外部環境である社会システムの諸内容そのもの、つまり、社会的諸階層や社会的諸制度、主導的な価値観などが、運動して形成されてきたと主張します。また、企業システムの変容とともに、社会システムの内容の編成も変動していかにざるをえないことを予測します。

現代日本こそは、企業中心社会であり、日本の特殊性の重要な側面だ、として、日米構造摩擦の論点になったりしている昨今です。しかし、企業中心社会は、現代の先進諸国において普遍的なものです。批判的経済学派に属するアメリカ人の著書による、アメリカにおける企業中心社会論を読むことは、企業中心社会の普遍性を考えるうえで興味ぶかいものです。本書は、現代企業社会論の前提として、基礎的な経営史もふまえており、基本的な知識の提供としても有益であると思われる。

本書の英文は、専門論文ながら、くせがなく、平易と言えるかどうかはともかくも、比較的読み易いものだと思います。一回に、4頁ぐらいずつ、100頁まで読み進めることを目標にします。

「原書講読」という、授業の原点にかえて、妥協のない授業を行う予定です。参加者全員にたいして、毎週、必ず4頁分の予習を要求します。つまり、予習の分担はしない、各人の予習をチェックする、ということです。成績の評価は、平常点だけでおこないます。

教材は、参加者にプリントして配布します。

原書講読 I・II

大吹勝男

<講義目的>

諸君らの多くが将来なるであろう、ホワイト・カラー労働者（サラリーマン）について考えるための材料を提供することを目的とする。

<授業の運営方法>

ゼミ形式でテキストの輪読によりすすめる。

<評価方法>

レポート・訳文の提出等による予定。

〔教科書〕『WHITE COLLAR PROLETARIAT』

原書講読 I・II

齊藤正

<授業の内容・目標>

近年、自由化・国際化は世界的な潮流であるが、それに伴い金融環境は大きく変化し、従来の理論的枠組みではとらえきれない諸問題が次々に生起している。本年度は、Sarkis J. Houry, *The DEREGULATION of the WORLD FINANCIAL MARKETS* を読むが、授業の目標は、第1に、各国（米、英、日）の自由化の実際を比較検討しつつ、なぜ、80年代以降自由化・国際化が共通の流れになったのかについて理解を深めること、第2に、自由化・国際化の問題点はどこにあり、今後どのような制度が望ましいのかについてそれぞれの見解を獲得すること、に置いている。さらに、経済英語の読解力の向上、専門用語（テクニカル・ターム）の習得も重要な目標である。

<授業の進め方>

授業は各自があらかじめ分担した箇所を訳出したうえで、討議する方法をとるので、訳出者は十分準備して、大意を把握して授業に臨んで欲しい。なお、訳出の分担は一回の授業で5名程度を予定している。

<履修に際しての要望>

自ら英語を読み、理解する姿勢が重要ですから、「この際、原書に挑戦しよう」という意欲的な諸君の履修を望みます。なお、受講登録の前に、第

I 回目の授業に必ず出席して下さい。

<成績評価の方法>

通常の授業態度（出席状況、事前の準備状況、授業への意欲等）、及び読解力を基にして総合的に評価する。前期・後期とも試験は行わない。

原書講読 I・II

古沢紘造

現代アフリカの社会、経済に関する文献（英語）を輪読する。アフリカは世界で最も遅れた大陸といわれているが、「人間の生活そのものの豊かさ」からみたらどうだろうか。第三世界に対する私たちの考え方の底にある偏狭で独断的なものを見つめなおしてみたい。文献としては、アフリカの新聞に掲載されている論説、エッセイ、小説、投書などを使うことにしたい。輪読のあと、内容について活発な討論が行われることを大いに期待している。評価は前期・後期のレポート提出による。

原書講読 I・II

百田義治

<授業内容>

本年度は、アメリカ経営学の基礎理論である F. W. Taylor の管理学説に関する文献を輪読する。「科学的管理」(Scientific Management)の父とも呼ばれる F. W. テイラーはアメリカ経営学の発展に最大の貢献をした者と評価されている。また、彼が展開した「科学的管理論」はアメリカ経営学の「成立指標」と位置づけられている。F. W. テイラーの「科学的管理論」それ自体は世紀転換期アメリカの工場管理の「近代化」・「合理化」を直接的な対象としたものではあるが、しかし「科学的管理論」に盛り込まれている経営管理（マネジメント）に関する基本的な思想は、その後の企業管理の歴史的発展の中で、企業管理の過程的に分化した諸領域（販売管理、購買管理、生産管理、人事労務管理、事務管理など）に、また階層的に分化したトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローア・マネジメントの諸領域の管理にも拡大・適用されている。したがって、F. W. テイラーの「科学的管理論」を学ぶことは、アメリカ経営学の基本的な性格、理念、技法、制度を理解することでもある。

<授業の方法>

テキストを輪読する形式で授業を進めるが、ある程度のスピードで読まないとい全体の輪郭がつかめず、議論を行うことが困難である。受講者数に

もよるが、一定の予習と割り当てられた部分（各人1週1頁程度）を事前に翻訳して授業に参加することが必要である。英語にある程度の実力を有し、経営学に関心がある学生の受講を希望する。
〈成績の評価〉

授業における発表の内容と出席状態で成績の評価を行う。前期試験および後期試験は行わない。
〔教科書〕 随時配布する。
〔参考書〕 随時指定する。

原書講読 I・II

三井逸友

「原書講読」のねらいは、外国語による専門文献をとともに読み、ナマの材料による深い知識をえるとともに、外国語による読解力を実践的に磨くことにあると考える。しかし残念ながら、これまでの経験から、多くの学生諸君の語学力は応用はもとより、基礎からかなり心もとないものであると、判断せねばならない。

「国際化時代」の今日、国際共通語としての英語の「読み・書き・話す」能力はあらゆる機会にますます必要なものになってきている。それなのに、英語の授業を8年以上も受け、難関の入試を突破してきてなお、どうして英語の基礎的実力が身につかないのか？私の考える問題点は次のようなことである。①もちろん、コトバを単に試験のために記憶するもの、いやいややられるものと受けとめていては、向上はない。②同様に、英文を理解するとは、辞書を手がかりに1つ1つの「コード」を邦文に判読置換していく「暗号解読」としていても、進歩はない。③さんざんいじめられた「学校英語」「受験英語」は無用の物で、まったく別の「ホンモノのエイゴの世界」があるはずだ、といった「エクスキューズ」ばかり考えていても、何にもならない。④同様に、英文を読まされるばかりの英語教育だから、聞けない話せないになるんだ、といったよく聞かれる「批判の声」にならずにいるのは、実は空しい。「逆は真ならず」で、残念ながら教科書の英文程度を理解できない人には、「駅はどこですか？」位しか話せずに終わるのである。

では、どうしたらよいのか？そうしたことを「原書」を素材に、実践的に説明し、学生諸君の本来備えている基礎力を前向きにのばそうというのが、この時間のねらいである。ただしそのために、最低限守ってもらいたいことは、①この機会を利用して、「使える語学力」を少しでも身につけたい、という積極的な意欲と熱意をもって臨むこと。②よい辞書（フリガナつき・中学以来愛用といった代物ではない、中級以上の、例文豊富な

もの）を備え、労をいとわず辞書をひく習慣をつねに保つこと。③中・高校以来の「英文法」、 「予備校的英文解釈法」といった説明にアレルギ一反応をおこさず、それがいかに大切か得心し、忘れたところがあればすぐ教科書をひっぱり出して復習する気力を失わないこと。④何よりも「コトバ」は「音」からはじまっていることを念頭におき、恥ずかしがらず音読に心がけること、以上である。

担当者は以上の考え方でこの時間を例年すすめてきたが、近年履修者が著増し、喜ぶべきことというより、少々困惑している状態である。そのため、今後、「居眠りしていても、来ていれば単位になる」などという誤解をしている諸君には履修を遠慮願ひ、密度の濃い、ディスカッションと質疑応答式の授業をすすめたい。うえの趣旨と姿勢に賛同する、意欲ある諸君の参加を待つ。

テキストそのものは、新年度開始時に準備したいが、基本的には、担当者が関心をもってとり組んできている、ECやEC加盟国での経済政策・産業政策、あるいは企業経営などに関する最新の文献をとり上げてみたい。詳しくは、履修者の希望に沿って考えるつもりである。激動する欧州の政治・経済・社会にある程度の関心をもってもらうことが望ましい。関連する資料等も配布する。

なお、単位取得ならびに成績評価については、従来から出席状況と学年末試験によって認定を行ってきた。この方針は本年度も変わらないが、履修者諸君の意欲も加味してみたい。

〔教科書〕 特に指定しない。

原書講読 I・II

福原好喜

カール・マルクス『資本論』（ドイツ語）を講読する。在職中に第三巻の終りまで行くのが私の夢である。今年度は恐らく価値形態論を読むことになる。講義は訳のみでなく、内容の詳しい説明検討を行う。授業は少人数なのでゼミのような雰囲気である。学生諸君からの希望があれば、夏休みなどに泊り込みで勉強することもある。受講者は、第二外国語としてドイツ語をとった人、あるいは独学でもドイツ語の素養のある人が望ましい。（毎年夏休みには私のところにドイツ人の家族が泊りに来るので彼らと交歓の機会が持てたらと思っている。）

原書講読 I・II

清水 卓

〈授業内容〉

イギリスの立場からの欧州共同体の現状分析を行っている文献を講読します。扱っている分野は、単一欧州議定書と EC 政策決定機構、欧州統合の制度的展開、イギリスの加盟問題、EC 財政問題、共通農業政策問題、各国経済分析、通貨問題、社会的統合、EC におけるイギリスの役割、単一市場の将来などです。

この文献は、EC のなかでも、独自の立場を堅持しようとするイギリスの眼からみた EC 論であり、EC 委員会を中心とする EC の公的機関の見方とは異なった視点を提供してくれるという点で興味深いものです。

扱っている分野が広範囲にわたっているので、EC についての入門書としても有益であると思います。ただし、入門書といっても、日本の新書版程度の文章でありますから、内容を正確に理解することはそれほど容易ではありません。

これまでの授業で、既に幾つかの分野は読了しています。本年度は、共通農業政策と通貨問題を読みたいと思います。受講希望者は、日本経済新聞社「EC の知識」か有斐閣「EC 経済を見る眼」を事前に読んで、EC について、ある程度の基礎知識を得ておいて下さい。

〈授業方法〉

毎週 1、参加者 2 分の 1 ページ程を割り当て、翻訳を文章にしてきてもらいます。英語力にもよりますが、そのための準備には 2 時間程度は要するでしょう。

〈成績評価〉

毎週の授業における発表、出席状況で成績を評価します。試験は行いません。

〔テキスト〕第 1 週に配布します。受講希望者は第 1 週の授業に必ず出席して下さい。

原書講読 I・II

小杉 修二

現在の中国の「最高実力者」鄧小平の著作を読む。参加者は中国語履修者であることとする（中国語を母国語とする者は日本語への厳密な翻訳能力を目標とする意欲のある者に限る）。

〔教科書〕プリントして配布する。

原書講読 I・II

色川 卓男

〈講義目的（要旨）〉

英語やドイツ語の雑誌論文を通じて、現代経済学の理論の一つであるレギュレーション学派を学びたいと思います。経済学の基礎的なタームから学び、最終的には、現代経済学の諸類型とその基本的内容を身につけてもらうことに目標をおきます。

〈授業内容〉

科目の性格上、講義のような形式をとれません。学生の皆さんに訳出してもらい、それに対して様々な（語学的、あるいは経済学的な）コメントを提供するという形をとりたいと思います。もちろん、大切な枠組み等についての解説は、随時、行っていくつもりです。また、質問等があれば、できるだけお答えしたいと思います。

〈授業計画〉

年間を通じて、レギュレーション学派関係の論文を読みしたいと思います。なお、各期の具体的な方針は以下の通りです。

前期

経済学の基本的な用語や枠組等の解説を中心にを行います。3・4 年生には復習となりますが、レギュレーション学派を他の学派と区別したり、その意味を深く理解するためには、改めて経済学の基礎的な知識を再確認することも無駄ではないでしょう。

後期

近年、日本で話題となっているレギュレーション学派のパラダイムの解説を中心にを行います。ここでは単にレギュレーション学派のパラダイムそのものの説明に終わるのではなく、どうしてレギュレーション学派が出現したのか、その問題意識は何か、その時代背景はどのようなものか、という点にまで、深く突っ込んで解説したいと思います。

〈評価方法〉

平常点（授業の出席・様子）と後期レポートによって評価します。特に後期レポートを重視します。また、随時に課題を出すことがあります。

〔教科書〕随時、配布します。

〔参考書〕今村仁司編『ワードマップ資本主義』

（新曜社）¥1,500

長谷川啓之編『英和経済用語辞典』

（富士書房）¥1,900

〈講義目的(要旨)〉

フランスにおいて、1970年代の中頃よりレギュレーション(Regulation)という概念を使用しながら、新たな現代資本主義社会の分析を展開してきている潮流がある。授業では、このレギュレーション学派と呼ばれているグループの論文を仏語で読んでいく。

前 期

レギュレーション学派の出発点は、第二次大戦後にみられた持続的、かつ規則的な高度経済成長(「黄金の30年」と、60年代末以降にみられる緊張と矛盾の高まり(「苦悩の20年間」とを如何にして、同一の理論装置で説き明かしようのか?という問いである。

前期の授業では、レギュレーション学派がどのように形成されてきたのかを三つのグループ(①国家独占資本主義論グループ、②ゲルノーブル・グループ、③パリ・グループ)の検討を通して明らかにする。特に、パリ・グループに関しては詳しく検討する必要がある。何故なら、彼等のグループこそ、いわゆるレギュレーション学派と呼ばれるのに値する理論的体系性を兼ね備えており、すでに多くの実績を挙げているからである。

従って、次の問題として、彼等の理論的枠組を構成している、現実分析の為の媒介諸概念を考察しなければならない。すなわち、

- ① 蓄積体制
 - (a. 外延的蓄積体制 b. 内包的蓄積体制)
- ② 制度諸形態
 - (a. 賃労働関係 b. 資本間競争 c. 国際諸関係 d. 国家の役割)
- ③ 調整様式
 - (a. 旧式的調整 b. 競争的調整 c. 独占的調整)
- ④ 危機の諸水準および諸類型の区別
 - a. 「外的」攪乱としての危機?
 - b. 循環性危機 — 安定的発展様式内部での調整の構成要素 —
 - c. 調整システムそれ自身の危機
 - d. 蓄積体制プラス調整システムの危機

等々の概念を理解する事。

後 期

前期は抽象的な次元で、レギュレーション学派の理論的枠組を学んだが、後期では、具体的にこれ等の概念用具を用いて分析された各国別のプロブレマティックをみていく事とする。その際、各人が興味ある国を受けもって、それぞれ、レギュレーション学派の分析の意義と限界を明らかにしてい

く方向で討論を重ねながら、レポートを作成する。
〈評価方法〉

出席および平常点を重視。一年間、同じ時間と空間を共に過ごす以上は、お互いの発展に結びつく創造的な授業空間を考えたい。

〔教科書〕 テキストはコピーして配布します。

〔参考書〕 最近、レギュレーション関係の書物は大量多く出版されているので、必要に応じて授業中に指示する。取り敢えず次の2冊は読む事。

R. ボワイエ『レギュレーション理論』

(山田鋭夫訳、新評論、1989年)

M. アグリエッタ『資本主義のレギュレーション理論』(若森章孝他訳、大村書店、1989年)

現代経済事情 I (環境問題と企業)

岸 宣 仁

〈講義目的(要旨)〉

ここ数年、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨など、いわゆる「地球環境問題」が世界的な関心を集めています。92年6月にはブラジルのリオデジャネイロで「国連環境開発会議(地球サミット)」が開かれ、国際的な環境保全・開発問題が話し合われました。これを受けて、我が国でも環境庁が中心になり、環境行政の新たな柱になる「環境基本法」(仮称)の制定を急いでいます。基本法は、公害対策の主流だった規制的手法だけでなく、環境税など経済的手法の導入や、環境影響評価(アセスメント)の活用など多角的な内容になるものと予想されます。そこで、日本政府や日本企業がこの環境問題にどう取り組むか、主に環境保全と企業責任に的を絞って講義したいと思います。

〈授業内容・授業計画〉

初めに地球環境問題の現状を説明し、従来の「成長」や「開発」だけを志向してきた現代文明が曲り角を迎えていることを明らかにします。続いて、環境基本法の目指すものの中で最も注目される環境税の導入に焦点を絞り、政界、財界、官界の動向をフォローします。その上で、日本企業がフロン対策など環境問題にどう取り組んでいるか、経団連の「地球環境憲章」を下敷きにメスを入れたいと思います。水と空気は只と考えがちな日本人の思考方法にもスポットを当てられればと考えています。

〈評価方法〉

出席および筆記試験。また、レポート等課題提出物によって試験に代える可能性もあります。試験の場合、何を持ち込んでも結構ですが、講義を十分理解していない人が参考書や他人のノートの

コピーを持ち込んでもあまり役に立たないと思います。

〈教材〉

特に教科書は指定しません。読売新聞経済部記者だった経験を生かし、日々のニュースを中心に講義する予定で、あえて言えば毎日の新聞が教科書になります。自分でしっかりノートを取って、しかも新聞を丹念に読んでいれば講義自体の理解は難しくないと思います。

現代経済事情Ⅱ（バブル経済とその崩壊）

高 島 浩

〈授業の問題意識〉

1980年代後半に日本経済を舞台に急膨張したバブルは90年初頭以降一転して崩壊局面に入り、それから3年を経た現在では経済全体が深刻な不況を経験しつつある。こうしたバブルの形成と崩壊、不況の深化の過程でいわゆる金融不祥事が国内外に衝撃を与えたほか、国民経済全般にわたって広汎な構造変化が見られる。それらについての評論・言説は枚挙にいとまがない。

ところでバブルは商品経済の歴史とともに古く、特に重商主義時代には南海泡沫会社事件等著名なバブルが発生した。また現代資本主義においてはアメリカの大恐慌と今回の日本のバブルが重要である。重商主義期のバブルが経済の基礎構造を揺るがせなかったのに対して、高度資本主義段階のそれは特定国の経済システム全体の動揺となって現れる。

その必然性を事実在即しつつ経済理論的に明らかにしたいというのがこの授業の問題意識である。

〈授業の主たる内容〉

(1) 今回のバブルの特徴点を整理する。

- 1985年のブラザ合意を起点とする円高・低金利政策によって極度の資金過剰が生じ、それがいわゆるストックインフレを激進させ、空前のバブルを発生させた。
- 株式の代表は株と土地であった。株式市場は高度資本主義経済の金融的基盤であり、土地はすべての経済活動の物的基盤である。この両者がバブルの対象となったことによってその膨張が異常なものとなり、また各分野に与えた影響が深刻になった。
- バブルの形成と好況、崩壊と不況が重なった。資本主義経済にとって好不況の景気循環は不可避のものであるが、バブルによってその変動が著しく増幅され、歪曲された。
- 現在の日本の金融・証券市場が有するメカニズムによってバブルの膨張は金融の異常かつ急速な拡大と双子の関係となって現れ、金融と実物経済の均衡状態が破壊され、さ

らにバブルの崩壊によって金融システムの機能不全がもたらされた。

(2) 上記諸点の理解を深めるため、以下の歴史的・理論的検討を進める。

- 重商主義段階における著名なバブル
- 1930年代のアメリカ大恐慌
- 資本主義にとっての典型的な景気循環の発生機構
- 高度資本主義経済の特徴的枠組み
 - 実物経済に対する貨幣経済の相対的自立化（管理通貨制とマネタリーコントロール）
 - 経済単位としての株式会社の圧倒的優位性と擬制資本としての株式の支配的地位
 - 社会的に存在し続け、常に変化する価値としてのストックの膨張と収縮。そのことによる生産・消費・投資等のフロー経済の歪曲化。
 - 景気変動要因としての金融の主導性と脆弱性

〈授業の進め方等〉

講師は現実の経済現象を理解するためには、現在の日本経済を高度資本主義という歴史的段階としてとらえることが最も重要であると考えている。

授業は講義形式によって進める。毎時間できるだけ質問を受けたいが、時間的制約もあるので、5月の末ごろ、ペーパーによる質問や要望を提出してもらおう（前年度も実施して効果があった）。なお実務家としての経験も随時披露したい。

成績評価は学期末の論文テストによって行う。

〔参考書〕宮崎義一『複合不況』（中公新書）

¥820

植草一秀『金利・為替・株価の政治経済学』（岩波書店）¥2,000

現代経済事情Ⅲ（日本経済と政党政治）

川 内 一 誠

〈講義目的〉

国の経済政策の策定に政党はどのような形で関与し、政策遂行に当ってどう影響を与えてきたのか。戦後の日本経済のたどった道筋を、政党政治との関連から取り上げてみる。

また現在最も社会的関心を集めている「政治とカネ」の問題について、時代を追って検証してみたい。何度となく繰り返されてきた疑獄事件や政治資金をめぐるスキャンダルも、その時々々の社会経済的背景と無縁ではない。この講義では、戦後四十数年をいくつかの時代に区切って、政党政治がどのような役割りを果してきたか、財界の政権党への働きかけの実態、さらには政治資金の集め方やその用途など具体的な例を引用しながら、日本経済と政党政治をめぐるいくつかの問題点を考

えてみたい。

〈授業内容・授業計画〉

- 四月 「日本経済と政党政治」総論。「政治とカネ」についての基本的考え方。
占領下での経済政策。芦田内閣と昭電疑獄。
- 五月 旧財閥の解体と企業集団の結集。経団連を中心とする財界と政党政治との関係。
吉田内閣の経済復興政策。朝鮮特需。海運・造船業界の不況と造船疑獄。
- 六月 保守合同と社会党統一による五十五年体制の確立。安保騒動後の池田内閣による所得倍増計画。
財界の資金集めの組織「国民協会」の設立。田中金脈とロッキード事件。田中退陣後の田中院政 — 権力の二重構造、田中派総合病院論（政党政治の変質）
- 七月 リクルート、共和、佐川と相つぐスキャンダルの背景と問題点。自民党政調会と族議員

〈評価方法〉

レポートによって評価したい。レポートをまとめることによって、文章をまとめるトレーニングにもなる。

現代経済事情Ⅳ（国民生活と協同組合）

兼子厚之

〈講義目的（要旨）〉

現代社会の病理的とも言える人間疎外、有限な資源からの生産至上主義の経済・社会システムへの反省、そして企業中心社会への問い直しは「会社主義」への批判的ライフスタイルを生み出しつつある。それはやがて20世紀的経済・社会システムからのパラダイム転換が希求され、人々が主人公の「社会的営み」の経済・社会システムの創造がもためられ、21世紀は「協同の時代」となるだろう。

日本社会には、生協・農協、信用、共済等の各種協同組合に3,600万人もの人々に関わり、国民の大半が何らかの協同組合に加入し、生産とくらしの協同を進めている。歪みを極限までもたらしつつある現代社会の経済システムのなかで、自立した人々の自発的な意思による人と人の結合の協同組合システムは、国民生活にとって人間らしい営みとしての役割と価値を広げている。

国民生活の多くの場面で行われている生協や農協などの協同組合の事業と活動の実際を紹介しつつ、生産とくらしの社会的機能に協同組合のシステムがどのような原理で関わり、どのような協同組合運動の発展展望論理を持っているか解説する。それは、協同組合運動の歴史的経過、協同組合論とその系譜、現代社会の国民生活と協同組合の事

業と活動論理の実際を講義することとしたい。

このように本講座では、現代社会の経済・社会事情の一つの断面である「国民生活と協同組合」の関係を分析しつつ、協同組合の基礎的理論と運動論理を論考し、生きた経済社会の実践的理解を相互に深める一助としたい。

〈授業内容・授業計画〉

世界史的な協同組合運動の発生から現代までの協同組合概略史、協同組合理論とその系譜の概論という協同組合を基本的に理解するに必要な論点解説を基礎とする。

その上で、現代社会の国民生活の概況を分析しつつ、生協・農協を始めとした各種協同組合組織体の事業と活動、そのシステムの実際を紹介し、国民生活・経済社会（生産と流通）と協同組合の相関を考え、協同組合の果たしている機能や果たすべき役割への課題などを解説する。また、20世紀的経済・社会システムの行き詰まりは、人々が主体に座る経済・社会のシステムへの模索を始め、協同的経済社会への転換が志向されている動向を解説する。

そのような授業内容を基礎に、国民生活と協同組合の実際の姿を通して、現代社会と経済の生きた姿をとらえ、考え合う授業としたい。講義だけの授業ではなく、協同組合の活動の実際をビデオやパンフレットで紹介したり、受講者相互に特定テーマで考え合う討論の機会を持つなど、経済社会の生きた理解を受講者相互に持ち合う授業内容としたい。

〈評価方法〉

2回程度に分けた特定テーマのレポートを提出いただき、その内容で評価したい。

〔教科書〕 特定の教科書は使用しない。講義の都度、講義レジメと資料を提供する。副教材に各種協同組合の活動の実際紹介のビデオやブックレットを提供し、活用する。

〔参考書〕 講義内容を補足する参考図書として希望者に以下の文献を勧める。

大内 力監修、(財)生協総研編『協同組合の新世紀』（コープ出版(株)、1992年12月18日発刊 370頁）¥2,060

野村秀和編『生協…21世紀への挑戦』（大月書店、1992年10月発刊 210頁）¥1,800

S.A.バーク著、日本協同組合連絡協議会編『変化する世界…協同組合の基本的価値』（1992年7月発刊、260頁）¥1,000

日本協同組合学会訳編『西暦2000年における協同組合…レードロー報告』（日本経済評論社、1989年11月、250頁）¥1,236

他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目 次

禅学特講 I (原田 弘道)	1	教育経済論 (谷敷 正光)	12
禅学特講 II (黒丸 寛之)	1	アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	12
禅学特講 III (石井 修道)	1	財務会計論 (遠藤 孝)	13
禅学特講 IV (鈴木 格禅)	1	管理会計論 (中原 章吉)	14
禅学思想史 (峰岸 孝哉)	1	会計監査論 (飯岡 透)	14
哲学史 (中村 友太郎)	1	商業政策 (岩下 弘)	15
インド仏教史 (田上 太秀)	2	貿易論 (古沢 紘造)	16
中国仏教史 (佐藤 達玄)	2	マーケティング (曾我 信孝)	16
日本仏教史 (石川 力山)	2	原価計算論 (加藤 利安)	17
日用経典 (皆川 広義)	2	労務管理論 (前期: 石井 脩二)	18
仏教美術 (中島 亮一)	2	(後期: 庄村 長)	
現代哲学概説 (田島 節夫)	2	行政法 II (齊藤 寿)	18
上代文学 (小野 寛)	3	民法 IV (1) (青山 尚史)	19
中世文学 (水原 一)	3	民法 IV (2) (青山 尚史)	19
近世文学 (富士 昭雄)	3	比較憲法 (竹花 光範)	19
近代文学 (菊地 弘)	3	経済法 (川井 克倭)	19
中国文学 (中村 璋八)	3	国際関係論 (首藤 素子)	19
英文学特講 I (石原 孝哉)	3	西洋政治史 (浦田 早苗)	20
英文学特講 II (高野 正夫)	3	宣伝広告論 (上條 末夫)	20
英文学特講 III (岡崎 寿一郎)	3	政党論 (岩井 奉信)	20
英文学特講 IV (中岡 洋)	4	経営統計 (後藤 儀一郎)	20
英文学特講 V (高松 雄一)	4	国際経営論 (桑名 義晴)	20
英文学特講 VI (丸小 哲雄)	4	保険経営論 (石名坂 邦昭)	20
英米演劇特講 (落合 和昭)	4	財務会計論 (渡邊 恵一郎)	21
米文学特講 I (東 雄一郎)	4	経営分析論 (片桐 伸夫)	21
米文学特講 III (原川 恭一)	4	税務会計論 (高木 克己)	21
時事英語 (坂本 武)	5	経営労務論 (中村 真人)	21
地形学 I (小池 一之)	5	商業史 (山田 勝)	21
地質学 (貝塚 爽平)	5	国文講読 I (上代) (佐原 作美)	21
人口地理学 (土谷 敏治)	5	国文講読 II (中古) (鈴木 裕子)	21
応用地理学 I (鶴見 英策)	5	国文講読 III (中世) (蘭部 幹生)	22
文化地理学 (茨口 善美)	5	国文講読 IV (近世) (清田 啓子)	22
日本史特講 VII (近代) (山口 一之)	5	国文講読 V (近・現代) (田澤 英藏)	22
東洋史特講 X (近・現代) (安藤 正士)	5	国文講読 V (近・現代) (尾形 国治)	22
歴史哲学 (麻生 建)	6	国文特講 V (近・現代) (大室 英爾)	22
哲学史 (丸山 豊樹)	6	英文タイプライティング II (竹内 美恵子)	22
日本民俗学 (谷口 貢)	6	時事英語 (岡本 誠)	22
マスコミュニケーション (川本 勝)	6	英語演習 I (岡本 誠)	22
産業社会学 (安藤 喜久雄)	6	計算機言語概論 (杉田 徹)	23
都市社会学 (江上 涉)	6	臨床放射線特論 I (本間 襄)	23
社会福祉発達史 (林 千代)	6	応用計測学 (樞尾 英次)	23
ロシア・東欧経済論 (山縣 弘志)	7		
社会政策 (光岡 博美)	7		
国民所得論 (吉野 紀)	8		
中国経済論 (小杉 修二)	9		
アジア経済論 (小林 英夫)	10		
日本経済史 (古庄 正)	10		
中小企業論 (三井 逸友)	11		

他学部履修科目

禅学特講 I

原 田 弘 道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講 II

黒 丸 寛 之

道元禅師と『法華経』について、『正法眼蔵』の所説を中心として講述し、併せて良寛の『法華転』『法華讃』を読む。主な講本となる『正法眼蔵』は、既刊本の何れでもよいから、各自に必ず用意して受講されたい。

禅学特講 III

石 井 修 道

平成4年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕石井修道『禅語録』（中央公論社）

¥5,200

荒木見悟『大慧書』（筑摩書房）

¥3,500

禅学特講 IV

鈴 木 格 禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕教員より配布する。

禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』（講座道元Ⅱ）

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

哲 学 史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕開講時まで決定する。

〔参考書〕その都度指示する。

インド仏教史

田上太秀

1. 仏教の起源と発展
2. 経典の成立・種類・思想など。
3. 仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕田上太秀『禅の思想』（東京書籍）

¥1,009

『禅語散策』（東京書籍）¥1,000

中国仏教史

佐藤達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説—中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

石川力山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして、日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ、日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に、中世における鎌倉新仏教の成立は、急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり、それともない、さまざまな社会問題にも関与することになって、正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では、仏教思想の流れとともに、こうした社会的機能の側面についても、あわせて検討していきたい。

〔参考文献〕辻善之助『日本仏教史』（全10巻、岩波書店刊）

家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修

『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉

〈近世・近代篇〉』（全3巻、法蔵館刊）

川岸宏教・速水侑等篇『論集—日本仏教史』（全11巻、雄山閣出版刊）

日用経典

皆川広義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典について解説し、宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。

〔教科書〕テキスト、プリント配布

仏教美術

中島亮一

仏教の発生から仏像の誕生、そして敦煌を経て竜門・雲岡へ、更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで）、仏像の様式の変遷を通観し、あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。

従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を、精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し、政治と仏教、風土と仏教、特に道教とのかかわりなど、広く深く仏教美術の遺産をとおして新しい視点から考えなおしてみる。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕久野健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の主要部分を含むテキストとしては田島著『現象学と記号

論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』
(世界書院) ¥2,500

上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。

『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』
(笠間書院)

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料上代文学史』(笠間書院)

中世文学

水原 一

『新古今和歌集』は『万葉集』『古今集』と共に和歌史上特視すべき勅撰集である。日本美学史の上にも画期的な中世美を実現させた。これを教材として作品の解釈・鑑賞、歌人・歌壇の考察・言語美の探求などを実践する。

〔教科書〕久保田 淳『新古今和歌集』(桜楓社)

近世文学

富士 昭雄

芭蕉の『おくのほそ道』の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。

〔教科書〕萩原恭男 校注『芭蕉おくのほそ道』
(岩波文庫) ¥410

近代文学

菊地 弘

前期は有島武郎の小説と評論と、後期は芥川龍之介の小説と評論をとりあげ、その固有の文学を考察する。

中国文学

中村 璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』(明德出版) ¥2,170

英文学特講 I

石原 孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』(三修社)

英文学特講 II

高野 正夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キーツ、ブレイクなどの物語詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講 III

岡崎 寿一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉を理解することはむづかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M.アーノルドの詩の

検証を経て、ハーディ、イェイツ、D.H.ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T.S.エリオットの現代詩（モダニズム）について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講Ⅳ

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅴ

高 松 雄 一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イェイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

丸 小 哲 雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題であるから、批評研究は最終的には世界解釈あるいは世界認識ということになる。そのための有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム、受容理論（読者の立場）、構造主義、記号論、ポスト構造主義、ニュー・ヒストリシズムなどの批評的考え方を講義します。同時に、作品の読み方と研究の仕方を覚えるためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになる。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。読書のためのプリント・リスト、および、適宜必要に応じてプリントを配布します。

英米演劇特講

落 合 和 昭

前期は悲劇、メロドラマ、コメディの劇の要素（筋、登場人物、テーマ、台詞、音楽、背景等）について学ぶ。

後期は演劇史に見られる主義（～ism）をギリシャ時代から現代にいたるまでを時間が許すかぎり追ってみたい。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としてはレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程）ほど提出してもらおう。

米文学特講Ⅰ

東 雄一郎

十七世紀のアメリカ女流詩人、アン・ブラッドストリートから二十世紀のシルヴィア・プラスまで、約四十六人の詩人の作品を読みます。ホイットマンの〈自我の歌〉、ポーの「詩の原理」、世紀末から出発したフロスト、パウンドやエリオットのモダニズム、フォーマリストのステューヴンズ、客観主義の即物的実践者ウィリアムズ、物質文明の神を呪詛したギンズバークとビート詩人たち（デニーズ・レバトフ、ロバート・クリーリー等）の作品から、新世界・「楽園」の夢への憧憬、自負、挫折を考えてみます。アメリカ詩の新鮮な驚きを堪能して下さい。さらに、ハート・クレインに見られる原始主義を考え、神話のない国の包括性に言及します。

〔教科書〕新倉俊一著『アメリカ詩の世界』（大修館）¥1,900

米文学特講Ⅲ

原 川 恭 一

世界最大の内乱アメリカ南北戦争は、敗者南部に復しえぬ荒廃と頽廃とをもたらした。その廢墟の中から、この南部の特殊状況を踏まえて、数多くの文学者が、文学作品が生まれ出たが、いわゆる「南部文芸復興」（Southern Renaissance）の興隆の様相を、William Faulkner以下数人の代表的作家の作品世界を中心に据えながら、歴史的、社会的視点をも構えて、出来る限り詳細に講じていきたい。

〔参考書〕福田陸太郎編著『アメリカ文学名作選—風土と文学』（中教出版）

時事英語

坂本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採り上げ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにしたい。(内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』(東大出版会) ¥4,532

地質学

貝塚 爽平

前期には関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象(たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成)についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。

〔教科書〕貝塚爽平著『平野と海岸を読む』(岩波書店) ¥1,200

人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化、人口移動について、研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

応用地理学 I

鶴見 英策

地理学の知識と考え方及び手法を用いて行う環境調査、災害調査と予測、土地評価など、各種の調査について具体的な事例をもとに解説する。

文化地理学

こも
菱 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講 VII (近代)

山口 一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講 X (近・現代)

安藤 正士

第2次大戦後から現在に至る日中関係を考察する。主な観点は、

- I. 時期区分
- II. 国際政治における日中関係の位置づけ
- III. 各時期における両国間を連系する主要な要素とイシュー
- IV. 日本の各時期における代表的な中国論など、政治、経済、文化など広い視野から資料を提示して講義を行う。

歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

哲学史

丸 山 豊 樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学との関係を明確に示せるように講義を進めたい。

〔教科書〕講義中に、その都度指示する。

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容

過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりを持っているか、社会的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安 藤 喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこでの社会的諸問題が現代人にとってどのような意味を持っているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄他『産業社会学』（学文社）¥2,500

都市社会学

江 上 涉

都市社会学の主要なテーマは、都市という環境がいかなる人間を生み出すのかということにあるが、これは2つに分けて考えられる。すなわち、環境としての都市そのものが何かということと、そこで生成する都市社会とはどのような社会かという問題である。このテーマをめぐって蓄積されてきた都市構造論、都市類型論、都市機能論、都市化論、生活構造論、ライフスタイル論、都市的生活様式論、ネットワーク論、コミュニティ論などを順次考えていくことにする。

なお、テキストは特に指定しないが参考文献を適宜紹介するので、それを読むことが重要である。

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、

方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』
(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介

ロシア・東欧経済論

山 縣 弘 志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かはともかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論の歴史
 - (2) マルクスの社会主義論
 - (3) ロシア革命のめざしたもの — レーニン時代 —
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代

- (1) 1920年代から30年代への根本的転換
- (2) 工業化と農業集団化
- (3) ソ連型「社会主義」の特質
- (4) ソ連・東欧経済圏の形成

3. 「計画経済」と经济管理システム

- (1) 「計画経済」の成立
- (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
- (3) ソ連型经济管理システム

4. ソ連経済の到達水準

- (1) 経済構造の特質
- (2) 軍事生産と工業生産力
- (3) 工業技術の諸問題
- (4) 農業政策と農業制度
- (5) 農業生産力

5. 停滞からペレストロイカへ

- (1) 経済改革の時代
- (2) ブレジネフと停滞の時代
- (3) ペレストロイカとその挫折

6. ロシア・東欧経済の現状と課題

- (1) ロシア・東欧社会の特質
- (2) 史上経済化の諸問題 — 何から何への移行か —

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート(9月提出、40点配点)と定期試験(自筆ノート持込み可、60点配点)によって行なう。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るの当然である。参考書は適宜指示する。

社会政策

光 岡 博 美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労

働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史(戦前期)
- (4) 日本における社会政策の歴史(戦後期)
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本の労使関係の実態とその未来

上に述べた(1)~(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作(映画)を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

国民所得論

吉野 紀

220万の法人企業、6,200万人の就業者、そして4,200万の世帯、これらの中でさまざまな生産

活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産(GNP)440兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ(巨視的)分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

「国民経済計算」……………5回

GNP、GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

「平成2年日本経済の循環図」(配布資料)

『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡(日経文庫)

「総需要、均衡産出量、均衡所得」……………4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

『入門マクロ経済学』中谷(日本評論社)第3章

「貨幣・利子率および同時均衡」……………8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」……………4回

前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学(上)』ドーンブッシュ・フイッシャー(マグローヒル)第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」
..... 4回

これまでに扱われてきたのは、財やサービスの取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わされる。

「最終講義」..... 1回

平成5年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

〈成績評価〉

期末試験 85%

2回の練習問題の提出（2回とも提出することが条件） 15%

なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君（年間15名前後）には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもある。

〔教科書〕開講時に指示する。

中国経済論

小杉修二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在

および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ（1-201または1-301教室）上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を捕いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオをみる。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である（学説の受け入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終るかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥3,300

アジア経済論

小林英夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期もめずらしい。アジア一般というより、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくぐられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式で行なう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。昨年は残念ながら実現できなかったが、一昨年は野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係(戦後日本とアジアの関係を、I. 賠償過程、II. 借款過程、III. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。7月の夏休み前に、外部講師をよび、直接企業進出に的をしぼった、実態報告を行なう。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動(1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する)

1月

まとめ(1年間の講義について、まとめを行なう)

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

[参考書] 小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』(御茶の水書房)
¥3,200
小林英夫『東南アジアの日系企業』
(日本評論社) ¥3,200

日本経済史

古庄正

幕末期の日本は、極東の一封建国家に過ぎなかった。にもかかわらず、開港後わずか数十年の間に日本は工業化を達成し、アジアにおける唯一の帝国主義国にのしあがった。幕末開港後のこうした日本経済の歩みを、出来るだけ系統的に、また分かり易くお話ししてみたいと思っている。お話す中身としては、今のところ次のテーマを予定している。

- (1) 幕藩体制の動揺
- (2) 開港と植民地化の危機
- (3) 明治維新
- (4) 明治政府の工業化政策
- (5) 政商と華族の資本蓄積
- (6) 農民の半プロ化と士族の没落
- (7) 自由民権運動と天皇制国家
- (8) 産業革命と工業化
- (9) 紡績業と製糸業の発展
- (10) 海運と鉄道の発展
- (11) 鉱山業と重工業
- (12) 寄生地主制と資本主義
- (13) 外国貿易の発展
- (14) 産業革命と公害
- (15) 産業革命と民衆
- (16) 日清・日露戦争と植民地支配

ところで、経済史をも含めて、いま、なぜ歴史を学ぶ必要があるのか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点である。経済史研究の究極的課題は、人類史の中で今われわれがどのような地点に立っているのか、また、どこに行こうとしているのかを、「経済の深み」から具体的・歴史的に明らかにすることにある。日本経済史の場合もちろんその例外ではない。かつて、圧政と貧困から人類を救い出す社会体制として期待された社会主義がソ連・東欧諸国を初めとして瓦解し、残存する社会主義大国中国も、ある種の資本主義国に転換しつつある今日、来し方は分かっても、行く末は不透明なものとなった。「昔は歴史というものがあったが、今はもうない」ということになるのかどうか、この点についての回答は近い将来には期待できそうもない。それだけに、歴史を学ぶ必要は一層強まった、といってよい。新聞を読んでいて「中国や韓国などアジアの人たち

と話している感じるの、日本についての権威と信頼のギャップである。日本の権威は高まっているもの、信頼の方は逆に低下しているのだ」（『毎日新聞』1992・11・27）という記事が目止まった。「信頼は金では買えない」という表題のこの囲み記事で筆者が言いたかったことは、アジアの民は、日本が大国として行動することを受入れながらも、日本に対して不安と警戒心を強めている、ということであろう。第二次大戦中、日本はアジアの諸民族に計り知れない被害をあたえた。にもかかわらず、戦後半世紀たった今日でも戦後責任には目をつむり、その反面では、PKOへの参加を突破口として海外派兵の実績を積み重ねていることがその背景にある。特に植民地朝鮮からは、百万人を越える人々を軍人・軍属・従軍慰安婦・一般労務者として強制連行し、多くの人々を死傷させたにもかかわらず、日本政府と関係企業は何の補償もしなかったばかりか、謝罪さえ拒否してきた。軍の関与を示す決定的な証拠を突きつけられ、従軍慰安婦問題については一応「謝罪」し「真相究明と適切な措置」を約束したが、結局「真相究明」はせず、若干の補償金を支払うことで解決を図ろうとして、被害者と韓国政府の強い反発を招いている。日本政府と関係企業の韓国・朝鮮をはじめとするアジアの被害者に対するこうした傲慢な対応は、決して許されるべきではない。が、それと同時に、過去百年の日韓・日朝間の歴史についてのわれわれの無知・無関心が、これを放任していることも忘れてはならないだろう。日本が再びアジアの、そして世界の孤児にならないためには、日本政府と関係企業のこうした歴史認識を根本的に改めさせねばならない。しかし、そのためには、われわれ自身が歴史について無知・無関心であってはならない。歴史を学ぶことの必要性は、もちろんアジア諸民族との関係だけではない。国内問題についても同様のことがいえる。例えば、今日最大の社会問題となっている「環境問題」について、日本政府も企業もしばしば言及している。しかし「環境破壊」の主因をなす公害については、政府も企業も足尾鉾毒事件からは何一つ学ぼうとはしていない。水俣病患者の訴訟に対する冷酷な措置は、それを例証している。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、今日こそさまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さら

に21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられる。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐるこれまでの理論・研究を批判的に検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的関係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。

授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

<構成予定>

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の

専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』
(青木書店) ¥2,800 (税抜)

〔参考書〕巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ』
(有斐閣)

中小企業庁編『中小企業白書』

〔各年次〕

『エコノミスト増刊、図説日本経済
1993』(毎日新聞社)

教育経済論

や しき
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を究明するとともに、2,000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2,000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向と、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心に、それぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

〈授業形態〉

講義の他、年間5～6回程、その都度現実的理解のために視聴覚教室でビデオを使用する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

- (1) 欧米先進国の経済の現状と教育
①アメリカ、②イギリス、③フランス、④ドイツ、⑤日本
- (2) 戦前の経済発展と実業教育の振興
①学制時代、②学校令時代、③実業学校令時代
- (3) 戦後の経済発展と産業教育の振興
①復興期、②高度成長期、③1970年代、

④1980年代、⑤1990年代

(1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

〈履修条件〉

欠席しないこと。

〈評価方法〉

定期試験の成績

〔教科書〕特に使用しない。年間25～30枚のプリントを講義資料として配布する。

〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』
(東大出版)

文部省『産業教育百年史』

(ぎょうせい)

本庄良邦『産業教育体制研究』

(三和書房)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をします。それとともに、アメリカのできごとと関係の深い世界の情勢を、ひろく検討します。

とりあげるテーマには、おおむね次のようなものを予定しています。

前期

〔導入の話題〕

◇新大統領の経済政策とアメリカ経済の近況

〔総論〕

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

〔アメリカ経済各論〕

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

〔世界とアメリカ〕

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATT)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

〔アメリカと世界の諸地域〕

- ◇アメリカとEC
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカと発展途上諸国
- ◇アメリカとカナダ・メキシコ

[むすびの話題]

- ◇アメリカの現状と経済学（あたらしい学派の見解）

講義では、一回ごとにひとつずつ（上記の◇）テーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥深く興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものです。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、楽しくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるように心がけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようになっています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。今、どうしてもといわれれば、日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書です。

なお、この講義は、3年生、4年生いずれもが受講できることはいまでもありませんが、さきに述べたこの講義の性格からいえば、3年生のうちに受講することをすすめます。また、この講義

については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりです。

財務会計論

遠藤 孝

〈授業の主たる内容〉

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性質、内容、役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので、企業会計とは何か、企業が作成する貸借対照表などの決算書は、どのようにして作成されるか、それはどのような性質、内容をもつものであるか、それはどのような役割を果すものであるか、また決算書はどのように読んだら良いのか、など実例をもって説明する。

〈授業形態、講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

- ① 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か、その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週
財務会計の制度性について。企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- ④ 5月第2週
先週に引続き、日本の企業会計制度の問題点、「企業会計原則」について。
- ⑤ 5月第3週
貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- ⑥ 6月第1週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- ⑦ 6月第2週

資産評価について。固定資産の評価，土地評価，減価償却について。

- ⑧ 6月第3週
繰延資産について。繰延資産の特殊性，繰延資産項目とその償却。
- ⑨ 6月第4週
引当金について，引当金とは何か，引当金の設定基準—商法，「企業会計原則」の引当金，引当金会計の問題点。
- ⑩ 7月第1週
同上
- ⑪ 7月第2週
資本会計について。

後期

- ⑫ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑬ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑭ 9月第3週
同上
- ⑮ 10月第1週
企業内容，会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表（書）
- ⑯ 10月第2週
同上
- ⑰ 10月第3週
財務諸表の監査，商法上の監査。
- ⑱ 10月第4週
財務諸表の監査，証券取引法上の監査。
- ⑲ 11月第1週
会計の国際化，会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第2週
同上
- ㉑ 11月第3週
日本，世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。
—総括
- ㉔ 最終週
予備

以上のスケジュールは学会出張，大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。

〔教科書〕講義の際指示。

管理会計論

中原章吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は，多くの人にとって，大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも，ある段階に達するまでには，何段もの階段を一段一段上がってゆかねばなりません。この「管理会計論」は，その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は，企業の「ことば」である会計，その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して，「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は，管理会計の本質，体系その中の意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は，管理会計の豊富な各論のなかから，「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。

「財務諸表分析」については，その企業の健康診断としての役割を，方法とその留意点，収益性の分析，生産性の分析，安全性の分析，総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については，経営計画とくに要員計画と付加価値会計，経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年度で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおく講義が理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎構造』創成社

〔教科書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』
(中央経済社)

会計監査論

飯岡透

会計監査の目的は，企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて，監査人が意見を表明することであり，企業規模の拡大，利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い，近年，その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の意義と役割
 - (1) 会計監査の意義と機能
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性とその構造
 2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 戦前におけるわが国の監査制度の展開
 - (2) 戦後におけるわが国の監査制度の展開
 3. 監査役と会計監査人
 - (1) 監査人の種類とその要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限
 - (4) 監査役および会計監査人の義務と責任
 4. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 合理的証拠とその決定要因
 5. 監査手続の種類と内容
 - (1) 監査手続の意義と分類
 - (2) 監査手続の内容
 6. 内部統制と試査
 - (1) 内部統制の意義と構成内容
 - (2) 内部統制の調査範囲と調査手続
 7. 予備調査と監査計画
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的と種類
 8. 監査調書の目的と種類
 - (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
 9. 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 監査報告書の記載内容
 - (4) 監査概要書の目的と記載内容
- 会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、簿記、財務会計論の講義を履修し、財務諸表について、十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材については、最初の授業時に指示する。

<p>商 業 政 策</p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">岩 下 弘</p>
--

- 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 79年改正法
 - 3) 91年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導=抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ-前川レポート、行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策-都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題-商店法
 - 2 フランス-ロワイエ法
 - 3 ドイツ-土地利用計画
 - 4 アメリカ-ゾーニング規制
- 六 「大型店問題」と訴訟-中小小売業者運動論
 - 1 大型店の出店をめぐる諸問題
 - 1) 社会問題としての大型店の出店
 - 2) 消費者と大型店
 - 2 江釣子訴訟
 - 1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
 - 2) 訴状と判決の問題点
 - 3 生業権訴訟
 - 1) 名古屋市の大型店問題
 - 2) 名古屋市の商業と小売市場
 - 3) 生業権論
- 七 流通問題と消費者保護政策
 - 1 消費者問題論
 - 2 消費者保護基本法
 - 3 消費者行政
 - 4 生協
- 八 流通問題と独禁政策
 - 1 独占禁止法
 - 2 不公正取引
 - 3 取引慣行

以上

<成績評価>

試験、レポート、出席により評価する。
〔教科書〕教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

<授業項目>

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

〈授業内容〉

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易
- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I - VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

〈評価方法〉

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思います。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

〈教材〉

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪ねたらよい機関を紹介いたします。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究室館4階34号室）を訪ねる人もいます。

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。

(1) 製品政策

- ① 概念と差別化政策
- ② 多様化・細分化政策
- ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策

(2) 価格政策

- ① 概念と価格設定の方法(1)
- ② 価格設立の方法(2)と消費者支配
- ③ 差別価格と収奪

(3) チャンネル政策

- ① 概念と流通機構
- ② 商業の排除と系列化政策
- ③ 流通支配の形態

(4) 販売促進政策

- ① 概念と人的販売政策
- ② 広告政策と広告業界

(5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。

(1) 激変する市場環境

- ① 国内市場の変化
- ② ブロック経済化
- ③ 経済規制の緩和

(2) 総合商社の新事業

- ① 川下戦略
- ② 消費財生産部門への参入
- ③ 新事業への対応政策

(3) 総合商社の国際マーケティング戦略

- ① 消費財マーケティングの展開
- ② 総合商社の需要創造活動
- ③ ネットワークと支配

(4) 総合商社と子会社

- ① 子会社戦略
- ② マーケティング管理と子会社

(5) 情報化戦略

- ① 国際化と情報の対応

- ② 通信事業と支配
- ③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

〈評価の方法〉

- ① 年一回の定期試験…70%
 - 夏休中の課題 …20%
 - 出席状況 …10%
- ② 評価基準
 - 講義内容の理解 …60%
 - 問題意識 …30%
 - 分析力・応用力 …10%

〔教科書〕 曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）¥4,000

〔参考書〕 三浦信・来住元郎・市川貢『マーケティング』（ミネルヴァ書房）¥2,200
石原武政『マーケティング競争の構造』（千倉書房）¥2,800

原価計算論

加藤利安

〈基本的な視点（問題意識）〉

経済的、社会的環境の構造的変化（たとえば、為替相場の変動、国際貿易摩擦、国際化、ハイテク化、高度情報化、経済のソフト化やサービス化、高齢化、就業意識の変化、消費者の価値観の多様性、女性の社会進出、環境問題の対応）によって抜本的な経営改革の必要性の強調＝リストラクチャリング（生産、販売システム等すべての事業組織の再構築）とグローバル経営が標榜されている今日、これら経済的、社会的環境の構造的変化は企業会計の研究にとっても無関係ではないだろう。もし、そうであるならば、それは原価計算の領域にとってもあてはまるだろう。なぜならば、原価計算は計数的技法として企業会計の一領域を形成し、諸種の計算目的の達成を通じて企業経営組織に貢献するものと考えられてきたし、また今後もそうであると考えられるからである。

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的

手段体系として、その成立の当初から現在に至るまで、さまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果す目的を5つ列挙している。換言すると、ここでは財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに、最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が議論されている。このように、一定の時代的環境状況の認識の下である特定の社会的役割を果すべく設定されてきた「原価計算基準」も、変容した今日的な経済的、社会的環境下においてその現実的課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしているが、一定の経済的、社会的環境の下で企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、計数的技法としての原価計算が当該目的達成のための手段であるとすれば、目的手段体系の因果的把握が可能となるのではないだろうか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の「原価計算基準」を所論展開の出発点としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを会計現象の一つとして捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に解明することを心掛けることにした。

〈授業計画〉

前期では、原価計算の基礎的考察として原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら解明する。そこで主として、意思決定指向的な原価計算について検討を加える。

〈評価方法〉

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏休休暇前の最終授業時において簡単な試験を行う。

〔教科書〕 最初の授業前に指示する。

〔参考文献〕 授業時に適宜挙げる。

労務管理論

前期：石井脩二
後期：庄村長

〈講義目的〉

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめています。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われています。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なことは、現実を生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実が焦点を併せ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

〈講義内容〉

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。

ところが現在、日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめています。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものが妥当性を問われているということにはかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているのかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめています。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝

えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序章

労務管理ないし人的資源管理とは（4月）

第1章

日本企業が直面している諸問題（4月～5月）

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き（6月）

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開（6～7月）

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

〈授業方式〉

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

〈成績評価〉

前期（50点）、後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。

①日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）¥2,800

②日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）¥1,300

③日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』（日本経済新聞社）¥1,300

④佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）¥1,700

行政法Ⅱ

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅳ(1)

青山尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

民法Ⅳ(2)

青山尚史

民法Ⅳ-(2)は、相続法（民法典第5編 882条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粋身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『相続法講義』（啓文社）

比較憲法

竹花光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法のご概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国の

シンボル等）

4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

経済法

川井克倭

経済法—独占禁止法を中心として—

第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。

第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占、カルテル、企業結合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップトゥデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克倭著『競争政策法概説』（高文堂）¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克倭著『カルテルと課徴金』（日本経済新聞社）

川井克倭著『いやでもわかる公取委』（日本経済新聞社）

国際関係論

首藤素子

第1に、冷戦後の国際関係の特徴と問題についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕細谷千博・臼井久和編『新版 国際政治の世界』（有信堂高文社）1993年

〔参考書〕有賀貞他編『講座 国際政治』（東大出版会）1989年（第2, 3, 4巻）

西洋政治史

浦田早苗

世界は今、大きな転換期にある。冷戦構造の崩壊と社会主義体制の変革、高度産業化に伴う社会の変質などによって、国家や政党、制度や組織、国民や民族などの近代政治の概念に基本的な検討がせまられている。講義では、歴史政治学的アプローチに則った大局的視方から現在ヨーロッパで問題になっている制度や事件の検討を行う。

宣伝広告論

上條末夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政党論

岩井奉信

政党は民主政治の要であるといわれてきた。事実、民主主義国家で政党を主体とする政治が行われていない国はない。しかし、近年、社会的価値の多元化と共に従来の政党政治のあり方が大きな曲り角に来ているともいわれる。本講義では変貌する政党政治という視点から政党とは何か、政党制と選挙システム、政党組織形態などという基本的な問題を論じた上で、日本における政党と議会政治との関係とその変化について、実証的に学んでゆく。とりわけ自民党とその政治のあり方については最新の資料やデータを用いて、派閥や族議員の問題など今日的なテーマを取り上げ、具体的にかつ体系的に論じてゆく予定である。

〔教科書〕岩井奉信『国会議員の研究』（日本経済新聞社）近刊

岡沢憲実『政党』（東京大学出版会）

〔参考書〕岩井奉信『族議員の研究』

（日本経済新聞社）

岩井奉信『政治資金の研究』

（日本経済新聞社）

経営統計

後藤儀一郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学は、もはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものではない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながら、それらが実際においてどのように応用（たとえば統計的品質管理）されるかを学習する。

〔教科書〕吉野紀・後藤儀一郎著『現代統計解析』（芦書房）¥2,700

国際経営論

桑名義晴

われわれの住む地球は、かつての人間が想像もしなかったほどに時間的にも空間的にも狭くなっている。このため現在、世界の企業の国際化やグローバル化も非常に活発になってきている。とくに近年の日本企業は、地球規模で事業活動を展開するようになってきている。

本講義では、近年の日本企業にとって最も重要な経営課題の1つになってきている国際経営の諸問題を多面的な角度から検討していく。たとえば、国際環境の激変と政治リスク管理、グローバル競争戦略、国際情報システム、国際経営組織、国際人事管理、日本的経営の国際的適用性などの諸問題を、日本や欧米のグローバル企業のケースも織り込みながら講義していく予定である。

〔教科書〕中村久人・桑名義晴『最新国際経営論』（中央経済社）¥2,800

〔参考書〕講義中に紹介します。

保険経営論

石名坂邦昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩みなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中であって高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においては各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際的問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

財務会計論

渡 邊 恵一郎

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の財政状態と経営成績を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を持つ経営者が、投資者、債権者、その他企業活動に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が貸借対照表、損益計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心的課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規を取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕染谷恭次郎著『現代財務会計』（中央経済社）

経営分析論

片 桐 伸 夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

税務会計論

高 木 克 己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行く。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

経営労務論

中 村 眞 人

企業社会と言われる今日の日本社会で、人々はどうのように働き、生活を支えているのだろうか。企業を社会経済のなかに位置づけた上で、企業に働く人々の仕事の現実について考えていきたい。現代日本企業の労務管理諸制度と労働問題を考察の素材とする。

はじめに、問題をとらえるための基本的枠組として、労働市場と分業について話す。つづいて、雇用管理（人事管理）、賃金、労働時間、労使関係という個別の事柄へと話を進めていく予定である。

商業史

山 田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ（上代）

佐 原 作 美

『万葉集』の中から代表的歌人である柿本人麻呂や山上憶良などの歌を中心に鑑賞しながら講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』（桜楓社）¥1,600

国文講読Ⅱ（中古）

鈴 木 裕 子

今年度は、『源氏物語』を、若紫巻から読む。本文を正確に読みながら光源氏の青春期の喜びや苦悩というものについて考えてみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』一（新潮社）

国文講読Ⅲ（中世）

菌 部 幹 生

『発心集』を読む。本作品は鴨長明の有名な説話集であるが、本講座では、著者の思想そのものよりも、一つ一つの説話が担っている歴史的背景や意味、及び他作品との関連について考えてみたい。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕その都度指示する。

国文特講Ⅴ（近・現代）

大 室 英 爾

島崎藤村の作品を読む。その人間と文学の統一されたかたちを長い作家生涯をかけてどのように作りあげていったか。詩及び散文の読みを通し、彼をとりまくあらゆる「外圧」を視野に入れつつ考えていきたい。本年度は「春」が中心となろう。

〔教科書〕各種文庫本。開講時に指示。

国文講読Ⅳ（近世）

清 田 啓 子

安永天明期の知識人の機智をあつめて成立した黄表紙を、その生成から完成、下降まで、作者の個性を追いながらたどってみたい。

〔教科書〕プリント

英文タイプライティングⅡ

竹 内 美 恵 子

一年次に習得した基礎の上に、レター、各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。

なお、他学部の学生は、ブラインド・タッチをマスターしていること。

国文講読Ⅴ（近・現代）

田 澤 英 藏

「吾輩は猫である」（夏目漱石）を通読する。また、同じ頃に書かれた「倫敦塔」「カーライル博物館」などにも触れてみたい。

〔教科書〕開講後に指示する。

時 事 英 語

岡 本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してくること。

〔教科書〕テープ使用。

国文講読Ⅴ（近・現代）

尾 形 国 治

明治・大正・昭和期の名作を1年間でおよそ12～3作品じっくりと読む。作者とその時代、生い立ちの問題、さらにはその文学的特色と可能性、その限界など、さまざまな角度から考察してみたいと思う。

〔教科書〕各種文庫本

英語演習Ⅰ（ディクテーション）

岡 本 誠

慣用句の成立背景を歴史的にみていく。例えば、OKという言い方はどのようないきさつで成立したのか。あるいはmaverickとはどうして「一匹狼」の意味になったのか。これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点以上をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉 田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による
実習

〔教科書〕コンピュータ教育工学研究所編
ガイドブック『BASIC』
(サイエンス社) ¥1,854

臨床放射線特論 I

本 間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係の仕事につく人に必要な知識といえる。

〔教科書〕定めず

応用計測学

櫃 尾 英 次

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器 (ガンマカメラ, シングルホトンECT, ポジトロンCT), X線CT装置, MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置, DSA, CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕岩井喜典他編著『医用画像診断装置』
(コロナ社)

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。
(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目(必修)

教育原理(上岡 安彦)	1
教育原理(北村 三子)	1
教育原理(坂本 信昭)	1
教育原理(村山 輝吉)	1
教育原理(小山 一乗)	1
教育心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (遠藤 司)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (国眼 眞理子)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (中村 均)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (難波 和明)	2
青年心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
青年心理学(教育方法論を含む) (川田 三夫)	2
青年心理学(教育方法論を含む) (小宮山 要)	3
青年心理学(教育方法論を含む) (牟田 悦子)	3
特別活動(中野目 直明)	3
生活指導(遠藤 司)	3
生活指導(佐藤 尚人)	3
宗教科教育法(小山 一乗)	3
国語科教育法(神谷 道倫)	4
書道科教育法(那須 隆吉)	4
英語科教育法(荒井 良雄)	4
社会科・地理歴史科教育法(長野 覚)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法(中島 義一)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法(野呂 肖生)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(長谷部 八朗)	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(谷敷 正光)	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(大久保 治男)	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(橋爪 敏)	6
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
職業科教育法(前田 幸一)	6
商業科教育法(谷敷 正光)	6

道徳教育の研究(上岡 安彦)	7
教育実習(上岡 安彦)	7
教育実習(坂本 信昭)	7
教育実習(村山 輝吉)	7
教育実習(北村 三子)	7

(2) 教職に関する専門科目(選択)

教育哲学(汐見 稔幸)	7
教育社会学(高島 秀樹)	8
現代社会の諸問題と教育(高島 秀樹)	8
教育評価(大浜 幾久子)	8
教育情報学(難波 和明)	8
教育調査(鈴木 規夫)	8
教育史(北村 三子)	8
教育関係法規(広沢 明)	9
社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉)	(9)
社会教育施設(村山 輝吉)	(9)
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	(9)
図書館学Ⅱ(源 昌久)	(9)
青少年問題研究(前期:中野 東禅)	9
(後期:和田 謙寿)	
視聴覚教育(赤堀 正宜)	(9)
教育臨床心理学(牟田 隆郎)	9
教育法規研究(神田 修)	9
児童文化(湯山 厚)	9
宗教教育(松本 皓一)	10

(3) 教科に関する専門科目

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説(粟野 俊之)	10
日本史概説(小松 寿治)	10
世界史概説(井村 行子)	10
世界史概説(渡辺 惇)	10
地誌学概説(橋詰 直道)	10
地誌学概説(長野 寛)	10
地誌学概説(宮口 侗廸)	11
人文地理学概説(小林 高壽)	11
自然地理学概説(早船 元峰)	11
自然地理学概説(安部 喜也)	11
民法Ⅰ(青野 博之)	11
民法Ⅰ(林 幸司)	12
政治学原論(大塚 桂)	12
社会学原論(渡辺 源樹)	12
経済原論(阿部 弘)	13
経済原論(荒木 勝啓)	14
経済原論(小野 俊夫)	15
哲学概説(篠原 壽雄)	15
哲学概説(国嶋 一則)	15

倫理学概説 (久保 陽一)	15
宗教学概説 (洗 建)	15
宗教学概説 (松田 文雄)	15
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	(15)
民間信仰論 (谷口 貢)	15
東洋思想研究 (館野 正美)	16
民衆宗教成立史 (洗 建)	16
歴史哲学 (麻生 建)	16
日本文化史 I (廣瀬 良弘)	(16)
美術史概説 (中島 亮一)	(16)
日本宗教文化史 (井上 順孝)	16
日本仏教史 (廣瀬 良弘)	16
【職業】	
産業概説 (前田 幸一)	17
職業指導 (山田 勇治)	17
商業実習 (前田 幸一)	17
【商業】	
職業指導 (山田 勇治)	(18)

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I (山崎 慶子)	19
図書館学 II (源 昌久)	19

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	20
社会教育計画 (村山 輝吉)	20
社会教育実習 (村山 輝吉)	20
社会教育実習 (上岡 安彦)	20

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) ..	(20)
婦人問題と社会教育 (矢口 悦子)	20
青少年問題研究 (前期: 中野 東禅)	21
(後期: 和田 謙寿)	
社会教育施設 (村山 輝吉)	21
図書館学 I (山崎 慶子)	(21)
博物館学 I (倉田 芳郎)	(21)
博物館学 II (竹内 順一)	(21)
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人)	21
社会体育 I (古田 潤子)	21
社会体育 II (古田 潤子)	21
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	(22)
教育原理	(22)
教育心理学 (教育方法論を含む)	(22)
青年心理学 (教育方法論を含む)	(22)
社会心理学 (坪井 健)	22
教育社会学 (高島 秀樹)	(22)
教育調査 (鈴木 規夫)	(22)
教育史 (北村 三子)	(22)
児童文化 (湯山 厚)	(22)
社会教育行政 (牧野 篤)	22

成人学習論 (牧野 篤)	22
--------------------	----

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学 I (倉田 芳郎)	23
博物館学 II (竹内 順一)	23
教育原理	(23)
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(23)
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	23
博物館実習 I (館務) (倉田 芳郎・太田喜美子) ..	23
博物館実習 II (収集) (倉田 芳郎・所 理喜夫・ 葉貫 磨哉・太田喜美子) ..	23
考古発掘実習 (千葉 基次)	24
博物館実習 III (見学) (倉田 芳郎・太田喜美子) ..	24

(2) 選択必修科目

日本文化史 I (廣瀬 良弘)	24
インド仏教文化史 (奈良 康明)	24
西洋文化史 III (三小田 敏雄)	24
仏教美術 (中島 亮一)	24
現代美術 (宮崎 克己)	25
禅 美術 (海老根 聰郎)	25
美術史概説 (中島 亮一)	25
西域美術史 (相馬 隆)	25
考古学概説 I (日本) (倉田 芳郎)	25
考古学概説 II (外国) (飯島 武次)	25
考古学特講 II (高浜 秀)	25
考古学特講 IV (飯島 武次)	25
日本民俗学 (谷口 貢)	26
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	26
地形学 I (小池 一之)	26
地 質 学 (貝塚 爽平)	26

社会福祉主事

講座

V 社会福祉士基礎

※社会福祉原論 (伊藤 秀一)	27
※社会福祉原論 (原田 信一)	27
※老人福祉論 (中野 いく子)	27
※障害者福祉論 (原田 信一)	27
児童福祉論 (高橋 重宏)	27
※社会保障論 (近藤 功)	28
※公的扶助論 (伊藤 秀一)	28
※地域福祉論 (和田 敏明)	28
※心理学 (福祉) (井上 孝代)	28
※社会学 (福祉) (江上 渉)	28
※法 学 (福祉) (小林 弘人)	28

リハビリテーション論 (原田 信一)	29
社会福祉計画論 (坂田 周一)	29
社会福祉運営論 (坂田 周一)	29
家族福祉論 (田村 健二)	29
医療福祉論 (春見 静子)	29
婦人福祉論 (林 千代)	29
保健福祉論 (安梅 勅江)	30
社会福祉発達史 (林 千代)	30
海外社会福祉論 (中野 いく子)	30

上記科目のうち

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注 () 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教育原理

上岡安彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』（上・中・下）
（岩波文庫）

上 ¥570，中 ¥520，下 ¥520

教育原理

北村三子

若者の生き方を歴史的に展望することを通して、近代の青年期教育思想の性格を吟味したい。講義は、近代以前の若者の有り様を概観した後、近代青年期の成立とその特性にふれ、次いで青年期教育思想の検討へと進む予定である。

〔参考書〕教場で指示

教育原理

坂本信昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える

12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』

（学芸図書）¥950

デューイ著、宮原誠一訳『学校と社会』

（岩波文庫）¥200

西村絢子他『現代教育を考える』

（昭和堂）¥2,600

教育原理

村山輝吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会のかかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』（岩波新書）
¥480

〔参考書〕『下村湖人全集』（全10巻）（国土社）
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）

教育原理

こやま かず のり
小山一乗

教科書や適宜配布する資・史料等に刺激されながら、日常生活の中で自明理のごとくに看過している教育の原初的事象や用語を意識的に対象化し、教育的・教育学的に考察していきたい。日常語と非日常語とに使い分けしている用語についてもとりあげてみたい。基本的な留意項目は、①教育学研究の諸方向、②教育とは「何」か、③教育の目的・目標、④教育の内容、⑤教育の方法（教授学習・生活指導）、⑥教育の経営、⑦教育の制度、⑧教師論。生涯学習における学校教育の意義について一貫して考えるようにする。

〔教科書〕教師養成研究会『教育原理』

(学芸図書) ¥950

『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200
小中高各『学習指導要領』(文部省,
各¥230, ¥250, ¥370)

『生徒指導の手引』(文部省¥460)

〔参考書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノ
ート(エイデル研究所) ¥1,800

教育心理学
(教育方法論を含む)

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、知能テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学
(教育方法論を含む)

遠 藤 司

今日の教育の現場において、教師、生徒がおこなう様々な活動に対して心理学の知見を基にした見方がなされている。特に、教師として生徒と様々な形で関わる際に、心理学的見方に対してどのような態度で臨むかによって、具体的な教育活動のあり方が異なってくる。本講義では、心理学の知見がどのように教育の世界に影響を及ぼしてきたかを、学習、評価等の諸領域において概観しながら、生徒とのよりよい関わりを作るために、教師としてどのような活動をしていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

教育心理学
(教育方法論を含む)

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「青年期」「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」の三領域を中心に学んだ上で、「学習意欲と教育評価」や「進路指導」についても併せて考えていきたい。

〔参考書〕授業において随時紹介する。

教育心理学
(教育方法論を含む)

中 村 均

1. 発達
どのような仕組みで発達が起こると考えられているか。発達の变化的概観。
2. 学習
どのような仕組みで学習が起こると考えられているか。学習を促進する条件はどういうものがあるか。
3. 個人差
一人ひとりの違いの把握について。
4. 教育方法
教育メディアを利用した教育方法について。
〔参考書〕授業中そのつど紹介する。

教育心理学
(教育方法論を含む)

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいれた授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。

〔教科書〕その都度指示する。

青年心理学
(教育方法論を含む)

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学
(教育方法論を含む)

川 田 三 夫

青年は発達の存在であると同時に社会的存在でもある。思春期の頃にふと自分のことを考え始め、友達と比較をしたりして色々悩みながら現在に至っている。親はもちろん、テレビ・マンガ、遊び・おもちゃ、学校・友達、勉強・進学、文学・音楽など自己の形成に影響を与えるものは数多

い。講義の前半はこれらの意味や役割について考えてみる。

後半は身近な所で起きている現象や話題を取り上げながら青年を考える一方で、分かっているようで分かってない自分のことを人格心理学的な側面からアプローチして理解を広げてみたい。簡単な心理学のテストなども試みにやってもらう予定である。

青年心理学
(教育方法論を含む)

小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。

[教科書] 使用しない。

青年心理学
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

[教科書] 岸本 弘編著『ポイント教育学-青年心理学』(学文社) ¥1,000

特別活動

中野目 直 明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

[教科書] 宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』(明治図書)

[参考書] 中野目直明著『教育情報管理と学校経営』(エイデル研究所) ¥2,000

生活指導

遠藤 司

教師として生徒の「生活」にいかにかかわるべきかという問題は、今日の学校教育において重要になっている。特に最近、学校生活に適応できずに、様々な形で不適応状態に陥り、困難をおぼえている生徒も多い。本講義では、それぞれの生徒にとつての学校生活に適応することの意味、あるいは不適応状態に陥ることの意味を探りつつ、一人一人の生徒に教師がどのように関わればよいのか、また、学校という生活の場をどのように作っていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

生活指導

佐藤 尚 人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

[教科書] 講義ノートに基づき進めてゆく。

[参考書] 大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) ¥2,200

宗教科教育法

小山 一 乗

先ず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討す

る。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。

- 〔教科書〕『仏教概論－わかりやすい仏教－』
(曹洞宗宗務庁) ¥800
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』
(大法輪閣) ¥1,600
『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200
小中高各『学習指導要領』(文部省、各¥230, ¥250, ¥370)
『生徒指導の手引』(文部省¥460)
その他必要に応じて指示する。資料を配布するのでファイルを用意しておくこと。
- 〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版、1985年)
その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

- 〔教科書〕改編 中学校・高等学校『国語科教育法』(桜楓社) ¥1,800

書道科教育法

那須隆吉

長い歴史をもつ書の特徴を考察し、その指導法を学習する。文部省の芸術科指導要領を理解し、将来の教師としての自覚を促し、指導力を養うことにつとめたい。

- 〔教科書〕未定
〔参考書〕適宜指示する。

英語科教育法

荒井良雄

中学校や高等学校の英語教員として教壇に立つための基本となる英語教育法の理論と実践の研究指導を行う。

学習指導案の作成法と授業の進め方の実際的な指導が中心になる。教師に必修のPublic Speakingを重視する。

- 〔教科書〕『英語科教育法の実際』
(成美堂) ¥2,200
〔参考書〕荒井良雄『英語英文学とともに』
(新樹社) ¥2,060

社会科・地理歴史科教育法

(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(地理))

長野 覚

学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校地理歴史科の教科目的・教科内容等を概観したのち、特に地理教育について教案作成・教材の工夫・視聴覚器材の使用法などを具体的に指導する。後期は授業演習を行い、教育実習に備える。

- 〔教科書〕中学校社会科教科書、高等学校地理教科書・地図帳、文部省学習指導要領

社会科・地理歴史科教育法

(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(地理))

中島 義一

社会科(地理歴史)教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

社会科・地理歴史科教育法

(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(歴史))

野呂 肖生

「中学校で社会科、高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科・地歴科教育(とくに歴史)の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

長谷部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科公民科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕適宜指示する。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を廃止し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならぬ。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオの上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科教育の原点
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と公民科

6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
10. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
11. 教育評価
12. 教育実習の意義
13. 模擬授業を通じての社会科の学習指導と授業実践の研究
14. 社会科教師論
15. 教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

定期試験は行わないが、授業での課題の提出、学習指導案の作成、授業実践などで総合的に評価する。

〔教科書〕大森・谷敷共著『社会科教育研究』（梓出版）

〔参考書〕遠山 啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社）

石川達三著『人間の壁』（新潮文庫）

灰谷健次郎著『兎の眼』（新潮文庫）

無着成恭著『山びこ学校』（角川文庫）

その他、若干のルポ、小説、社会科・公民科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

- 〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。
②視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、公民科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別に模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講

義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

〔参考書〕宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』（開隆堂）

近藤大生・有本章編著『職業と教育』（福村出版）

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の育成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、現実の政治的状況・教育状況のなかで紆余曲折してきたのも事実であり、周知のように、高等学校の社会科は公民科と地歴科の二科に再編されることとなった。その分割再編の是非はともあれ、公民科・社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言っておく。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて「教えること」を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

商業科教育法

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育は大きく軌道修正され、さらに先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されている。従って、本講は、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから、「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保は困難を極めており」「教員養成に一層のお力添をお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われている。昨年度も商業科の教員志望者は多数採用されているので、しっかりと勉強して教師をめざして欲しい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオ上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本経済の発展と教育・職業教育
2. 職業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の歴史
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
10. 教育評価
11. 教育実習の意義
12. 模擬授業を通じての商業科の学習指導と授業実践の研究
13. 商業科教師論
14. 教員採用試験の準備と今年度の試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）

職業科教育法

前 田 幸 一

〈講義目的〉

職業科及び技術・家庭科に関する教育について学んでいきます。授業は人数の関係もありますが、ゼミ形式を進めていきます。

〈授業内容〉

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

- (1) 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
- (2) 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討する。
- (3) 職業教育について

(1)(2)は前期授業、(3)の職業教育は後期授業で行う予定です。なお(3)の職業教育についてはテキストを利用します。これは開講時に指示します。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物などで評価します。

〔教科書〕岡田修二他『新商業教育論』（多賀出版）

〔参考書〕城山三郎『素直な戦士たち』
（新潮文庫）

灰谷健次郎『兔の眼』（新潮文庫）
竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』
（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校
学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、
ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するの
で、必ずファイルを用意すること。

②視聴覚教室も使用するので、常に教
場には注意しておくこと。

についての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪
問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成→提出、
教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成
による授業（ディスカッション）を行い、教育へ
の理解を深め、教育とは何か、どうあるべきか
について各自の教育観を明示できるようにし、さら
に、望ましい教師像についても一緒に考えたいと
思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介す
る。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』

（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアル
ノート（エイデル研究所）¥1,800

西村絢子他『現代教育を考える』

（昭和堂）¥2,600

道徳教育の研究

上岡安彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』〔新訂版〕（学芸
図書）¥900

教育実習

村山輝吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践
について理解を深めるよう、年間を通じて次の事
項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討
議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形
態で進めていく。

教育実習

上岡安彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

・実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育
実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印
刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省
印刷局）¥370

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）
¥350

教育実習

北村三子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育
をめぐる技術・技能を主題に、文献を読み合い討
議をしたい。

教育実習

坂本信昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標
・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育
実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などに

(2) 教職に関する専門科目（選択）

教育哲学

汐見稔幸

今年度も学校に焦点をあて、文化の変容と学校

という基本テーマを立てて議論し合いたいと思います。今日の学校で生じている諸問題の多くは、社会の行動様式や価値観が大きく変化しているにもかかわらず、学校の内側がそれに合せて変わっていないことから生じていると考えられます。新しい学校はどうあるべきか、コンピュータ教育をどうすべきかなどいくつかの角度から、現状を批判しつつ、考えてみます。教職を希望しつつも、教育の今後を少し理論的に考えようという人を歓迎します。参加者の意志によりますが、年何回かの簡単な合宿を行なう予定です。

教育社会学

高島秀樹

教育社会学は教育を社会的な事象にとらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を目指す営みであることはいうまでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育（家族、遊びと仲間集団、地域社会など）と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』（明星大学）¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

現代日本社会とその内での私達の生活は、今日大きく変動しつつあり、そこにまた多くの問題を内在させている。この科目では、現代社会の内における個人のライフステージに沿って、各ライフステージにおける生活世界の実態と発達課題、各ライフステージにおいて個人と密接な関係を持つ社会集団や社会の状況について明らかにし、さらにそれらと教育との関係についてできるだけ具体的に、実例を取り入れて考察していきたい。

この科目では単なる「講義」にとどまらず、各々の問題について基本的なことを説明した上で、受講生自身に考え、発表してもらうことも取り入れていきたいと計画している。

〔教科書〕高島秀樹・岩上真珠・石川雅信共著

『生活世界を旅するーライフステージの社会学』（福村出版）
1993年3月刊行予定

教育評価

大浜幾久子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法 — 実験・観察・調査・テスト — の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

難波和明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

教育調査

鈴木規夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育史

北村三子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

教育関係法規

広 沢 明

憲法，教育基本法，子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき，具体的事例に触れながら講義を行う。校則，体罰，内申書，日の丸・君が代，教科書検定，学校事故，障害児教育，民族教育など今日的な教育問題について，法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

(P. 20) 参照

社会教育施設

村 山 輝 吉

(P. 21) 参照

図書館学 I

山 崎 慶 子

(P. 19) 参照

図書館学 II

源 昌 久

(P. 19) 参照

青少年問題研究

前期：中 野 東 禅
後期：和 田 謙 寿

開講時に指示します。

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

(P. 23) 参照

教育臨床心理学

牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は，必ずしも適正なものとはいいがたい。そのために，感受性に富む若い人たちが，社会のもつさまざまな矛盾を，「問題」というかたちで表現している。

本講義では，社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ，その発生の機序と対応について，心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

神 田 修

憲法と教育基本法，教育と権利，学校教育・教師と法，教育行政と法などについて学習する。

〔参考書〕①『解説教育六法』1993年版（三省堂）

②神田修他編著『現代教育の課題』
1992年（北樹出版）

③兼子仁，神田修編著『教育法規事典』
1991年（北樹出版）

児 童 文 化

湯 山 厚

児童文化とはなにかとか，その史的推移とか，あるいはこれからのあり方は，といったように概論風ではなく，現に身近にある名作物の児童図書や，リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ，それらを歴史的に，あるいは他ジャンルとの関連，さらには公教育，民間教育運動との関係，といった観点からとらえなおし，子どもを取りまく環境の一部ともなっている

文化財をみなおすいとぐちとしたい。

〔参考書〕上笹一郎著『児童文学概論』（東京堂出版）¥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』（いずれも岩波文庫）各¥450
坪田譲治編『赤い鳥傑作集』（新潮文庫）¥400
H・A・レイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』（岩波書店）¥1,300

宗教教育

松本 皓一

宗教的情操を培うことは円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

栗野 俊之

前半では、日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを、主に政治史を中心として概観する。後半では重要な問題を取りあげて、具体的に考えて行きたい。この際、関連する史料なども活用したいと思う。

日本史概説

小松 寿治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井村 行子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心に概説する。帝国主義の時代以降に重心を置いていきたい。

〔教科書〕山本・藤縄・早川・野口・鈴木編『西洋の歴史』〔古代・中世編〕（ミネルヴァ書房，1988）¥2,060
大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』〔近現代編〕（ミネルヴァ書房，1987）¥2,000

〔参考書〕西川正雄・南塚信吾『帝国主義の時代』（ビジュアル版）世界の歴史18（講談社，1986）¥1,500

世界史概説

渡辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

橋詰 直道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関わり方など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。

後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

地誌学概説

長野 寛

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている国、および中華人民共和国の地誌を学習することにした。講義はプリント資料を中心に進めるが、教科書・参考書は開講後に指示する。

地誌学概説

宮口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

自然地理学概説

安部 喜 也

地球表面の自然を構成する要素としての地形、水、気候、植生等のそれぞれの分布および変動の要因について解説し、また自然のシステムにおける要素の相互関係について考察する。後半には環境としての自然について論ずる。

人文地理学概説

小林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店編の『地理統計』

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に 2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々な作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

〔参考書〕氷見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）¥3,600

民法 I

青 野 博 之

〈講義目的（要旨）〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。せっかく民法を学ぶつもりになったのであれば、民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法二部も続けて受講してほしい。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか（権利）、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか（義務）を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者はそれほど多くないことが予想されるので、私から受講者に質問しつつ、受講者に自分で民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

民法総則のうち法律行為の前半まで（民法一条から一一八条まで）。

4月、序説（たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか）。

5月、自然人（たとえば、未成年者が契約をするときにどんな問題があるか）。

6月、法人（たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか）、物

7月、法律行為（たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か）。

後期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、および物権法（民法一一九条から三九八条の二二

まで)。

9月, 法律行為(たとえば, 契約を取り消すことができるのはどんな場合か, 契約を取り消すという結果になるか), 期間, 時効(たとえば, 時効という制度はなんのために認められているか)。

10月, 物権総論(たとえば, 物権は債権とどこが違うか), 物権変動(たとえば, マンションを買った場合には何をしなければいけないか)。

11月, 占有権, 所有権, 用益物権(たとえば, 土地を借りるとどんな権利が発生するか)。

12月, 担保物権(たとえば, 土地を買うためにお金を借りやすいのはなぜか)。

1月, 質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の始めと終わりに答えるが, それとは別に質問時間を設ける)。

<評価方法>

出席して質問をした回数, およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので, これに答えてくだされば, これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく, 自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので, 安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ, 質問をし, 私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また, 私のためにもなる。したがって, 質問および回答はこの講義を進める鍵である。なお, 評価は, 年度末の試験で最終的には決まる。

<教材>

教科書: 我妻 栄・有泉 亨著(川井 健補訂)

『民法1(総則・物権法)』(一粒社), 教科書は, 上記のものを使うが, ほかに自分が気に入ったもの, 手持ちのものがあれば, それでもよい。

六法: 憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持ってくること。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように, 法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は, 『ポケット六法』(有斐閣), 『コンパクト六法』(岩波書店), 『デイリー六法』(三省堂)などの大きさ(厚さ・値段)のもので十分である。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので, 新しいものの方が望ましいが, 多少古くても少なくとも受講する上では支障はない。もっとも, 法令索引で「借地借家法」が掲載されているかを調べて, この法律が掲載されているものの方が望ましい。しかし, 借地借家法が掲載されていない六法を買ってしまったとしても単位の取得に致命傷を与えるというほどのものではない。

民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」第三編「債権」いわゆる「財産法」と呼ばれる分野を対象とし, その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では, 重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し, 『鵜呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

政治学原論

大 塚 桂

現代政治学の体系的な理解を深めるべく, 以下の諸問題について検討していく。

- I. 政治学の課題と対象ならびに方法論
- II. デモクラシーとリベラリズムの概念, 史的展開
- III. 政治権力論
- IV. 政治制度・機構論
- V. 行政国家論・現代社会論
- VI. 政治変動論
- VII. 政治行動論
- VIII. 政治過程論・政策決定過程論
- IX. 政治集団論
- X. 現代政治理論

〔教科書〕特に指定せず。

〔参考書〕原田銅『政治学原論』(朝倉書店)

¥5,356

佐竹寛『政治学体系論』(法学書院)

¥3,090

中山政夫『現代政治学』(三和書房)

¥2,575

日下喜一『現代政治学概説』

(勁草書房) ¥2,060

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ, つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら, 集団論・組織論などを中心として基

礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経 済 原 論

阿 部 弘

〈講義の目的〉

生活に必要なものがすべて「商品」として生産されそれを「おカネ」をだして買ってきて消費をするという社会で私たちは毎日の生活を送っている。私たちの生活にとって重要で有益なものは「富」と考えられている。この商品社会の「富」というのは一体何であろうか？「価値」を生むものが「富」なのだ。価値は、社会に役に立つ・有益である、ということだが、このことは今私たちの商品社会にあっては「商品」生産の体系の中で言われることである。「売れるもの」でなければ富とは関係がない。この世に存在するものすべてが売買されるものであるわけではないから、このような規定は人間の生活とは離反しているように見える。

私たちは「商品社会」で生活しているというだけではない。商品社会をその基本にもった「資本主義社会」で生活している。資本主義生産様式では生産の目的は利潤（もうけ）の生産にある。私たちが日常買ってくるものも利潤の生産の手段にすぎない。社会にそして私たちに利益になるからそのようなものが商品として生産されているわけだが「役に立つ」と私たちには思っても企業・「資本」は売れてしかも利益にならなければ、いくら「役に立つ」ものでも「商品」として生産はしない。生産されてもそれを手に入れるためには「おカネ」（貨幣）がなくてはならない。「おカネ」は不思議なものでこれさえあればすべてのものが手に入るように思えてくる。「利潤」も株式という形で存在する「資本」を株券を手に入れることで自分のものにできる。「おカネ」がすべてのように思えおカネを手に入れるために種々様々なことをする。社会で「偉い」のはおカネをたくさん所有している人々であるかのようだ。「おカネ」をたくさんもっているかどうかで、何が社会に役立つものなのかどうかという基準も異なってくる。大金持ちの資本家は、ある国家を買収して自分の利潤を生産させる手段にすることもできる。地球の自然環境や自分以外の人間がどのようなふうともそれは二の次としか考えない。「利潤」がもっとも大事なものだからだ。だから私たちが「富」であると思うものと現実の「社会」や社会を支配している人々（階級）が考えている「富」はそれぞれに異なっているのかもしれない。そこ

でその関係を明らかにすることが「富」とは何かを考えていくうえで重要な課題になる。「経済学」は成立のときから「富」とは何かを問題にしてきたのでその歴史は「富とは何か」の歴史である。私たちが生活している社会は「資本主義」の社会であるからこの社会を特徴づけている基本的カテゴリーの分析をつうじて「富とは何か」を明らかにしていくことが「経済学」には課される。その基本的カテゴリーとは「商品」・「貨幣」・「資本」であるから「経済原論」の講義では3つのカテゴリーとその関係を明らかにしそのことが人間相互の関係としてどのような形で表わされるのかを分析して私たちの生活・行動の方向を示す。

〈講義の方法〉

講義は受講生の人数によって異なる。

- ① 人数が50名を超過するばあいには講義の体系をとる。このばあいには年4回のレポートの作成を行い、最初に講師が課題を提起してこれに受講生が応え、2回目以降は受講生が作成してきたレポートを講義を踏まえて、講師が添削して、各自に独自の課題を設定していく。テキストは用いない。4回のレポートの作成は以下の日程で行う。
No.1 : 7月上旬 No.2 : 10月中旬 No.3 : 12月中旬 No.4 : 定期テストの時
- ② 人数が50名以下のばあいにはグループ分けをして、グループ毎にディスカッションをして2回の個人レポート作成を行う。このばあいには講義はグループ毎への問題の提起という形をとる。ただし受講生名簿がでてくるのが前期いっぱいかかってしまうのでその間は講義の形態をとる。したがって7月上旬に第1回目のレポート作成を行う。

〈評価の方法〉

講義形態①のばあい：評価は4回のレポートを通じて行う。しかし第4回目に関しては「定期テスト」のときを利用するので、教務部で出欠の確認を行うという問題がでてくる。このばあい、欠席者は3回までレポートを作成していても自動的に「失格」となる。

講義形態②のばあい：ゼミナール形式をとるので試験は行わない。ただし2回のレポートを提出しないばあいには失格になる。

受講生の質疑応答等に便利のように講師の連絡先を以下に示す。

研究室：No.2538 Tel:9360

住 所：〒179 練馬区光が丘6-1-4-204

Tel:03-3976-7984

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分 (IS-LM 分析まで) に限定して行うことにする。

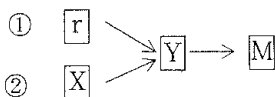
ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって(その結果)黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大(黒字増大)と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほどこわいものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A) 景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B) 景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便宜上經常収支すなわち輸出-輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大(黒字化)し、Mがふえれば減少(赤字化)する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に依じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がると景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のようなcausalityが成立つてあろう。さて上述の

答案の混乱は、本来この図式の①から出発する事象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ經常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示すように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち經常収支は増大するのである。こうして、上述の答案は前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給=総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト=イン=スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM 分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス
- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、年2回実地研修を行う。予定では(1)証券取引所 (2)大蔵省印刷局である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

(教科書) 浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』(成蹊堂)

経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学のミクロとマクロの基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目ざす。

〔教科書〕小野俊夫編著『現代経済学の基礎』
(学文社)

哲学概説

篠原壽雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『荘子』〔内篇¥360, 外篇¥400〕
(中公文庫)

哲学概説

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

哲学思想の基礎的概念や考え方の解明に重点をおく。また書物の読解力を養成するために、教材の重要な箇所を読んで解説する。

〔参考書〕その都度示す。

倫理学概説

久保陽一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、－アリストテレス倫理学、キリ

スト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、実存主義等－現代における倫理の問題－国際的正義、生命倫理等－について考えることにしたい。

〔教科書〕プリント等を配布する。

〔参考書〕川戸好武他『西洋哲学の歴史』
(公論社)

宗教学概説

洗建

宗教学の体系について概観し、その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

松田文雄

初めに宗教学の研究手法、その領域、宗教学で用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕随時指示する。

宗教人類学

佐々木宏幹

(P.26) 参照

民間信仰論

谷口貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていきたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

館野正美

本年度は、インド伝統医学（アーユルヴェーダ）、グレコ・アラブ伝統医学（ユナニイ）と並んで、世界の三大伝統医学の一つに数えられる中国古代の医学について、医学思想の観点から哲学的に分析し、講じてゆきたい。特にこの中国古代の医学思想の最も原初的な諸形態を、秦の宰相呂不韋の編纂になる『呂氏春秋』を直接的な資料として考究してゆく。

かくして、その医学思想の根幹をなすところの、中国哲学における独自の人間観・生命観を明らかにしつつ、現代医学における諸問題に対する、中国古代医学思想の意義にまで論及してゆきたい。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）

¥2,000

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）

¥2,500

日本文化史 I

廣瀬良弘

(P.24) 参照

美術史概説

中島亮一

(P.25) 参照

日本宗教文化史

井上順孝

日本の宗教文化が、近世から近代・現代にかけて、どのように変化したかを、社会の変化と関連づけながら述べていく。とくに新宗教が宗教文化に与えた影響に焦点を当てる。また日本宗教が海外に進出した場合、どのような変化をこうむるかについても述べる。こうしたテーマを通じ、日本の宗教文化が、どのような面で時代・社会の変化の影響を受けやすいか、また逆にどのような面が影響を受けにくいかに注意を払う。

教室の都合がつけば、できる限り視聴覚教材を利用して説明を行う予定である。

〔参考書〕井上順孝『新宗教の解説』（筑摩書房）

¥1,350

井上順孝『海を渡った日本宗教』

(弘文堂) ¥1,550

日本仏教史

廣瀬良弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世から近世にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに中世の宗教・一向一揆・無縁所寺院・寺院と地域社会・寺と檀家等について考察してみたいと思う。

【職業】

産業概説

前田幸一

〈講義目的〉

日本の主要な産業を勉強していきます。教職コースの科目ということもあり、受講者数が多くないのでゼミ形式で授業を進めていきます。

〈授業内容・授業計画〉

授業は

1. 戦後日本の産業発展と今後の展望
2. 産業の見方・考え方
3. 素材型産業
4. 組立加工型産業
5. 生活関連産業

という項目に沿って進めていきますが、特に上記の3, 4, 5の項目に力を入れて授業を進めます。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物のどちらかで評価します。

〔教科書〕日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

〔参考書〕水口和寿『現代産業概論』

（昭和堂）

宮沢健一・竹内宏編『日本産業教室』

（有斐閣）

職業指導

山田勇治

〈講義目的〉（要旨）

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容とするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。受講する場合には、問題意識をもって積極的に教育問題を考えるようにしてほしい。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、職業指導の基礎的な概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心に講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点について考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明を加えた

と思っています。

〈評価方法〉

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価する。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』（創成社）

¥1,300

〔参考書〕藤本喜八『進路指導論』（恒星社厚生閣）

商業実習

前田幸一

〈講義目的〉

国内よりもグローバル化した対外との企業間の商品取引観点から授業を進めていきます。授業はゼミ形式で行っていくつもりです。

〈授業内容〉

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

1. 輸出実務の概要
2. 取引関係の創設
3. 取引条件の取決め
4. 売買条件の取決めと契約成立
5. 輸出信用状の照合
6. 約定品の調達
7. 輸出保険
8. 輸出承認と認証の取付け
9. 運送契約の締結
10. 為替の予約
11. 海上保契約
12. 輸出検査と包装
13. 輸出通関
14. 船積み
15. 船積書類
16. 輸出決済
17. 貿易クレーム

〈評価方法〉

筆記試験はしません。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

〔教科書〕開講時に指示

〔参考書〕石田貞夫『貿易取引の実務』実教出版
渋谷源蔵『貿易実務』同文館

藤田栄一『貿易取引の英語』勁草書房

【商業】

職業指導

山田勇治

(P.17) 参照

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ

山崎 慶子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版（学芸図書）¥1,442

図書館学Ⅱ

源 昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕 もり・きよし原編『日本十進分類法新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版』
（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項をとりあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念、歴史、現状、外国との比較、社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕 碓井・倉内編『新社会教育』（学文社）
¥2,000

〔参考書〕 『社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルビ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』

（全日本社会教育連合会）¥773

ジェルビ著『生涯教育』（東京創元社）

¥1,500

(2) 選択必修科目

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化、地域社会と社会教育、社会教育調査とデータの活用、社会教育事業計画、学習情報の提供と学習相談、社会教育と広報・広聴、社会教育施設の経営、社会教育の評価等が主な内容となる。

社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 — これまでの経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる課題の追求。

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P. 8) 参照

婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題（婦人問題）の現状を明らかにし、その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては、

I. 女性問題を捉える基本的視点

（ライフサイクル論、フェミニズム論争など）

II. わが国における婦人教育政策の歴史と現状

III. 国際的動向と女性学の発展

IV. 女性問題学習の実際

（社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践、その他の活動・実践など）

V. 今後にむけての課題

という内容を考えている。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 授業中に紹介する。

青少年問題研究

前期：中野東禅
後期：和田謙寿

(P.9) 参照

博物館学Ⅱ

竹内順一

(P.23) 参照

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長してきます。企業の生きた姿を知ることは、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

- ★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。
 - ★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。
- [教科書] なし

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

[参考書] 適宜指示する。

社会体育Ⅰ

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。
[参考書] 野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

図書館学Ⅰ

山崎慶子

(P.19) 参照

社会体育Ⅱ

古田潤子

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

(P.23) 参照

人間の動きと道具との関係。
動きに於ける人と人との対話。
動きと呼吸との関係。
動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。
あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本
姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見
していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P. 23) 参照

教育原理

(P. 1) 参照

教育心理学
(教育方法論を含む)

(P. 2) 参照

青年心理学
(教育方法論を含む)

(P. 2・3)参照

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会学的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会学的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕 穴田義孝編『こころ・行動そして社会』
(人間の科学社)

教育社会学

高島秀樹

(P. 8) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P. 8) 参照

教育史

北村三子

(P. 8) 参照

児童文化

湯山厚

(P. 9) 参照

社会教育行政

牧野篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し、生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。この講義では、戦後の社会教育行政の基本理念をとらえ、社会教育固有のあるべき役割を見据えつつ、生涯学習体系の中において、国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方を考察したい。

成人学習論

牧野篤

生涯学習振興法の成立により、生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし、そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいえない。この講義では、生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら、その問題点を指摘するとともに、成人が学ぶということの意味をとらえ返し、そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

竹内順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）
〔参考書〕講義時に指示する。

教育原理

(P. 1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

(P. 20) 参照

視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔教科書〕中野照海・赤堀正宜他編著『メディアと教育』（小林出版）¥2,000

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・太田喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・所 理喜夫
葉貫磨哉・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

千葉 基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目の授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ

廣瀬 良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

インド仏教文化史

奈良 康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰ—インド、東南アジア—』（山川出版社）
奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）

西洋文化史Ⅲ

三小田 敏雄

本年度は西洋文化史のうちローマ帝政時代の後期から中世ヨーロッパの成立、ビザンチン文化、中世文化の最盛期に焦点をあてて講義を進める。出席を重視し、成績はレポート試験によって評価する。

〔教科書〕未定

仏教美術

中島 亮一

仏教の発生から仏像の誕生、そして敦煌を経て竜門・雲岡へ、更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで）、仏像の様式の変遷を通観し、あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。

従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を、精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し、政治と仏教、風土と仏教、特に道教とのかかわりなど、広く深く仏教美術の遺産をとおして新しい視点から考えなおしてみる。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕久野 健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現代美術

宮崎 克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

禅美術

海老根 聡郎

日本の中世絵画には、伝統的な大和絵と、この時代に、中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり、画家も禅宗画僧である。講義は、この流れを黙庵、鉄舟、明兆、周文、雪舟などの画家を中心としてたどっていく。

（毎回スライドを使用する）

美術史概説

中島 亮一

日本美術の特質と問題点について、各時代にまたがって道教・仏教・儒教あるいは神道からの要請又は影響から、さまざまに変容をとげた姿を再検討し、様式史・精神史の両面から古今の名作の真価を問いなおしてみる。特に東洋・西洋の名作との対比も試み、それぞれの模倣独自性も考察してみたい。

〔教科書〕特になし。

〔参考書〕その都度指示する。

西域美術史

相馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮

大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。（スライド使用）

考古学概説Ⅰ（日本）

倉田 芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島 武次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年（山川出版社）¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年（山川出版社）¥11,000

考古学特講Ⅱ

高浜 秀

吉林・遼寧・内蒙古・甘肅など中国北辺の地域では、漢代以前には中原とは異なった文化が知られている。当時、ユーラシア北方草原地帯では、スキタイ系文化と総称される遊牧騎馬民族の諸文化が栄えていたが、中国北辺の青銅器文化はその東端に位置する重要な文化といえる。これは一方では朝鮮半島の青銅器文化とつながりを持つとともに、中原の文化にも大きな影響を及ぼした。講義ではこの文化について述べる。

考古学特講Ⅳ

飯島 武次

周文化の考古学研究、講義内容は極めて専門的なものにした。

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

地 形 学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント・スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。〔内容は最先端の知見を含む〕

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拝など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔教科書〕佐々木宏幹著『仏と霊の人類学—仏教文化の深層構造』（春秋社）
¥2,400

地 質 学

貝 塚 爽 平

前期には、関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象（たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成）についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。教科書として貝塚著『平野と海岸を読む』

（岩波書店）を用いる。
〔教科書〕貝塚爽平『平野と海岸を読む』（岩波書店）¥1,200

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

社会福祉原論

原田 信一

今日の社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者(対象者)間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応える専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕1. 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』(ミネルヴァ書房)
2. 岡村重夫『全訂・社会福祉学』(柴田書店)

老人福祉論

中野 いく子

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展

望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版(海声社) ¥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1992』(全社協) ¥2,800

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 1992年度版』(老人福祉開発センター) ¥3,500

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策、ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

高橋 重宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというものではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を

明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』
(川島書店)

〔参考書〕開講時に指示する。

体の多元化を伴い進展している。平成5年度は、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎える。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎概論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7

『地域福祉論』¥2,500 (中央法規)

〔参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』

(全国社会福祉協議会) ¥2,000

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障(年金保険、公的扶助、児童手当等)、医療保障(健康保険等)その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

心理学(福祉)

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

社会学(福祉)

江上 涉

戦後日本社会の変動を人口、家族、産業、教育などいくつかの視点からデータに即して理解しながら、日本社会の特質を考える。(前期)

地域社会に焦点をあて、「コミュニティは崩壊したのか」というテーマに関する議論の展開を紹介して、今後の地域社会のあり方と可能性を考える。(後期)

地域福祉論

和田 敏明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主

法学(福祉)

小林 弘人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用し、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

- [教科書] 小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000
[参考書] 小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。
[教科書] 講義ノートによる。
[参考書] 随時指示する。

社会福祉計画論

坂 田 周 一

社会福祉における計画の概念を明らかにし、計画策定の技法を実例に即して具体的に明らかにする。技法としては、人口推計方法、福祉ニーズ測定法、最適な福祉サービスの組み合わせを求めるデルファイ法、福祉サービスの効果測定法等の技法を中核としながら、これに関連して線形計画法、PERT法、シミュレーション等のオペレーションズリサーチの技法についても述べる。
[参考書] 大村平著『ORのはなし』（日科技連）¥1,450
その他必要に応じ適宜紹介する。

社会福祉運営論

坂 田 周 一

社会福祉の政策形成と行政運営および財政問題、さらに社会福祉施設をはじめとした現場での組織運営を包括的に捉える理論である社会福祉運営管理論（ソーシャル・アドミニストレーション）の基本概念を体系的に講述する。
[教科書] 大山博・武川正吾編著『社会政策と社会行政—新たな福祉の理論の展開を求めて—』（法律文化社）

家族福祉論

田 村 健 二

現代の家族生活の状況を、社会との関係、および家族内の関係から明らかにし、そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで、こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか、主に現今の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面、ならびに今後に要望される福祉機能の側面について、解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって、全国民にわたる健全な在宅福祉は、家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。

- [教科書] 田村健二『家族—社会の鎖・夫婦親子の鎖—』（金子書房）¥2,000
[参考書] 田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1, 2（誠信書房）¥各2,200

医療福祉論

春 見 静 子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論
医療の概念、医療の場、与え手と受け手、医療法、現代医療の問題点
2. 医療領域のソーシャルワーク
歴史、意義、機能、方法、機関
3. 医療ソーシャルワークの実際
事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

[教科書] 山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）¥2,500

婦人福祉論

林 千 代

私は、婦人（女性）問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕林 千代著『母子寮の戦後史』
(ドメス出版)

保健福祉論

安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化，地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって，福祉に対するニーズは大きく変貌してきており，わが国の保健・医療・福祉の諸領域は，今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って，本講義では，人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき，健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに，学際的学問領域としての保健福祉学の概念，歴史，方法論を踏まえ，保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄監修『保健福祉学』（川島書店）

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも，人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には，常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に，英国，日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法，方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉，その本質は何か，その現状は等々を考えるためにこそ，歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』
(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

中 野 い く 子

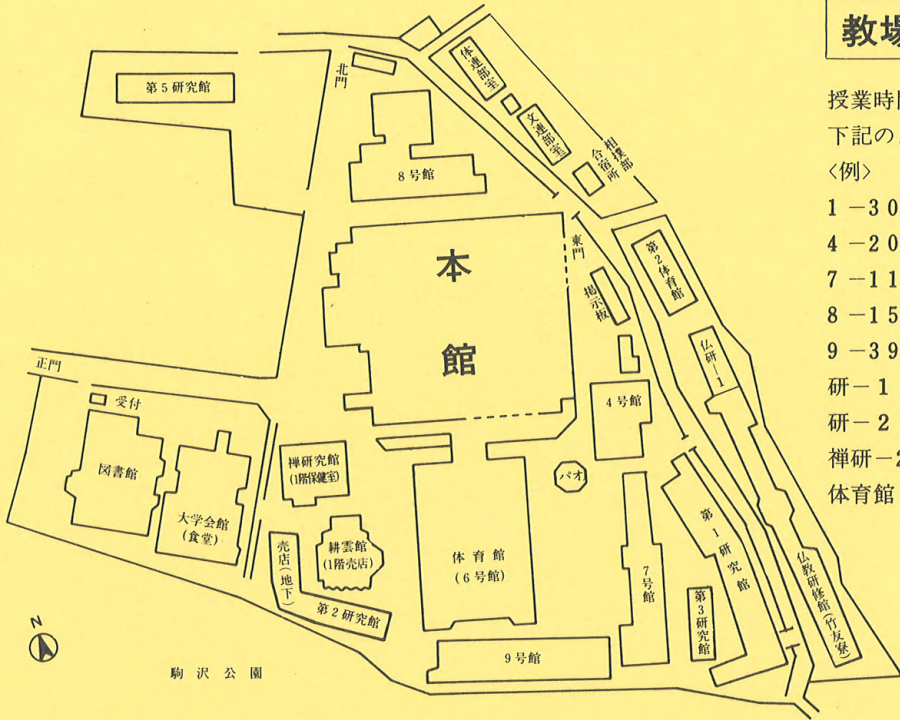
前半では，福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では，受講生の関心に基づいてグループを編成し，北欧やヨーロッパ大陸諸国，アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

駒澤大学の構内図



教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見て下さい。

〈例〉

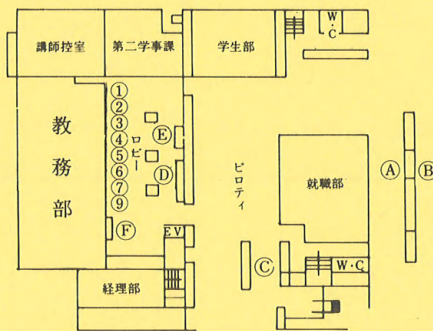
- 1-301 本館(1号館)3階
 - 4-204 4号館2階
 - 7-110 7号館1階
 - 8-150 8号館1階
 - 9-390 9号館3階
 - 研-1 第2研究館1階
 - 研-2 第2研究館1階
 - 禅研-201 禅研究館2階
 - 体育館 体育館2階
- (ただし選択種目により第2体育館になる)

各事務室・掲示板配置図

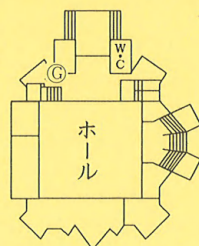
教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ③科目等履修生聴講生卒業証書
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
<健康診断書および在学証明書は学生部>
- ※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
(休学・復学・退学・死亡改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更)
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部転科
- ⑧履修・試験・成績・学業相談
学部演習(仏教学部・経済学部
法学部・経営学部)

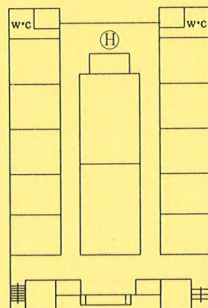
本館 1F



研雲館 2F



体育館 1F



掲 示

- ①第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項、教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項、その他
- ②第2掲示板(裏面)-臨時掲示板-
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- ③第3掲示板-臨時掲示板-
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- ④休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- ⑤授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- ⑥大学院・留学生関係掲示板
- ⑦国際センター掲示板
- ⑧留学生専用・海外留学掲示板
学外諸機関からの案内・募集広告等

